

初等協会 1

わたしは神の子
託児および3歳児

初等協会 1

わたしは神の子

託児に応用するための提案を含む
1歳半から3歳までの子供を教えるための手引き

©1994, 2000 Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：日本

英語版承認：2000年5月

翻譯承認：2000年5月

原題：Primary 1 “I am a Child of God” Nursery and age 3

Japanese

34969 300

目次

教師への提案

本書を使って教えるには	v
3歳児クラス	v
レッスンの準備	vi
レッスンを教える	vii
クラスの中の音楽	vii
視覚教材	vii
障害を持つ子供たちを交えて教えるための特別な指針	viii
本書を託児に活用するには	ix
託児クラス	ix
子供たちを託児に備える	x
両親のチェックリスト	xi
幼い子供たちの特性	xii
託児で起こり得る問題とその解決方法	xiii
託児のための活動やゲーム	xiv
託児での音楽	xvii
レッスンの変更例	xvix

課 タイトル

第1課 わたしは神の子	1
第2課 天父は体を持っておられる	4
第3課 天父の計画	7
第4課 天父に祈ることができる	10
第5課 イエス・キリストは天父の御子であられる	13
第6課 天父とイエスはわたしを愛してくださる	15
第7課 聖霊はわたしを助けてくださる	19
第8課 昼と夜に感謝する	22
第9課 水に感謝する	25
第10課 木や草、花に感謝する	28
第11課 魚がいることに感謝する	31
第12課 動物がいることに感謝する	35
第13課 鳥や昆虫がいることに感謝する	38
第14課 アダムとエバは天父の形にかたどって創造された	42
第15課 安息日は礼拝の日	45
第16課 わたしの体	48
第17課 手があることに感謝する	52
第18課 耳があることに感謝する	57

第19課	目があることに感謝する	60
第20課	かいだり味わったりできることに感謝する	63
第21課	いろいろな気持ちを感じる	66
第22課	たくさんのできる	71
第23課	家族の一員	74
第24課	きょうだいを愛する	77
第25課	家族を愛する	80
第26課	家族は永遠に	83
第27課	家族で祈る	88
第28課	従順になる	91
第29課	「ごめんなさい」と言う	94
第30課	人を赦す	97
第31課	家があることに感謝する	100
第32課	食べ物や着る物に感謝する	103
第33課	友達になる	106
第34課	人を愛する	110
第35課	動物に優しくする	114
第36課	良い模範になる	118
第37課	正直になる	121
第38課	敬虔になる	124
第39課	音楽はわたしを幸せにしてくれる	128
第40課	聖餐はイエスのことを思い出させてくれる	131
第41課	天父とイエスから聖典が与えられた	134
第42課	末日聖徒イエス・キリスト教会の一員	137
第43課	生ける預言者	141
第44課	教会で助け合う	144
第45課	イエス・キリストの復活（復活祭）	147
第46課	イエス・キリストの誕生（クリスマス）	150
	初等協会1——活動で使う歌，体を動かす詩の索引	153
	託児クラス用の歌——『子供の歌集』より	154

本書を使って教えるには

本書には3歳児（1月1日の時点で）を教えるためのレッスンが書かれています。また本書を使って1歳半から3歳未満の子供たちに合わせて教えることもできます。3歳未満の子供が初等協会に出席している場合、ワード／支部が非常に小さい場合を除いて、彼らは3歳以上の子供たちと別の託児クラスに出席すべきです。ワード／支部に同年齢の子供が8人から10人いる場合は2クラスに分割してもよいでしょう。

託児の教師はこの章と併せて「本書を託児に活用するには」（ixページ）を参照してください。

指導者および教師は、どうしたら最も効果的にクラスを組織し、本書のレッスンや活動を使い、ワード／支部の子供たちの必要を満たすことができるか祈りをもって考え、決める必要があります。

3歳児クラス

3歳児クラスは、1月1日の時点で満3歳の子供が対象です。

目的

3歳児クラスの目的は子供たちが天父とイエス・キリストに対する愛と理解を深められるように助けることです。また初等協会に積極的に参加し、自尊心を高められるようにすることです。

祈り

クラスの始まりと終わりに、子供に祈らせませす。普通開会の祈りはレッスンの初めに、閉会の祈りはクラスの終わりにします。子供たちに短く簡単な祈りをするように教えます。必要なときは手伝います。

時間配分

このクラスは託児から正規の初等協会への橋渡しの役割をします。1年の初めのうちは、分かち合いと活動は自分たちのクラスで行い、その後、ほかの初等協会の子供たちとともに分かち合いの時間を過ごすようにするとよいでしょう。その時期は子供たちの成長の度合いによって変わるので、子供たちが準備できているかどうかをよく観察し、初等協会の会長と相談してください。3歳児は、ほかの子供たちと合同の開会、閉会行事へ初めから参加してもよいでしょう。

初等協会の時間は通常1時間40分です。開会、閉会行事に20分、それぞれの教室への移動に5分とします。3歳児クラスが自分の教室で分かち合いの時間を持つ場合はレッスン時間を75分とします。以下は時間配分の提案ですが、各ユニットの必要に応じて調整してください。

あいさつの時間	10-15分
レッスン	25-30分
分かち合いと活動の時間	20-25分
閉会	10-15分

3歳児クラスが初等協会のほかの子供たちとともに分かち合いに参加する場合は、クラスでの時間を40分とし、あいさつと閉会は短めにしてレッスンをします。

あいさつの時間 あいさつの時間の目的は、打ち解けた雰囲気の中で子供たちが教師やほかの子供たちと話し合い、影響し合えるようにすることです。この時間に自由に動き回れることで、子供たちはさらに安心し、初等協会に出席することにより気持ちを抱けるようになります。

子供たち一人一人が、居心地よく、歓迎されていると感じられるように助けてください。言葉や動作を通して愛や親切、尊敬を表してください。子供たちが必要としていることや興味を持っていることについて話してください。好ましい話題として次のようなものが挙げられるでしょう。

- 子供たちが最近経験した事柄。赤ちゃんが生まれたことや家族で出かけたことなど。
- 休みや行事
- 天気
- 自然（花や木、鳥など）
- 人の話を聞く、自分のおもちゃや持ち物を人と分かち合う、行儀よくするなど、人との接し方
- 親切な行い

指遊びや体の曲げ伸ばし体操、歌などは、子供たちを飽きさせないためにこの時間に使うこともできます。

レッスン それぞれのレッスンの概要に従い、クラスの必要に合わせていきます。子供たちの理解と興味に注意を向けてください。クラスの子供たちにレッスンの中の大切な原則を教えるのに最も効果的だと思われる物語や活動を選んでください。「楽しい活動」の中からクラスの子供たちが喜ぶと思われる活動を選んでください。レッスンの途中で、教師が適切と思うときはいつでも、これらの活動を行ってください。繰り返すことによって子供たちはよく学ぶことができるので、一つのレッスンで、あるいは続けて行われるレッスンで同じ活動や歌、お話、または聖句を繰り返してもよいでしょう。

レッスンは第45課と第46課（復活祭とクリスマスのレッスン）を除いて、順番どおりに行ってください。

分かち合いと活動の時間 分かち合いの時間を初等協会のほかの子供たちと別々に自分たちのクラスで行う場合は、レッスンや「楽しい活動」の中から選んで使ってください。前のレッスンで子供たちが好きだったものを使うとよいでしょう。初等協会の歌を歌う時間も取ってください（「クラスの中の音楽」、vii参照）。また、子供たちが積極的に参加して、自分の考えを分かち合うように励ましてください。

3歳児が分かち合いの時間をほかの初等協会の子供たちとともに過ごすようになったら、時には分かち合いの時間に発表をさせるとよいでしょう。クラス全員でできる福音に関する簡単な発表を計画してください。以下は提案です。

- 全員にレッスンで出てきた物語や状況を演じさせる。
- 全員にレッスンでのお話を絵を使って話させる。
- 一人一人に福音の原則について感じることや聖句を話させる。
- 全員に習っている原則についての歌を歌わせる。

閉会行事 レッソンのポイントを復習し、まとめます。レッスンで出てきた短い聖句を一つか二つ聞かせ、大切なポイントを強調して、それについて子供たちが家で家族に話せるようにします。子供の一人に閉会の祈りをさせるようにしましょう。

レッスンの準備

幼い子供たちを教えるに当たって成功へのいちばんの^{かぎ}鍵は子供たちを知り、愛することです。名前を覚え、話しかけるときには名前を呼んでください。一人一人とよく話し、その子供の生活について知るようになります。子供たちをレッスンに参加させる方法やレッスンが一人一人にとって意義あるものとなるような方法を模索してください。クラスの子供たち全員に適切な愛と関心を示してください。

次に大切なのが準備です。少なくともレッスンの1週間前には準備を始めてください。レッスンを

ひととおり読み、それから祈りの気持ちで研究し、そこに書かれた原則をクラスの子供たちに教えるのに最良の方法を見つけ決めていきます。レッスンの中の活動に加えて「楽しい活動」を選び、子供たちの興味を持続させ参加させるようにします。幾つかの活動を準備しておき、レッスンの中で子供たちの必要に応じて柔軟に対応できるようにするとよいでしょう。レッスン中にテキストを見る必要のないように、レッスンの内容をよく頭に入れておいてください。そして、できるかぎり子供たちの目を見て教えるようにしてください。準備する間度々祈り、準備し教えるに当たって御霊の導きが得られるようにしてください。

レッスンを教える

子供たちに福音の原則を教えるうえで大切なことは、子供たちが福音に対する愛をはぐくめるよう励ますことです。以下は子供たちが初等協会を楽しめるようにするための提案です。

- 子供たちに話したり参加したりする機会を多く与える。
- 子供たちの話によく耳を傾け、前向きに、しかも適切に対応する。
- 熱心な態度で接する。教師が初等協会を楽しんでいれば、子供たちも同じように感じる。
- 優しい声で話す。
- 忍耐強く、親切で、愛情を込めて接する。子供たちが疲れていたり、落ち着きがなかったりする場合は、このような姿勢が特に大切である。
- 良い態度に対しては前向きに褒め、悪い態度はできるかぎり気に留めない。
- 幾つかの活動を準備しておき、子供たちの必要に応じて柔軟に対応できるようにする。幼い子供たちにとって長い間集中していることは難しく、頻繁に体を動かす必要がある。
- けんかが起きたときは子供たちの注意をほかのことに向けさせる。
- 幼い子供たちは物語や視覚教材、音楽や体を動かすことが好きなので、それらをレッスンに取り入れる。活動や歌、特に自分たちのよく知っているものを繰り返すことが好きである。

クラスの中の音楽

本書の各レッスンには、それぞれの福音の教えをさらによく教えるための歌が挙げられています。クラスで歌うことを楽しく、意義深いものとするうえで、必ずしも教師が上手に歌えなければならないというわけではありません。子供たちは教師の歌が上手かどうかは分からなくても、教師が歌うことを楽しんでいることは分かるでしょう。とはいえ、レッスンの準備の一環としてそれぞれの歌をよく練習してください。子供たちに歌を教えるには繰り返し歌うのがいちばんです。レッスンの中で同じ歌を何度も歌ってもよいでしょう。簡単な動作をつけることで幼い子供たちも歌いやすくなるでしょう。子供たちの大好きな歌でよく知っている歌があれば、レッスンの中で、あるいは分かち合いや活動の時間でも繰り返し歌ってください。

新しい歌や言葉遊びを子供たちに教えるために以下のようなことができるでしょう。

- 歌や言葉遊びを覚える。
 - 新しい歌や言葉遊びを子供たちに聞かせる。動作がある場合は大きく。
 - 一緒に歌わせたり、言わせたりする。すぐに言葉は覚えられなくても何回か繰り返すうちに覚えていく。
 - 言葉と動作が分かるようにゆっくり進む。
 - 時には、歌や言葉を理解する助けとなるような視覚教材を使う。見て分かる物があった方が注意をそらさずによく覚える。
 - 子供たちの落ち着きがなくなってきたときは、歌や言葉遊びを短くする。歌や言葉遊びが長いときには教師が歌ったり言ったりして、子供たちにはそれに合わせて動作をさせてもよい。
- 幼い子供は一緒に歌うのを嫌がる時があるかもしれませんが、歌を聞いているだけでも、楽しんで参加できます。

視覚教材

幼い子供たちを教えるうえで視覚教材はとて大切になってきます。絵、切り抜き絵、そのほかの視覚教材を使うことで子供たちの注意を引き、持続させることができます。また、教えている事柄をよく覚えさせるのに役立ちます。

レッスンで使うように指示されている絵と切り抜き絵は本書に付属されています。各課の「準備」

の項に、レッスンで使う絵の題と番号が挙げられています。() 内に書かれている数字は『福音の視覚資料セット』(34730 300, 34735 300) の絵の番号を示しています。また「準備」の項には、レッスンで用いる本書付属の切り抜き絵も、番号で示してあります。

ほかにも様々なものが視覚教材として使えます。特に子供たちがよく知っているもので触ったり手に持ったりできるものがよいでしょう。聖文からの物語を話すときには、自分の聖典か教会付属図書館の聖典を視覚教材として使います。

障害を持つ子供たちを 交えて教えるための 特別な指針

救い主は、障害を持つ人々に対して憐れみの心を持つよう、模範を示してくださいました。復活後ニーファイ人を訪れた救い主はこう言われました。

「あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。足の不自由な者、目の見えない者、足の悪い者、手の不自由な者、らい病にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞こえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思い、わたしの心は憐れみに満たされている。」(3 ニーファイ17:7)

あなたは初等協会の教師として、憐れみの心を示せるすばらしい立場にあります。専門的な介助のための訓練は受けていないかもしれませんが、教師として障害を持つ子供たちを理解し、慈しみ育てることができるのです。関心を寄せ、理解し、クラスの一人一人をレッスンに参加させようという熱意をもって当たることが大切です。

障害を持つ子供たちは、理解する能力の程度にかかわらず、御霊を感じるすることができます。中には初等協会のすべての時間には参加できない子供がいるかもしれませんが、たとえ短い時間であっても御霊を感じるために出席することが必要です。その場合に、子供がほかの子供たちから離れて休まなければならないときに備えて、子供の必要に対して敏感に対応することのできる人が付き添う必要があるかもしれません。

障害の中には、学習能力障害、視覚障害、聴覚障害、知的障害、言語障害、精神障害、運動能力障害、また行動や人と接するうえでの問題や、長期にわたる病気などいろいろあります。そのほかに、言葉や文化の違いになじめない子供もいるでしょう。子供たち一人一人の状況は違っても、どの子も同じように愛され、受け入れられなければなりませんし、福音を学び、御霊を感じ、クラスの一人として立派に参加し、周りの人を助ける必要があります。

以下の指針は障害を持つ子供たちを教えるうえで助けとなるでしょう。

- 障害だけに目を向けず、その子供自身について知ろうとする。自然で、親しみやすく、愛情を込めて接する。
- その子供の持つ力や苦勞していることなどについて知る。
- 様々な機会をとらえて、クラスの子供たちにクラスの全員を尊重する責任があることを教え、留意させる。クラスの障害を持つ子供を助けることは、クラス全員にとってキリストのようになることがどんなことかを学ぶ良い経験となる。
- 両親や家族、また適当であれば本人とよく話し合い、その子供を教えるのに最適な方法を見つける。
- 障害を持つ子供に祈りを頼んだり、そのほかの活動に参加させたりする前に、クラスに参加することについてどのように感じるか尋ねる。一人一人の子供の持つ能力や才能をよく認めて強調し、子供が気持ちよく上手に参加できるような方法を探す。
- 障害を持つ子供の必要に合わせてレッスンで使うものやクラス的环境を整える。

本書を託児に活用するには

託児クラス

出席対象者

1月1日の時点で1歳半以上3歳未満の子供たちは、両親の任意により託児クラスに出席することができます。託児クラスには二人以上の教師が召される必要があります。これらの教師は、夫婦である場合を除いて、同性であるべきです。初等協会の間二人の教師は常時クラスにいなければなりません。

目的

託児クラスの目的は幼い子供たちが、愛に満ちた、安全でよく整えられた場所で天父とイエス・キリストへの愛と理解をはぐくみ、教会で楽しい経験を重ね、自分が価値のある存在だと感じられるようにすることです。託児クラスはごく幼い子供たちが教会で初めて福音を学び、ほかの子供たちや大人たちと接する場所です。

環境

託児の部屋は清潔で、子供たちを引きつける楽しい所にしなければなりません。可能ならトイレに近い方がよいでしょう。部屋は遊ぶ場所（できればカーペットあるいはマットを敷く）、本を読み聞かせたり活動をしたりする場所、レッスンをする場所に分けてもよいでしょう。おもちゃは清潔で安全で、壊れていないものを準備します。子供が登る器具類は使用しないでください。

時間割

託児クラスの時間は普通1時間40分です。この時間は幾つかに区切られ、それぞれの区分はレッスンの目的を補強するために用います。

毎週同じ構成で教えるよう計画してください。いつも決まった順序で活動が行われると子供たちは安心します。以下は時間割の提案です。地元の必要や実情に応じて変えてもよいでしょう。

歓迎

遊びの時間	35分
集合の時間	10分
音楽の時間	10分
おやつ	10分
レッスン	10分
活動の時間	15分
閉会	10分

託児の子供たちは分かち合いの時間や開閉会の行事に参加しません。

歓迎 子供たちが託児のクラスに入って来るときに、それぞれの名前を呼んで歓迎します。子供一人一人があなたの愛と天父の愛を感じることができるようにしてください。静かな音楽は敬虔でよい雰囲気を作ることができます。『子供の歌集』の歌が収録されたカセット(52538 300)やCD(50177 300)も入手できます。

遊びの時間 子供たちにおもちゃ、パズル、絵、本などを使って自由に遊ばせます。遊ぶ物は一つにさせ、ほかの物で遊ぶときは前に使っていた物をきちんとしまってから遊ばせます。ほかの子供におもちゃを使わせるのを嫌がるときは、無理強いすることは避けます。この年齢の子供たちの多くは、まだおもちゃを貸し合うほど情緒的、社会的に成長していないからです。必要ならば子供たちの相手になるようにしますが、あまり干渉せず、自由に遊ばせるようにします。遊びの時間の終わりに、子供たちがおもちゃを片付けるのを手伝ってあげてください。

この時間に特定の活動（「託児のための活動やゲーム」、xiv-xvii参照）をすることもできますが、それに加わるかどうかは子供たちの好きにさせます。

集会の時間 子供たちを集めて歌を歌わせ、祈りに備えさせます。『子供の歌集』の152ページに祈りの歌としてふさわしい歌のリストがあります。一人の子供に祈ってもらいます。短く簡単に祈るように教えてください。必要であれば助けてあげてください。祈りが済んだらくつろいだ雰囲気をつくり、皆で話し交流できるように導いてください。言葉や動作を通して愛や親切、尊敬を表してください。敏感かつ柔軟であってください。子供たちが必要としていることや興味を持っていることについて話してください。好ましい話題として次のようなものが挙げられるでしょう。

- 子供たちが最近経験した事柄。赤ちゃんが生まれたことや家族で出かけたことなど。
- 休みや行事
- 天気
- 自然（花や木、鳥など）
- 人の話を聞く、自分のおもちゃや持ち物を人と分かち合う、行儀よくするなど、人との接し方
- 親切な行い

この時間、子供たちを飽きさせないために指遊びや体の曲げ伸ばし体操、歌などを用いることもできます。

音楽の時間 楽しく歓迎されているという雰囲気をつくり、福音のメッセージを教え、クラスが単調にならないようにするために、託児クラスではいつでも音楽を使用することができます（『託児での音楽』xvii-xviii参照）。子供たちは毎週同じ歌を歌うのが好きです。託児指導者と教師は『子供の歌集』を入手するようにしてください。託児クラスの音楽を助けてもらうためにほかの人に来てもらうこともできます。

おやつ時間 子供たちの必要を満たすために、おやつ時間を計画してください。おやつ代は初等協会の予算から出します。託児クラスでは毎週おやつが出るので、子供に食べさせてほしくないものがあるかどうか、教師は親に尋ねておくといよいでしょう（『教会指導手引き 第2部 神権指導者・補助組織指導者』241参照）。おやつを出す前に一人の子供に食事の祝福をしてもらいます。

レッスンの時間 本書のレッスンは3歳児を対象に書かれていますが、レッスンや「楽しい活動」の項に挙げられた活動の多くは、託児の子供たちにも使えます。各課には「幼い子供のための活動」の項もあります。（その他の活動に必要な教材や準備は「準備」の項には記されていないので、使いたい活動の説明を注意深く読み、必要なものをすべて整えるように注意する。）

本書のレッスンを託児クラスに活用する例がxix-xxiページに記されています。レッスンを変更するときには必ず、子供たちの理解力と関心事を祈りの気持ちで考慮してください。この年齢の子供たちは集中できる時間が短いので、活動は短く変化に富んだものがよいでしょう。子供たちは反復によって学ぶので、レッスン中に同じ活動を繰り返したり、別のレッスンのときに以前の活動を行うといよいでしょう。託児の子供たちを教えるうえで役立つその他の情報が、vi-viiページの「レッスンの準備」「レッスンを教える」「クラスの中の音楽」「視覚教材」の項に記されています。

活動の時間 塗り絵、粘土作り、ロールプレイ（ごっこ遊び）、ゲームなど（『託児のための活動やゲーム』xiv-xviii参照）福音のメッセージに合致し、参加の機会や創造的な経験を与えるような活動を選びます。年少の子供たちが遊びに戻りたがる場合は、引きとめる必要はありません。

閉会の時間 子供たちがおもちゃ等を片付けるのを助けた後、簡単にレッスンで習った福音のメッセージを復習し、まとめます。子供の一人に祈りをしてもらいます。

両親のチェックリスト

託児に初めて来る子供たちの中には、喜び勇んでニコニコしながら来る子供もいれば、不安な気持ちで泣きながら来る子供もいます。両親は前もって子供に準備させることで、子供が初めて経験する託児クラスを楽しいものにしてあげることができます。子供たちはこれから自分がどこへ行き、どんなことをするのか知っていると、普通は進んで行きたがります。反対にほとんど、あるいはまったく何も説明されないままで連れて来られたりすると、子供は恐れを感じて、そこにいるのを嫌がります。

次の中からできるだけ多くのことを行い、子供に託児へ行く準備をさせてください。

- ___ 1. 初めて託児に行く少なくとも2週間前には、子供に託児について教える。
- ___ 2. 初めて託児に行く1, 2週間前に、子供を託児の教師に会わせる。
- ___ 3. 託児クラスのほかの子供たちと会わせる。
- ___ 4. 託児に入る前の1週間、毎日、託児について肯定的な事柄を話す。
- ___ 5. だれもいないときを見計らって、子供に託児室を見せる。
- ___ 6. 託児に行く前の日、明日託児クラスが始まることを子供に伝える。
- ___ 7. 託児クラスに初めて行く日は、教会へ行く準備をする時間を十分に取し、急がせない。
- ___ 8. 自分のおもちゃは持って行かせない。
- ___ 9. 託児に連れて行く前にトイレを済ませ、食べ物を与えておく。おむつを換える必要のある子供は、その都度親のもとに連れて行く。
- ___ 10. 託児の時間に遅れない。
- ___ 11. 後で迎えに来ることをもう一度伝えて安心させる。託児が終わる時間にすぐに迎えに行く。
- ___ 12. 子供が不安がるときは、初めの何回かは部屋にいるようにする。
- ___ 13. 何か問題があるときに子供を連れて来てもらえるように、託児の教師に自分がどのクラスにいるか伝えておく。
- ___ 14. 子供に食物アレルギーなど何か特別な問題がある場合は、あらかじめ教師に伝えておく。
- ___ 15. 託児のことについて前向きで温かい雰囲気でお話と話す。託児クラスや教師について良いことだけを話すようにする。
- ___ 16. 子供が託児を楽しめるようにするには、愛と忍耐が必要であることを忘れない。

子供に以下のような症状が見られるときは託児に連れて来ないでください。

- 発熱
- 鼻水
- せき
- 非常な不機嫌
- 嘔吐
- 下痢
- 湿疹
- 目やに
- アタマジラミ
- 病気や感染症で過去2日以内に抗生物質の投与を受けている
- 子供のかかりやすい病気で伝染する期間が過ぎていない
水ぼうそう (7日間)
はしか (発疹が消えるまで)
しょう紅熱 (発疹が消えるまで)
おたふくかぜ (はれが引くまで。通常は7日間)
- 膿痂疹
子供にアレルギーによる鼻水、せき、発疹などの症状がある場合は、ほかの子供にうつる心配のないことを託児の教師に知らせてください。

幼い子供たちの特性

以下に挙げた幼児の特性を頭に入れておけば、クラスの子供たちがなぜそのような行動を取るのかを理解する助けになるでしょう。レッスンを準備し教えるとき、また子供たちと交わるときに、これらの知識を役立ててください。ただし、これらは一般的な指針であり、子供たちの成長は一律でなく、同じ年齢でも行動は皆同じではないことを忘れないでください。子供の特徴に関するさらに詳しい情報については、『教師、その大いなる召し』（110-111ページ）を参照してください。

幼児の精神的な特徴

- 思考は単純で直接的である。抽象的な概念は理解できない。
- 短い時間しか集中できない（1-3分）。
- しばしば関係ないことについて質問したり、話したりする。
- 好奇心がとても強く、何でも知りたがる。
- 一般的に、新しいことを学んだり、やってみたりすることを喜ぶ。
- 繰り返すことが好きである。
- 簡単なことであれば、自分で選ぶことができる。

幼児の身体的な特徴

- 一般的に、とても活発である。
- 歩調を合わせて歩いたり、跳びはねたり、手をたたいたりする能力がついてきている。
- すぐに飽きてそわそわする。疲れやすい。
- 物を片付けるよりも、出したり、落としたりする方が簡単であると感じる。

幼児の社会的な特徴

- 人を信じ、頼りにする。
- 一般的に、一人遊びが好き。
- 大体において自分勝手に自己中心的。
- 人に何かを貸したり、順番を待ったりすることは難しい。
- しばしばおもちゃの取り合いでけんかする。

幼児の感情的な特徴

- 愛すること、愛されることを求めている。
- 感情を思い切り外に出すことが多い。
- すぐに泣く。
- 機嫌がコロコロと変わる。

幼児の霊的な特徴

- 祈ることは好きだが、助けが必要。
- 敬虔けいけんの意味を学び始めることができる。
- 御霊みたまを感じやすい。
- 天父とイエスがわたしたちを愛しておられることを理解できる。
- 霊的な概念の基礎が理解できる。

託児で起こり得る 問題とその解決方法

どんなに良い託児クラスであっても、子供の方で良くない振る舞いをする場合があります。以下によく見られる問題を採り上げ、その解決方法を挙げます。

問 題

子供が託児クラスに来たがらないと親から言われる。親が子供を置いて行こうとすると、泣き叫ぶ。

教師やほかの子供たちのことを恐がっている様子で、託児の部屋をただ歩き回り、だれとも話そうとしない。

託児の間中ずっと教師の足にしがみつつか、ひざの上に座ろうとする。

レッスンの間、活動が終わらないうちに子供たちの何人かが立ち上がって行ってしまう。

おとなしく座って話を聞こうとしない。近くの子供を押したり、引っ張ったりする。

何人かの子供たちがおもちゃの取り合いをしてけんかを始める。おもちゃを取られまいとして、ほかの子をけったり、ぶったり、かんだりする。

おもちゃを振り回したり、たたいたり、投げつけたりするなど、遊び方が乱暴になる。そうしては、ほかの所へ走って行く。

おもちゃを次から次へと出して、しまおうとしない。

解決方法の提案

前もって子供たちに託児に来る準備をさせるように両親に勧める（「子供たちを託児に備える」x-xiページ参照）。子供が慣れて落ち着くまで両親にいてもらう。ほかの大人に来てもらい、泣いている子供が安心できるよう抱いていてもらう。

忍耐すること。子供に無理強いしようとせず、時間をかけて教師やほかの子供たちのことを知ることができるようにし、雰囲気慣れさせる。時々声をかけ、活動も一つか二つやってみるように誘う。何か上手にできたと思えるような経験をさせる。

幼い子供には、優しさに関心が必要である。ほんの少しの間だけでも抱いたり、時々話しかけたりするだけで、普通子供は満足する。その後で託児の活動に参加するように励ます。

子供たち一人一人の必要、関心、集中していられる時間によく注意する。飽きてきたり落ち着きがなくなってきたりしていないかをよく見て、子供の興味に合わせて活動を変える。どんな活動でも無理やり活動に参加させようとするしない。子供がおもちゃで遊びたがったら好きにさせる。

一人の教師が活動を担当しているときに、もう一人の教師が子供の注意を活動に向ける。何か手に持つ物を与え、レッスンや活動に進んで参加できるようにする。

子供たち自身で解決できることもあるが、必要なときには、けがをしたりおもちゃなどを壊したりしないよう仲裁に入る。子供たちにどうしたら問題を解決できるか提案してもよい。

これはすぐにやめさせる。それがいけない理由を説明し、ほかの活動をするように言う。

優しいながらもはっきりと、どのようにすべきか話す。おもちゃのしまい方を見せる。ほかのおもちゃを取り出す前に今持っているおもちゃを片付けるように励ます。

ぐずぐず言ったり泣きだしたりする。あやそうとすると「先生なんか嫌い」と言って離れていく。

幼い子供はすぐに気が紛れるものである。何かおもちゃを見せて「これで遊んだらおもしろいよ」と言う。それで効果がない場合は、物語や本を読んで聞かせる。時々涙をふいてやると泣きやむ助けになる。泣きやまない場合は親のところに連れていく。

「お母さんはいつ来るの、いつおうちに帰れるの」と聞く。

両親が必ず戻って来ることを伝え、安心させる。家に帰る前にする事柄について幾つか話す。

託児のための活動やゲーム

託児の遊びの時間または活動の時間に、この中から任意に選んで行きます。託児のレッスンの時間に、レッスンに応じた活動をこの中から選んで行ってもよいでしょう。また、レッスンの中で提案されている活動遊びの時間に行うこともできます。遊びの時間は子供たちがいつでも活動に参加できるようにしてください。しかし、参加するかどうかは子供たちの好きにさせます。遊びの時間中ずっと、おもちゃで遊びたがる子供もいるでしょう。

創作活動

創作体験は楽しいものであり、この体験を通して子供たちは自信を強め、創造力を伸ばし、手先が器用になり、目で見たり手で触れたりして様々な感覚によって事物を認識するようになります。また、創作活動は個性を表現するのにとても良い方法です。教師の想像力を使い、創意工夫してクラスに合った創作活動を計画してください。

創作活動を計画する際には、次のような点に注意してください。

- 活動を簡単にする。
- よく準備する。必要な材料をすべてそろえ、活動について熟知しておく。
- 融通性を持たせる。融通性を持たせておけば、計画どおりに運ばなくてもいらいらすことはない。子供は作品を完成させることよりも、与えられた素材でいろいろと試すことに関心を持つことが多いものである。
- 前向きの姿勢を示し子供の取り組んでいることに関心を示す。そして心から褒めるようにする。
- 変化を持たせる。子供が毎週新たな素材や方法を用いて創作できるような活動を計画する。
- 機転を利かせる。幼い子供は、常に手際よく何かを表現しようとするわけではない。ただ与えられた素材でいろいろと試みることが楽しいのである。だから子供の作品について何か述べたいと思ったら、「これは何？」と尋ねる代わりに、「あなたの絵について先生にお話ししてちょうだい」と言う。
- できるかぎり手伝わない。必要なときには手伝うが、子供たち自身にやらせるようにする。

音楽の絵

用意するもの——テープやレコードなど録音された音楽、あるいは楽器。紙、クレヨンまたは色鉛筆。

手順——音楽をかけながら、子供たちに色を塗らせる。音楽を聞いて感じたままに色を塗らせる。

コラージュ

コラージュとは、紙、写真、そのほかの素材をのりではり合わせて作る絵のことです。

用意するもの——コラージュには壁紙の見本や包装紙、ティッシュペーパー、木の葉、砂、マカロニなどどんなものでも使える。のりまたは接着剤、コラージュの台紙あるいはそれに代わる平らなものを子供の数だけ用意する。

手順——コラージュの台紙にはるもの子供たちに選ばせる。子供たちの好きなように作らせる。

糸通し

用意するもの——大きめのマカロニ（ゆでていないもの）あるいは短く切ったストローなど簡単

に糸を通せるもの、長い糸または毛糸を子供の人數分、のりまたはワックス。

手順——糸または毛糸の片方の端をのりまたはワックスの中に浸し、通しやすいように乾かして固くする。もう一方の端に結び目を作り、マカロニが抜け落ちないようにする。子供たちに毛糸にマカロニを通させ、終わったらそれぞれ両端を結んで輪にしてやる。

簡単な粘土作り

用意するもの——小麦粉2カップ、塩1カップ、植物油大さじ1、水3/4カップ、食紅（色をつけたい場合）。

手順——小麦粉と塩を混ぜる。油と水を加え、粘土に適した固さにする。水は少しずつ加えていき、ねばつかない程度でこねやすい軟らかさにする。少しこねる。（色をつけたい場合はあらかじめ水に食紅を入れてから、小麦粉と塩に混ぜる。）

粘土作りを託児の時間に行う場合は、事前に家庭で作ってみてください。出来上がったら、密封できる容器に保存しておくといよいでしょう。紙（パラフィン紙が最適）を持参して子供たちが粘土作りをするテーブルの上に広げてください。

ゲームと遊戯

子供たちは、簡単なゲームをしたり、歌や言葉に合わせて動いたりするといった体を動かす活動が大好きです。遊戯も数多くレッスンの中に含まれていますし、簡単なゲームを以下の欄に幾つか挙げてあります。子供たちが気に入った活動は、レッスンで指示があるときだけに限らず、年間を通して何度も繰り返すとよいでしょう。

以下は新しい遊戯を子供たちに教えるうえで助けとなる提案です。

- レッスン前に遊戯の言葉を覚えておく。
- まず教師が言葉を言いながら動作を誇張してやって見せる。次に、子供たちに一緒に行わせる。
- 子供たちが言葉と動作を理解できるようにゆっくりと行う。
- 遊戯を見せるときに、視覚教材を適宜使う。子供たちは見る物があると、それに注意を集中し、また覚えるのも早い。
- 子供たちの落ち着きがなくなってきたら、遊戯を短くする。遊戯が長いときは、教師だけが言葉を言い、子供たちに動作をさせてもよい。

けいけん 敬虔になろう

落ち着きがなくなってきた子供たちを敬虔にさせるために、以下の遊戯を使う。毎週同じ時間に、この中の一つを使えば、始まりと終わりの祈りの時間になったことを子供たち自身が分かるようになるであろう。子供たちに言葉を言わせながら、以下に指示された動きをつけさせる。

むすんで ひらいて（手）

むすんで ひらいて

むすんで ひらいて

かるくてびょうし いち に さん

むすんで ひらいて

むすんで ひらいて

おひざのうえに のせましょう

両手を振りましょう

両手を振りましょう

両手を伸ばして

頭をボン

高く上げて

今度は静かに

ひざの上に置きましょう

バタバタ足をやめましょう
じっとして
きちんといすに腰かけて
頭を下げ
目を閉じて
お祈りの時間です

大きくなったり 小さくなったり

子供たちが長い間座っていて動かなくなったときは、次の体の曲げ伸ばし体操をさせるとよい。
大きく 大きく 大きくなーれ
(立って背伸びをする)
小さく 小さく 小さくなーれ
(かがんで 小さくなる)
大きくなって 小さくなって
(立ったり、かがんだりする)
さて、今度はどっちだ？(立ち上がるか、かがみ込むか。子供たちに自分が大きいか小さいかを
言わせる。)

小さな種

子供たちに、どんなふうに関を土に植えるかを説明し、種になったつもりで大きくなるように言
う。「みんな、小さな種になりましょう。」(体を丸め、目をつぶる)「お日様が昇って種はポカポカ
暖かくなりました。そこへ雨がザアザア降ってきて、言いました。『種さん、種さん、起きなさい。』
(目を開け、体を伸ばし始める)「種さん、土の中から出てきて、大きくなあれ」(立ち上がり、頭
の上に腕を伸ばす)「種さん、さあ、きれいな花(大きな木)になりました」

おばあちゃん(おじいちゃん)の家へ行こう

教師が次のように言う。「さあ、おばあちゃん(おじいちゃん)の家へ行くまねをしましょう。ま
ず、上着を着て(あるいは着替えて)。」子供に上着を着る(あるいは着替える)動作をさせる。次
に「車(バス)に乗りましょう」と言い、ドアを開けて中に入るまねをさせる。「わあ、でこぼこの
道だ」と言い、揺れているまねをさせる。「あつ。おまわりさんに手を振りましょう」と言って、手
を振らせる。最後に「もうすぐ着きますよ。ほら、おばあちゃん(おじいちゃん)だ。おばあちゃ
ん(おじいちゃん)をぎゅっと抱き締めましょう」と言ってその動作をする。

お手伝いしましょう

両親を手伝う動作をさせる。例えば、「さあ、お母さんのお手伝いをして、床を掃くまねをし
ましょう」と言って、子供に掃くまねをさせる。このようにして、布団を敷く、窓をふく、ごみを片
付ける、落ち葉を掃く、菜園をたがやす、車を洗うなど、地域に合った手伝いのまねをさせる。

ボール転がし

用意するもの——ボール。
子供たちを半円に座らせ、その前に教師が座る。教師は一人の名前を呼びながら、あるいはレッ
スンに関する質問をしながらボールを転がす。ボールを受け取った子供は教師の名前を言いながら、
あるいは質問に答えながらボールを転がし返す。全員に少なくとも一度はボールが行くようにする。
ボールを転がさず、立って手渡してもよい。

形合わせ

用意するもの——色紙、はさみ。
色紙を使って、四角形、円、三角形、ハート形、八角形、卵形を大小1枚ずつ切り抜き、それらの

形を床の上に広げる。子供は、一人ずつ順番に、小さい形を拾い、それと同じ大きな形の上に重ねていく。応用として、違う色で同じ形を作り、形の代わりに色で合わせさせてもよい。

ドレミの輪

用意するもの——色紙か布切れで作った色とりどりの円、音楽のカセットテープ、あるいは楽器、接着テープ（なくてもよい）。

円を、床に丸く並べてテープで留めるか、あるいは置く。音楽を流し、子供はそれに合わせて円の外側を歩く。音楽を止めると同時に、子供は自分の横の円の色を言う。応用として、形の違うものを用いて、子供に色と形を言わせてもよい。

お手玉

用意するもの——お手玉、箱、または、かごか（ポスターなどをはった丈夫な板や厚紙に穴を開けて作る）。

子供は、箱やかご、あるいは的にお手玉を投げ入れる。（特別な休みやレッスンに合わせてお手玉や的を作ってもよい。）積み重ねてある積み木や箱にお手玉を投げてもよい。

銅像

用意するもの——音楽のカセットテープ、あるいは楽器。

遊び方——子供は音楽に合わせて部屋の中を歩き回る。音楽が止まったら、銅像のように静止する。このようにして、音楽が鳴っている間は動き、止まったら動いてはいけない。

託児での音楽

託児の教室で音楽を用いると、温かく愛に満ちた雰囲気を生み出し、初等協会が本来の楽しい場所となります。託児の年齢を迎えた子供たちは天父とイエス・キリスト、自分自身、そしてこのすばらしい世界について、喜んで熱心に学びます。音楽を通して学ぶことは彼らにとって大切な学習方法の一つです。歌ったり、楽器を演奏したり、音楽に合わせて体を動かしたり、音楽を聞いたり、というように、子供たちは様々な形で音楽を楽しむことができます。幼い子供を教えるために音楽を使うことについて、「クラスの中の音楽」（viiページ）を参照してください。

歌

幼い子供たちは教師と一緒に歌いたがらないかもしれません。（ごく幼い子供たちはまだ無理かもしれません。）しかし、教師が歌うのを聞くことは好きですし、歌を通して、大切な原則を学ぶことがよくあります。子供たちに歌うように励ましてください。しかし、子供たちが歌わなくても心配しないでください。一緒に歌えなくても、教師が歌うのに合わせて簡単な動作をして参加してもらうことができます。

それぞれの活動を始めるときに、その活動ごとに歌を決め、毎週同じ歌を歌うとよいでしょう。子供たちは聞き慣れた音楽を耳にして、何の活動が始まるのかが分かるでしょう。また、子供たちの状況や活動の内容に合わせて、歌詞を変えることもできます。年間を通して、子供たちの好きな歌を繰り返し歌ってください。

『子供の歌集』の以下の歌は特に託児クラスに適したものです。以下は、歌詞を変更する際の提案です。ここに挙げられた歌あるいは『子供の歌集』にあるほかの歌をそれぞれの託児クラスに合わせて、変更するとよいでしょう。

「幸せな家族」（104ページ）©1975 Pioneer Music Press, Inc. 幸せな託児または幸せな初等協会の詩を作る。あいさつの歌として使うなら、「洋君、こんにちは……」。

「わたしのするとおり」（146ページ） 「お掃除するよ、ついておいで……」または「歌を歌うよ、ついておいで……」

「楽しいな」(129ページ)

「幸せなら手をたたこう」(125ページ)

「雪だるま」(121ページ) ©1981 Pioneer Music Press, Inc. 自然の景観の中にあるもので替え歌を作る。

「背高 のっば、のっば、のっばの木に……木陰が ある、ある、ある……さあ休もう」

「雨がふります」(117ページ)

「笑顔で」(128ページ)

「花がはじけてポップコーン」(118ページ)

楽 器

子供たちが演奏できるような簡単な楽器を準備するか、あるいは作ってください。

フルートまたはホルン——ボール紙で作った円筒（ラップやホイルのしんなど）に幾つか穴を開ける。一方の端をセロファンで覆ってテープで留める。筒に口の先をつけてハミングしたり、歌ったりして音を出す。

やすりギ口——厚さ3センチ、横5センチ、縦10センチほどの大きさの木片を2個と、横3センチ、縦6センチほどの少し小さめの木片を2個用意する。角やとげのある部分にやすりをかけておく。大きな木片の中央に小さな木片を載せ、釘でしっかり留める。大きな木片の底に紙やすりをつける。木片を打ち合わせたり、紙やすりをこすり合わせて音を出す。

マラカス——とうもろこしの粒や乾燥した豆を、切り口にギザギザのない空き缶、またはボール紙でできた容器に入れる。子供たちに容器をきれいに飾り付けさせる。子供が中身を出して遊んだり、食べたりしないように、テープでふたをしっかりと留めておく。振って音を出す。

鈴——細長い布に鈴を幾つか縫いつける。振って音を出す。

音楽に合わせて体を動かす活動

音楽に合わせて創作運動をすることは、子供たちがエネルギーを上手に発散するのに役立ち、創造力を伸ばします。歌、ピアノ、またはほかの楽器、あるいは音楽のカセットテープなどを使ってください。

音楽に合わせて体を動かす活動に子供たちを参加させるために、以下のことをするとよいでしょう。

- 子供たちに音楽に合わせて次のような運動をさせる。走る、跳ぶ、体を曲げる、ぐるぐる回る、つま先を立てて歩く、這う、スキップする、背伸びをする。子供たちが交代でリーダーになり、リーダーのする動作をほかの子供たちがまねする。
- テンポを変えながら曲を弾いたり、歌ったりして、子供たちに音楽に合わせて走らせたり、歩かせたりする。
- 子供たちに、色とりどりのスカーフや紙の吹き流しを振りながら、音楽に合わせて体を動かさせる。
- クラスの流れを変えたいときは、活動のための歌を用いる。子供たちが長時間座っている場合には、体全体を使って動く活動のための歌がふさわしい。動き回った後で少し静かにする必要がある場合は、座ってできる手、頭、目などを動かす活動のための歌が効果的である。

音楽を聞く

入手可能であれば、『子供の歌集』カセットテープ（52238 300）またはCD（50177 300）を使用してもよいでしょう。

ただ音楽を聞いているだけでは、子供たちはなかなか集中しません。歌、動き、またそのほかの活動と合わせて音楽を聞かせるとよいでしょう。以下はその提案です。

- 子供たちを床に寝かせて、様々な種類の音楽を聞かせる。それぞれの音楽を聞いてどのように感じたかを話させる。それを体で表現させる。
- 行進曲をかけ、部屋の中を行進させる。
- 音楽に合わせて手拍子をさせる。

レッスンの変更例

以下は、本書の二つのレッスンを例に挙げて、託児で本書を活用するためにどのように変更を加えればよいかを示したものです。これらの例を検討するに当たっては、次の事項に注意してください。

レッスンの時間が幾つかの部分に分けられています。そして、区分されたそれぞれの時間では、簡単な福音のメッセージを教えることに焦点が絞られています。活動や音楽を選ぶ際に、子供たちが福音の基本的な原則と言葉を理解し始められるようにすることを念頭に置かなければなりません。

レッスンの中から一部だけが採り上げられています。託児対象年齢の子供たちのために、単純で、活動的かつ適切なレッスンを行うには、このことが大切です。

選んだ活動を必ずしもテキストどおりの順序で実施する必要はありません。託児対象年齢の子供たちが福音のメッセージを理解できるような順序に活動を組替えます。

第6課——天父とイエスはわたしを愛してくださる

あいさつの時間

託児のクラスに敬虔な雰囲気をもたらす方法の一つに、『子供の歌集』のCDやカセットテープを使って音楽を流す方法があります。このレッスンで採り上げる福音のメッセージを紹介するために、「てんのおとうさまとイエスさまはわたしをあいしていらっしゃいます」と書いたバッジを子供たち全員に配るとよいでしょう（「楽しい活動」6, 17参照）。

遊びの時間

35分間

幼い子供のための遊びの時間に、子供たちが天父とイエス・キリストについて考えるよう助ける方法を見つけます。例えば、わたしたちがお互いに親切にするとときに天父とイエスは喜ばれること、天父とイエスはわたしたちをととも愛しておられることを教えるとよいでしょう。また、次のように質問することによって、先週のレッスンを思い出させることもできます。「天のお父さまから生まれた男の子はどなたですか。」

集合の時間

10分間

子供たちをレッスンに参加する準備をさせるために、集合の時間を活用することもできます。最初に祈りの歌を歌ってから、一人の子供が祈るのを助けます。それから、この美しい地球と福音、教会を与えてくださった御方はどなたかと質問して、子供たちをレッスンに備えさせます（「導入」, 15参照）。

音楽の時間

10分間

託児対象年齢の子供たちに福音のメッセージを学ばせるうえで、大きな効果を持つのが音楽です。例えば、このレッスンでは「お父さまは生きています」（『賛美歌』190番、『子供の歌集』, 8）、または「救い主の愛」（『子供の歌集』, 42）を歌うことによって子供たちが天父とイエスについて考えるよう助けることができます（「楽しい活動」2, 17参照）。時間的に余裕があれば、以前のレッスンで採り上げた歌を復習するか、xvii-xviiiページに挙げられている歌を歌います。

おやつ時間

10分間

この時間では福音のメッセージを強調するための活動は行いませんが、天父とイエスがわたしたちを愛しておられること、食べ物を含むすべてのものについてわたしたちは天父とイエスに感謝しなければならないことを思い起こさせるとよいでしょう。それから、一人の子供に食べ物を祝福してもらいます。

レッスンの時間 10分間
このレッスンには、託児対象年齢の子供たちが天父とイエスは彼らを愛しておられることを理解させるために活用できる箇所が幾つかあります。例えば、第6課から以下の箇所を使うことができます。

- 天父とイエス・キリストはわたしたちに祝福をくださる（15-16ページ）。
- 天父とイエス・キリストはわたしたち一人一人を愛しておられる（16-17ページ）。
- 幼い子供のための活動2（17ページ）。
- 楽しい活動1（17ページ）。

活動の時間 15分間
活動の時間は創造性を発揮し、エネルギーを一定の範囲の中で発散させる機会を子供たちに与えます。できれば、福音のメッセージを強調するような活動を行います。例えば、福音のメッセージを強調するための質問をしながら、「ボール転がし」（xviページ）を行うことができます。

閉会の時間 10分間
閉会の時間を使って、天父とイエスは子供たち一人一人を愛しておられること、一人一人の名前を御存じであることを思い出させます。天父とイエス・キリストがお与えになった祝福を受けていることについてあなたが感謝していることを話します。それから一人の子供が閉会の祈りをするのを助けます。

第10課——木や草，花に感謝する

あいさつの時間
子供たちが託児の部屋へ入って来るときに、一人一人の名前を呼んで歓迎します。歓迎するときに、今日は木や草，花について学ぶことを話して、レッスンのテーマを紹介します。

遊びの時間 35分間
遊びの時間を使って、天父とイエス・キリストはわたしたちに楽しさを与えるために、この世界に多くの美しいものを創造して下さったことを話して、子供たちをレッスンに備えさせます。

集合の時間 10分間
祈りの歌を歌ってから、一人の子供が祈るのを助けます。子供たちが見たり、さわったり、匂いをかいだりできる植物をレッスンのために持って来るとよいでしょう。それから、あなたが木や草，花に感謝していることを述べます（「幼い子供のための活動」2，30参照）。

音楽の時間 10分間
「空のお日様小さな種に」（『子供の歌集』，119）を歌います。歌に合わせて動作を加えることによって楽しい雰囲気をつくり出し、子供たちの気分転換を図ることができます。時間的に余裕があれば、以前のレッスンで学んだ歌を復習してもよいでしょう。

おやつ時間 10分間
できれば、福音のメッセージに関連のある簡単な活動を行ってから、おやつ時間に入ります。例えば、このレッスンではパンと果物をおやつにします。これらの食べ物か木や草，花からできていることを説明します（「活動」，29を参照）。それから一人の子供が食物を祝福するのを助けます。

レッスンの時間 10分間
子供たちが福音のメッセージを理解するのに役立つと思う箇所をレッスンから選びます。例えば、木や草，花がどのように生長するかを理解させるために、果物にナイフを入れて種を取り出し、それを子供たちに見せるとよいでしょう。種が生長して、果物を豊かに実らせるためにはど

のような条件がそろわなければならないかを説明します（「楽しい活動」4, 30を参照）。それから、土の入った紙コップに種を植えてもらいます（「楽しい活動」1, 29を参照）。

活動の時間

15分間

レッスンを終わったら、子供たちに木や草、花の塗り絵をさせます。その間、静かな音楽を流すとよいでしょう。活動はレッスンから選ぶか、xiv-xviiページに挙げられている中から選ぶとよいでしょう。一部の子供たちはこの時間におもちゃで遊ばせてもよいでしょう。子供たちが活動に加わりたい気持ちになったら、いつでも参加できるようにしておきます。参加を無理に求めないことが大切です。

閉会の時間

10分間

福音のメッセージについて教えた事柄をまとめ、子供たちを祈りに備えさせるために閉会の時間を活用します。このレッスンでは、木や草、花に感謝することを思い起こさせるために（「楽しい活動」2, 29-30参照）、「空のお日様小さな種に」（『子供の歌集』, 119）の歌詞をあなたに続いて子供たちに繰り返し言わせる方法を取ることもできます。それから一人の子供が閉会の祈りをするのを助けます。

目的 わたしたちは天父の霊の子供であり、天父はわたしたちのことをよく御存じで、愛しておられることを理解する。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。出エジプト2：1-10；詩篇82：6；教義と聖約138：55-56；モーセ1：1-6。『福音の原則』（31110 300）第2章も参照する。
2. 子供たちの両親と話し、それぞれの子供たちの良いところを2, 3聞いておく。
3. 教材
 - a. 聖書と高価な真珠
 - b. お手玉など、小さく柔らかい物
 - c. 視覚資料1-1「地球」；1-2「かごの中のモーセ」（『福音の視覚資料セット』106〔34730 300, 34375 300〕）
4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入

「神の子です」（『賛美歌』189番）を子供たちと一緒に歌う。

かみのこです わたしやあなた
あふれるめぐみに かんしゃします
わたしをたすけて みちびいて
いつかみもとへ ゆけるように

お手玉などの柔らかい物を子供の一人に投げながら、「わたしは神様の子供を知っています。その子の名前は_____です」と言う。このとき、子供に自分の名前を言わせる。全員に順番が回るまで繰り返す。

わたしたちは天父の霊の子供である

●天のお父様は、どのような御方ですか。（子供たちの答えを聞き、それを参考にして、子供たちに合ったレベルで本課を教えるようにする。）

視覚資料1-1「地球」を見せる。以下のことを説明する。わたしたちはこの地球に生まれる前、天父と一緒に天で住んでいた。そこではわたしたちは霊であった。霊は体の中にあって、体を生きたものになっている。わたしたちが霊のとき、今持っているような肉や骨の体はなかったが、今と同じ姿をしていた。

さらに次の説明をする。天父はわたしたちの霊の父であり、わたしたちは天父の霊の子供である。地球に来る前に天父と住んでいたことは覚えていないが、聖文を読めば、自分が天父の霊の子供であることが分かる。

聖書を見せ、詩篇82：6を読んで聞かせる。「いと高き者」とは天父を表すことを説明する。地球に住むすべての人が天父の子供であることを強調する。

歌 「神の子です」をもう一度歌う。「神」は天父のもう一つの名前であることを説明する。

天父はわたしたちのことを知っておられ、愛しておられる

次のことを説明する。わたしたちは天父の子供なので、一人一人が天父からとても愛されてい

る。天父はわたしたちの名前も含めて、すべてのことを御存じである。わたしたちがどんなときに幸せになるか、また悲しい気持ちになるか知っておられる。さらに一人一人にとって最良のものが何かよく知っておられる。

活 動

次の言葉に動作をつけながら、子供たちと一緒に言う。

天のお父様はわたしのことを知っておられます

天のお父様はわたしのことを知っておられます（自分を指さす）

わたしの好きなことも

わたしの名前や おうちも御存じです（両手の指を付けて屋根の形にする）

わたしのことを愛してくださいます（何かを抱き締めるときのように、腕を交差させ両肩の上に置く）

どんなとき楽しくて（指で口の端を上げて笑顔を作る）

どんなとき悲しくなるか知っておられます（指で口の端を下げて、悲しい顔を作る）

いつもわたしを助けてくださるので（自分を指さす）

わたしはとってもうれしいです

子供の一人に前に来させ、両親から聞いたことを基に、天父がその子供の良いところを知っておられることを説明する。例として次のように話すとよい。「天のお父様は恵美ちゃんがとても優しい子で、お母さんを手伝って妹の世話をしていることや、いつも明るくてニコニコしていることを知っておられますよ。」全員に同じことをする。

わたしたちは、愛ある親切な行いをするとき、天父のようになれることを説明する。

わたしたちは天父のようになれる

- かえるの赤ちゃんは何と言いますか。
- おたまじゃくしは大きくなったら何になりますか。
- 鶏の赤ちゃんは何と言いますか。
- ひよこは大きくなったら何になりますか。

動物が大きくなると親と同じになるように、わたしたちも大きくなると、両親と同じようになる。天父はわたしたちの霊の父なので、わたしたちも成長して天父のようになることができる。天父は愛にあふれ、優しく、親切で、わたしたちを助けたいと望んでおられる。わたしたちが愛にあふれ、優しく、親切であるなら、天父に似た者になれる。わたしたちはさらに天父に似た者になれるように日々努力しなければならないことを説明する。

天父はわたしたちに大切な仕事を与えられた

物 語

視覚資料1-2「かごの中のモーセ」を見せる。出エジプト2：1-10から、パロの娘が^{おきなご}幼子モーセを危険から救った物語を話す。

モーセは成長して、天父の大切な働き手、預言者となった。天父はモーセに、彼が御自分の子供であること（モーセ1：4、6参照）、またモーセに大切な仕事をするように望んでおられることを話された。モーセ1：6の最初の部分を子供たちに読んで聞かせる。モーセは神様から与えられた仕事を果たし、エジプトでひどい目に遭っていたイスラエルの民を導き出して、そこで天父の戒めを教えた。

子供たちを一人ずつ前に来させ、モーセ1：6の最初の部分を、自分の名前に置き替えて言わせる。わたしの子（_____）よ、わたしにはあなたにしてほしい仕事があります。

次のことを説明する。天父はわたしたちが地上にいる間、大切な仕事をするように望んでおられる。例えば、父親、母親、宣教師、教師として働くこと、教会や地域で奉仕することが挙げられる。

- 天のお父様がみんなにしてほしい大切な仕事は何でしょうか。

活 動

子供たちに大きくなったら何になりたいかジェスチャーで表現させる。赤ちゃんをあやす父親や母親、福音を伝える宣教師、レッスンを教える教師、など。

子供たちが天父の霊の子であり、天父は一人一人をよく御存じで愛しておられることをいつも思い出す必要があることを話す。さらに天父のようになれること、また地上で大切な仕事を与えられていることを理解させる。天父から愛されていることを知った教師自身の経験を話してもよい。

楽しい活動

次の中からレッスンで使うものを幾つか選ぶ。

1. 様々な人が写っている写真を見せるか、子供たちの知っている人々について話して、「この人は神様の子供ですか」と聞く。例えば、「ビショップ〔支部会長〕さんは、神様の子供ですか」「おまわりさんは神様の子供ですか」「みんなの近所の人は神様の子供ですか」など。すべての人が神の子であることを理解させる。
2. 天父が子供たち一人一人を知っておられ、心にかけておられることを強調するため、次のような文を作って各自に読ませる。「天のお父様は、_____のときわたしが悲しい気持ちになることを知っておられます。」「天のお父様は、_____のときわたしが幸せになることを知っておられます。」「わたしの好きなものが_____であることを、天のお父様は知っておられます。」「_____ので、わたしがプライマリーに来るのが好きなことを、天のお父様は知っておられます。」
3. 天父は天においても地上においても、王であられることを説明する。天父の子供であるわたしたちは、王子や王女である。簡単な王冠を人数分作り、それぞれに「わたしはかみのこ」と書いておく。子供たちに色を塗らせる。
4. 「ぼくはむかし」(『リアホナ』『フレンド』1999年4月号, 5) の1番, または「お父さまは生きています」(『賛美歌』190番) の1番と2番を子供たちと一緒に歌うか、歌詞を声に出して言う。

幼い子供のための活動

1. 子供たちに好きな物は何か考えるように言う。(子供たちの両親にあらかじめ聞いておいてもよい。)好きな物は何か聞いて、天父もそれを知っておられることを話す。例えば、「天のお父様は、進くんが犬が好きだということを知っておられますよ。」
2. 以下の言葉に合わせて遊戯を行う。
背がとっても とっても高い人は(腕を高く上げながら背伸びをする)
教会で大切な人
背がとっても とっても低い人も(しゃがみ込む)
教会で大切な人
高い人(背伸びをする)
低い人(しゃがみ込む)
高い人(背伸びをする)
低い人(しゃがみ込む)
天のお父様はみんなのことを愛される。
3. 教師が言う言葉に合わせて、次の遊戯を行う。
小さな赤ちゃんのモーセ
小さな赤ちゃんのモーセは
小さな 舟に乗せられて 川に浮かんで 流れてた(左手をおわん状にし、舟の形を作り、右手人差し指をその上に寝かせる)
愛する 姉さん 草の陰 そっと モーセを見守った(目を両手で覆い、指の間からのぞく)
ある日 モーセを見つけた王女様(体を前に傾け下を見る)
モーセを腕に抱きかかえ(赤ちゃんを抱き上げる動作をする)
「この子を連れて帰りましょう
お城で 育ててあげましょう」(腕に赤ちゃんを抱く動作をする)
(エレノア・ドーン, *Fascinating Finger Fun* ©1951. Used by permission.)

目的 天父が実在する御方で、完全な肉と骨の体を持っておられ、わたしたちは天父にかたどって造られたことを理解する。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ヨハネ14：9；教義と聖約130：22；モーセ2：27；ジョセフ・スミス－歴史1：14－17。『福音の原則』（31110 300）第1課も参照する。
2. 教材
 - a. 聖書と高価な真珠
 - b. 紙とクレヨン（人数分）
 - c. 小さな鏡
 - d. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」（『福音の視覚資料セット』240）；1-4「最初の示現」（同403）
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 全員に紙とクレヨンを配り、自分の絵を描かせる。描き終わったら、それぞれの絵を持たせて、絵の中の自分と、絵を描いた自分とどちらが本物か尋ねる。どうしてそれが分かるか尋ねる。本物の自分には体があるように、本物の天父にも体があることを説明する。天父の絵を見ることはできるが、それは本物の天父ではない。天父は骨肉の体を持っておられる。

イエス・キリストは天父に似ておられる

両親に似ていると言われたことがないか尋ねる。視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せ、イエス・キリストは天父の御子であられることを説明する。聖文には、イエスが天父に似ておられると書かれている。聖書を見せ、ヨハネ14：9の内容を説明する。

- イエス様はだれに似ていらっしゃいますか。

活動 子供たちを立たせ、信仰箇条第1条の最初の部分を暗唱させる。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリスト〔……〕を信じる。」

わたしたちは天父やイエスに似ている

次のことを説明する。わたしたちは天父の霊の子供なので、わたしたちも天父に似ている。天父に似た体を持っている。モーセ2：27について説明する。天父にかたどって創造されるということは、天父に似ているということである。

活動 子供たちに鏡に映った自分とほかの子供たちを順番に見比べさせる。腕、足、目、耳など目に見える体の部分の名前を言わせる。天父やイエスにも同じように体の各部分があることを説明する。

- 皆さんは天のお父様やイエス様とよく似た体を持っていますか。

預言者（教会の指導者）の中には天父やイエスに会った人がいて、そのことを聖文に書き記してくれたので、天父やイエスがどのような姿形をしておられるか知ることができる。

物語

視覚資料1-4「最初の示現」を見せる。ジョセフ・スミスー歴史1：14-17に書かれている最初の示現の物語を話す。

- ジョセフ・スミスはどのようにして、天のお父様とイエス様の姿形を知ることができましたか。
- イエス様と天のお父様はどのような体を持っておられますか。

あかし
証

天父にかたどって造られた体を持っていることへの感謝を述べ、証をする。体を使って多くのすばらしい事柄ができることに感謝する。

楽しい活動

次の中からレッスンで使うものを幾つか選ぶ。

- 子供たちを立たせ、次の遊戯を何回か行う。
 - わたしの すてきな 体
 - わたしの すてきな 体（手を交差して胸に当てる）
 - 天のお父様から 頂いた
 - 聞こえるように この耳と（手を耳に当てる）
 - 見えるように 目があって（目を指さす）
 - 手を合わせて たたけるし（拍手する）
 - 足で立って 回れるし（回る）
 - つま先だって 触れます（かがんで足のつま先を触る）
 - 体について 考えるとき（頭に指を置く）
 - いちばん すてきと 思うのは（静かに座って、考えるふりをする）
 - 天のお父様と 同じ形に 造られたこと
- 「体の歌」（『子供の歌集』, 129）を歌うか、歌詞を言いながら動作をする。

天父とよく似た体を与えられ、それによって多くのことができることを思い起こさせる。
- 視覚資料1-4「最初の示現」を順番に持たせ、視覚資料を持っていない子供たちに最初の示現の物語を話させる。
- まさる君が親戚しんせきの家に遊びに行ったときの物語を話す。

まさる君のお父さんはまさる君が赤ちゃんのときに亡くなりました。まさる君は「お父さんてどんな人だったんだろうなあ」とよく思いました。まさる君とお母さんは親戚の家に遊びに行くことになりました。そこでは、お父さんのことをよく知っているおじさんやおばさんに会って話ができます。

二人が到着するとおじさんが二人を出迎えてくれました。おじさんはまさる君を見てこう言いました。「きっとどこで会っても分かるよ。まさる君の目は、お父さんの目とそっくりだからね。」恵美子おばさんはこう言いました。「あのね、まさる君、あなたの鼻はお父さんの鼻とそっくりよ。」愛子おばさんはこう言いました。「まさる君、あなたの笑顔を見ていると、お父さんの笑顔を思い出すわ。」

家に帰る車の中で、まさる君はお母さんに言いました。「今日はとっても楽しかったなあ。お父さんのこといろいろ分かったよ。ほく、お父さんに似ていることが分かって、とってもうれしい。これからは鏡を見たら、お父さんがどんな顔だったか分かるし、忘れないでいられるもの。」お母さんは手を伸ばしてまさる君の手を優しくたたいてこう言いました。「あなたがそばにいてくれたら、お母さんもお父さんのこと忘れないでいられるわ。」

まさる君が父親を見たことがなくても、父親がどのような人だったか分かったように、わたしたちも天父を見たことがなくても、天父がどのような御方か知ることができる。

幼い子供のための
活動

- 視覚資料1-4「最初の示現」を見せ、最初の示現の物語を簡単に話す。天父とイエス・キリストが実在の御方であり、わたしたちの祈りを聞いてくださることを強調する。
- 視覚資料1-4「最初の示現」を使って、わたしたちの体が天父やイエスの体といかにか似ているか説明する。教師が視覚資料の中の体の部分を示すのに合わせて、子供たちは自分の体の同じ部分を指さす。例えば、教師が天父の腕を指さしたら、子供たちは自分の腕を指さす。

3. 教師の言葉に合わせて、以下の遊戯をする。
 - ジョセフは森の中でひざまずき（ひざまずいて腕を組む）
 - 特別な祈りをしました（指の先を唇に付ける）
 - ジョセフは天のお父様とイエス様を見ました（手を目の上にかざすようにして、見上げる）
 - そしてその声を聞きました（手を耳に当てる）
4. 口を指さして「これはわたしの口です」と言う。それから「みんなの口はどこですか」と聞き、子供たちに自分の口を指ささせる。次に「天のお父様にも口がありますか」と尋ねる。目、鼻、耳、手、足についても同様に行く。次に体の各部分を名前を言わずに指さし、子供たちにその名前を言わせる。

目的	わたしたちは地上に来る前に霊の子供として天父とともに暮らしていたことと、この人生が終わった後、再び天父とともに暮らせることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちでアブラハム3：22-27を研究する。『福音の原則』（31110 300）第2章も参照する。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 標準聖典b. 人形、あるいは紙を人の形に切ったもの。c. 視覚資料1-1「地球」、1-3「イエス・キリスト」（『福音の視覚資料セット』240）；1-5「赤ちゃんのいる家族」；1-6「家庭の夕べ」；1-7「愛にあふれる家族」；1-8「聖餐のパス」；1-9「朝の祈り」；1-10「家族の祈り」；1-11「バプテスマを受ける少年」；1-12「確認の儀式を受ける少女」；1-13「ジョセフ・スミス」（同400）3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>人の形に切った紙か人形を子供たちのそばのいすの上に置く。子供たちに、立ち上がってその場で回り、座るように言う。</p> <ul style="list-style-type: none">●人形はどうして立たないのでしょうか。●皆さんはどうして立つことができますか。 <p>子供たちと人形の違いについて話す。子供たちに生きていることを理解させる。一人一人の体の中には霊があり、霊によって生きているので、見たり、聞いたり、立ったり、動いたり、考えたり、話したりできる。</p> <p>わたしたちは天父の霊の子供である</p> <p>この地上に生まれる前に天父の霊の子供として天父とともに暮らしていたことを復習する。わたしたちは幸せで、天父と一緒に暮らせることを喜んでいて、今持っているような肉体はなかったが、霊は持っていた。霊は肉体と同じような姿をしているが、骨や肉はないことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none">●皆さんは地上に生まれて来る前にどこに住んでいましたか。
歌	<p>「神の子です」（『賛美歌』189番）を子供たちと一緒に歌う。「神」は天父のもう一つの名前であることを思い出させる。</p> <p>かみのこです わたしやあなた あふれるめぐみに かんしゃします わたしをたすけて みちびいて いつかみもとへ ゆけるように</p>
活動	<p>一人の子供を教師の横に立たせる。その子供の名前を使って、その子供が地上に生まれて来る前に天父と住んでいたことや、天父の霊の子供であり、天父から愛されていることを話す。全員について同様にする。</p> <p>天父はわたしたちを愛しているので、一つの計画を立てられたことを説明する。地球が造られ</p>

る前に、天父はすべての子供たちを集めて、その計画について説明された。わたしたちの両親も、兄弟姉妹も、みんながそこに集まった。

天父はわたしたちを地球に送ってくださった

視覚資料1-1「地球」を見せる。地球は天父の計画の一部であることを説明する。天父の指示の下に、イエス・キリストはわたしたちのために地球を創造された。わたしたちは地球に送られ、肉体を持って生まれた。

視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」を見せる。絵について子供たちに話させる。わたしたちは地球に来て学び、成長できることをとても楽しみにしていた。やがてこの地球に赤ちゃんとして送られ、わたしたちを愛して面倒を見てくれる家族のもとに生まれた。

地球に来たときに、皮膚や筋肉、血や骨のある体が与えられたことを話す。各自の腕に触らせる。

- 腕の中に骨があるのが分かりますか。
- 皮膚が見えますか。触ってみて感じますか。
- 筋肉があるのが分かりますか。

わたしたちを生かしてくれるのは体の中にある霊であるが、霊は見たり触ったりできないことを思い出させる。わたしたちの肉体は見たり触ったりできる。肉体があるのはとても素晴らしい祝福であることを話す。

活 動

次の言葉子供たちと一緒に言う。出てくる体の各部分を指さす。

目に かんしゃしよう

めに かんしゃしよう

みみにも くちにも はなにも

てにも うでも あしにも

そして つまさきまで

(ルーシー・ピッコの詩より翻案)

わたしたちはこの地上にいる間に、成長し、たくさんのことを学ぶ。正しい選択をすることを学ぶにつれて、わたしたちはさらに天父やイエスのようになることができる。これは天父の計画において、もう一つの大切な事柄である。

天父はわたしたちがいつの日かみもとに戻ることを望んでおられる

天父への愛について話す。いつの日か天父のもとに帰って再会し、再びともに暮らしたいと思っていることを話す。これも天父の計画の大切な一部であることを説明する。天父は、わたしたちが地上での生涯を終えた後に再び天父のもとに帰ってともに住むことを望んでおられる。すなわち、わたしたちと両親、そして家族みんながともに天父のもとで暮らすことを望んでおられるのである。

天父やイエスともう一度暮らすためには、バプテスマを受けてすべての戒めに従わなければならないことを説明する。標準聖典を見せる。聖典には、天父とイエスがわたしたちに行うように望んでおられることが書かれている。

準備の項に挙げられている視覚資料を使って、天父がわたしたちにこの地上で学び、行うように望んでおられる以下の事柄について話す。家族を愛する、自分勝手にならない、教会に行く、聖餐を受ける、朝晩祈る、家族の祈りや家庭の夕べをする、バプテスマを受ける、確認の儀式を受ける、聖霊を受ける、神殿で結婚する、預言者について学ぶ、そして天父やイエスのようになる。

天父と天父の計画に対する感謝の気持ちを述べる。いつの日か天父とイエスののもとに帰ってともに住むために、いつも正しいと思うことを行うように子供たちを励ます。

あかし
証

楽しい活動

次の中からレッスンで使うものをいくつか選ぶ。

1. 全員に「わたしはかみさまのこどもです」と書いた紙を渡し、それぞれ自分の顔を描かせる。

その絵を全員に見せてもらう。絵を見せながら、自分の良いところを言わせる。

2. 神の創造されたもの
 - 神は月を造られた（頭の上に手で円を作る）
 - きらきら光る星も（両手を上げ、指を開いたり閉じたりする）
 - 高い空に置かれた（上に手を伸ばす）
 - 神は太陽を造られた（頭の上に手で円を作る）
 - 木も（腕を上にはびんと伸ばす）
 - きれいな花も（手を丸めて花の形を作る）
 - かわいい小鳥も造られた（腕を翼のように動かす）
 - （エレノア・ドーン, *Fascinating Finger Fun* ©1951. Used by permission.)
3. 紙に次の質問を一つずつ書いておく。子供たちに1枚ずつ紙を取らせ、それに答えさせてレッスンで学んだことを復習する。必要なら、全員に順番が回るまで繰り返す。
 - a. 神様の子供はだれですか。（わたし、みんな）
 - b. この地上に生まれてくる前、わたしたちはどこに住んでいましたか。（天父とイエスと一緒に天に住んでいた。）
 - c. どうして天のお父様はイエス様に地球を造るよう頼まれたのでしょうか。（わたしたちが肉体を得て天父やイエスとともに再び住むために何をしなければならないか学ぶため。）
 - d. 天のお父様やイエス様ともう一度住むためには、何をしなければなりませんか。（戒めに従う、自分勝手にならない、バプテスマを受ける、神殿に行く、など答えを言うときに、それに合った絵を選んで全員に見せてもらう。）
 - e. この地球での生活が終わった後、わたしたちはだれと一緒に住むことができますか。（天父とイエスと家族）

幼い子供のための活動

1. 初等協会会長の許可を得たうえで、一人の父親に赤ちゃんをクラスに連れて来てもらう。父親が子供をどんなに愛しているか話す。子供には愛を与えてくれる二人の父親がいることを話す。それは、この地上での父親と天の御父である。赤ちゃんはこの地上に生まれる前、天父と暮らしていた。（家庭に父親のいない子供がいる場合、十分な配慮をする。）
2. 父親の靴を何足か用意する。この大きな靴を履く人はだれか話し合う。大きな靴と子供たちの靴を比べさせる。順番に父親の靴を履いて歩かせる。
3. 「ぼくはむかし」(『リアホナ』『フレンド』1999年4月号, 5)の1番の前半を歌うか、歌詞を読む。
 ぼくはむかし てんにいました
 あなたや あいするひとたちと
 (©1987 by Janeen Jacobs Brady. Used by permission.)
 ●わたしたちは天でだれと一緒に住んでいましたか。（天父、イエス、みんな）
4. 教師の言葉に合わせて、次の動作をする。好きなだけ繰り返してよい。
 (全員が立って、手をつないで輪を作る。最後まで手をつないだまま行こう。)
 わたしたちはみんな天のお父様と一緒に住んでいました（手を真ん中に寄せて、小さな輪になる）
 天のお父様はみんなを地球に送られました（広がって大きな輪を作る）
 天のお父様は、わたしたちを愛し、教えてくれる家族を与えてくださいました（再び小さな輪になる）
 家族は、もう一度天のお父様のところに帰れるよう助けてくれます（再び広がって大きな輪を作る）

目的	天父に祈る方法を学び、天父が祈りを聞いてくださることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちでダニエル6章を研究する。『福音の原則』(31110 300) 第8章も参照する。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 視覚資料1-9「朝の祈り」; 1-10「家族の祈り」; 1-14「ししの穴のダニエル」(『福音の視覚資料セット』117); 1-15「食事の祝福」3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>開会の祈りをした子供をそのまま前に立たせておく。前のレッスンで学んだこと、すなわちわたしたちは生まれる前に天父とともに住んでいて、天父により地球に送られたことを思い出させる。</p> <ul style="list-style-type: none">● わたしたちはこの地上にいる間、どうすれば天のお父様と話すことができますか。● (開会の祈りをした子供の名前) ちゃんは、お祈りをしたときだれに話しましたか。祈るときに天父と話していることに気づかせる。 <p>わたしたちは天父に祈ることができる</p> <p>たとえ天父が見えなくても、わたしたちは天父に祈ることができ、天父はその祈りを聞いてくださる。そのことを証する。</p> <p>視覚資料1-9「朝の祈り」を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none">● この女の子は何をしていますか。● だれに話していますか。● 天のお父様に何を話していると思いますか。 <p>視覚資料1-9「朝の祈り」、1-10「家族の祈り」、1-15「食事の祝福」を使って、どんなときに祈るか話し合う。好きなときに天父に祈れることを説明する。普通は、起きるときや寝るとき、食事のとき、家族と一緒にいるとき、また特別な助けが必要なときに祈る。話し合う中で、内容に合った視覚資料を持たせる。</p> <p>イエス・キリストは天父に祈る方法を教えられた</p> <p>イエスは、祈るときに必要な事柄を教えられたことを説明する。祈る準備ができたなら、まず天父について考える。</p> <ul style="list-style-type: none">● お祈りするとき、腕はどうしますか。● お祈りするとき、頭や目はどうしますか。
活動	教師が腕を組み、頭を下げ、目を閉じて祈りの準備をするのを見せ、子供たちにもまねをさせる。次に、一人の子供を前に立たせ、祈りの準備をさせて、ほかの子供たちにもまねをさせる。
歌	子供たちと一緒に次の「お祈りの歌」(“A Prayer Song” <i>Children’s Songbook</i> [英文], 22)の歌詞を何度か言う。言葉に合わせて動作をつける。 おいりのときは あたまをさげて

うでをくんで
めをとじて
てんのおとうさまに おはなしします

- お祈りの準備をするとき、ほかにどんなことができますか。

家で自分一人で祈るときや家族の祈りをするときは、腕を組んで頭を下げ、目を閉じるだけでなく、ひざまずくことがよくある。

歌

祈るとき、特別に言うことがあると説明する。「信じていのる」(『聖徒の道』「こどものページ」1991年3月号, 5) の2番までを何度か歌うか読む。祈りの4つの特別な事柄ごとに、指を1本ずつ出させる。

おとうさまにかんしゃします
しゅくふくありがとう
たすけをねがう
とうといしゅのみなにより
アーメン

(©1987 by Janice Kapp Perry. Used by permission.)

- お祈りの最初は何と言いますか。
- 天のお父様にどんなことを感謝しますか。
- 天のお父様にどんなことをお願いしますか。
- お祈りの最後は何と言いますか。

天父はわたしたちの祈りを聞いてくださる

物語

視覚資料1-14「ししの穴のダニエル」を見せる。ダニエル6章に書かれた物語を話す。22節の最初の部分を読んで聞かせ、なぜダニエルはししの穴に入れられても傷を負わなかったのか説明する。

祈ることは天父の戒めなので、また天父から受けた祝福に感謝したかったので、ダニエルは祈りたいと思った。

- ダニエルが祈ったので、王様は何をしましたか(ダニエル6:16参照)。
- ししの穴に入れられたダニエルはどうなりましたか(ダニエル6:22参照)。
- 天父がダニエルの祈りを聞いてくださったことがどうしてわかりますか(ダニエル6:23参照)。

あかし 証

天父が祈りを聞いてくださったときの経験について話す。祈りについて良い経験をした子供がいれば、それを話させる。

天父に祈れることをどんなに感謝しているか話し、わたしたちの祈りを天父が必ず聞いておられることを伝える。

子供に閉会の祈りをさせるとき、祈りの方法を復習する。

- お祈りの準備はどうしますか。(腕を組み、頭を下げ、目を閉じる。)
- () ちゃんは、お祈りの最初に何と言いますか。
- () ちゃんは、天のお父様にどんなことを感謝できますか。
- () ちゃんは、天のお父様にどんなことをお願いできますか。
- () ちゃんは、お祈りの最後に何と言いますか。

楽しい活動

次の中からレッスンで使うものを幾つか選ぶ。

1. お手玉やボールなど柔らかい物を子供に投げる。お手玉を受け取った子供に、「お祈りするとき、天のお父様にどんなことを感謝しますか」と聞き、答えさせる。子供は「家族がいること」などと答えるだろう。全員が答えた後、今度は、何を願うのか尋ねる。子供たちが思いつくように、絵を見せてもよい。
2. 「感謝の歌」(“A Song of Thanks” *Children’s Songbook* [英文], 20) の歌詞を、動作をつけながら言う。

すばらしいせかいに かんしゃします (両腕で輪を作り, 世界を表す)
 おいしいたべものに かんしゃします (口に物を入れるまねをする)
 きれいなこえのとりに かんしゃします (親指とほかの指を合わせるようにして, 鳥のくちばしを表す)
 かみさま すべてにかんしゃします (両腕を広げる)
 (ホリス, ダン, *First Year Music* ©1957 by D. C. Heath and Company. Reprinted by permission.)

3. 「目に かんしゃしよう」の歌詞を子供たちと一緒に言う。出てくる体の各部分を指さす。
 めに かんしゃしよう
 みみにも くちにも はなにも
 てにも うでにも あしにも
 そして つまさきまで
 (ルーシー・ピッコの詩より翻案)
4. ししの穴に入れられたダニエルの物語を子供たちに演じさせる。簡単な衣装を用意してもよい。物語全体を演じたくない場合は、子供たちにししのうなり声を上げさせ、天使によって口を閉じられる様子をさせてもよい。
5. 「感謝しますお父様」(『子供の歌集』, 15) または「おいのり」(『子供の歌集』, 18) を、歌うか歌詞を読む。
6. お祈りの中で天父に感謝できることの絵を描かせる。各自の絵に「わたしはおいのりのなかで、てんのおとうさまにかんしゃします」と書く。

幼い子供のための活動

1. 祈るときには、わたしたちを愛して祈りを聞いてくださる天父に話していることを思い出すように言う。次の言葉を言わせる。
 愛する天のお父様
 感謝して祈ります
 わたしを愛して
 いつも祈りを聞いてくださいます
2. 次のどちらか一方または両方を読み、それに合わせて動作をつけさせる。
 腕を組み 頭を下げて
 目を閉じましょう
 これで準備ができました
 腕を組んで 頭を下げて
 静かに耳を澄ましましょう
3. 1枚の紙にそれぞれ子供の手形を取る。祈りの間、手や腕はどうすべきか話し合い、色を塗らせる。それぞれの紙に子供の名前を書く。

イエス・キリストは 天父の御子であられる

目的	イエス・キリストが天父の御子であられることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マタイ3：13-17；ルカ1：26-35；2：1-7, 41-52。『福音の原則』（31110 300）第3章も参照する。 2. 初等協会会長の許可を得たうえで、クラスの一人の子供の父親を招待し、その子が赤ちゃんだったときのことを話してもらう。可能ならば、赤ちゃんのときの写真や好きだったおもちゃなどを持って来てもらう。子供をどんなに愛しているかを話すように依頼する。 3. 教材 <ol style="list-style-type: none"> a. 聖書 b. 視覚資料1-16「イエスの生誕」（『福音の視覚資料セット』201）；1-17「神殿での少年イエス」（同205）；1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」（同208） 4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。 注意——本課で父親について話すとき、家庭に父親のいない子供がいる場合はその子供の気持ちをよく考える。すべての人には、愛してくださる天父がいることを強調する。養子の子供、あるいは実の親でない父親に育てられている子供がいる場合は、そのような父親も彼らを愛し、大切にしてくれることを説明する。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>教室に来てくれた父親を知っているか尋ねる。その父親の子供に、父親を皆に紹介してもらう。父親にその子供のことを話してもらう。全員に自分の父親について話させる。父親の仕事や趣味など。</p> <p>イエス・キリストは天父の御子であられる</p> <p>わたしたちには地上の父親と天の御父の二人の父親がいることを話す。地上の父親はわたしたちに肉体を与えてくれた父親であり、天の御父はわたしたちの体の中にある霊の御父であられることを説明する。イエスの御父は、霊においても肉体においても、天父御一方だけである。そのため、イエスは神の御子と呼ばれている。</p>
物語	<p>視覚資料1-16「イエスの生誕」を見せ、ルカ1：26-35と2：1-7に書かれている、イエス降誕の物語を話す。天使がマリヤに、その幼子^{おきなご}は神の御子であられると告げたことを強調する。視覚資料を見ながら、次の質問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イエス様のお母さんはどの人ですか。 ● 名前は何ですか（ルカ1：27参照）。 ● この男の人はだれですか（ルカ1：27参照）。 ● イエス様のお父さんはだれですか。（天父。ヨセフは善い人で、天父からマリヤとイエスを世話するように選ばれた。）
歌	<p>子供たちを立たせて、「ねどこもなくて」（『子供の歌集』、26）を歌うか、歌詞を言わせる。言葉に合わせて動作をつける。</p> <p>ねどこもなく エスさまは かいばおけに ねんねした</p>

ほしくさのうえに ねてる
エスさまを ほしがみてた

イエスは天父を愛し、天父に従われる

物 語

視覚資料1-17「神殿での少年イエス」を見せ、ルカ2:41-52に書かれている、神殿でのイエスの物語を話す。イエスは天父を愛し、人々に天父について教えたかったので神殿に行かれたことを強調する。

- イエス様は神殿で何をしていたらっしゃるのでしょうか（ルカ2:46参照）。

活 動

子供たちを立たせて、次の活動を何度か行う。
少年イエスは神殿に行きました（その場で歩く）
まだ強くて大きくなる前から（腕を伸ばして上げる）
みんなを愛していたので（自分を抱き締める）
天のお父様のお手伝いをしました（両手を前に差し出す）

物 語

視覚資料1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」を見せ、マタイ3:13-17からイエスのバプテスマの物語を話す。イエスは天父を愛し、天父に従いたいと思ってバプテスマを受けられた。イエスはまた、わたしたちに模範を示すことを望まれた。17節を読んで聞かせる。（「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」）これは天父が語られた言葉であることを説明する。天父はイエスがバプテスマを受けられたことを喜ばれた。

- だれかがバプテスマを受けるのを見たことがありますか。

子供たちが天父に従順さと愛を示す一つの方法は、8歳になったときにバプテスマを受けることである。

あかし 証

イエス・キリストが天父の御子であることを証する。イエスに対する愛と感謝を子供たちに伝える。

楽しい活動

次の中からレッスンで使うものをいくつか選ぶ。

1. レッスンで使った3枚の視覚資料を裏返して、ひざまたはテーブルの上に置く。一人の子供にその中から1枚を選ばせ、ほかの子供たちに見せながら、視覚資料に描かれた物語を話させる。ほかの2枚についても同様にする。
2. 子供たちと一緒に「イエス様の話聞かせて」（『子供の歌集』、36）の1番を歌うか歌詞を読む。
3. 簡単な小道具（人形、肩掛け、スカーフなど）を使って、イエスの誕生の物語を演じる。

幼い子供のための 活動

1. 視覚資料1-16「イエスの生誕」を見せ、視覚資料の中の赤ちゃんはだれか尋ねる。イエスの誕生について話す。

イエスは今はもう赤ちゃんではなく、大人になって天父の最も重要な助け手として働いておられることを説明する。視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せ、イエスがわたしたちを愛しておられ、いろいろな方法で助けてくださることを説明する。

2. 子供たちを立たせて次の言葉を、「雪だるま」（『子供の歌集』、121）のメロディーに合わせて歌わせる。歌詞に合わせて動作をつける。1番はかがんだ姿勢で2番は立ち上がった姿勢です。
 1. あかちゃんのときがあったよ
あかちゃんは ちいさいよ
 2. それから だん だん だん だん
こんなにおおきくなっちゃった
3. 前もって両親に頼んで、子供たちが赤ちゃんのときの写真や、好きだったおもちゃを借りておく。写真やおもちゃを見せ、それがだれのものか言う。子供たちが赤ちゃんのとき、写真のような顔、姿だったこと、またそのおもちゃで遊んでいたことを説明する。

天父とイエスは わたしを愛してくださる

目的 わたしたち一人一人に対する天父とイエス・キリストの愛を、子供たちが感じられるように助ける。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マルコ10：13-16；ヨハネ3：16；3ニーファイ17：11-12, 21-24。
2. 教材
 - a. 聖書とモルモン書
 - b. 小さな鏡
 - c. 視覚資料1-1「地球」；1-3「イエス・キリスト」(『福音の視覚資料セット』240)；1-4「最初の示現」(同403)；1-19「キリストと子供たち」(同216)；1-20「ニーファイ人の子供たちを祝福されるイエス」
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入

子供たち一人一人と握手をする。名前を呼び、その子の良いところ、好きなところを言う。一人一人に、自分を愛してくれている人の名前を言わせる。また、どんなことをしてもらおうと、愛されていると感じるか話させる。

今日のレッスンでは、皆のことを愛してくださる二人の御方について学ぶことを話す。御二方はわたしたちにこの美しい地球と福音、教会を与えてくださった。

- わたしたち皆を愛してくださる二人の御方とはだれでしょうか。(天父とイエス・キリスト)

物語

視覚資料1-4「最初の示現」を見せる。子供たちに手伝ってもらいながら、絵の内容について話す。

- この絵の中の3人がだれか覚えていますか。
- 3人は何をしているのでしょうか。

天父とイエス・キリストはわたしたちに祝福をくださる

地上に来る前、わたしたちは天父やイエス・キリストと住んでいた。それについて学んだことを思い出させる。御二方はわたしたちが地球に来て、学び、成長できるように計画を立てられた。わたしたちを知っておられ、心にかけておられるのである。

視覚資料1-1「地球」を見せる。

- 天のお父様はイエス様に、わたしたちのために何を造るように言われましたか。
- 天父はイエスに、地球とその上にあるすべてのものを創造するよう指示された。天父とイエスは、わたしたちが生活して幸福になるために必要なすべてのものを計画してくださった。そのことを理解させる。これらのものはわたしたちに、天父とイエスの愛を思い出させてくれる。
- 天のお父様やイエス様の愛を思い出させてくれるものには、どんなものがありますか。(家族、友達、教会、植物、動物など)

歌

「天のお父様の愛」(『子供の歌集』, 16)を次の動作をつけながら歌うか、歌詞を言う。次に立って、全員で一緒に歌う。

とりのさえずり (指を鳥のくちばしのように動かす) きいたり (手を耳に当てる)

あおぞら（両手を上げ、弧を描くように動かす）みたり（見上げる）
あめが ほほぬらしたり（指で雨が降る様子を表す）
かぜが とおりすぎたり（両手を前後に動かす）
ばらにそっと ふれたりするときいつも（花にそっと触り、においをかぐまねをする）
つくりぬし おとうさまをおもい かんしゃします（両手を広げる）
視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せる。

- これはどなたですか。
- イエス様のお父様はどなたですか。
ヨハネ3：16（「神はその一人子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」まで）を読み、天父からの最高の祝福は、イエス・キリストを地上に送ってくださったことであると説明する。

イエスは子供たちに愛を示された

視覚資料1-19「キリストと子供たち」を見せる。イエスがエルサレムで子供たちを祝福した物語をマルコ10：13-16から話す。

物 語

イエスに従う人々は、子供たちがイエスを煩わせないようにしなければと思った。しかしイエスは、子供たちを愛し、祝福するために時間を取られた。そのことを特に強調して話す。

- 子供たちが寄って来たとき、イエス様はどうされましたか（マルコ10：16参照）。
- 子供たちはイエス様のことをどう思ったのでしょうか。

歌

「エス様子供を愛し」（“Jesus Loved the Little Children” *Children’s Songbook* [英文], 59）を、子供たちと一緒に歌うか、歌詞を言う。

エスさま こどもを あいしたまい
たすけて ひざに いただきます

物 語

視覚資料1-20「ニューフェイスの子供たちを祝福されるイエス」を見せる。イエスは亡くなられた後、アメリカ大陸の人々を訪れられたことを説明する。アメリカ大陸はイエスが地上に生きておられた場所から遠く離れた所にあった。

3ニューフェイス17：11-12, 21-24を参照して、イエスがニューフェイスの民の子供たちを祝福された物語を話す。イエスが子供たちを一人ずつ祝福されたことを説明する。

- イエス様は子供たちにどのように愛を示されましたか。
- イエス様が皆さんを愛しておられることは、どうしてわかりますか。

活 動

子供たちと一緒に、動作をつけながら次の言葉を何度か言う。

イエス様はすべての子供を愛される
イエス様はすべての子供を愛される（手を大きく広げる）
こんなに小さい子供も（手でひざくらいの高さを示す）
揺りかごの赤ちゃんも（腕で揺りかごを作る）
これくらい大きな子供も（手を頭の上にかざす）

（スィー・キャノン, *Finger Fun for Little Folk* ©1949 by the Standard Publishing Company, Cincinnati, Ohio. Used by permission.）

天父とイエス・キリストはわたしたち一人一人を愛しておられる

子供たち一人一人が、天父とイエスにとってどんなに大切な存在であるか理解させる。天父とイエスは一人一人を愛しておられ、それぞれの名前も知っておられる。

活 動

鏡を持ち、子供を一人ずつ前に来させる。鏡を見せながら、「これは（ ）ちゃんです。天のお父様とイエス様は（ ）ちゃんをととても愛していらっしゃいます」と言う。

天父とイエス・キリストが生きておられ、わたしたち一人一人を愛しておられることを証する。天父とイエスから受けた多くの祝福に対する感謝の気持ちを話す。

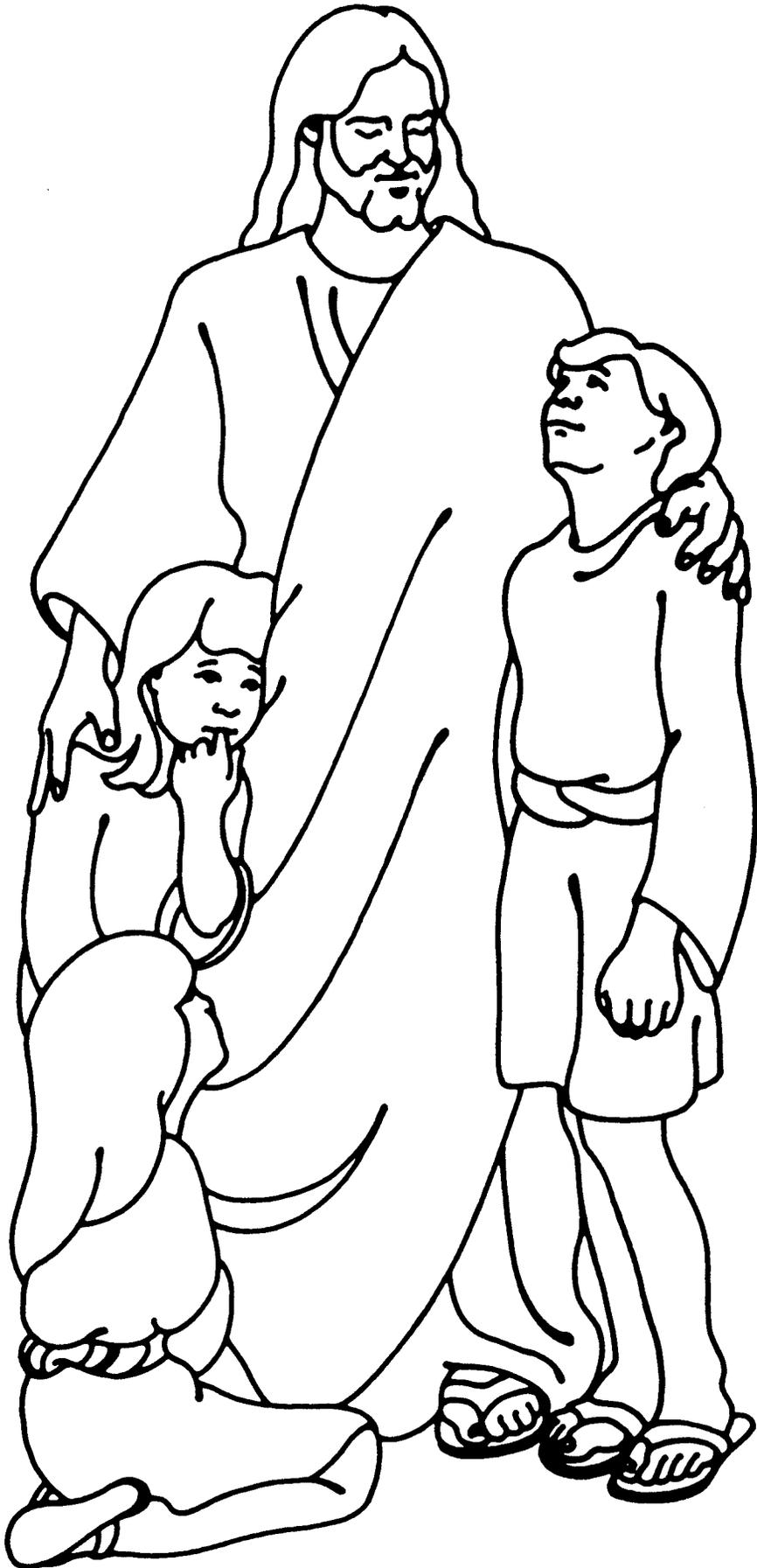
楽しい活動

次の中からレッスンに使う活動を幾つか選ぶ。

1. 「イエス様は友達」（『子供の歌集』, 37）を歌うか、歌詞を言う。全員に「イエスさまはわたしのやさしいともだち」（本課の最後のページ）を複写したものを配り、色を塗らせる。
2. 「お父さまは生きています」（『賛美歌』190番）、あるいは「救い主の愛」（『子供の歌集』, 42）を歌うか、歌詞を言う。
3. 天父とイエスがわたしたちに与えてくださったものの絵や写真を見せる。（神殿、動物、花、家族、食べ物、友達、家、教会、聖典など。絵や写真は、教会付属図書館、福音の視覚資料セット、『リアホナ』などから探す。）天父とイエスはわたしたちを愛しているので、これらのものを与えてくださったことを理解させる。
4. 空のペットボトルなどを用意する。子供たちは輪になって床に座り、輪の真ん中にペットボトルを置く。ボトルを回し、倒れたボトルの先が指した子供は、天父とイエスがわたしたちへの愛を示すために与えてくださったものの名前を一つ挙げる。答えられないときには教師が助ける。答え終わったら、その子供がボトルを回して、ほかの子供に先が向くようにする。
5. 箱または袋に、わたしたちが地上で生活するのに必要なもの、食べ物、水、洋服などを入れておく。天父とイエスがわたしたちが生活できるように地球を用意してくださったことを説明する。箱または袋の中には、わたしたちが地上で生活するのに必要なものが入っていることを説明する。一つ一つヒントを与えて、それが何であるか当てさせる。当たったら、箱または袋から出して見せる。全部のものを当てるまで続ける。
6. 全員に「てんのおとうさまとイエスさまはわたしをあいしていらっしゃいます」と書いたバッジを用意し、家に持って帰らせる。テープで留めるか、糸を付けて首にかけてやる。レッスンの前にバッジを子供たちのいすの下に隠しておき、子供たちに見つけさせてもよい。

幼い子供のための活動

1. 動作をつけて、次の言葉を子供たちと一緒に言う。
背がとっても とっても高い人は（腕を高く上げながら背伸びをする）
教会で大切な人
背がとっても とっても低い人も（しゃがみ込む）
教会で大切な人
高い人（背伸びをする）
低い人（しゃがみ込む）
高い人（背伸びをする）
低い人（しゃがみ込む）
天のお父様はみんなのことを愛される
2. 教師の言葉に合わせて、次の遊戯をする。
天のお父様はわたしのことを知っておられます
天のお父様はわたしのことを知っておられます（自分を指さす）
わたしの好きなことも
わたしの名前や おうちも御存じです（両手の指を付けて屋根の形にする）
わたしのことを愛してくださいます（何かを抱き締めるときのように、腕を交差させ両肩の上に置く）
どんなとき楽しくて（指で口の端を上げて笑顔を作る）
どんなとき悲しくなるか知っておられます（指で口の端を下げて、悲しい顔を作る）
いつもわたしを助けてくださるので（自分を指さす）
わたしはとってもうれしいです



イエスさまは わたしの やさしい ともだち

目的	聖霊がわたしたちを助けてくださることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ヨハネ14：16-17；2ニーファイ32：5；モロナイ10：4-5；教義と聖約39：23；130：22。『福音の原則』（31110 300）第7章も参照する。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書と教義と聖約b. 子供たちのよく知っている物と、それを入れる袋c. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」（『福音の視覚資料セット』240）；1-4「最初の示現」（同403）3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 一人の子供を教師のそばに呼び、聖霊に関することをささやく。「聖霊は天のお父様とイエス様のお手伝いをします」など。全員に同じようにする。（全員に同じ言葉をささやいてもよい。）今日の^{きょう}のレッスンではだれについて勉強するか子供たちに尋ねる。天父とイエスの助け手、聖霊について話すことを説明する。

視覚資料1-4「最初の示現」を見せる。天父とイエスを指さして、御二方にはわたしたちと同じような体があることを説明する。聖霊は多くの点で天父やイエスと似ておられることを話す。聖霊はわたしたちを愛しておられ、助けてくださる。しかし、聖霊には天父やイエスのような肉体がない。聖霊は霊の御方であり、静かな方法で、わたしたちにいろいろな思いや幸せな気持ち、慰めなどを与えてくださる。

聖霊はわたしたちに慰めと助けを下さる

● 皆さんがけがをしたときや悲しいとき、お父さんやお母さんはどうやって皆さんを慰めてくれますか。

視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せる。以下のことを子供たちに伝える。イエスは、助け手である弟子たちが御自身の死を悲しむことを知っておられたので、彼らの悲しみを和らげるために、慰め主を送ってくださるよう天父にお願いすると言われた（ヨハネ14：16-17参照）。

この慰め主は聖霊であり、わたしたちに慰めを与えてくださることを説明する。わたしたちが悲しいときやがっかりしているとき、天父は聖霊を送って慰めてくださる。

物語 聖霊は、わたしたちに助けが必要なときに危険を知らせたり、導きを与えたりしてくださることを説明する。後に教会の第11代大管長となったハロルド・B・リーが少年のときの物語を自分の言葉で話す。

「わたしは8歳になったかならないころ、父親に連れられて少し離れた農場に行った。そこで父親が働いている間、わたしは男の子の好きそうな遊びに夢中になっていた。その日は大変暑くほこりっぽい日であったが、わたしは疲れ切るまで遊び回った。さくの向こうを見ると、壊れかかった小屋があり、わたしはそれに興味を引かれた。わたしはそれが城で、自分はその探検するのだと空想し、さくを越えてその小屋の方へ行こうとした。そのとき、わたしは非常にはっきりと『ハロルド、行ってはいけない』という声を聞いた。わたしは辺りを見回して声の主を探し

た。父親は畑の向こう側のずっと離れた所にいた。そこからはわたしの姿は見えるはずがないし、辺りにはだれもいなかった。わたしは目に見えぬ何者かがそこに行かないように警告してくれたことを悟った。そこに何があったか、わたしは知らない。しかし、わたしは早くから、わたしたちに語りかけてくださる目に見えない御方の存在を知ったのである。」(Conference Report, メキシコ地域大会1972年, 48-49)

聖霊は、リー大管長にされたように大きな声で話されることもあるが、普通はわたしたちに、すべきことやしてはいけないことを心に感じさせてくださる。

聖霊は正しいことが分かるようにわたしたちを助けてくださる

聖霊はわたしたちを愛し、正しい選びができるように助けてくださることを説明する。子供たちに、何か善いことをしたときのことを思い出させる。両親に従ったとき、人を助けたとき、祈ったとき、など。

- 正しいことをするとき、どんな気持ちになりますか。
- 間違ったことをするとき、どんな気持ちになりますか。

聖霊は、わたしたちが正しいことをするときには温かくてよい気持ちを与えることにより、また間違ったことをするときには悲しい気持ちにさせることにより、正しいことと間違ったことを区別できるよう助けてくださる。

正しい選びや人助けをして、温かいよい気持ちを感じた経験を子供たちに話させる。聖霊の助けがあったことに気づかせる。

歌 子供たちと一緒に「よく聞きましょう」(“Listen, Listen” Children’s Songbook [英文], 107) を歌うか歌詞を言う。

まようときには
きけ きけ
みちびきあたえる
ちいさいこえを いつも

聖霊の助けにより、天父とイエスが生きておられることが分かる

聖霊はわたしたちに、真実やほんとうのことを教えてくださることを説明する。用意した袋を見せる。中身は見せずに、袋の中にある物が入っていると言う。

- この袋の中には何かが入っていますか。

子供たちは袋の中に入っている物が見えないが、教師の話から何かが入っていることは知っている。天父とイエスを見ることのできた人はほとんどいないが、わたしたちは聖霊の助けによって天父とイエスが実在し、わたしたちを愛しておられることを知ることができる。この知識は証あかしと呼ばれる。時々、人々は教会で証をし、イエスが生きておられることを知っていると話す。彼らは聖霊の助けによってそれを知ることができたのである。

わたしたちは聖霊たまものの賜物を授かる

バプテスマと確認の儀式を受けたときの経験について話す。神権者があなたの頭に手を置いて聖霊の賜物を授けたとき、どのように感じたか話す。

聖霊の力を求めながら、教義と聖約39：23を読んで聞かせる。子供たちは8歳になったら、バプテスマと確認の儀式を受け、聖霊の賜物を授かることができる。聖霊の賜物は、バプテスマのときにする約束を守れるようにわたしたちを助けてくれる。

聖霊に対する感謝を述べ、聖霊がいかに慰めを与え、正しいことが分かるように助けてくださったか話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供たちと一緒に「せいいい」（『子供の歌集』, 56）を歌うか、歌詞を読む。
2. 互いに助け合う人や、物を分かち合う人など、善いことをしている人々の絵を見せる。善いことをするときどんな気持ちがするか尋ねる。人々が善いことや悪いことをしている状況を幾つか話す。例——お母さんを手伝う、兄弟げんかをする、おもちゃを貸してあげる、お父さんやお母さんの言うことを聞かない、など。子供たちに、善い行いのときには笑顔を、悪い行いのときは悲しい顔を見せるように言う。
3. 静かな声で「先生の声が聞こえる人は、鼻を指さしてください。」「先生の声が聞こえる人は、手を頭に載せてください」と言う。全員が教師の静かな声を聞くようになるまで、体の部分を使って同じように行う。子供たちが注意して聞いたので、静かな声でも聞こえて、先生の言うとおりにできたことを説明する。聖霊はわたしたちに静かな声で語りかけてくださることを説明する。わたしたちが注意して聞けば、聖霊は大切なことを教えてくださるのである。
4. 第4代大管長のウィルフォード・ウッドラフの物語を、自分の言葉で話す。
 「ある晩のこと、ウッドラフ大管長と奥さんと4人の子供たちは、旅の途中で友達の家泊まりました。3人の子供たちは家の中に泊めてもらいましたが、ウッドラフ大管長と奥さんと一人の子供は外の幌馬車の中で休みました。ウッドラフ大管長はそのときのことをこう語りました。『ベッドに入ってしばらくすると、「起きて幌馬車を動かさない」という声が聞こえました。それは雷や稲妻、地震のような大きな声ではなく、細く、静かな神の御霊、つまり聖霊のささやきでした。……わたしは起き出して幌馬車を動かして……家の横につきました。ベッドに戻ろうとすると、また同じ声が聞こえてきて「ラバをあのかしの木から離れさせなさい」と言われました。……わたしはラバをヒッコリーの若木の林に動かし、そこにつないで、ベッドに戻りました。それから30分後、つむじ風が起こって、初めにラバがつながれてあった木を地面からもぎ取り、100メートル離れた所まで吹き飛ばし、その間にあった二つの塀もなぎ倒して行きました。……そして、わたしが最初に幌馬車を止めておいた場所に木を落として行ったのです。神の御霊の導きに従うことによって、わたしは動物たちの命とともに、自分や妻、子供たちの命も救うことができました。』」（“Leaves from My Journal” *Millennial Star*, 1881年12月12日付, 790-791）

幼い子供のための活動

1. レッソンの1週間前に子供たちの両親に頼んで、レッスンに子供たちが安心するお気に入りの物を持たせてもらう。特別な毛布やおもちゃ、また歌の本などでもよい。忘れて来た子供のために、幾つか余分に用意しておく。
 それぞれ持って来た物があると、どうして安心し、愛されているという気持ちになるか話し合う。天父とイエスを助ける大切な御方で、わたしたちを安心させ、愛されていると感じさせてくれる御方がいることを話す。この御方は、わたしたちが悲しいときや不安なときに一緒にいるように、天父が送ってくださったので、慰め主と呼ばれることがある。この御方は聖霊と呼ばれ、わたしたちのすばらしい友である。
2. 「小さな声で」（『子供の歌集』, 144）を歌うか歌詞を読んで、次の遊戯をする。
 みみをすまして よくきいて（手を耳に当てる）
 そっとちいさな ささやきのこえを（手を胸に当てる）
 みたまのこえを（人差し指を唇に当てる）

目的 イエス・キリストが天父の計画に従い、わたしたちが働いたり遊んだりできるように昼を、休めるように夜を創造してくださったことを理解する。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世1：1，3-5，14-18；ヒラマン14：1-13；3ネーファイ1：15-23。
2. 教材
 - a. 聖書とモルモン書
 - b. 切り抜き絵1-1「太陽」；1-2「月」；1-3「星」
 - c. 視覚資料1-21「城壁に立つレーマン人サムエル」（『福音の視覚資料セット』314）
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 天父が計画し、イエス・キリストが創造してくださったあるものについて考えていると話す。それが何か当てると言う。次のヒントを一つずつ与える。

1. それがあると暖かくなります。
2. 円くて輝いています。
3. 空にあります。
4. 時々、雲や山に隠れます。
子供たちが「太陽」と答えられたら、太陽の切り抜きを見せる。
 - 太陽を造ったのはだれですか。

昼の間に働いたり遊んだりする

物語 創世1：1，3-5に書かれている昼と夜の創造の物語と、創世1：14-18に書かれている太陽、月、星の創造の物語を話す。

- だれが昼と夜を造りましたか。
- 天のお父様は、イエス様によってあるものを空に置き、昼が分かるようにしてくださいました。それは何ですか。

太陽は、物が見えるように光を与えてくれる。またわたしたちを暖め、植物を育ててくれる。太陽がなければ、わたしたちは地球に住むことができない。

- 太陽が出ているときを何と呼びますか。（昼）
昼の間に多くのことができることを説明する。働いたり、遊んだり、ほかの人を助けたりできる。

活動 昼の間にどんなことをするか言わせる。食事をする、ゲームをして遊ぶ、掃除をする、など。子供たちを立たせて、答えた動作をさせる。教師も一緒にやってもよい。

- 昼の間、何をしてほかの人を助けることができますか。（おもちゃを片付ける、皿を洗う、弟や妹と遊ぶ、など。）

夜の間に休む

- 太陽はいつも見えますか。
毎日夕方になると、太陽は沈み、空は暗くなることを説明する。夜の間に、太陽は見えない。

- 暗くなったときを何と呼びますか。(夜)
- 天のお父様がイエス様によって、夜の空を明るくするために置かれたものは何ですか。(月と星)
子供たちに、太陽の切り抜きの隣に、月と星の切り抜きを置かせる。

活動

夜の間にすることについて話させるか、その動作をさせる。例えば、寝る前に祈る、本を読んでもらう、歯を磨く、眠る、など。

医者や看護婦、消防士など、夜働く人もいるが、ほとんどの人は夜眠ることを説明する。多くの動物も夜眠る。

- わたしたちはどうして眠るのでしょうか。

眠ることはわたしたちの体にいいことであり、天父とイエスはわたしたちが健康に気をつけるように望んでおられることを説明する。十分な睡眠を取れば、よい気持ちになり、さらに健康になる。睡眠が足りないと、疲れていらいらしてしまう。

昼の長さが季節によって大きく変わる地域の子供には、夜の時間が1年の中で長いときもあれば短いときもあることを説明する。両親は、眠る時間や起きて1日を始める時間を教えてくれる。

活動

子供たちを立たせて、次の指遊びをする。

ちっちゃな子供

ちっちゃな 子供は 寝る時間 (右手の指を1本立てる)

柔らかな ^{まくら}枕を 頭にね (その指を左手のひらの上のせる)

体に 毛布を くるませて (指を上へのせたまま、左手の指を閉じる)

夜中 ぐっすり 眠ったよ

朝だよ おめめが ぱっちりね (左手を広げる)

布団を はいで 跳ね起きて

お洋服着て 部屋を出る (寝ている指を起こす)

今日も ^{きょう}元気に 遊びましょう

物語

天父は昼と夜を使ってイエス様の誕生をお知らせになった

天父が昼と夜を使ってイエス・キリストの誕生を知らせてくださったことを話す。視覚資料1-21「城壁に立つレーマン人サムエル」を見せ、どのような絵であるか説明する。預言者サムエルはニーファイの民に、イエスがお生まれになるとき空に何が起こるか教えた。太陽は沈まず、空は暗くならないだろうと告げた。多くの人々はサムエルを信じなかったが、彼の言ったとおりになった(ヒラマン14:1-13; 3ニーファイ1:15-23参照)。

イエスの誕生はとても重要だったので、天父はニーファイ人とレーマン人が住む遠いアメリカの地でも、イエスのお生まれになった夜を真昼のように明るくされた。

- レーマン人サムエルが人々に話した大切な出来事は何ですか。
- イエス様がお生まれになった夜、人々は空に何を見ましたか。

あかし 証

わたしたちを助けるために、天父がイエスに命じて昼と夜を創造されたことを証する。昼と夜を下された天父に感謝するよう、子供たちに勧める。

楽しい活動

次の中からレッスンに使うものを幾つか選ぶ。

1. 白い紙を1枚と、その半分の大きさの黒か、紺の紙を人数分用意する。黒い紙を白い紙の片面にのりではり、昼と夜を表すようにする。太陽と月を表すように丸い形に紙を切り、適切な位置に上手にはらせる。星の形も用意し、夜の紙にはらせる。各自の紙に「わたしはひるとよるにかんしゃします」と書く。
2. 子供たちと一緒に「わたしの好きなこの世界」(『子供の歌集』, 123) または「広い世界」(“The World Is So Big” *Children’s Songbook* [英文], 235) を歌うか、歌詞を読む。「広い世界」の2番の歌詞に以下の動作をつけて行ってもよい。

かみのつくりたもう（腕で大きな輪を作る）

このひろいせかい

よるはほしがひかり（腕を上にはやし、手を振る）

ひるはひがかがやく（頭の上で大きな腕の輪を作る）

かみはこのせかいを

あいされ しゆくふくしたもう（腕を組んで自分を抱き締めるまねをする）

3. 「楽しいな」（『子供の歌集』，129）を歌う。付け加える歌詞の言葉を子供たちに考えさせ、それは昼にすることか、夜にすることか答えさせる。言葉に合わせて動作をつける。
4. 夕方、家の外で遊ぶ兄と妹の物語を考えて話す。子供たちに分かりやすい名前や状況を使う。二人が1日の終わりに何をしたか話す。以下のようなことを入れるとよい。太陽が沈み始める、母親が子供たちを呼ぶ、手や顔を洗う、夕飯の準備をする、皿洗いを手伝う、寝る用意をする、本を読んでもらう、寝る前の祈りをする、など。二人の子供たちやほかの人々、鳥、虫、動物たちが静かになって眠る様子を話す。
わたしたちの体を健康で強くするために、夜の間は目を閉じて休む必要があることを理解させる。これは天父の計画の一部である。
切り抜きを使って話したり、物語の一部を子供たちに演じさせたりするとよい。

幼い子供のための活動

1. 太陽、月、星の切り抜きを見せ、次のような質問をする。
 - この3つはどこに見えますか。
 - 太陽は夜、見えますか。
 - 昼間、星は見えますか。天父はイエスによって太陽と月、星を造られた。太陽は昼に光を与えてわたしたちを暖め、月と星は夜の暗闇を照らしてくれる。
2. 教師の言葉に合わせて、次の遊戯をする。

神の創造されたもの

神は月を造られた（頭の上に手で円を作る）
きらきら光る星も（両手を上げ、指を開いたり閉じたりする）
高い空に置かれた（上に手を伸ばす）
神は太陽を造られた（頭の上に手で円を作る）
木も（腕を上にはやしと伸ばす）
きれいな花も（手を丸めて花の形を作る）
かわいい小鳥も造られた（腕を翼のように動かす）
(エレノア・ドーン, *Fascinating Finger Fun* ©1951. Used by permission.)
3. 「星のように」（『子供の歌集』，84）または「光となるように」（『賛美歌』188番、『子供の歌集』，38）を歌うか、歌詞を読む。

目的	水が与えられたことを天父とイエス・キリストに感謝する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世1：9-10；出エジプト17：1-6；マタイ3：13-17。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 可能ならば、湖、川、海など水源の絵や写真を用意する。c. 視覚資料1-8「聖餐のパス」；1-11「バプテスマを受ける少年」；1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」（『福音の視覚資料セット』208）3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>一人の子供を前に呼び、水を使ってすることを耳にささやく。例えば、歯を磨く、手を洗う、花に水をやる、など。その動作をさせ、ほかの子供たちに当てさせる。（子供がどのように動作をしたらよいか分からないときは助ける。）全員に順番が回るまで繰り返す。</p> <p>すべての動作に水が必要であることを指摘する。水が与えられていることを天父とイエスに感謝すべきであることを話す。</p> <p>創造の中で水は大切な役割を果たした</p> <p>創世1：9-10を読んで聞かせ、内容を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none">●わたしたちにとって、水はなぜ大切ですか。●水はどこから来ますか。 <p>水は湖や川、海、雨、雪など、様々な水源からもたらされることを理解させる。雪や氷は、水が凍ったものであることを説明する。用意した絵や写真を見せ、子供たちの地域では、水がどこから来るか話す。水が天父の計画の一部であることに感謝していることを伝える。</p>
歌	<p>「楽しいな」（『子供の歌集』、129）を歌う。洗濯する、風呂に入る、歯を磨くなど、水を使ってすることを言ってもらい、言葉に合わせて動作をさせる。</p> <p>せんたくするのは ララたのしいな せんたくするのは ララたのしいな</p> <p>(©1963 by D. C. Heath and Company. Reprinted by permission.)</p> <p>水はいろいろなことに必要である</p> <ul style="list-style-type: none">●わたしたちにはどうして水が必要ですか。どんなことに水を使いますか。 <p>人や動物、植物を含め、すべての生物には生きるために水が必要であることを説明する。可能ならば、全員に水をコップ1杯ずつ飲ませる。水を飲めなければ生きられないことについて話す。</p> <ul style="list-style-type: none">●動物や植物は必要な水をどこから得ますか。 <p>飲み水のほかに、洗濯や料理にも水が必要であることを説明する。</p>

イエスは砂漠でモーセとイスラエルの民に水を与えられた

物語

出エジプト17:1-6を参照して、モーセが岩から水をわき出させた物語を話す。人々は暑くて乾燥した砂漠にいたことを説明する。そこには水がなかった。

- イスラエルの人々は、もし水をもらえなかったらどうなったと思いますか。
- のどが渴いてしかたがなかったことがありますか。のどが渴いたとき、冷たい水を飲むとどんな気持ちになりますか。

教会でも水は大切である

物語

視覚資料1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」を見せる。マタイ3:13-17を参照して、イエスのバプテスマの物語を話す。

- イエス様はどこでバプテスマを受けられましたか。
 - イエス様はどのようにバプテスマを受けられましたか。
- 視覚資料1-11「バプテスマを受ける少年」を見せる。
- わたしたちは8歳になると、どこでバプテスマを受けますか。
 - だれかがバプテスマを受けるのを見たことがありますか。

バプテスマを見たときのことを子供たちに話させる。バプテスマを受けるには水が必要であることを話す。

視覚資料1-8「聖餐のパス」を見せる。

- 聖餐のとき、どんなことに水を使いますか。
- 水があるおかげで、バプテスマや聖餐を受けられることへの感謝の気持ちを話す。

あかし 証

わたしたちに水を与えるように天父が愛をもって計画してくださったことを証する。天父とイエスがこのすばらしい贈り物を与えてくださったことに感謝していることを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンに使うものをいくつか選ぶ。

1. 子供たちと一緒に、動作をつけながら次の言葉を言う。
雨の滴
お花や木の葉が 乾いたら (両手の指を開いて腕を上には伸ばす)
陽気でちっちゃな 雨滴
空からパラパラ 降って来て (指を震わせながら下ろしていく)
お花や木の葉を ぬらします (両手首を左右に揺らす)
お日様ポカポカ 照らすとき (頭の上に両腕を伸ばし、丸を作る)
お空に消えちゃう 雨滴 (両手を体の後ろに隠す)
2. 「雨がふります」(『子供の歌集』, 117) または「小さな川が」(『子供の歌集』, 116) を歌うか、歌詞を言う。
3. 湖や川、雨の滴など、水の絵を描く。紙に「わたしはみずにかんしゃします」と書く。
4. 水を使ってする遊びについて話すか、その動作をする。例えば、水泳、アイススケート、雪だるま作り、水たまりで遊ぶ、など。
5. 水を使って物をきれいにできることを理解させる。洗濯、手を洗うなど、水を使ってきれいにする動作をする。

幼い子供のための 活動

1. 様々な水の使い方を理解するために、次の中のいくつか、あるいは全部を行う。
 - a. 子供たちに水を飲ませる。その間に、水は天父が地球に用意してくださったものの一つであることを説明する。わたしたちはのどが渴いたときに水を飲むことができる。
 - b. ボールに水を少し入れ、子供たちに手を洗わせる。天父とイエスが、わたしたちが水を使えるように計画してくださったことを思い出させる。いろいろなものを洗うために水を使えることを説明する。
 - c. 可能ならば、子供たちを外に連れて行き、植物に水をやる。あるいは、教室に植物を

持って来て、水を少しずつやってもよい。植物も生きて生長するためには水が必要であることを説明する。

2. 初めは優しく、次第に強く降る雨の様子として、以下のような動作をする。
 - a. 両手の指先で弱い拍手をする。
 - b. 拍手をする。
 - c. 右左の手を入れ替えながらひざをたたく。
 - d. 床を踏み鳴らす。

目的 天父とイエス・キリストが木や草，花を造ってくださったことへの感謝の気持ちを培う。

- 準備**
1. 祈りの気持ちで創世1：11-13を研究する。
 2. 果物，野菜，小さな枝などを布に包むか，袋に入れておく。
 3. 子供たちに食べさせるために，果物，野菜，パンを少量ずつ用意する。それらの食べ物にアレルギーのある子供がいないか，両親に確認しておく。
 4. 教材
 - a. 聖書
 - b. 可能ならば，付近に生息する木，草，花の絵や写真を用意する。また，鉛筆，スプーン，ボールなど，木製の物を家から持って来る。
 - c. 切り抜き絵1-4「花」
 - d. 視覚資料1-22「花の咲いた木」；1-23「巣の中のひな」
 5. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び，必要な準備をする。
-

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 果物か野菜，枝などの入った袋を，中が見えないように口を閉めたまま回す。袋に触らせて，中に入っているものが何か当てさせる。全員が袋に触るまで声に出して答えを言わないようにさせる。全員に袋が回ったら，何が入っていると思うか言わせる。袋の中身を取り出し，その色や形，用途について話し合う。

木や草，花は地球を美しい場所にする

地上にあるすべてのものは天父の計画に基づいて創造されたことを思い出させる。創造の3日目に，イエスは木や草，花を造られた（創世1：11-13参照）。天父とイエスは，木や草，花によって地球を美しくしたいと思われたことを話す。

用意した花の切り抜き絵，木や草，花の絵または写真を見せる。木や草，花について子供たちが経験したことを話させる。

物語 木や草，花が地球を美しい場所にしていることを教えるような物語を話す。付近に生息する美しい植物について話す。視覚資料1-22「花の咲いた木」を使い，以下のような物語を作って話すとい。

礼子ちゃんにはお気に入りの木があって，その下で遊ぶのが大好きでした。ある朝，お母さんが礼子ちゃんを起こしてくれたとき，礼子ちゃんが見たらびっくりするものがあると言いました。礼子ちゃんのお好きな木に，とてもきれいな白い花が咲いていて，ポップコーンのように見えました。礼子ちゃんはお母さんに，大好きな木にどうしてポップコーンがついたのか聞くと，お母さんはお花の大切さを教えてくれました。

歌 子供たちを立たせ「花がはじけてポップコーン」（『子供の歌集』，118）を，言葉に合わせて動作をつけながら歌わせる。春になると，あみずの木にはポップコーンのような白い花が咲くことを説明する。

まどからみえるあんずのき
 はながはじけてポップコーン
 はるのきせつのプレゼント
 えだいっばいポップコーン
 うでいっばいのポップコーン
 ゆめがさめた
 ぼくのとてに
 たったひとつのポップコーン

木に咲く花もあれば、茂みやつるに咲く花、また地面に咲く花もある。子供たちが見たことのある花について話させる。

- わたしたちの周りを美しくするために、どのように花を使いますか。(花壇に花を植えたり、コサージュを作って髪や洋服に飾ったりする。)
- 人に花をあげるのは、どのようなときですか。(何か特別なときや、相手を幸せな気持ちにしてあげたいとき。)

草や木はわたしたちが生きるために必要である

物語

草や木はわたしたちが生きるために必要であることを説明する。視覚資料1-22「花の咲いた木」を見せ、木が多く用途に使われていることを話す。以下の事柄や、地元で木を利用する方法について話してもよい。

まず、鳥は木を家として使います。注意して巣を作り、母鳥がその中に卵を産みます(視覚資料1-23「巣の中のひな」を見せる)。卵からひながかえると、木は鳥たちの心地よい家になります。熱い太陽や雨、鳥たちをねらう地上の動物から守ってくれます。また、木は近くに住む人々に果物を与えてくれます。子供たちは木陰で遊んだり、大きな枝にブランコをつけて楽しんだりできます。木の枝が枯れると、人々はその枯れた部分を切ってまきにし、家を暖めるのに使います。

- わたしたちにとって木が大切なのはなぜですか。(食べ物や木材、木陰、遊び場を与えてくれるから。) 家から持って来たか教室にあるもので、木でできているものを見せる。木がどんなものに使われるか話す。
- ほかに木でできている物を知っていますか。

草も多く用途に使われることを説明する。草がわたしたちに与えてくれる最も大切なものは、食べ物である。

- わたしたちはどんな草を食べますか。

地元で食べ物に使われている草の視覚資料があれば、それを見せる。

活動

地元で育つ穀物や果物、野菜について話す。穀物は普通、御飯やパンになることを説明する。子供たちに、好きな食べ物で草からできているものを言わせる。用意した果物、野菜、パンなどを食べさせる。それらがどのような草や木からできているか話す。

天父がイエスに命じて、たくさんの種類の草を造ってくださったので、わたしたちは良い食べ物をとれるようになったことを説明する。

- 天のお父様に食べ物について感謝するには、どうしたらいいですか。(食べる前に食事の祈りを忘れずにする。)

証

天父とイエスがわたしたち一人一人を愛しておられることを証する。毎日美しい木や草、花を見るとき、天父とイエスの愛を思い出すように励ます。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 幾つかの種(花の種、豆、小麦など)と土の入った紙コップを人数分用意し、家に持ち帰らせる。種を植える方法を実際に見せ、種を育てるには水と太陽が必要であることを忘れないように言う。

2. 教師の後に続いて、子供たちに「空のお日様小さな種に」（『子供の歌集』、119）の歌詞を繰り返させる。次に、教師がもう一度歌詞、または歌を繰り返す際、小さな種が芽を出し生長する様子をお子たちにまねさせる。
3. 色紙を花びら、葉、茎の形に切り、花の形になるように別の紙にはらせる。出来上がった紙に「わたしはうつくしいはなにかんしゃします」と書く。
4. 種のある果物か野菜を持って来る。その中にはびっくりするものが入っていると話す。果物か野菜を切って種を見せる。種をまいて水をやり、太陽の光に当てると、種が生長し、さらに多くの果物や野菜ができることを説明する。
5. 子供たちを野外に連れ出し、様々な種類の植物を見せる。天気がよくない場合は、窓から外を見て、どんな植物が見えるか順番に言わせてもよい。草や木が季節によってどのように変化するか話してもよい。

幼い子供のための活動

1. 視覚資料1-22「花の咲いた木」を見せる。天父がイエスに命じて草や木を造られたことを話す（創世1：11-13参照）。わたしたちは木から木材や果物を、草から果物や野菜を得ている。
2. 植物またはその一部（花や葉など）を持って来て、子供たちに見せたり、触らせたり、においがかがせたりする。全員が経験できるようにする。色、におい、美しさなどについて話す。草や花、木に対する感謝の気持ちについて話す。
3. 教師が次の言葉に合わせて、動作をして見せる。次に、教師の言葉に合わせて、子供たちにまねをさせる。
 - 種まき
 - 庭に穴掘って（両手で穴を掘るまね）
 - 種をまくよ（かがんで種をまくまね）
 - くまでを使って（大きな動作でくまでを使うまね）
 - 草を抜くよ（低く、かがんで草を抜くまね）
 - お日様照らし（頭の上に手で輪を作る）
 - 雨が降って（指をふるわせ腕を下ろす）
 - ほらもうそこに芽を出したよ（右手の指の間から、左手の指を出す）

目的	天父とイエス・キリストが魚や水に住む生き物を造ってくださったことに感謝する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世1：20-23；ヨナ1-3章；マタイ14：15-21；ルカ5：1-11。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 紙の魚（本課の最後のページの型紙を使う。）c. 釣り竿——棒に糸を結びつけ、その先にクリップ、セロテープ、または磁石を付けたもの（ほかのレッスンでも使うので取っておく。）d. 紙の魚を入れるための容器e. 可能ならば、魚または水の中に住む生き物の絵や写真を用意する。f. 切り抜き絵1-5「魚」g. 視覚資料1-1「地球」；1-24「イエスと漁師」（『福音の視覚資料セット』210）；1-25「魚」；1-26「かえる」；1-27「かめ」3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>橋の上に立って川か湖を見ているまねをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">●川や湖の中には何がいますか。 <p>子供たちを立たせ、魚のように水の中を泳いでいるまねをさせる。</p> <p>天父はイエス・キリストによって魚や水に住む動物を造られた</p> <p>視覚資料1-1「地球」を見せ、これまでのレッスンで学んだ事柄、すなわち天父がイエスに創造するように命じられたものについて復習する。イエスは魚も創造されたことを話す（創世1：20-23参照）。魚は地球に関する天父の計画の一部である。視覚資料1-25「魚」を見せ、魚はどこに住んでいるか話す。</p> <ul style="list-style-type: none">●魚を見たことがありますか。 <p>子供たちが見たことのある魚について話させる。</p> <p>切り抜き絵1-5「魚」と用意した魚の絵や写真を見せる。金魚、ます、まぐろ、さめなど、子供たちがよく知っている様々な種類の魚について話す。</p> <ul style="list-style-type: none">●魚のほかに、どんな生き物が水の中に住んでいますか。 <p>視覚資料1-26「かえる」、1-27「かめ」を見せる。かえるやかめについて、またそれらがどこに住んでいるかについて話す。くじら、かに、あざらしなど、水に住むほかの生き物についても話す。水に住む生き物の中には、海に住むもの、湖に住むもの、川に住むものがある。</p>
活動	水に住む生き物について考えさせ、そのまねをして、歩いたり、跳ねたり、泳いだりさせる。
物語	聖書を見せ、聖典の中に魚について書いてあることを説明する。ヨナ1-3章に書かれているヨナの物語を話す。イエスは、大きな魚にヨナを飲み込ませて、ヨナがおぼれないようにされた。ヨナにしてほしいことがあったからである。ヨナ1：17、あるいはヨナ2：1など、物語を話す中

で聖句を読んで聞かせてもよい。(読む場合は、イエスが「主」と呼ばれることを説明する。)

- 大きい魚にヨナを飲み込ませたのはどなたですか (ヨナ1:17参照)。
- 魚に飲み込まれたヨナはどうしましたか (ヨナ2:1参照)。
- 魚から出て来たとき、ヨナはどうしましたか (ヨナ3:1-3参照)。
- 人々はヨナを信じて悔い改めましたか (ヨナ3:5, 10参照)。

ヨナを飲み込んだ魚のように大きな魚もいれば、ボールの中で生きられるような小さな魚もいることを話す。

活動

次の指遊びをする。

金魚

わたしのかわいい金魚には 足の指がない (つま先に触る)

音も立てずに泳ぎ回って 時々鼻をぶつける (鼻先に指を当てる)

外に出てわたしと一緒に遊べない金魚

水の中に入っていけないわたし (泳ぐまねをする)

「さあ 出て来て遊びましょう」とわたしが言うと

「さあ 水の中に入って一緒に泳ぎましょう」と言うかわいい金魚 (手招きをする)

物語

再び聖書を見せ、ルカ5:1-11に書かれている、シモン・ペテロの物語を話す。視覚資料1-24「イエスと漁師」を話に合わせて見せる。

- イエス様はなぜシモン・ペテロの船に乗られたのでしょうか (ルカ5:3参照)。
- イエス様はシモン・ペテロに何をしようとおっしゃいましたか (ルカ5:4参照)。
- シモン・ペテロは網で何を捕まえましたか (ルカ5:6参照)。

天父はイエス・キリストによって、わたしたちのために魚や水に住む生き物を造られた

天父はわたしたちが食べたりほかのことに使ったりできるように、イエスに命じて魚や水に住む生き物を造られたことを説明する。

物語

再び聖書を見せ、マタイ14:15-21に書かれている物語を話す。話の中でマタイ14:16-17など、聖句を1, 2節読んで聞かせてもよい。

- 人々がおなかをすかせたとき、イエス様は何をされましたか (マタイ14:15-16参照)。
- イエス様は人々に何を食べさせられましたか (マタイ14:19参照)。

活動

用意した釣り竿を見せ、一人の子供を前に呼んで、魚を釣らせる。紙の魚を容器に入れておき、子供が容器の上に釣り竿の糸を垂らしたら、クリップかテープ、磁石などで魚をつけてやり、引き上げさせる。全員に行わせる。

釣りをしたときのことや、魚を食べたときのことについて話させる。

あかし
証

魚や水に住む生き物への感謝の気持ちを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 釣りの活動で捕まえた魚に色を塗らせる (子供たちがやりたければ、活動を繰り返してもよい)。それぞれの魚の裏に「わたしはさかながいることにかんしゃします」と書く。
2. 子供たちを半円形に座らせ、先に色を塗った魚を子供たちの前の床に置く。次の言葉を一緒に言う。

小川に魚が泳いでる

釣り針なくても釣ってみせます。

一人の子供を指名して、釣り竿か指で自分の魚を選ばせる。子供は魚を捕って「_____色の魚を捕まえた」と言う。その魚を家に持って帰らせる。全員に順番が回るまで行う。

3. 子供たちと一緒に「感謝しますお父様」（『子供の歌集』, 15）を歌う。
4. 次の指遊びをする。

小さなかめさん
 わたしの小さなかめさんは
 今は箱の中に住んでいるけれど（手のひらをおわん状に丸める）
 ほんとうは川を泳いだり（泳ぐまねをする）
 岩に登ったりできるのよ（岩に登るまねをする）

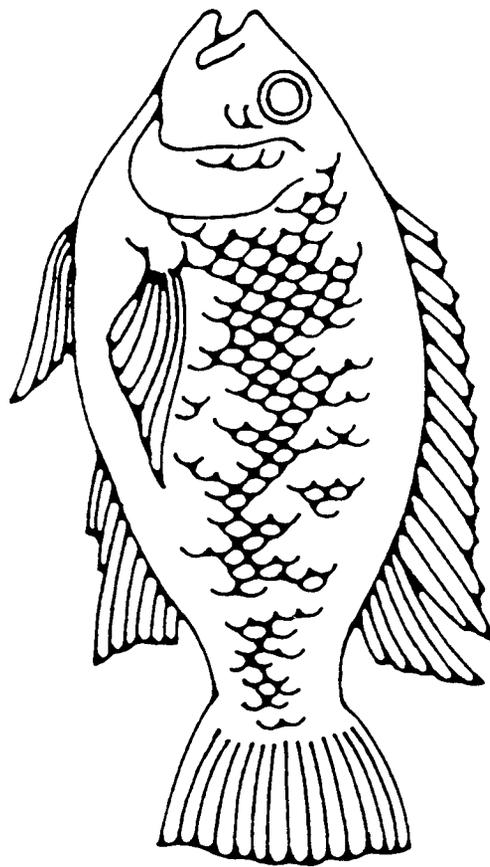
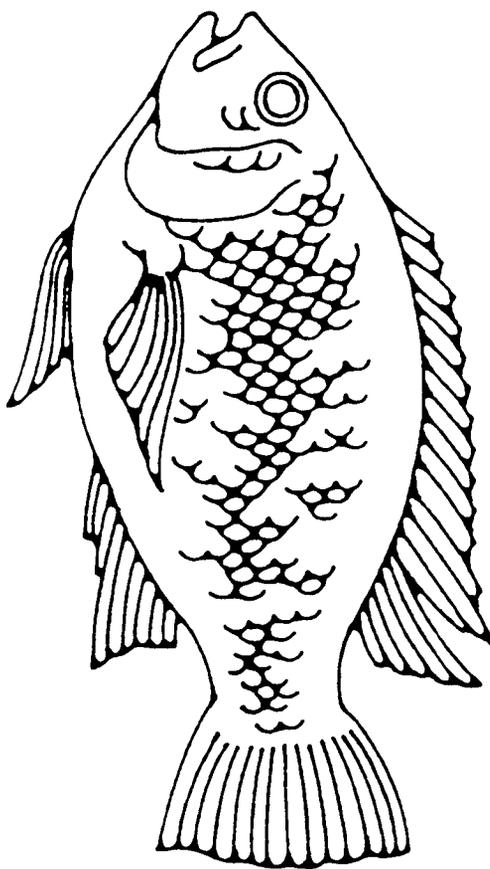
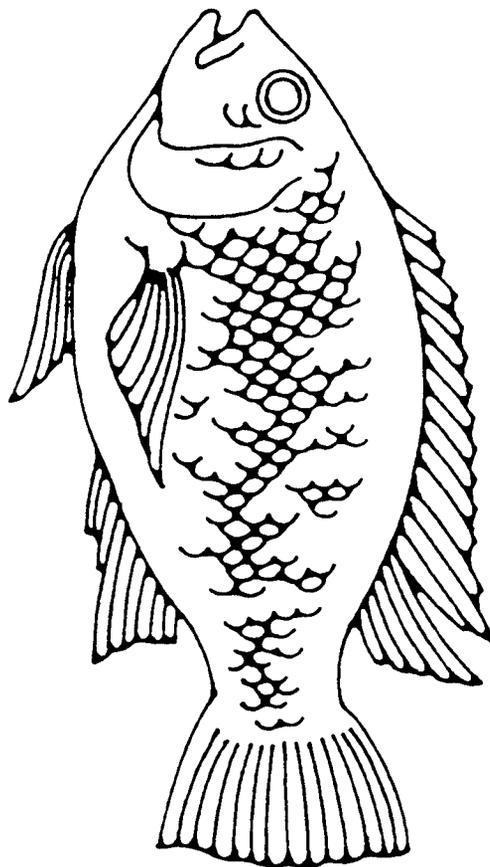
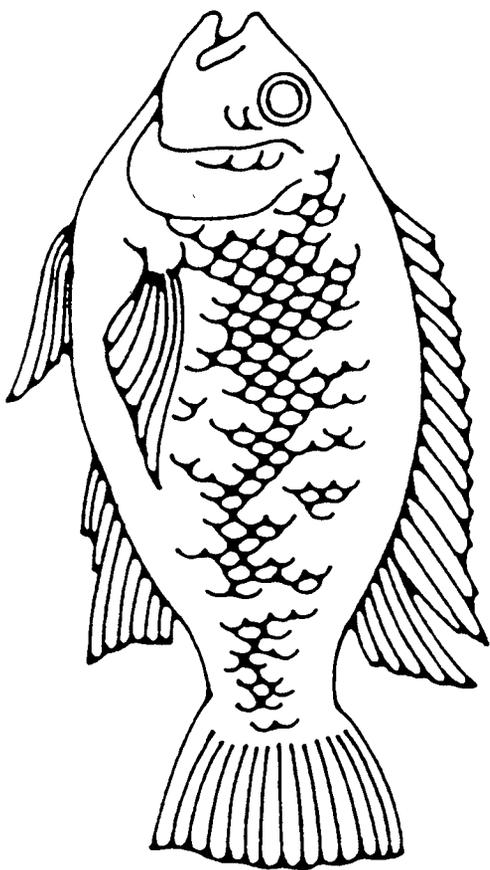
小さな魚をパクッと食べたり（手をたたく）
 小さな虫を捕まえたり（手をたたく）
 蚊を捕まえたり（手をたたく）
 でもわたしは捕まらない

（バーチェル・リンゼー, *Collected Poems of Vachel Lindsay* ©1920 by Macmillan Publishing Co., Inc., renewed 1948 by Elizabeth C. Lindsay. Used by permission.）

5. 5つの紙の魚を使って次の活動を行う。小川は小さな川であることを説明する。
 小さな5匹の魚, 小川の中をすーいすい
 小さな1匹の魚, 穴の中に隠れてしまった（一人の子供に泳ぐまねをしながら自分のいすの後ろに隠れさせる）
 お魚, お魚, 楽しいな
 お魚, お魚, 朝から晩まで すーいすい

幼い子供のための活動

1. 視覚資料1-25「魚」, 1-26「かえる」, 1-27「かめ」を見せる。自分の言葉で魚や水に住む生き物の創造の物語を話す（創世1：20-23参照）。魚やほかの水に住む生き物への感謝の気持ちを話す。
2. 多くの生き物が水の中や水のそばに住んでいることを話す。以下のヒントを与え、何の生き物か当てさせる。
 - a. 体は緑色で、ぬるぬるしています。ピョンピョン跳ねます。湖や川や池のそばに住んでいます。それは何でしょう。
 （子供たちが「かえる」と答えたら、視覚資料1-26「かえる」を見せるか、かえるの絵を黒板に描く。）
 - b. ゆっくり歩きます。背中に固い甲羅を載せています。びっくりしたときは、頭や手足を甲羅の中に引っ込めてしまいます。それは何でしょう。
 （子供たちが「かめ」と答えたら、視覚資料1-27「かめ」を見せるか、かめの絵を黒板に描く。）
 二つとも答えたら、かえるのように跳びはねたり、かめのようにゆっくり這うまねをしたりする。
3. 子供たちと一緒に、「暑い夏はみんな何するの」（『子供の歌集』, 120）を歌う。



目的 天父とイエス・キリストが動物を造ってくださったことに感謝する。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世1：24-25；6：5-8：19。
2. 教材
 - a. 聖書
 - b. 切り抜き絵1-6から1-19までの動物の絵
 - c. 視覚資料1-28「創造——生き物」（『福音の視覚資料セット』210）；1-29「箱舟を造る」（同102）；1-30「ノアと動物を積んだ箱舟」（同103）
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 動物の切り抜き絵を子供たちの前の床かテーブルの上に置く。一人の子供に切り抜きを一つ取らせ、その動物の名前を言って皆に見せるように言う。少なくとも全員が1回行うまで続ける。

天父はイエス・キリストに動物をつくるように命じられた

天父がイエス・キリストによって、昼と夜、海と陸地、草木などを含む美しい地球を創造されたことを復習する。聖書を見せ、本書から創造について学んできたことを思い出させる。聖書には、天父がイエスによってすべての動物を造り、地上に置かれたことが書かれている。

視覚資料1-28「創造——生き物」を見せる。

- この絵に描かれているものを造ったのはどなたですか。
- この絵にはどんな動物がいますか。

イエスがこの地上に置くためにあらゆる種類の動物を創造されたことを説明する。農場にいる動物もいれば、家で飼われている動物もいる。また、森や山や砂漠に住む動物もいる。寒い地域に住む動物もいれば、暖かい地域に住む動物もいる。

- 農場にはどんな動物がいますか。
- 森や山、砂漠にはどんな動物が住んでいますか。
- 皆さんの好きな動物は何ですか。

活動 子供たちを立たせて、それぞれ好きな動物のまねをさせる。

動物はわたしたちの役に立つ

天父はイエスによって、わたしたちの役に立つ動物を置かれた。わたしたちは動物を食用にしたり、作業に用いたり、見て楽しんだり、一緒に遊んだりできる。

- 動物はどのように役立ちますか。
- 牛乳や卵、肉などの食べ物は、どの動物からももらいますか。
- 洋服の材料は、どの動物からももらいますか。
- ペットにすると楽しいのは、どの動物ですか。
- わたしたちが乗れるのは、どの動物ですか。

様々な種類の動物について経験したことを話させる。

動物たちは洪水から守られた

創世6：5-8：19を参照して、ノアと箱舟の物語を話す。視覚資料1-29「箱舟を造る」と1-30「ノアと動物を積んだ箱舟」を見せる。物語を分かりやすくするために切り抜きを使うとよい。

- ノアの家族はイエス様に従って、どのような祝福を受けましたか。
- 動物たちはどのようにして助けられましたか。
- 虹はわたしたちに何を思い出させてくれますか。

活 動

子供たちを立たせて、教師の言葉に合わせて次の動作と一緒にさせる。

ノア

ノアは 大きな 箱舟を 造った（両手を肩の高さで横に伸ばす）

ノアは 造り方を 知っていた（人差し指を額の横に当てる）

釘打ち のこ引き 長さを計った（それぞれの動作をする）

天のお父様が 命じたとおりに（腕を組み、うなづく）

そうして ノアは 家族を呼んで（手招きをする）

箱舟に 乗り込んだ（その場所で、静かに足踏みする）

動物たちは 2匹ずつ（2本の指を立てる）

舟に乗って 海に浮かんだ（浮かぶ様子を手で表す）

大きな黒い 雲が出て（両手を頭の上に上げる）

雨が 強く 降ってきた（指を動かし、雨の様子を表す）

大地は 残らず 雨で覆われて（手と腕で押し流す動作をする）

陸地は 一つもなくなった（首を左右に振る）

箱舟だけは 無事に 浮かんだ（浮かぶ様子を手で表す）

多くの昼と 夜が過ぎ（両手を合わせて片方の頬ほおに当てる）

やっと太陽が 顔を出して（頭の上に両手で輪を作る）

強く 輝く その光

水は 乾いて 空に 昇り（胸の前で腕を交差させる）

乾いた 陸地が 見えてきた（交差していた腕を開き、手を広げる）

ノアの家族は 神様に 導きを感謝した（腕を組み、頭を下げる）

（ビバリー・スペンサーの詩より翻案）

あかし
証

イエス・キリストが天父の計画に基づいて創造された美しい世界に対する感謝の気持ちを述べる。わたしたちの役に立つように、また楽しめるように地上に置かれた動物に対する感謝を述べる。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 「動物さん、動物さん、あなたはだあれ」のゲームを行う。子供たちが輪になり、一人が輪の中央に立ってある動物のまねをする。ほかの子供たちは、何の動物のまねをしているか、手を挙げて答える。動物の名前を当てた子供が、次に輪の中央に立ち、別の動物のまねをする。子供が何の動物のまねをするかははっきり考えてから行えるように、まず教師にだけ動物の名前をささやかせるとよい。
2. 「この動物は何でしょう」のゲームを行う。ある動物についてヒントを与え、それを当てさせる。ヒントには、その動物の住んでいる場所、色、大きさ、鳴き声、どのように役立つか、などが含まれる。何の動物か分かった子供は、手を挙げる。様々な動物について同様に繰り返して行う。
3. 子供たちと一緒に「広い世界」(“The World Is So Big” *Children’s Songbook* [英文], 235)

を歌うか、歌詞を言いながら、以下の動作をする。

かみのつくりたもう（腕で大きな輪を作る）

このひろいせかい

やまや（両手で頭の上に山の形を作る）

たにや（手のひらを上にして、両手を下げる）

こずえや（両手を上に高く伸ばす）

すべてのいきものを（両手を上げて背伸びをする）

神はこのせかいをあいされ しゆくふくしたもう（腕を組んで自分を抱き締めるまねをする）

4. 自分の飼っているペットや、ペットにしたいと思っている動物について子供たちに話させる。ペットをどのように扱うべきか、またどのように面倒を見るべきか話し合う。
5. 全員に紙とクレヨンを配り、自分の好きな動物の絵を描かせる。それぞれの絵に「どうぶつがいることにかんしゃします」と書く。

幼い子供のための活動

1. 視覚資料1-28「創造——生き物」を見せる。自分の言葉で、動物の創造の物語を話す（創世1：24-25参照）。動物への感謝について話す。
2. 子供たちのよく知っている動物を幾つか選び、そのまねをさせる。その動物の姿形や鳴き声、何に使われるかなどについて話す。

目的 天父とイエス・キリストが鳥や昆虫や地を這うものを造ってくださったことに感謝する。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世1：20-25；列王上16：29-17：6。
2. 教材
 - a. 聖書
 - b. 可能ならば、地元でよく見られる鳥、昆虫、地を這うものの絵や写真を用意する。
 - c. 切り抜き絵1-20から1-25の鳥や昆虫の絵
 - d. 視覚資料1-31「からすから養いを受けるエリヤ」、1-32「かもめの奇跡」（『福音の視覚資料セット』413）
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 以下のヒントを与えて、「わたしはだれでしょう」の質問に答えさせる。

1. わたしにはくちばしがあります。
 2. わたしには羽があります。
 3. わたしには翼があります。
 4. わたしは空を飛びます。
- 子供たちが「鳥」と答えたら、教師がするとおりに、鳥のまねをして部屋の中を飛び回る動作をさせる。それからいすに座らせる。

天父はイエス・キリストによって鳥を造られた

天父はイエス・キリストに鳥を造らせて、わたしたちが楽しめるように、また地球が住みやすい場所になるようにしてくださった。聖書を見せ、聖書には鳥の創造についても書かれていることを話す（創世1：20-23参照）。

世界中には多くの種類の鳥が住んでいることを話す。用意した鳥の絵や写真、切り抜きを1枚ずつ見せる。

- これは鳥ですか。
 - それはどうして分かりますか。（翼や羽やくちばしがある。）
- 鳥について経験したことを話させる。

鳥はわたしたちの役に立つ

物語 視覚資料1-31「からすから養いを受けるエリヤ」を見せ、列王上17：1-6を参照して、からすが預言者エリヤに食べ物と水を運んだ物語を話す。天父とイエスがあらゆるものに対して、鳥に対してさえも、力を持っておられることを理解させる。エリヤが邪悪なアハブ王から身を隠さなければならないとき、イエスは鳥に命じて彼の世話をさせた。

- からすは、エリヤに食べ物を運ばなければならないことがどうして分かったのでしょうか（列王上17：4参照）。
- からすはどんな食べ物を運んで来ましたか（パンと肉。列王上17：6参照）。

活動

一人の子供がエリヤの役をし、ほかの子供たちはからすになって、朝と夜、食べ物を運ぶまねをする。

物語

かもめとクリケットの物語を自分の言葉で話す。

ソルトレーク盆地に着いた開拓者たちは、小麦やほかの穀物の種をまきました。パンや穀物食品を作るために、穀物が必要だったからです。小麦は生長して大きくなりました。小麦を収穫する直前、大きな雲が空を覆いました。しかし、それは雨雲ではなく、おなかをすかせた黒いクリケット（こおろぎの一種）の大群でした。クリケットは畑に舞い降りて、小麦を食べ始めました。

開拓者たちは、クリケットに小麦を食べられないようにあらゆることをしました。火をたいたり、ほうきや毛布でクリケットをはいたり、水でおぼれさせたりしようとまできました。でも、クリケットを退治することはできませんでした。開拓者たちは冬に食べる物がなくなってしまうのではないかと心配しました。彼らはひざまずいて、天父に助けを祈り求めました。

するとすぐに、かもめの大群が飛んで来て、クリケットを食べ始めました。（視覚資料1-32「かもめの奇跡」を見せる。）間もなく、クリケットは1匹もいなくなりました。開拓者たちは、天父がかもめを送って収穫を守ってくださったことに感謝しました（ウィリアム・E・ベレット『回復された教会』303参照）。

●かもめはどのように開拓者たちを助けたか。

天父はイエス・キリストによって昆虫や地を這うものを造られた

イエス・キリストがくもやへびなど、昆虫と地を這うものも造られたことを話す。これらの創造物は天父の計画の一部である。

活動

以下の昆虫や地を這うもののなぞなぞに答えさせる。答えが出たら、それに合った切り抜きを見せる。

1. わたしは黄色い体をして、ブンブンという音を出します。

おなかは毛で覆われています。

自分のためとみんなのために蜂蜜を作ります。

わたしはだれでしょう（蜜蜂。ブンブンという音を出す）

2. わたしはえさを捕まえるために糸で巣を作ります。

8本足です。

みんなからよく嫌がられます。

わたしはだれでしょう（くも。指をくもの足のよう動かす）

3. わたしは小さいとき青虫でした。

今は空を飛ぶことができます。

きれいな羽があります。

わたしはだれでしょう（ちょうちょう。指を羽のようにパタパタ動かす）

●これらの昆虫についてどんなことを知っていますか。

昆虫は様々な理由で造られたことを話す。鳥や動物やほかの昆虫のえさになるものもいれば、美しい姿やきれいな鳴き声の昆虫もいる。蜜蜂はわたしたちの食べる蜂蜜を作ったり、果物や花や野菜の花粉を運んで生長を助けたりする。

活動

蜜蜂の切り抜きや絵、写真、あるいは用意した蜜蜂の巣の絵や写真を見せる。蜜蜂がどのように花の蜜を集めて蜂蜜を作るかを説明した後、子供たちに蜜蜂になったつもりで、花から花へと飛び回り、蜂蜜を作るために花の蜜を集めるまねをさせる。

●皆さんはどの昆虫が好きですか。それはどうしてですか。

用意した昆虫の絵や写真を見せる。中にはわたしたちにとってあまり好ましくない昆虫もいることを説明する。わたしたちの食物を食べたり、肌をかんだり刺したりする。子供たちにかもめとクリケットの物語を思い出させる。クリケットは開拓者たちの食べ物を全部食べてしまいそうだった。

昆虫がわたしたちを刺したり、悩ませたりするのは、普通は自分を守ろうとしているからであることを説明する。

あかし
証

鳥や昆虫や地を這うものも地球の大切な一部であることを思い出させる。これらの創造物があることへの感謝の気持ちを伝える。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. ちょうちょうゲームをする。子供たちは輪になって座る。一人の子供がちょうちょうになる。この子供は輪の外側を歩きながら、紙でできたちょうちょうをほかの子供たちの頭の上でヒラヒラさせる。子供が輪の外側を歩くのに合わせて、次の言葉言う。
小さなちょうちょうが 飛んで行った
お日様輝く 暖かい夏の日
青い空に 飛んで行った
そして あなたのおひぎに ヒョイと止まった
「あなたのおひぎにヒョイと止まった」というところで、ちょうちょうになった子供は、紙で作ったちょうちょうを輪になった子供のひぎの上に置く。次に、ひぎに置かれた子供がちょうちょうになる。全員にちょうちょうの役が回るまで繰り返す。
2. 幼虫がちょうになる様子を分かりやすい言葉で説明する。子供たちに、まゆを紡ぐ幼虫のまねをさせる。いすまたは床に座らせ、足を抱きかかえ寝ているふりをさせる。青虫がちょうちょうになるとき、羽が動いて伸び始めることを説明し、子供たちに腕を伸ばさせる。ちょうちょうは動くときも静かであることを話す。子供たちを立たせて部屋の中を静かに飛ばまねをさせる。
3. 子供たちと一緒に「広い世界」(“The World Is So Big” *Children’s Songbook* [英文], 235)の歌詞を以下の動作をつけながら言う。
かみのつくりたもう (腕で大きな輪を作る)
このひろいせかい
やまやたにやこずえや (両手を頭の上に置き、次に胸に置き、次に腕を上へ伸ばす)
すべてのいきものを
かみは このせかいを
あいされ しゅくふくしたもう (腕を組んで自分を抱き締めるまねをする)
4. 以下の動作をつけながら、「どんなものでも」(“All Things Bright and Beautiful” *Children’s Songbook* [英文], 231)を歌うか歌詞を言う。
どんなものでも すべてのもの (腕で大きな輪を作る)
しゅなるかみさま つくりたまいぬ (お祈りをするときのように腕を組む)
はなのうつくしい いろもつくり (こぶしを作り、ゆっくりと開く)
ことりのつばさも しゅがつくりたもう (翼のように手をはばたかせる)
5. 瓶に入った蜂蜜を持って来て、子供たちに見せ、味見をさせる。(蜂蜜にアレルギーのある子供がいないかどうか両親に確認しておく。)
6. 次の指遊びのうち一つ、あるいは両方を行う。
2羽の小鳥
2羽の小鳥が さえずりながら
ちょこんと 塀に止まってる (人差し指をそれぞれ両肩に乗せる)
1羽は ピーター (左の指を上げる)
1羽は ポール (右の指を上げる)
飛んで行け ピーター (左指を後方へ持っていく)
飛んで行け ポール (右指を後方へ持っていく)
戻って来い ピーター (左指をもう一度肩に)
戻って来い ポール (右指をもう一度肩に)

蜜 蜂

これは蜜蜂の巣です

(左手をおわん状にし、下に向ける)

蜜蜂はどこにいるでしょう

だれにも見えない所に隠れているのです

(右手の指を左手の中に隠す)

もうすぐ巣から飛び出して来ますよ

(子供たちに数を数えさせ、1本ずつ指を出す)

1匹 2匹 3匹 4匹 5匹 ブーン ブーン

幼い子供のための 活動

- 鳥の簡単な絵、切り抜き、スケッチなどを見せる。天父がイエス・キリストに鳥を造るように言われたことを話す(創世1:20-23参照)。鳥がいることへの感謝の気持ちを伝える。
- 鳥には食べ物を取るための特別なくちばしがあることを話す。子供たちに手をくちばしのように口につけて、食べ物を取らせる。鳥には飛ぶための翼もあることを説明する。子供たちに腕をばたばたさせて飛ぶまねをさせる。
- 「木の枝の鳥」(“Birds in the Tree” *Children’s Songbook* [英文], 241)の歌詞を言いながら以下の動作をする。

こえだのうえに (両手を上げ、頭の上に輪を作る)

とりのす みつけた (両手を合わせて巣の形を作る)

なかには たまご

ひとつ ふたつ みつつ (指を1本ずつ出していく)

かあさんどりは たまごをだいて (左手をおわん状にして、右手3本指をその上に載せる)

とうさんどりは

みんなをまもる (両手を広げて飛ぶかっこうをする)
- 子供たちに次の指遊びをさせる。

くもの歌

くもの家は 雨といなの (片方の手の指2本で、もう一方の腕をよじ登る)

雨が降って 流された (両手を上げ、指を小刻みに振りながら下ろす)

雨がやみ 日が出てくると (腕で頭の上に輪を作る)

また元の家へ 帰ったよ (1行目の動作を繰り返す)

アダムとエバは 天父の形にかたどって創造された

第14課

目的	アダムとエバが天父の形にかたどって創造されたことを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世1章；2：15-25；3章。『福音の原則』（31110 300）第5, 6章も参照する。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 切り抜き絵1-1から1-25c. 視覚資料1-33「アダムとエバ」（『福音の視覚資料セット』101），1-34「子供たちを教えるアダムとエバ」3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	「天のお父様の子供はみんな立ってください」と言う。すべての人は天父の子供なので全員が立つはずであることを思い出させる。
歌	「神の子です」（『賛美歌』189番）を子供たちと一緒に歌う。この歌は、天父がわたしたちに多くの祝福を与えてくださることを教えている。 <p>かみのこです わたしやあなた あふれるめぐみに かんしゃします わたしをたすけて みちびいて いつかみもとへ ゆけるように</p>
活動	地球は天父の計画に従って造られた <p>切り抜き絵を裏返しにして、テーブルかひぎの上に置く。</p> <ul style="list-style-type: none">● イエス様が地球に造ってくださったものには何がありますか。 子供に答えたものの切り抜きを渡し、ほかの子供たちに見せるように言う。● イエス様が造られたどんなものに感謝していますか。 地球とその上にあるすべてのものは、わたしたちが使ったり楽しんだりするために造られており、天父の計画の一部であることを理解させる。
歌	「神の子です」をもう一度子供たちと一緒に歌う。
	アダムとエバは天父の計画の一部である <p>並べてある切り抜き絵を見るように言う。</p> <ul style="list-style-type: none">● このほかに、地球には何が必要ですか。 視覚資料1-33「アダムとエバ」を見せる。ほかのすべてのものの創造が終わった後、アダムとエバが造られたことを説明する。創世1：26-28を参照して、人の創造について話す。アダムとエバは地球に住んだ最初の人間だったことを説明する。二人は天父の肉体に似た骨肉の体を持っていた。● 地球に初めて住んだ男の人はだれですか。

- 最初の女の人はだれですか。
- アダムとエバはどんな体を持っていましたか。
子供たちに自分の腕に触らせ、彼らの体がアダムやエバの体と同じであることを思い出させる。

物語

視覚資料1-33「アダムとエバ」を見せて、自分の言葉でアダムとエバの物語を話す。以下のような事柄を入れて話すとよい（創世2：15-25；3章参照）。

1. アダムとエバは肉体をもらった後、エデンの園という美しい所で暮らした。
2. アダムとエバは天父によって、永遠の結婚をした。
3. エデンの園では果物や花が自然に育ち、動物たちは人になついていた。
4. アダムとエバは善いことと悪いことの区別ができなかった。
5. アダムとエバは子供を持つことができなかった。
6. アダムとエバは一つの木を除いて、どの木からでも実を取って食べてよいことになっていた。
7. アダムとエバは、食べてはいけないと言われていた木から実を取って食べた。
8. アダムとエバはエデンの園から出て行かなければならなくなった。
9. 世界全体が変わった。アダムとエバは食べ物を得るために一生懸命働かなければならなくなり、雑草が生えるようになり、動物たちは凶暴になった。
10. アダムとエバに子供が生まれ始めた。

視覚資料1-34「子供たちに教えるアダムとエバ」を見せる。アダムとエバはたくさんの子供に恵まれたことを話す。二人は地球で最初の両親になり、子供たちに天父とイエスについて教えた。家族は増え、地球全体に広がった。

- アダムとエバはエデンの園を出た後、何をしましたか。
アダムとエバと子供たちは、地球に造られた植物や動物を用いて、楽しく過ごしたことを説明する。

活動

一人一人に、並べてある切り抜きの中から1枚ずつ選ばせ、その創造物をアダムとエバがどのように用いたか話し合わせる。動物を食べ物や洋服にする、木で家を建てるなど、具体的な答えを考えさせる。

活動

次の指遊びをする。

アダムとエバ

アダムとエバは 造られたばかりの地球に住み（おわん状にした両手を合わせ、地球を表す）

たくさんの動物の世話を（片方の手でもう一方の手をなでる）

食べ物を育てた（指を口に持っていき、食べるまねをする）

二人には子供がいて（2本の指を出す）

その子供にも子供がいた（もう2本の指を出す）

こうしてたくさんの子供が生まれて（10本の指を動かす）

世界中に広がった（両手で大きな円を作り、それから横に広げる）

アダムとエバは地上の最初の両親なので、すべての人はアダムとエバの家族であることを理解させる。

天父とイエスは地球を見て、よしとされた

創世1：31の最初の部分を読む。子供たちに教師の後について言わせる。天父とイエスはすべての創造物を見て、甚だよいと感じられたことを説明する。最も大切なのは、わたしたちのことをよいと感じて、一人一人をととも愛してくださっていることである。

天父とイエスがわたしたち一人一人を愛しておられることを証する。地球とその上にあるすべてのものは、わたしたちが使ったり楽しんだりするためであることを説明する。わたしたちは花や星、そのほかの創造物を見るとき、天父とイエスから愛されていることを思い起こす。天父とイエスの愛と地球に対する感謝の気持ちを述べる。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 第8課から第13課までのレッスンで行った活動を幾つか行う（「神の創造されたもの」24, 「ノア」36など）。
2. 創造の第1日から第7日までの出来事を、指で日にちを数えさせながら復習する。
3. 「天のお父様の愛」（『子供の歌集』, 16）と一緒に歌うか、歌詞を言う。
4. 天父の計画の一部である創造物の絵を描かせるか、色を塗らせる。花、木、太陽など。それぞれの絵の上に「ちきゅうにかんしゃします」と書く。

幼い子供のための活動

1. 「広い世界」（“The World Is So Big” *Children’s Songbook* [英文], 235）の歌詞を言いながら、以下の動作をする。
 - かみのつくりたもう
 - このひろいせかい（腕で大きな輪を作る）
 - やまやたにやこずえや（両手を頭の上に置き、次に胸に置き、次に腕を上には伸ばす）
 - すべてのいきものを
 - よるはほしがひかり（腕を上には伸ばし、手を振る）
 - ひるはひがかがやく（頭の上で大きな腕の輪を作る）
 - かみはこのせかいを
 - あいされしゆくふくしたもう（腕を組んで自分を抱き締めるまねをする）
2. 教師の言葉に合わせて、以下の指遊びをする。
 - 神の創造されたもの
 - 神は月を造られた（頭の上で円で作る）
 - きらきら光る星も（両手を上げ、指を開いたり閉じたりする）
 - 高い空に置かれた（上には手を伸ばす）
 - 神は太陽を造られた（頭の上で円で作る）
 - 木も（腕を上にはびんと伸ばす）
 - きれいな花も（手を丸めて花の形を作る）
 - かわいい小鳥も造られた（腕を翼のように動かす）

（エレノア・ドーン, *Fascinating Finger Fun* ©1951. Used by permission.)

目的	安息日は礼拝と休息の日であることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世2：1-3；出エジプト16：11-31。『福音の原則』（31110 300）第24章も参照する。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 視覚資料1-6「家庭の夕べ」、1-7「愛ある家族」；1-8「^{せいさん}聖餐のパス」；1-9「朝の祈り」；1-10「家族の祈り」；1-35「マナを集める人々」；1-36「聖文の物語を読む親と子供たち」3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>創造の第1日から第6日までを、それぞれの日に何が造られたかを思い出せるように助けながら、子供たちに演じさせる（創世1章参照）。</p> <p>第1日——夜と昼を表すために、眠っている様子をして、それから起きる。</p> <p>第2日——空を表すために、立ち上がり、見上げて、腕を大きく広げる。</p> <p>第3日——かがんで花を摘み、においをかぐ。</p> <p>第4日——両腕で大きな輪を作り、太陽を表す。両手で小さな輪を作り、月を表す。腕を動かしながら指を細かく動かし、きらめく星を表す。</p> <p>第5日——鳥になって部屋を飛び回るまねをする、あるいは魚になって海の中を泳ぐまねをする。</p> <p>第6日——動物のまねをする。動物のまねをしながら部屋の中を何回か歩き回る。それから1列に並んで、一人ずつ次のように言う。「わたしの名前は（子供の名前）です。わたしは神様の子供です」</p> <p>子供たちを静かに座らせる。</p> <p>第7日——天父とイエスが休まれたことを話す。御二方はその日を休みの安息日と呼ばれた（出エジプト35：2参照）。</p> <p>何度か繰り返して「安息日」と言わせる。</p> <p>安息日は聖なる日である</p> <p>創世2：1-2と3節の「聖別された」までを読んで聞かせる。天父とイエスは、地球とその上のすべてのものの創造を終えられたとき、7日目を祝福された。その日を週のほかの日と分けて聖なる日とされた。安息日はわたしたちが仕事を休み、天父とイエスを礼拝するための日である。</p> <ul style="list-style-type: none">● 週の中のどの日が安息日ですか。● 天のお父様とイエス様は安息日に何をされましたか（創世2：2参照）。
活動	子供たちに指を7本立てるように言う。指を1本ずつ動かしながら、一緒に1から7まで数える。わたしたちは6日の間（6本の指を動かす）働き、7日目は（7本目の指だけを動かす）安息日なので、仕事を休む。

物語

視覚資料1-35「マナを集める人々」を見せる。出エジプト16：11-31を参照して、イスラエルの民とマナの物語を話す。

マナの奇跡を理解させる。イスラエルの民は毎日、その日に必要な分だけマナを集めたが、6日目には2日分を集めた。6日目以外にマナを余分に集めると、マナは腐ってしまった。安息日に当たる7日目は、マナを集めることはできなかった。この日には、6日目に余分に集めておいたマナを食べた。

- イスラエルの人々はどのようにして食べ物を手に入れましたか。
- なぜ安息日にマナを集めなかったのでしょうか。

出エジプト16：26を読んで聞かせる。イスラエルの民は安息日に働かないように教えられていたことを説明する。天父とイエスは、安息日に仕事のことよりも御二方に思いをはせるよう望んでおられた。安息日は天父とイエスにとって聖なる日である。

安息日は仕事や普段していることをする日ではなく、天父とイエスを礼拝する日であることを強調する。礼拝するとは、天父とイエスのことを考え、御二方への愛を表す行いをするることである。

安息日は礼拝の日である

安息日は様々な方法で天父とイエスを礼拝できるので、幸せな日であることを理解させる。

- 天のお父様とイエス様を愛していることを伝えるために、皆さんは今日何をしましたか。

天父とイエスを礼拝し、御二方に愛を示す最も大切な方法は、教会に来て聖餐を受けることである。視覚資料1-8「聖餐のパス」を見せる。わたしたちが歌を歌って話を聞くとき、また先生の話に耳を傾け、天父とイエスの愛を感じられるように静かでおとなしくするとき、天父やイエスはとても喜んでくださる。

活動

次の指遊びをする。

今日 教会に来てよかった

今日 教会に来てよかった (2本の指の先を合わせて教会の尖塔^{せんとう}を作る)

お話を聞いたり (おわん状にした手を耳に当てる)

お祈りしたり (腕を組み、頭を下げる)

天にいらっしゃるイエス様のことを勉強して (上を指さす)

イエス様の愛について考えます (自分を抱き締める)

教会に来るとき、清潔できちんとした身なりをすることによっても、天父とイエスに愛を示すことができる。顔を洗って髪をとかし、よそ行きの服を着て来るべきである。

活動

子供たちに、教会に行く仕度をするまねをさせる。

- 天のお父様やイエス様を礼拝するために、教会ではどんなことをしますか。
- 天のお父様やイエス様を礼拝するために、家ではどんなことをしますか。

安息日には、お金を使ったり、買い物をしたりしてはいけないことを理解させる。スポーツや娯楽活動もしないようにする。また、庭の手入れや釣り、猟などもしない。

安息日を聖く過ごすために、家でできることがたくさんあることを説明する。「準備」の項に挙げられた絵を、話し合いの中で適宜見せる。家族と静かなゲームをしたり、聖文の物語を読んでもらったり、家族のアルバムを作ったり、親戚や病気の人を訪ねたり、感謝するものの絵を描いたり、家族と散歩に行ったり、祈ったり、歌を歌ったり、よい音楽を聴いたりすることができる。

活動

安息日を聖く過ごすために家で楽しめることを順番にまねさせる。

あかし
証

わたしたちが安息日に教会に行き歌い、祈り、教師の話を聞くとき、天父とイエスが喜んでくださることを話す。わたしたちが安息日に家でもふさわしく過ごすとき、御二方は喜んでくださる。安息日にふさわしい敬虔な活動で、自分の好きなものについて話す。また安息日に感じる幸せな気持ちについて話す。本課で学んだことを家に帰って家族に話すように、子供たちを励ます。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供一人一人に合わせて言葉を入れ替えながら、次の活動を行う。子供たちも一緒に参加させる。

今日は日曜日だから

一人の子供を指さし、その子の名前を入れて動作をしながら次のように言う。

「() ちゃんは 今日聖文のお話を聞きました」(手をおわん状にして耳に当てる)

「() ちゃんは 今日聖文のお話を聞きました だって今日は日曜日だから」

同様に以下の言葉を使って、子供たち一人一人について言う。

「() ちゃんは 今日プライマリーで祈りました」(腕を組み、頭を下げ、目を閉じる)

「() ちゃんは 今日絵を描きました」(手で絵を描くまねをする)

「() ちゃんは 今日寂しがっている人の家を訪ねました」(指さした子供と握手する)

「() ちゃんは 今日家族の歴史について学びました」(アルバムのページをめくって写真を見ているまねをする)

「() ちゃんは 今日おじいさんとおばあさんに手紙を書きました」(手紙を書いているように手を動かす)

「() ちゃんは 今日お話を聞きました」(手をおわん状にして耳に当てる)
2. 次の物語を自分の言葉で話す。

開拓者たちはソルトレーク盆地に移住するために何キロもの道を旅しました。彼らは安息日の数日前に到着しました。家も建てなければならず、種まきもしなければなりませんでしたが、安息日には働かないことに決めました。みんなはとてもし生懸命働き、大急ぎで地面を耕し、種まきの準備をしました。地面はとても固かったので、鋤くわを入れるために地面に水をまかなければなりませんでした。土曜日までに広い野菜畑の種まきが終わりました。日曜日の朝、彼らは安息日の集会に集まって、新しい土地に導いてくださった天父に感謝をささげました。
3. 安息日の活動をしている自分の絵を描かせる。描いた絵について互いに話をさせる。それぞれの絵に、子供の名前と活動を次のように書く。「さとるくんはあんそくにちにプライマリーのうたをうたいます」

 幼い子供のための
活動

1. 教師の言葉に合わせて、子供たちに次の動作をさせる。

創造

イエスが命じられると 日が照り (両手で頭の上に輪を作る)

雨が降り (指を震わせながら、体の前に出した両腕を下ろしていく)

花が咲き (手のひらを上にして、丸く花の形にする)

小鳥も歌う (鳥のくちばしのように指を開いたり閉じたりする)

言われたとおりにになりました (腕を組む)

(ジョニー・B・ウッド, *Sing, Look, Do, Action Songs for Children*, ドロシー・M・ピーターソン編)

地球の創造が終わった後、天父とイエスが休まれたことを説明する。安息日は休んで、天父とイエスのことを考える日である。
2. 土曜日に仕事をすべて終えれば、日曜日にイエスと天父について考えるのが簡単になることを話す。「土曜日」(『子供の歌集』, 105) を、歌詞に合わせて動作をつけながら歌う。

目的	自分の肉体に感謝し、尊ぶことができるようになる。
準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ダニエル1章；教義と聖約89章。『福音の原則』（31110 300）第29章も参照する。 2. 教材 <ol style="list-style-type: none"> a. 聖書と教義と聖約 b. 視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」；1-37「王の食物と酒を拒むダニエル」（『福音の視覚資料セット』114）；1-38「ボールで遊ぶ子供たち」 3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。 <p>注意——クラスに身体障害者がいる場合、その子供の気持ちに十分配慮する。障害に注目するのではなく、その子供が自分の体を使ってできることに焦点を当てる。</p>
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>子供たちを立たせて、「体の歌」（『子供の歌集』, 129）を歌いながら、動作をする。歌詞に出てくる体の部分を触ったり、動かしたりできるようにゆっくり歌う。例——頭を振る、肩を上げる、ひざを曲げる、つま先で立つ。</p> <p>め くち あたま はなと みみと あしと かたと ぜんぶからだ 子供たちが体を使いながらこの歌を歌ったことを説明する。</p> <p>天父はわたしたちが肉体を持てるように計画された</p> <p>天父やイエス・キリストと天で暮らしていたとき、わたしたちには肉体がなかったことを復習する。わたしたちは霊だった。そして肉体を受けるために地球に来る必要があった。天父は、わたしたちが地球に生まれて地上の両親に世話をしてもらえるように計画を立ててくださった。</p> <p>視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●この絵には、だれがいますか。 ●わたしたちが地球に来て体を受け、家族を持てるように計画したのは、どなたですか。
活動	<p>子供たちを立たせ、教師の説明に合わせて動作をさせる。わたしたちの体は、頭のとっぺんから（頭に触る）足のつま先まで（つま先を触る）です。わたしたちの顔や（笑う）指も（指を動かす）、みんな体の一部です。子供たちを一回りさせて、座らせる。</p> <p>体は多くのことができることを説明する。体のそれぞれの部分は特別な役割を持っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目を使って何ができますか。 ●耳を使って何ができますか。 ●口を使って何ができますか。 ●手を使って何ができますか。 ●足を使って何ができますか。
活動	<p>子供たちを立たせ、次の活動を行う。</p> <p>わたしの すてきな 体</p>

天のお父様から 頂いた
 わたしの すてきな 体 (手を交差して胸に当てる)
 聞こえるように この耳と (手を耳に当てる)
 見えるように 目があって (目を指さす)
 手を合わせて たたけるし (拍手する)
 足で立って 回れるし (回る)
 つま先にだって 触れます (かがんで足のつま先を触る)
 体について 考えるとき (頭に指を置く)
 いちばん すてきに 思うのは (静かに座って、考えるふりをする)
 天のお父様と 同じ形に 造られたこと

天父とイエス・キリストは、体を大切にしよう望んでおられる

わたしたちの体はとても大切なものなので、天父とイエスは、わたしたちが体を大事にして強く健康に保てるように、規則を与えてくださった。その規則は知恵の言葉と呼ばれる。教義と聖約を見せる (合本の場合は教義と聖約の初めのページを見せる)。知恵の言葉はこの聖典に書かれていることを話す。

果物や野菜、穀物など、知恵の言葉の中で、体を健康に保つ助けとなると言われている食べ物について話し合う。次に、たばこ、アルコール性飲料、コーヒーなど、天父とイエスがわたしたちに用いないように命じられたものについて話し合う。わたしたちが知恵の言葉に従って正しい食物を取るならば、天父とイエスは喜ばれ、祝福を与えてくださることを理解させる。

物語

ダニエル1章の物語を話し、ダニエルが、天父の御心^{みこころ}にかなう食物をどのようにして食べたか説明する。話に合わせて、視覚資料1-37「王の食べ物と酒を拒むダニエル」を見せる。

- ダニエルは、王様から体によくない食べ物を食べるように言われたとき、どうしましたか (ダニエル1:8, 12-13参照)。
- 何を食べたらよいかについての天父の規則を守ったダニエルと友人たちは、どのような祝福を受けましたか (ダニエル1:15, 17, 20参照)。
- 体によい食べ物にはどんなものがありますか。
- なぜ体によい食べ物を食べるのでしょうか。
- 体によい食べ物を食べると、どんな気持ちになりますか。

体を強く健康に保つには、ほかのことも行う必要があることを説明する。視覚資料1-38「ボールで遊ぶ子供たち」を見せる。

- この子供たちは何をしていますか。
 - 運動はなぜ大切ですか。
 - ほかにどんな運動がありますか。
- 両手を合わせて片方の頬^{ほお}に付け、目を閉じて眠っているまねをする。
- これは何のまねでしょうか。
 - よく眠ることはどうして大切ですか。
- 手を洗うまねをする。
- これは何のまねでしょうか。
 - いつ手を洗いますか。
 - いつ風呂に入りますか。
 - いつ歯を磨きますか。
 - 体をきれいにする必要のあるのはなぜですか。

健康に必要なそのほかの事柄について話し合う。季節に合った服を着る、体によい安全な習慣を身に付ける、新鮮な空気を吸う、など。

天父とイエス・キリストは、体を守るように望んでおられる

天父やイエスは、わたしたちが自分の体をけがや事故から守るように望んでおられることを説明する。以下の質問か自分で考えた質問をして、子供たちの身に起こり得る危険について尋ねる。

- マッチで遊ぶと、どうなりますか。
- 道路や車のそばで遊ぶと、何が起こりますか。
- ナイフやはさみのように先のとがったものを使うときによく気をつけないと、どんなことが起こりますか。
- 車に乗るときシートベルトをするのはなぜですか。

わたしたちは自分の体を守らなければならないことを説明する。危険なことや、けがをする恐れのあることはすべきでない。天父とイエスは、わたしたちが安全で幸せな気持ちを感じるように、また体を大切に健康でいられるように願っておられる。

体に対する感謝の気持ちを話す。子供たちが強く健康でいられるように体を大切にしていることに感謝する。

あかし
証

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動をいくつか選ぶ。

1. 「関節」（『子供の歌集』、127）を、言葉に合わせた動作をつけながら歌う。たくさんのできる体があることにどんなに感謝しているか話す。
2. 様々な種類の食べ物や飲み物の絵や写真を用意する。それが体によいものかどうか判断させる。体によいものであっても、たくさん取るとよくないものもあることを説明する。例えば、キャンディーはおいしいが、食べすぎると病気になる。体によいものの絵や写真を並べて、子供たちに見せる。
3. 袋か箱に、体を大切にするのに役立つものを入れておく。石けん、タオル、歯ブラシなど、体を清潔にするものも入れておく。また、体によい食べ物や、睡眠を表す小さな毛布、運動を表すボールなども入れておく。一つずつ、ヒントを与えて子供たちに当てさせる。答えが出たら、それを見せる。全部の物を見せ終わるまで続ける。
4. 子供たちを立たせて、体をきれいにする動作のまねをする。手を洗う、歯を磨く、髪の毛をとく、など。また、跳びはねる、スキップする、ボールを投げるなど、好きな運動のまねもする。
5. 体に問題のある人もいることについて話し合う。そのような人をからかったり、指さしたり、笑ったりしてはいけない。体に障害を持つ人にどのように接したらよいか話し合う（話しかける、友達になる、普通の人と同じように接する、必要などときには助ける、など）。
6. 子供たちに自分の全身の絵を描かせる。それぞれの絵に「わたしはからだにかんしゃします」と書く。

幼い子供のための活動

1. 視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」を見せ、子供たちに絵について話させる。
 - みんなは前に赤ちゃんでしたか。
 - 赤ちゃんは歩いたり、話したりできますか。子供たちも以前は赤ちゃんだったことを思い出させる。今は体も大きくなり、たくさんことができるようになった。もっと大きくなったら、もっとたくさんことができるようになる。
- 視覚資料1-16「イエスの生誕」を見せ、イエスもかつて赤ちゃんだったことを思い出させる。
2. 口を指さして「これはわたしの口です」と言う。それから「みんなの口はどこですか」と聞き、子供たちに自分の口を指ささせる。次に「天のお父様にも口がありますか」と尋ねる。目、鼻、耳、手、足についても同様に行く。次に体の各部分を名前を言わずに指さし、子供たちにその名前を言わせる。子供たちが体の部分の名前を全部答えることができたなら、子供たちがあまり知らないような部分の名前を教えてもよい。ひじ、ひざ、手首、足首など。

3. 小さな子供についての短い物語を作って話す。子供が朝起きて、洋服を着て、朝御飯を食べて、1日を終えるまでの出来事について話す。子供がする一つ一つのことについて話すとき、体のどの部分を使っているか当てさせる。
4. 子供たちを立たせて次の言葉を、「雪だるま」(『子供の歌集』, 121) のメロディーに合わせて歌わせる。歌詞に合わせて動作をつける。1番はかがんだ姿勢で2番は立ち上がった姿勢でする。
 1. あかちゃんのときがあったよ
あかちゃんは ちいさいよ
 2. それから だん だん だん だん
こんなにおおきくなっちゃった

目的

手があることや、手を使っているいろいろなことに感謝する。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マタイ19：13-15；教義と聖約20：70；35：6；42：43-44。
2. 袋か箱に、子供たちのよく知っているもので手触りや色の違うものを入れておく。石、葉、布、スプーン、くし、鉛筆など。少なくともクラスの人数と同じ数を用意する。
3. 可能ならば、手話のやり方を複写したものを人数分用意する（本課の最後のページ）。
4. 教材
 - a. 聖書
 - b. ボタンや硬貨などの小さいもの
 - c. 視覚資料1-8「^{せいさん}聖餐のパス」；1-11「バプテスマを受ける少年」；1-12「確認の儀式を受ける少女」；1-39「子供の祝福」；1-40「病人の癒し」
5. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
注意——クラスに身体障害者がある場合、その子供の気持ちに十分配慮する。障害に注目するのではなく、その子供が自分の体を使ってできることに焦点を当てる。

レッスン

一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入

一人の子供に、準備した袋か箱の中身を見せないで手を入れさせる。中にあるものを一つ選んで触り、その感触を言わせる（柔らかい、固い、すべすべしている、ごつごつしているなど）。また、それが何か当てさせる。そのものを袋から取り出して、ほかの子供たちに見せる。ほかの子供たちにも同様にさせ、全員に順番が回るまで繰り返す。

●袋の中を探るために何を使いましたか。

●袋の中のものを触るのに、何を使いましたか。

わたしたちの手はとてもすばらしい祝福であることを説明する。手を使っているいろいろなことができる。

手を使ってたくさんができる

手を目の前に出して、よく観察させる。手を使って何ができるか話し合う。指でつまむ、手のひらで握る、手を振る、様々な方向に手を動かすなど、いろいろなことができる。

活動

ボタンや硬貨などの小さいものを置いて、子供たちに親指を使わずに拾わせる。体のすべての部分が大切であることを説明する。

活動

●教会に来る準備をするとき、どのように手を使いましたか。

朝起きてからすることのまねをさせる。顔を洗う、服を着る、髪の毛をとかす、朝食を食べる、歯を磨く、など。

●遊ぶとき、どんなふうに使いますか。

遊ぶときに手を使ってすることのまねをさせる。ボールをつく、人形に食べさせる、積み木を積む、砂の城を作る、太鼓をたたく、など。

●働くとき、どんなふうに使いますか。

手を使って働くまねをさせる。おもちゃを片付ける、テーブルにお皿を並べる、布団を敷く、ペットにえさをやる、など。

●教会ではどんなことに手を使いますか。

教会で手を使ってすることのまねをさせる。握手をする、絵を持つ、答えるために手を挙げる、聖餐せいさんを取る、など。

手はわたしたちにとってすばらしい祝福である。天父とイエスは、わたしたちが手を使って自分のことをしたり、人を助けたりするように望んでおられる。しかし、人をたたいたり、つねったり、ひっかいたりするなど、不親切なことをするのは使ってほしくないと思っておられる。わたしたちが手を正しく使うようになることを望んでおられる。

人々は手を使ってわたしたちを助けてくれる

●皆さんのお父さんやお母さん、ほかの家族の人たちは、手をどのように使って皆さんを助けてくれますか。

食事を作ってくれる、洗濯してくれる、靴のひもを結んでくれる、一緒に遊んでくれる、そのほかたくさんのお話をわたしたちにしてくれる。

神権を持つ男性は、わたしたちの頭に手を置いて、祝福を与えることができる。準備した絵を1枚ずつ見せ、神権者の手を通して与えられる祝福を一つずつ言わせる。赤ちゃんのときは子供の祝福を受け、8歳になったらバプテスマを受け、バプテスマの後、確認の儀式を受けて聖霊たまものの賜物を授かる。毎週日曜日の聖餐会では、神権者によって祝福され、配られるパンと水を取ることができる。また、病気の時にも祝福を受けることができる。

物語

聖書のマタイ19：13-15を開き、イエスが子供たちを祝福された物語を話す。13節の初めの部分（「連れてきた」まで）を読んで聞かせる。イエスが手をどのように使って子供たちを祝福されたか話す。

イエスは、ほかにも様々な方法で手を使って人々を助けられた。例えば、病人や目の見えない人、耳の聞こえない人を祝福された。

わたしたちの手は話ができる

手を振ったり、手招きしたりする。手を使ってどんなことを言っているか、子供たちに答えさせる。

話すことのできない人や耳の聞こえない人たちは、言葉の代わりに手を使って意思を伝えていることを説明する。手を使って話すのである。これは手話と呼ばれる。

活動

本課の終わりのページを複写したものを使って、子供たちに「お父さん」「お母さん」「わたしはあなたを愛しています」を手話で言う方法を教える。できれば、写しを家に持ち帰って、家族に紹介するように言う。

あかし証

手を見せ、手があることに感謝する気持ちを話す。手を与えてくださった天父に感謝し、手を使って自分のことをしたり、人々を助けたりするように子供たちを励ます。

楽しい活動

次の中からレッスンに使う活動を幾つか選ぶ。

1. 全員に紙を渡し、各自の手をかたどる。「わたしはてにかんしゃします」と書き、色を塗らせ、家に持ち帰らせる。
2. 子供たちに「小さな手」（『子供の歌集』、126）を歌うか歌詞を言う。言葉に合わせて動作をつける。
3. 場所や天気の問題がなければ、子供たちを散歩に連れて行き、れんが、セメント、切り株、草など、手触りの違うものに触らせる。
4. 次の遊戯を行って、指を数える。

指を数えよう

(片手を出し、もう一方の手の人差し指を使って指を数える。小指から始める)

指が1本 2本 3本 4本

もう1本は親指さん

天のお父様が下さったわたしの手には

全部で5本の指がある

(もう一方の手を出し、同じように数える)

1本 2本 3本 4本

もう1本は親指さん

全部で5本のこの指で

いろんなことができる

(両手を出し、指を1本ずつ曲げながら数える)

全部で10本 もう一度数えてみよう

1本 2本 3本 4本

5本 6本 7本 8本 9本 10本 これで全部

(10本の指を一度に伸ばす)

みんなちゃんと立てました

5. 「楽しいな」(『子供の歌集』, 129) を何回か繰り返して歌う。毎回、手を使ってできることを言う。ボールをつく、花を摘む、人形を抱いて揺する、ピアノを弾く、さよならと手を振るなど、歌詞を入れ替えて歌う。
6. 動作をつけて以下の遊戯を行う。

高く背伸び

高く背伸びして

低くかがんで

おててをぶらぶら

指を開いて

今度は結んで

前に伸ばして

後ろに伸ばして

手をたたいて

座っておひざにのせて

静かにします

幼い子供のための 活動

1. 教師の言葉に合わせて、以下の遊戯をする。

大好きな手

大好きな手 それはわたしの友達です(手を前に伸ばして眺める)

一日中忙しく働いて役に立ちます(手でする仕事を幾つかまねする)

静かに手を組んだり たたいたりすると大きな音も出ます(手を組んだ後、手をたたく)

手で正しいことができるとうれしくなります

2. 子供たちを輪になって座らせる。以下のような状況を話し、そのとき手はどうしたらよいか考えさせ、その動作をさせる。

食べるとき、手はどうしますか。

お話を聞くと、手はどうしますか。

おもちゃを片付けなさいと言われたとき、手はどうしますか。

お祈りのとき、手はどうしますか。

手がいつも正しいことをするように助ける必要があることを説明する。

3. 子供たちと一緒に、動作をつけて以下の言葉を言う。

手をたたきましょう

手をたたこう 手をたたこう

ほら こういうふうに

肩たたこう 肩たたこう

ほら こういうふうに

ひざたたこう ひざたたこう

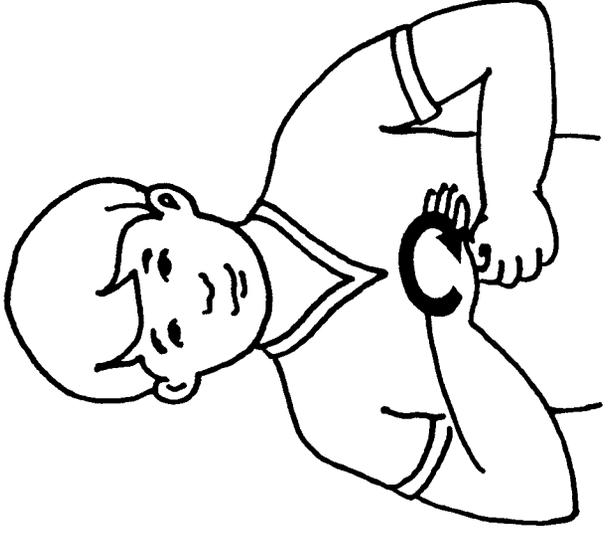
ほら こういうふうに

首を振ろう 首を振ろう

ほら こういうふうに

手をたたこう 手をたたこう

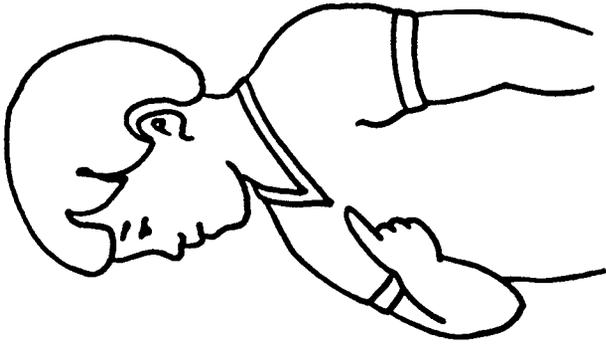
さあこれでおしまい



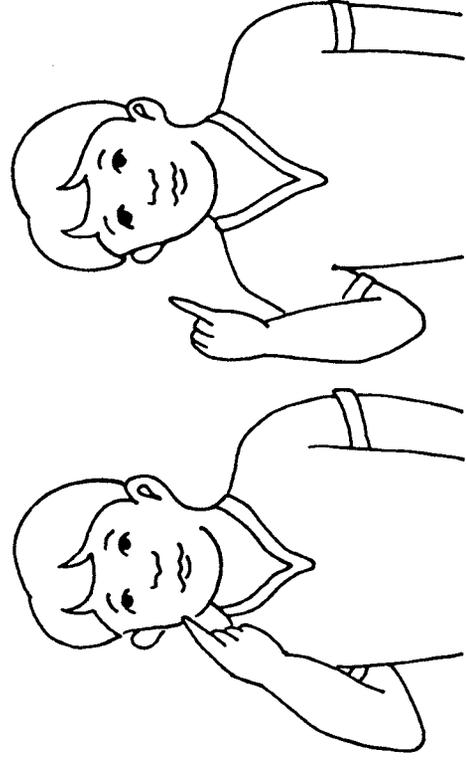
愛あいしています



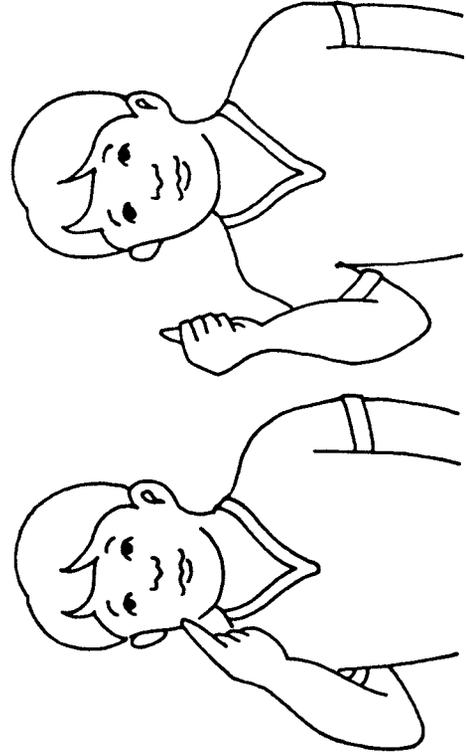
あなたを



わたしは



お母かあさん



お父とうさん

わたしのではおはなしができます

目的	耳があることと、耳を使ってできることに感謝する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マルコ7：32-35；ジョセフ・スミス-歴史1：17。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書と高価な真珠b. 視覚資料1-4「最初の示現」（『福音の視覚資料セット』403）；1-41「補聴器をつけた子供」；現在の預言者の写真3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。 <p>注意——クラスに身体障害者がいる場合、その子供の気持ちに十分配慮する。障害に注目するのではなく、その子供が自分の体を使ってできることに焦点を当てる。</p>
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>ささやきながら、以下のことを行う。</p> <p>一人一人とあいさつし、何かをするように言う。例えば、座る、手を上げる、手を下げる、2本の指を出す、など。</p> <p>普通の声で、教師の小さな声がどうして分かったのか尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none">●小さな声を聞くために、皆さんは体のどこを使いましたか。
歌	<p>耳はわたしたちにとって祝福である</p> <p>「感謝しますお父様」（『子供の歌集』、15）の1番と2番を子供たちと一緒に歌う、あるいは歌詞を言う。</p> <p>かんしゃします おとうさま しゅくふくすべて しゅのめぐみ おめめも みみも ても あしも たべもの きもの しゅのめぐみ</p> <ul style="list-style-type: none">●この歌の中で、天のお父様はわたしたちに何を下さったとありますか。●その中で、聞くことができるように与えられたものは何でしょう。（耳） <p>子供たちに注意して耳を触らせる。外側に見える部分で聞いているのでないことを説明する。音を聞き取るのは鼓膜をはじめとする内側の器官で、外の部分は、音を耳の中に送る働きをしている。</p> <ul style="list-style-type: none">●耳を大切にするには、何に気をつければよいでしょう。 <p>大きな音や、耳を傷つけるものから耳を守らなければならないことを説明する。</p> <p>様々な理由から耳がよく機能しないため、たいていの人には聞き取れる音が聞こえない人がいることを説明する。子供たちの知っている人で耳の不自由な人がいれば、その人が使用している補聴器について説明する。視覚資料1-41「補聴器をつけた子供」を見せながら説明する。耳の不自由な人の中には、あまりよく話せない人が多いことを説明する。人は耳で聞いた音をまねて話せるようになるからである。</p>
活動	<p>「わたしはあなたを愛しています」の手話をする（第17課参照）。</p> <ul style="list-style-type: none">●これがどういう意味か覚えていますか。 <p>子供たちに、手話をさせる。</p>

先週学んだように、手話を使うと手で話ができることを思い出させる。耳の聞こえない人は、手話を使ったり、字を書いたり、話している人の口の動きを見たりするなど、ほかの方法で意思を伝え合えることを理解させる。

物 語

マルコ7：32-35を参照して、イエスと耳の聞こえない人の物語を話す。

- 耳の不自由な人が聞こえるようになったとき、どのように感じたと思いますか。
耳が聞こえることは大きな祝福であることを強調する。

活 動

耳でいろいろな音を聞ける

これから耳を使う練習をすると言う。

子供たちを順番に前に来させる。子供たちがよく知っている動物や物で音を出すものの名前を耳もとでささやく。子供にその音をまねさせ、ほかの子供たちにそれが何であるか当てさせる(牛や犬の鳴き声、電話の鳴る音、車のクラクションの音、など)

両親が子供を呼ぶ声や危険を知らせる音など、耳を使って聞くことができる大切な音について話し合う。

- どんな音を聞くのが好きですか。

天父とイエスの教えを聞くことができる

子供たちを静かに座らせ、耳を澄ますように言う。

- どんな音が聞こえますか。

ドアを開け閉めする音、廊下で話す人の声、オルガンの音、風の音など、聞こえてくる音について話す。

- そのほかに、教会ではどんな音を耳にしますか。

教会では、教師や両親、初等協会の指導者、ビショップ、そのほかの指導者の声を聞くことを説明する。

- これらの人々の話^{みこころ}に耳を傾けるのはどうして大切ですか。

天父とイエスの御心^{みこころ}を理解できるように助けてくれることを説明する。

物 語

視覚資料1-4「最初の示現」を見せ、この絵について覚えていることを話させる。高価な真珠を開き、ジョセフ・スミス-歴史1：17で、天父がジョセフ・スミスに語られた言葉、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」を読んで聞かせる。

この言葉を何度か繰り返して一緒に言わせる。天父は、わたしたちが天父とイエスの語られることを聞くように望んでおられる。天父とイエスがすべての人に直接話されることはないかもしれないが、わたしたちは両親や教師、教会の指導者の話を聞くことができる。これらの人々は、天父とイエスがわたしたちに伝えたいと思っておられることを教えてくれる。また聖霊は、天父とイエスの御心^{みこころ}を理解できるように助けてくださる。

現在の預言者の写真を見せる。

- これはだれですか。

天父とイエスは教会の指導者、特に預言者やビショップを通してわたしたちに語りかけてくださることを説明する。指導者たちは、天父とイエスがわたしたちに望んでおられることを教えてくれる。わたしたちは彼らの話^{みこころ}に注意して耳を傾ける必要がある。

あかし
証

耳が与えられて、いろいろな音や話を聞けることへの感謝の気持ちを伝える。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を選ぶ。

1. 子供たちは目を閉じて手で目を覆う。教師が一人の子供の頭に触る。その子供は「耳があることに感謝します」と言う。ほかの子供たちに、だれの声か当てさせる。全員に順番が回るまで繰り返す。

2. 子供たちと次の活動を行う。
- わたしの すてきな 体
 天のお父様から 頂いた
 わたしの すてきな 体（手を交差して胸に当てる）
 聞こえるように この耳と（手を耳に当てる）
 見えるように 目があって（目を指さす）
 手を合わせて たたけるし（拍手する）
 足で立って 回れるし（回る）
 つま先にだって 触れます（かがんで足のつま先に触る）
 体について 考えるとき（頭に指を置く）
 いちばん すてきに 思うのは（静かに座って、考えるふりをする）
 天のお父様と 同じ形に 造られたこと
3. 子供たちを全員同じ方向に向かせて、教師はその後ろに立つ。手をたたく、指を鳴らす、ベルを鳴らすなど、手や物を使って音を出し、それが何か当てさせる。子供たちに音を出させてもよい。
4. 犬のほえる声、鳥の鳴き声、人の笑い声など、周囲の音を録音しておく。子供たちにそれを聞かせて、何の音か当てさせる。
5. 手話で簡単な歌や言葉を教える。手話をよく知っている人がいれば、クラスに来てもらう。全員で「神の子です」（『賛美歌』189番）を歌い、それに合わせて手話をしてもらう。
6. 子供たちと輪になって座る。隣の子供に短いメッセージをささやく。その子供はさらに隣の子供に同じことをささやく、同じようにして輪を一回りする。最後の子供はメッセージを声に出して言う。最初の子供に伝えたメッセージを言い、どのように変わったか比べる。
- 活動の後、メッセージを聞くために何を使ったか尋ねる。（耳）
 耳が与えられたことを天父に感謝するように言う。

幼い子供のための活動

1. 可能ならば、子供たちを散歩に連れて行き、聞こえてくる音に静かに耳を澄ますように言う。教室に戻り、どんな音が聞こえたか話し合う。
2. 子供たちを立たせ、動作をつけながら次の言葉を言う。
- あなたの目
 両手で 触ろう
 あなたの 目
 あなたの 鼻
 あなたの 耳
 あなたの つま先
- 両手を 上げよう
 高く 高く
 空より 高く
 伸ばして みよう
- 両手を そっと
 頭に 置こう
 そして 静かに
 いすに 座ろう

目的	目があることと、目を使ってできることに感謝する。
----	--------------------------

準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ヨハネ9：1-7；3ニーファイ11：1-17。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書とモルモン書b. 大きな穴の空いた糸巻きリールと靴ひもか糸（人数が多い場合は、それぞれを二つ以上用意する。）c. 目隠しをするためのスカーフか布d. 視覚資料1-43「盲人を癒されるイエス」（『福音の視覚資料セット』213）；1-44「西半球で福音を教えるイエス」（同316）3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。 <p>注意——クラスに身体障害者がいる場合、その子供の気持ちに十分配慮する。障害に注目するのではなく、その子供が自分の体を使ってできることに焦点を当てる。</p>
----	---

レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
------	------------------

導入	<p>目を開けたままで糸巻きの穴に靴ひもまたは糸を通すことがどんなに簡単か見せる。次に目を閉じて同じことをやってみる。全員にやらせる。</p> <p>目は祝福である</p> <p>わたしたちは目があるので、読んだり、勉強したり、働いたり、遊んだり、美しい地球を見たりできると説明する。</p> <p>もし目が見えなかったら、生活がどのように変わるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">● どうやって食べ物を食べますか。● どうやってどの服を着るか分かりますか。● どうやって家に帰る道が分かりますか。
----	---

歌	<p>「二つの目」（“Two Little Eyes” <i>Children’s Songbook</i> [英文], 268）を歌うか歌詞を言う。</p> <p>ふたつの めで ぱちり なんでも みえる あたまに かた ひざ つまさき ほくの からださ ほら ほら ほら ほくは げんき ふたつの めで ぱちり ほら ほくのからだ</p> <p>(<i>Merrily We Sing</i> ©1948, 1975 Pioneer Press, Inc. [a division of Jackman Music]. Used by permission.)</p>
---	--

活動	子供たちに、窓の外あるいは美しい写真を見せ、初めて見えるようになったふりをさせる。何が見えるか自由に言わせる。色や形について話させる。目が見えることが大きな祝福であることに気づかせる。
----	--

- 皆さんはどんなものを見るのが好きですか。

目がよく見えない人もいることを話す。そのような人はよく見えるように、眼鏡をかけたり、コンタクトレンズを使ったりする。まったく目の見えない人もいる。

活動

目の見えない人は、盲導犬や杖^{つえ}を使っていろいろな場所に一人で行けるように練習することについて話す。一人の子供に目隠しをして、教師が盲導犬の役をする。盲導犬の首ひもの代わりに、腕を伸ばして子供に腕を持たせる。部屋の中を子供を引いて歩く。順番に、目の見えない人や盲導犬の役をさせる。

物語

視覚資料1-43「盲人を癒されるイエス」を見せ、ヨハネ9：1-7に書かれている、イエスが盲人を癒された物語を話す。

- イエスは泥を使って何をしましたか（ヨハネ9：6参照）。
- 目の見えない人が池で目を洗うと、何が起きましたか（ヨハネ9：7参照）。
- その人は目が見えるようになったとき、どんな気持ちでしたかと思いませんか。

天父が目を与えてくださったことに感謝する

活動

子供たちを立たせ、次の歌詞を後に続けて言わせる。歌詞に合わせて体の部分を触らせる。

「目に かんしゃしよう」
 めに かんしゃしよう
 みみにも くちにも はなにも
 てにも うでにも あしにも
 そして つまさきまで
 (ルーシー・ピッコの詩より翻案)

物語

視覚資料1-44「西半球で福音を教えるイエス」を子供たちに回して見せ、絵に描かれていることを一つずつ言わせる。3ニーファイ11：1-17に書かれている、イエスが西半球の民を訪れられた物語を話す。

- 人々はだれを見ましたか。
- 人々はイエス様を見て、どのように感じたと思いませんか（3ニーファイ11：16-17参照）。
- イエス様は何色の服を着ていましたか（3ニーファイ11：8参照）。

わたしたちは、ニーファイの民のようにイエスを実際に見ることはできないかもしれないが、美しい自然を見るときに、いつもイエスの愛を思い出せることを説明する。

証

目があることへの感謝の気持ちを伝える。毎日美しい創造物を見るとき、天父とイエスから愛されていることを思い出すと話す。目が与えられていることを天父に感謝するように勧める。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. お互いの目やまぶた、まゆ毛、まつ毛を近くでよく見るように言う。まぶたやまゆ毛、まつ毛は、目にはこりや砂、汗などが入らないようにしてくれることを話す。
2. 前もって、ピンなど先のとがったもので紙を刺し、その跡で円や四角の形を描いておく。レッスンで、一人ずつ目隠しをさせ、紙の凹凸に触って何の形か当てさせる。これは、目の見えない人が読むのに使う点字に似ていることを話す。
3. 紙袋を使って、目が開いたり閉じたりするおもちゃを人数分作る（本課の最後にある図を参照）。袋に「めがあることにかんしゃします」と書く。目に色を塗らせ、髪の毛を描かせる。紙袋の目を開けたり閉じたりして、起きたり、眠ったり、祈ったり、驚いたりするときに、目がどうなるか表現させる。
4. 可能ならば、子供たちを散歩に連れて行く。腕を組み、静かに歩いて、目を使って見ることに意識を集中するように言う。教室に戻ったら、見たものについて順番に話させる。

幼い子供のための
活動

1. 「花がはじけてポップコーン」(『子供の歌集』, 118) を歌うか歌詞を言う。あんずの花はポップコーンに似ていることを説明する。

- 窓から外を見たら、歌のようにあんずの木の上にポップコーンがはじけるのが見えるでしょうか。窓の外には、何が見えるでしょうか。

窓の外を見るか、しばらく外に連れて行く。教室に戻ってから、見たものについて話し合う。

- いろいろなものを見るために、皆さんは何を使いましたか。(目) 目が与えられていることを天父に感謝しなければならないと説明する。

2. 子供たちを立たせ、動作をつけながら「あなたの目」を行う。

あなたの目

両手で 触ろう

あなたの 目

あなたの 鼻

あなたの 耳

あなたの つま先

両手を 上げよう

高く 高く

空より 高く

伸ばして みよう

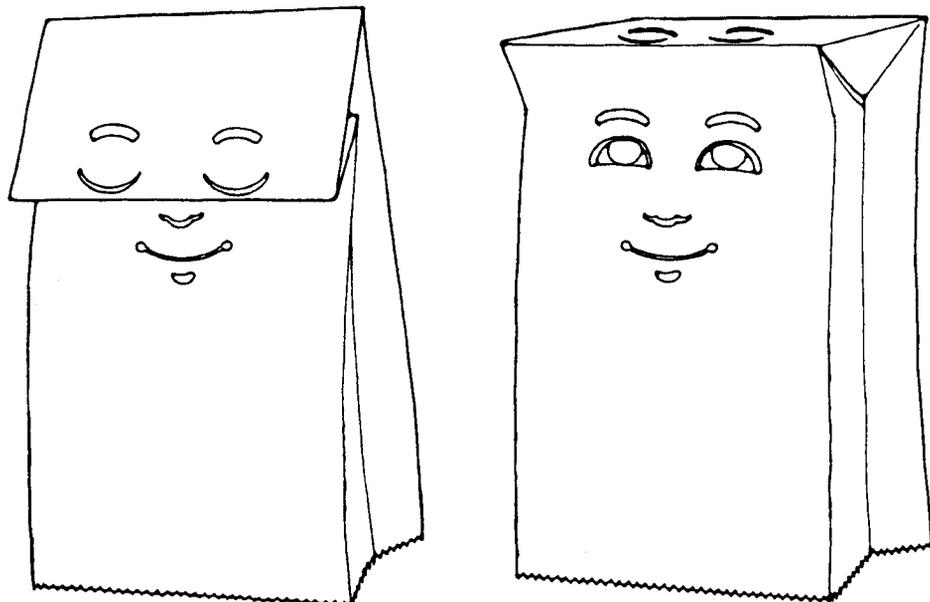
両手を そっと

頭に 置こう

そして 静かに

いすに 座ろう

3. 子供たちに小さなものを見せる。部屋のどこかに隠すので、目を使って探すように言う。子供たちに目をつぶらせ、あまり目立たないが子供にも探せるような場所にそれを隠す。目を開けさせ、動いたり声を出したりせずにそれを探させる。見つけたら腕を組むように言う。まだ見つけていない子供が探せるように、静かにしていなければならない。必要なら何度か繰り返して行う。



かいだり味わったりできることに感謝する

第20課

目的	臭覚と味覚があることに感謝する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。出エジプト16：11－15，31；教義と聖約59：18－19。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書と教義と聖約b. においのよい食べ物（果物，パン，クッキー，ポップコーンなど）を全員に少しずつ分けられるように準備し，袋に入れておく。その食べ物にアレルギーのある子供がいないことを両親に確認しておく。c. 子供たちに味見をさせるために，酸っぱいもの（レモンジュースなど），塩辛いもの（塩など），甘いもの（砂糖など）を用意する。アレルギーのある子供がいないことを両親に確認しておく。d. 視覚資料1－35「マナを集める人々」3. 「楽しい活動」の中からレッスンで使う活動を選び，必要な準備をしておく。 <p>注意——クラスに身体障害者がある場合，その子供の気持ちに十分配慮する。障害に注目するのではなく，その子供が自分の体を使ってできることに焦点を当てる。</p>
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>子供たちに目を閉じさせる。袋の中の食べ物のおいを一人ずつかがせ，それが何か当てさせる。目を閉じたまま，それを食べさせる。目を開かせせ，今食べたものを見せ，それが何か言う。</p> <ul style="list-style-type: none">●この食べ物はどんなにおいがしましたか。●どんな味がしましたか。 <p>見えなくても，食べ物を楽しめたことを指摘する。においをかいだり，味わったりできる感覚が与えられているからである。</p> <p>においをかぐために鼻がある</p> <ul style="list-style-type: none">●わたしたちはどうやってにおいをかぎますか。 先週，どんなにおいをかいだか話し合う。料理するにおい，雨上がりの新鮮な空気，花の香りなど。においをかげるようにしてくださったことを天父に感謝するように言う。●何のにおいをかぐのが好きですか。
活動	<p>子供たちに次の遊戯をさせる。</p> <p>わたしの鼻 わたしには 鼻がある（鼻を指さす） 顔の 真ん中の（両手の指先を頬<small>ほお</small>に置く） ちょうど いい場所にある（指で鼻の回りに円を描く） クンクン おいをかいだり（においをかぐ） きれいな空気を 吸ったりできる（鼻で大きく息を吸って，吐き出す） 天のお父様（腕を組む） すてきな鼻を ありがとう</p>

味わうための舌がある

味が分かるように天父から舌が与えられたことを話す。希望する子供に、酸っぱいもの、塩辛いもの、甘いものを味わわせる。

- 酸っぱいのはどれですか。
- 塩辛いのはどれですか。
- 甘いのはどれですか。
- どんな味の食べ物が好きですか。

教義と聖約を見せる。(合本の場合は教義と聖約の初めのページを見せる。)この聖典によれば、においや味のよいものは、わたしたちが使ったり楽しんだりするために与えられている(教義と聖約59:18-19参照)。

物語

視覚資料1-35「マナを集める人々」を見せる。出エジプト16:11-15, 31を参照して、マナの物語を話す。

- マナはどんな味がしましたか(出エジプト16:31参照)。
- 蜂蜜^{はちみつ}を食べたことがありますか。
- どんな味がしましたか。

口にすると危険なものもたくさんあることを説明する。ある種の野いちご、洗剤、中身の分からない瓶や缶、両親の許可なしに飲む薬などは危険である。これらのものを食べたり飲んだりすると、病気になる恐れがある。何かを見つけたら、口にする前に必ず大人に聞かなければならないことを強調する。

あかし証

においをかぎ分ける鼻と味わう舌があることへの感謝の気持ちを話す。においや味が分かることを天父に感謝するように勧める。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動をいくつか選ぶ。

1. 石けん、花、レモンなど、香りの強いものと、紙やおもちゃなど、何のにおいもしないものを準備する。子供たちに香りのするものを選ばせる。一人ずつ目をつぶらせ、一つのものにおいをかがせ、それが何か当てさせる。全員に順番が回るようにする。
2. 鏡で自分の舌を見るように言う。舌には、味を感じるたくさんの突起があり、そのおかげで甘さや酸っぱさ、塩辛さを感じられる。子供たちに水を味見させ、舌はぬれているか冷たいかを感じるのにも役立つことを話す。
3. 好きな食べ物の絵を描かせる。自分で描いた絵を見せながら、好きな食べ物について話させる。
4. 見かけは似ているが、味が違うものを少しずつ用意する。塩と砂糖、小麦粉とコーンスターチなど。少しずつ味見させ、それぞれどんな味がしたか答えさせる。同じように見えても味が違うものがあることについて話す。(用意する食べ物にアレルギーのある子供がいないことを両親に確認しておく。)
5. 「感謝のいのり」(『子供の歌集』, 18)を歌う。

幼い子供のための活動

1. 黒板または紙にだ円形を描く。これは顔の絵であると説明する。
 - 何が足りませんか。子供たちが、目、耳、鼻、口、などと答えるごとに、それらを描き足していく。そして、それぞれの働きを復習する。体を与えてくださった天父に感謝していることを話す。
2. 口を指さして「これはわたしの口です」と言う。それから「みんなの口はどこですか」と聞き、子供たちに自分の口を指ささせる。次に「天のお父様にも口がありますか」と尋ねる。目、鼻、耳、手、足についても同様に行う。次に、体の各部分を黙って指さし、子供たちにその名前を言わせる。体の部分の名前を全部答えることができたなら、子供たちがあまり知らないような部分の名前を教えてもよい。ひじ、ひざ、手首、足首など。

3. 子供たちを立たせて、以下の言葉を動作をつけながら言わせる。

あなたの目

両手で 触ろう

あなたの 目

あなたの 鼻

あなたの 耳

あなたの つま先

両手を 上げよう

高く 高く

空より 高く

伸ばして みよう

両手を そっと

頭に 置こう

そして 静かに

いすに 座ろう

目的 様々な気持ちの違いを理解し区別できるようにし、どうしたら幸せな気持ちを得られるか学ぶ。

- 準備**
1. 祈りの気持ちでルカ15：11-32を研究する。
 2. 教材
 - a. 聖書
 - b. 笑顔としかめっ面の絵（本課の最後のページにある型紙を参照）
 - c. チョークと黒板消し
 - d. 視覚資料1-45「皿洗い」；1-46「お母さんに花をあげる子供たち」；1-47「けんかをする子供たち」；1-48「積み木で遊ぶ子供たち」；1-49「放蕩息子」（『福音の視覚資料セット』220）
 3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 笑顔としかめっ面の絵を見せる。「笑顔で」（『子供の歌集』, 128）を子供と一緒に何回か繰り返し返して歌うか、歌詞を言う。何人かの子供に絵を持たせ、歌に合わせて絵を逆さまにさせて、笑顔やしかめっ面を示させる。

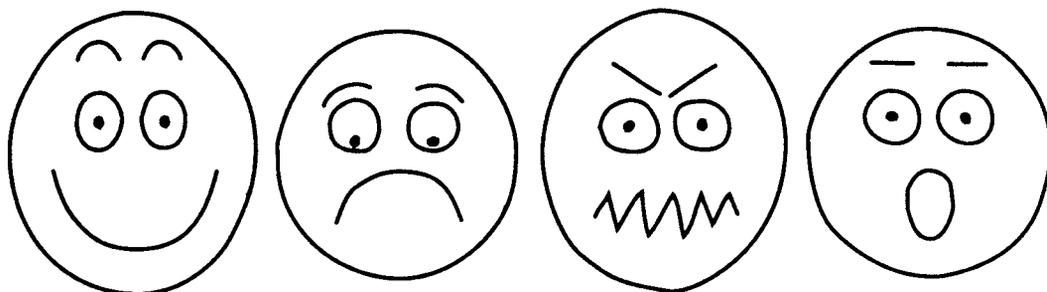
いやなときにも いやがらず
すぐはんたいに にこにこしよう
みなしかめがお きらいです
えがおはせかいを よくします

気持ちは顔や行いに表れる

- 笑顔でいると、どんな気持ちになりますか。
- しかめっ面をしていると、どんな気持ちになりますか。

顔の表情で、その人の気持ちが分かることがよくある。子供たちにうれしいときの顔をするように言う。

活動 黒板に大きな円を幾つか描く。幸せな顔、悲しい顔、怒った顔、驚いた顔など、異なる表情の顔を簡単に描く（下図参照）。一つ描き終わるごとに、どんな気持ちが顔に表れているか尋ね、同じような表情をさせる。



- 皆さんはどんなときうれしい気持ちになりますか。
- どんなとき悲しくなりますか。
- どんなとき怒りますか。
- どんなときびっくりしますか。

教師自身が悲しかったとき、怒ったとき、驚いたとき、またうれしかったときのことについて話す。

自分の気持ちを抑えることができる

自分の様々な気持ちを表すのはよいことであるが、正しい方法で表さなければならないことを説明する。特に怒ったときはそれが大切である。

視覚資料1-47「けんかをする子供たち」を見せる。

- この子供たちはどんな気持ちだと思いますか。
- どんなことを言い合っていると思いますか。
- 皆さんは怒ったとき、どうしなければなりませんか。

わたしたちは怒ると、だれかをぶったり、どなったり、傷つけたりしたくなるかもしれないが、自分の気持ちを上手に優しく表すように努力することができる。人をぶったり、どなったりすると、怒りがもっと強くなるだけだが、親切にすると、気持ちが穏やかになる。

活 動

子供たちに順番に絵の中の一人にならせる。どなったり、ぶったりする代わりに、何を言ったらよいか考えさせる。「今度はほくがやってもいい?」「順番にやろうよ」「そんなひどいこと言わないで、悲しくなるから」「そんなふうにしたら嫌だよ」など。

視覚資料1-48「積み木で遊ぶ子供たち」を見せる。この子供たちが一緒に仲良く遊んでいることや、おもちゃを一緒に使い、互いに優しい言葉で話すので幸せな顔をしていることを指摘する。

- 皆さんが悲しいときや怒っているとき、怖がっているときに、よい気持ちになれるように助けてくれるのはだれですか。

お母さんやお父さん、またわたしたちを愛してくれる人に自分の気持ちを話せば、なぜそのような気持ちになったか分かるように助けてくれることを説明する。天父に祈れば、よい気持ちになれるように聖霊を通して助けが与えられる。聖霊は、わたしたちが再び幸せな気持ちになるにはどうしたらよいか教えてくださる。

活 動

子供たちを立たせ、以下の遊戯を何回か繰り返して行う。

わたしの気持ち

時々 悲しい気持ちでいると（悲しい顔をする）

お母さんが抱き締めてくれて うれしくなります（自分を抱き締め、うれしいときの顔をする）

時々 とっても怒ったときは（怒った顔をする）

お父さんのところへ行ってお話します（その場で歩き、話しているようにうなづく）

何か怖いことがあったときは（驚いた顔をする）

安心できるように お祈りします（腕を組む）

それから遊びに行つて

毎日楽しく過ごします（うれしいときの顔をする）

人を助けると幸せな気持ちになる

視覚資料1-46「お母さんに花をあげる子供たち」

- この絵の人々はどんな気持ちだと思いますか。
- どうしてそういう気持ちがするのでしょうか。
- だれかに何かをあげるとき、どんな気持ちがしますか。

視覚資料1-45「皿洗い」を見せる。

- この女の子は何をしていますか。

- この女の子はどんな気持ちだと思いますか。それはどうしてですか。
- だれかを助けるとき、どんな気持ちがしますか。

活動

子供たちと以下の遊戯をする。

お手伝いをすると幸せ

お母さんのお手伝いが 大好き (エプロンをするまねをする)

お母さんには お仕事がたくさん

わたしは お皿ふきを 手伝います (皿をふくまねをする)

それから 赤ちゃんにミルクをあげます (赤ちゃんにほ乳瓶で飲ませるまねをする)

お父さんのお手伝いが 大好き (庭仕事の手袋をするまねをする)

お父さんには お仕事がたくさん (枝を切ったり、草を抜いたりするまねをする)

お仕事が みんな終わるまで

お庭で お手伝いをします (水をやるまねをする)

お手伝いをすると 幸せになります (笑顔を作り、指を頬ほおに付ける)

とってもいい気持ち (両腕を反対の肩に回して、自分を抱き締める)

だって お手伝いをするのは (両手を大きく広げる)

正しいことだもの (頭を下げ、腕を組む)

天父とイエスはわたしたちの幸せを望んでおられる

天父とイエスは、わたしたちが幸せになるように望んでおられる。また、わたしたちが御二方から言われたことを行うときに、幸せになることを知っておられる。

物語

視覚資料1-49「放蕩息子」を見せ、ルカ15：11-32の物語を話す。父親や息子の様々な気持ちを採り上げて話し、黒板に描かれた顔の中から、その気持ちに合ったものを指さすように言う。「息子の一人は家を出て遠くの国に行きたいと思いました。息子が家を出て行ってしまったので、お父さんは悲しみました。しばらくして、その息子の友達はみんな彼を置いて去ってしまいました。息子はとても悲しくなりました。すぐにお金が全然なくなってしまうました。おなかがすいているのに、だれも食べ物くれないので、怖くなってしまいました。……」

- 息子は家に帰ったとき、どんな気持ちがしたと思いますか。
- 息子が帰って来たのを見て、お父さんはどうして幸せだったのでしょうか (ルカ15：24参照)。
- お兄さんは弟が帰って来たとき、どうして怒ったのでしょうか (ルカ15：28-30参照)。また幸せな気持ちになるために、お兄さんはどうしたらよかったと思いますか。

あかし証

だれでも、幸せな気持ちや悲しい気持ちになったり、怒りや恐れを感じたりするときがあることを話す。わたしたちはそれらの気持ちを正しい方法で表せるようになる必要がある。天父とイエスは、わたしたちが幸せになるように望んでおられることを子供たちに思い出させる。天父とイエスがするように望んでおられることを行うときに、どんなに幸せを感じるか話す。

楽しい活動

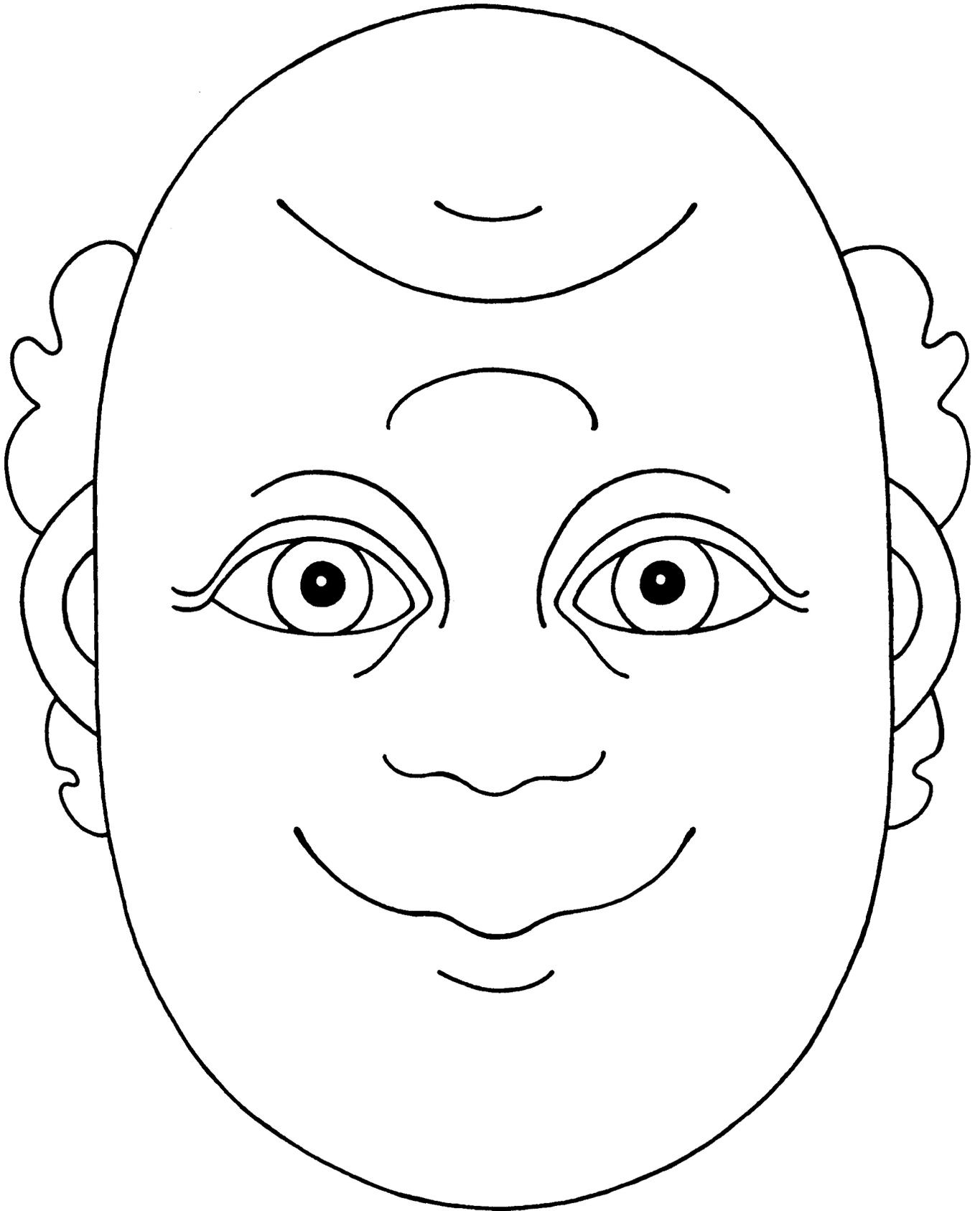
次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供たちを立たせて、輪を作らせる。口を結んで笑わないように言う。次に、教師が笑顔で、子供たちに向かって「() ちゃんに笑顔をあげます」と言う。教師から名前を言われた子供は笑顔になり、次の子供の名前を入れて同じことを言う。輪の中の全員が笑顔になるまで続ける。
人に笑顔を見せると、普通、相手の人も笑顔を返してくれることを話す。笑顔でいると、悲しみや怒り、恐れを感じにくい。
2. 「お手伝い」(『子供の歌集』, 108), あるいは「光となるように」(『賛美歌』188番, 『子供の歌集』, 38) を歌う。

3. 幸せになるために何ができるか考えさせる。お手玉など柔らかい物を一人の子供に投げ、「(子供の名前) ちゃんが幸せな気持ちになるのは……」と言う。その子供は「……するときです」と答えて、お手玉を投げ返す。全員に順番が回るまで繰り返す。
4. お母さんのために何か善いことをした子供の話をする。次のような話をするとよい。さやかちゃんは内緒で、家事のお手伝いをしました。お母さんは、だれがしてくれたのか分からなかったのに、兄弟みんなに、だれがお手伝いをしてくれたのか聞きました。さやかちゃんに聞いたとき、とてもうれしそう顔をしていたので、さやかちゃんがしてくれたことがすぐに分かりました。さやかちゃんはとてもいいことをしたので、うれしい気持ちになったのです。

幼い子供のための活動

1. 教師の言葉に合わせて次の動作をする。子供たちが望めば、何度か繰り返す。
 楽しい1日
 すてきなことを見つける この目 (目を指す)
 いつもほほえむ この唇 (にっこりほほえむ)
 人の話をよく聞く この耳 (両手を耳に付ける)
 おもちゃを片付ける この手 (おもちゃを拾って片付けるまねをする)
 親切な言葉を話す この口 (口を指す)
 お手伝いや遊びのときの 優しい心 (両手を胸に置く)
 喜んで走る この足 (足を指す)
 これでだれもが楽しい1日
2. 「幸せなら手をたたこう」(『子供の歌集』, 125) を歌い、言葉に合わせて動作をつける。「手をたたこう」の部分で、「ひざたたこう」「足ならそう」などの言葉に入れ替えて繰り返す。
3. 幸せな顔、悲しい顔、怒った顔、疲れた顔をさせる。泣いたり、ぐずったりせずに、きちんと自分の気持ちを話せば、気分がすっきりすることを話す。



目的 天父の子供として、たくさんの方が出来ることを理解する。

- 準備**
1. 祈りの気持ちでサムエル上17章を研究する。
 2. それぞれの子供の両親と話し、子供たちが上手に出来ることや、今練習していることなどを聞いておく。
 3. 小さな紙片に「手をたたく」「3まで数える」「部屋の中を歩き回る」「跳びはねる」「(黒板または紙に)丸を描く」「片足で立つ」「腕を組む」「青いものを指さす」など、簡単な指示を書いておく。少なくともクラスの人数分は用意する。障害を持つ子供がいる場合は、その子供にも出来ることを必ず入れておく。
 4. 紙を人数分用意し、それぞれに子供の名前を書いておく。
 5. 教材
 - a. 聖書
 - b. 小さな釣り竿 (第11課で使ったもの)
 - c. 名前を書いた紙を入れる容器 (なくてもよい。)
 - d. 視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」; 1-10「家族の祈り」; 1-38「ボールで遊ぶ子供たち」; 1-50「自分で洋服が着られます」; 1-51「ともに働く家族」; 1-52「ゴリアテを殺すダビデ」(『福音の視覚資料セット』112)
 6. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
- 注意——クラスに身体障害者がある場合、その子供の気持ちに十分配慮する。障害に注目するのではなく、その子供が自分の体を使って出来ることに焦点を当てる。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 子供たちの名前を書いた紙を半分に折り、容器に入れるか床の上に置く。一人の子供に釣り竿を使って、あるいは手で紙を1枚取らせる。紙に書いてある名前の子供を教師の横に立たせる。教師はその子供が上手に出来ることや今練習していることをみんなに話す。全員が名前の書いた紙を取り、教師が全員について話すまで繰り返す。子供たちが上手に出来ることや今練習していることについて褒める。

わたしたちの体はたくさんの方が出来る

歌 「神の子です」(『賛美歌』189番)を子供たちと一緒に歌う。

かみのこです わたしやあなた
あふれるめぐみに かんしゃします
わたしをたすけて みちびいて
いつかみもとへ ゆけるように

- 皆さんの霊のお父さんはどなたですか。
- 体を受けられるように、皆さんを地球に送ってくださったのはどなたですか。
わたしたちが地球に来て肉体を得られるように、天父が計画を立ててくださったことを復習する。天父は、わたしたちが体を使って多くのことを行うように願っておられる。また、正しい方法で体を使って天父のようになることを望んでおられる。
- 皆さんは手を使ってどんなことができますか。足や口、目ではどうですか。

視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」を見せる。

●この赤ちゃんはどんなことができると思いますか。
子供たちが赤ちゃんのときに比べて、多くのことができるようになったことを示すために、以下のような質問をする。

- 赤ちゃんは歩けますか。
- 赤ちゃんは話せますか。
- 赤ちゃんは自分で食べられますか。
- 赤ちゃんは自分で服を着ることができますか。
- 赤ちゃんはでんぐり返しができますか。
- 赤ちゃんは歌が歌えますか。
- 赤ちゃんは三輪車に乗れますか。

子供たちは成長して、さらに多くのことができるようになることを説明する。視覚資料1-10, 1-38, 1-50, 1-51を1枚ずつ見せる。絵を1枚ずつ持たせ、ほかの子供たちにどんな絵か説明させる。答えられたら褒め、「体でいろいろなことができるのがよく分かりましたね」と話す。

活動

指示の書いてある紙を1枚ずつ取らせる。書いてある指示を読み上げ、子供にそれをさせる。順番に全員にさせる。

- 皆さんは今、どんなことを練習していますか。
- 大きくなったら、何ができるようになりたいですか。
体が与えられたことや、体を使って様々な事柄ができることを天父に感謝していると話す。

天父はわたしたちが多くのことをできるように助けてくださる

わたしたちは難しいことをするように頼まれることがある。

- 難しいことをやってみようとしたことがありますか。
- 難しいことができるように助けてくれるのはだれですか。(両親、兄弟姉妹、教師)
- 難しいことをしなければならぬとき、助けを求めてだれに祈ったらよいでしょうか。(天父)
難しいことをするとき、イエスも助けてくださることを話す。

物語

視覚資料1-52「ゴリアテを殺すダビデ」を見せ、サムエル上17章からダビデとゴリアテの物語を話す。ダビデが難しいことをやり遂げられるように、イエスが助けてくださったことを話す。

- イスラエルの軍は、だれを怖がっていましたか(サムエル上17:4-8参照)。
- ダビデはだれに助けを求めたでしょうか(サムエル上17:37参照)。

あかし 証

天父が体を与えてくださり、体を使ってたくさんのことができるようにしてくださった。そのことへの感謝の気持ちを話す。体を使って善いことをするために、天父に助けを求めるように子供たちを励ます。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供たちと一緒に、「わたしのすとおり」(『子供の歌集』, 146) または「楽しいな」(『子供の歌集』, 129) を歌い、言葉に合わせて動作をつける。ほかにどんな言葉が入るか考えさせる。
2. 全員に紙とクレヨンを渡し、自分にできることの絵を一つ以上描かせる。各自の絵に「わたしはたくさんのことができます」と書く。
3. テーブルに皿を並べる、床をはく、ベットにえさをやるなど、家庭で手伝えることを決める。初等協会の後、決めたことを両親に話して、忘れないように助けてもらう。
4. 第16課から第20課で行った活動の中から適切なものを選んで行う。

**幼い子供のための
活動**

1. 子供たちを立たせ、「雪だるま」(『子供の歌集』, 121) のメロディーで次の言葉を歌う。歌詞に合わせて動作をつける。1番はかがんだ姿勢で, 2番は立ち上がった姿勢で行う。
 1. あかちゃんのときがあったよ
あかちゃんは ちいさいよ
 2. それから だん だん だん だん
こんなにおおきくなっちゃった
赤ちゃんのときからこれまでに, どんなことができるようになったか話させる。
2. 教師が跳びはねたり, 手をたたいたり, スキップしたりして見せ, 何をしているか言わせる。次に, 同じことを子供たちが行う。一人の子供がある動作をして, ほかの子供たちは何をしているか言い当て, それをまねる。

目的 天父の計画のおかげで、わたしたちを必要とし愛してくれる家族の一員になれたことを理解する。

準備

1. 祈りの気持ちでルカ1：26-35を研究する。
2. 子供の家族についてよく知り、赤ちゃんの誕生、兄弟の伝道、家族での旅行など、それぞれの家族に起こった良い出来事について話せるようにしておく。
3. 教材
 - a. 聖書
 - b. チョークと黒板消し
 - c. 視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」；1-7「愛にあふれる家族」；1-16「イエスの生誕」（『福音の視覚資料セット』201）；1-23「巣の中のひな」；1-51「ともに働く家族」；1-53「家族の楽しみ」
4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をしておく。

注意——子供たちの家庭環境に十分配慮する。大切なのは家族の人数ではなく、家族が互いに愛し合い、思いやることである。そのことを理解させる。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 視覚資料1-23「巣の中のひな」を見せる。絵について話し合い、ひなと巣であることを確認する。

- 鳥の赤ちゃんのために巣を作ってくれたのはだれですか。
- 鳥の赤ちゃんには、世話をしてくれるお父さんやお母さんが必要ですが、それはどうしてでしょう。（えさをあげ、温め、危険から守るため。）
- 鳥の赤ちゃんが少し大きくなったとき、だれが飛び方を教えてくださいか。ひなたちは、その必要を満たしてくれる家族の一員であることを説明する。

わたしは家族の一員である

- 皆さんには家族がいますか。
- 皆さんの世話をしてくれる家族が必要なのはどうしてですか。

視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」を見せる。わたしたちが地球に来て家族の一員となるように、天父がどのような計画を立てられたか復習する。赤ちゃんは、生まれたとき自分のことができない。自分で食べたり着たりできないので、家族に世話してもらう必要がある。

- 皆さんが生まれたとき、だれが面倒を見てくれましたか。
- 皆さんが赤ちゃんのとき、家族は何をしてくれたでしょうか。
- 今、家族は皆さんのために何をしてくれますか。
- 皆さんが家族の一員になれるように計画してくださったのは、どなたですか。

子供たちが生まれたとき、家族がどんなに喜んだか理解させる。両親や家族がどんなに子供たちを愛しているか、また幸せになってほしいと願っているかを強調する。

歌 「神の子です」（『賛美歌』189番）を一緒に歌うか、歌詞を言う。

かみのこです わたしやあなた
あふれるめぐみに かんしゃします

わたしをたすけてみちびいて
いつかみもとへ ゆけるように

視覚資料1-16「イエスの生誕」を見せ、イエスも地上に来られたとき、家族のもとにお生まれになったことを説明する（ルカ1:26-35参照）。

- この人たちはどなたですか。
- イエス様のお母さんはだれですか。
- イエス様のお父さんはだれですか。（イエスの父は天父であり、ヨセフは善い人で、マリヤとイエスの面倒を見るように天父から選ばれたことを思い出させる。）
- マリヤとヨセフはイエス様を見てどのように感じたと思いますか。
- マリヤとヨセフはどのようにイエス様を世話したと思いますか。
- イエス様のことを愛して面倒を見てくれる家族のもとに生まれるように計画したのは、どなたですか。

天父とイエスはすべての家族を愛しておられる

視覚資料1-7「愛にあふれる家族」を見せる。両親のいる家族もあれば、片親しかいない家族もあることを説明する。子供の面倒を見てくれる祖父母のいる家族もある。たくさんの子供がいる家族もあるし、子供が一人しかいない家族、あるいは一人もいない家族もある。家族は皆それぞれ違っていても、天父とイエスはすべての家族を愛しておられることを理解させる。

活 動

子供たちに自分の家族について一人ずつ話させる。話しながら家族の人数分だけ、黒板に短い縦線を引かせる。家族全員の名前を言ってから、人数を数えさせる。子供が発表し終えたら、その子供の家族について、教師の知っていることを全員に話す。

歌

天父とイエスは、家族が互いに愛を示し合うように望んでおられる

「幸せな家族」(『子供の歌集』, 104) を歌うか、歌詞を言う。

ママもすきです
パパもすきです
あいしあっている
しあわせなかぞく

(*Merrily We Sing* ©1948, 1975 by Pioneer Music Press, Inc. [a division of Jackman Music].
Used by permission.)

- 家族が皆さんのことを愛してくれるのが、どうして分かりますか。
- 皆さんは家族への愛を示すために、どんなことをしますか。

視覚資料1-53「家族の楽しみ」を見せる。

- これは幸せな家族ですか。どうしてそれが分かりますか。
- 皆さんは、家族と一緒に何をするのが好きですか。
- 家族が親切にし合うなら、どんな気持ちになるでしょう。

視覚資料1-51「ともに働く家族」を見せる。

- この家族は何をしていますか。
- 皆さんはどんなお手伝いをしますか。
- 家族のお手伝いをするとき、どんな気持ちになりますか。

活 動

どのような手伝いが家でできるか考えさせる。おもちゃを片付ける、赤ちゃんと遊ぶ、皿洗いを手伝う、など。考えた手伝いのまねをさせる。今週、家族の手伝いをするように子供たちを励ます。

家族の一員であるという祝福を天父に感謝していることを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 「幸せな家族」(『子供の歌集』, 104) をもう一度歌う。4人の子供を選んで、歌に出てくる家族を演じさせる。家族のだれの役をしているかを書いた紙をそれぞれに持たせる。4人の子供の後ろに立ち、子供たちと歌を歌いながら、歌に出てくる家族の名前に合わせて、子供の頭に触れていく。ほかの子供にも家族にならせ、歌を繰り返す。全員に順番が回るまで続ける。
2. モーサヤ4: 14-15に書かれている、家族に向けたベニヤミン王の勧告について話す。15節の終わりの部分(「……互いに愛し合い、互いに仕え合うように……」)を読んで聞かせる。互いに愛し、互いに仕え合うためにどんなことができるか、子供たちの意見を聞く。
3. 次の指遊びをさせる。

これはわたしの優しいお母さん(人差し指を指す)
これはわたしのお父さん(親指を指す)
これはわたしのお姉さん(中指を指す)
ほかにもいます 忘れちゃだめ
それはまだ赤ちゃんの かわいい弟(小指を指す)
残った指はだれでしょう(薬指を指す)
これはもちろんわたしです
1 2 3 4 5(1本ずつ指に触る)
すてきな家族ができました

自分の家族の人数に合わせて、同じ数の指を出させる。(10人以上の家族がいる場合は、ほかの子供に手伝わせる。)子供たち一人一人が最後の2節を言いながら、自分の家族の人数に合わせて、数を数える。

幼い子供のための活動

1. 視覚資料1-23「巣の中のひな」を見せる。「木の枝の鳥」(“Birds in the Tree” *Children’s Songbook* [英文], 241) を教師が歌うか歌詞を言うのに合わせて、子供たちに以下の動作をさせる。

こえだのうえに(両手を上げ、頭の上に輪を作る)
とりのす みつけた(両手を合わせて巣の形を作る)
なかには たまご
ひとつ ふたつ みつつ(指を1本ずつ出していく)
かあさんどりは たまごをだいて(左手をおわん状にして、右手3本指をその上に載せる)
とうさんどりは
みんなをまもる(両手を広げて飛ぶかっこうをする)
2. 次の言葉を教師が言うのに合わせて、子供たちに動作をさせる。

わたしの家族
木の枝に巣作りをする鳥たちのように(羽のように手をバタバタさせる)
わたしには家族がいます(自分を指す)
食べ物をくれます(食べるまねをする)
遊ぶことも教えてくれます(ジャンプする)
だからわたしはいつも幸せで安心です(笑顔を作る)
3. 次の言葉を言うか、適切なメロディーに合わせて歌う。

ママはあなたを愛してる
パパもあなたを愛してる
家族はみんな あなたのこと
ほんとにほんとに愛してる

目的 自分の兄弟や姉妹に愛を示せるように励ます。

準備

1. 祈りの気持ちで出エジプト1：22-2：10を読む。
2. 初等協会会長の許可を取ったうえで、赤ちゃんのいる母親に頼んでクラスに赤ちゃんを連れて来てもらう。赤ちゃんを世話する方法や、赤ちゃんの安全を守るために家族がしていることなどについて話してもらう。赤ちゃんをどんなに愛しているか話してもらう。もし赤ちゃんのいる母親がいない場合は、一人の母親に子供が赤ちゃんのときの写真を持って来て話してもらう。
3. 教材
 - a. 聖書
 - b. 赤ちゃんの人形
 - c. 視覚資料1-2「かごの中のモーセ」（『福音の視覚資料セット』106）；1-13「ジョセフ・スミス」（同400）
4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
注意——レッスンを教える際、きょうだいのいない子供の気持ちに十分配慮する。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 招待した母親を紹介し、赤ちゃんのことを話してもらう。子供たちに自由に赤ちゃんのことを質問させる。赤ちゃんが生まれることを家族がどんなに楽しみにしていたか母親に話してもらう。

きょうだいを愛する

- 皆さんの中で赤ちゃんの弟や妹がいる人はいますか。
赤ちゃんの弟や妹がいる子供に、赤ちゃんについて話させる。また、家族がどのように赤ちゃんを迎える準備をしたか話させる。
- お兄さんやお姉さんがいる人はいますか。
少しの間、子供たちに自分のきょうだいについて話させる。前のレッスンで、それぞれの家族には違いがあることを話したことを思い出させる。きょうだいがたくさんいる人もいれば、少ししか、あるいは一人もいない人もいる。きょうだいの数が何人であろうと、わたしたちはきょうだいを愛して、優しくしなければならない。

物語 視覚資料1-13「ジョセフ・スミス」を見せる。教会の最初の大管長であったジョセフ・スミスにはハイラムという兄がいて、ジョセフはハイラムをとっても愛していたことを話す。ハイラムとジョセフはとても良い友達で、生涯互いに助け合った。ハイラムがジョセフを助けたときの次の物語を自分の言葉で話す。

ジョセフ・スミスは小さいとき、とても重い病気にかかりました。足が病気に感染し、その痛みはひどいものでした。母親は昼も夜もジョセフの看病をしたために病気になり、休息が必要でした。ジョセフの兄ハイラムは、母親の代わりにジョセフの看病をすると申し出ました。両親は、ハイラムならきっとよくジョセフの看病をしてくれると思い、そうしてくれるように頼みました。ハイラムは何日間も苦しむ弟のそばにほとんど付きっきりで看病しました。ハイラムはジョセフの足を持ち上げて、激しい痛みが少しでも和らぐようにしてあげました（ルーシー・マック・ス

ミス、*History of Joseph Smith*、プレストン・ニブレー編、55参照)。

●ハイラムがジョセフを愛していたことはどんなことからわかりますか。

きょうだいに愛を示す一つの方法は、きょうだいを助けることである。その点を説明する。

きょうだいを助ける

●皆さんはどのようにしてきょうだいを助けることができますか。

●きょうだいは皆さんをどのように助けてくれますか。

活 動

子供たちがきょうだいに対してできそうなことを挙げる。それがきょうだいを助けることなら手を上げさせ、そうでないときは手を下げさせる。以下の例を用いてもよい。

- 新しいおもちゃを妹に貸す。
- 使っていいか聞かずに、お兄ちゃんのボールを借りる。
- 妹がおもちゃを片付けるのを手伝う。
- お兄ちゃんにボールを使っていいかどうか聞く。
- 妹と遊ばない。
- 弟が悲しそうなとき、優しくする。
- 妹が寂しそうなとき、一緒に遊ぶ。

赤ちゃんの弟や妹の面倒を見る

赤ちゃんが生まれると、両親は多くの時間をかけて面倒を見なければならぬので大変であることを説明する。両親が赤ちゃんの世話で忙しくても、ほかの子供たちを変わらずに愛していることを説明する。赤ちゃんは一人では何もできないので助けが必要だが、クラスの子供たちのような大きい子供は自分でたくさんことができるし、赤ちゃんを助けてあげることもできる。

●どのようにしたら赤ちゃんの面倒を見るお父さんやお母さんを助けられますか。

活 動

赤ちゃんの人形を大切に抱く方法を見せる。順番に人形を抱かせながら簡単な子守歌を教えるか「神の子です」(『賛美歌』189番)を歌う。

かみのこです わたしやあなた
あふあれるめぐみに かんしゃします
わたしをたすけて みちびいて
いつかみもとへ ゆけるように

物 語

モーセは姉からとても愛されて、赤ちゃんだったときに助けられたことを話す。視覚資料1-2「かごの中のモーセ」を見せ、出エジプト1:22-2:10に書かれている幼子モーセの物語を話す。姉のミリアムが赤ちゃんの弟を見守ったことを強調する。

●ミリアムはどのように赤ちゃんのモーセを助けましたか。

あかし 証

きょうだい同士助け合い、愛を示し合うことの大切さについて、感じていることを話す。できれば、自分が子供のころにきょうだいを助けたときのことを話す。きょうだいを助けることによって愛を示せることを説明する。天父がわたしたちを家族のもとに送ってくださったことにどんなに感謝しているか話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供たちに紙とクレヨンまたは鉛筆を渡して、自分のきょうだいの絵を描かせる。一人ずつ絵を見せながら自分のきょうだいについて話させる。一緒にどんなことをして遊ぶのが好きか話させる。
2. 子供たちの赤ちゃんのときの写真を貸してもらい、だれであるか当てさせる。写真は、両親に返すまで破損しないように十分注意する。兄や姉のいる子供には、赤ちゃんのときに兄や

姉から世話をしてもらったことを指摘する。

3. 「楽しいな」(『子供の歌集』, 129) の歌を「赤ちゃんをだっこするのは楽しいな」や「妹を助けるのは楽しいな」などの言葉と入れ替えて歌うか、歌詞を読む。また言葉に合わせて動作をつける。
4. 「お手伝い」(『子供の歌集』, 108) の歌の1番を「お母さん」の代わりに「妹」という言葉を入れて歌うか、歌詞を読む。「幸せな家族」(『子供の歌集』, 104) の2番を歌う。
5. 自分の家族の写真を見せ、きょうだいについて話す。一緒に経験した楽しい思い出などを話す。
6. 赤ちゃんの人形、小さいかごや箱、毛布やスカーフなどの小物を使って、子供たちにミリアムと幼子モーセの物語を演じさせる。

幼い子供のための活動

1. 小さくて分かりやすい赤ちゃん用品を袋か大きな靴下に入れる。子供たちに手を入れさせて、それが何か当てさせる。
2. 「幸せな家族」(『子供の歌集』, 104) を歌うか歌詞を言う。手をつないで輪になり、歌に合わせて簡単な動作をさせる。
3. 次の言葉を言いながら、指遊びをする。

赤ちゃんのすること それは
 パチ パチ パチ パチ (手をたたく)

赤ちゃんのすること それは
 いない いない ばあ ほら 見えた (手で顔を隠したり出したりする)

赤ちゃんのすること それは
 よち よち よち よち (空中を指で歩く動作をする)

赤ちゃんのすること それは
 すやすや ねんね (両手を合わせて頬ほおの所に持っていき、首をかしげる)
4. 教師が言う言葉に合わせて、次の遊戯を行わせる。

小さな赤ちゃんのモーセ
 小さな赤ちゃんのモーセは
 小さな 舟に乗せられて 川に浮かんで 流されてた (左手をおわん状にし、舟の形を作り、
 右手人差し指をその上に寝かせる)

愛する 姉さん 草の陰 そっと モーセを見守った (目を両手で覆い、指の間からのぞく)
 ある日 モーセを見つけた王女様 (体を前に傾け下を見る)
 モーセをその腕に抱きかかえ (赤ちゃんを抱き上げる動作をする)

「この子を連れて帰りましょう
 お城で 育ててあげましょう」 (腕に赤ちゃんを抱く動作をする)

(エレノア・ドーン, *Fascinating Finger Fun* ©1951. Used by permission.)

目的 家族全員に対する愛をはぐくむ。

準備

1. 祈りの気持ちでルカ1：36-44, 56を読む。
2. 教材
 - a. 聖書
 - b. 視覚資料1-7「愛にあふれる家族」；1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」（『福音の視覚資料セット』208）；1-54「ソルトレーク神殿」（同502）または東京神殿の写真
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 「幸せな家族」（『子供の歌集』, 104）を全員で歌う。

ママもすきです
パパもすきです
あいしあっている
しあわせなかぞく
ねえさんもすき
おとうともすき
あいしあっている
しあわせなかぞく

(*Merrily We Sing* ©1948, 1975 by Pioneer Music Press, Inc. [a division of Jackman Music].
Used by permission.)

先週家族とどんなことをしたか話させる。家族には、どんな人がいるか挙げさせる（お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんなど）

- 皆さんの家族には、ほかにだれがいますか。

祖父母や親戚しんせきも大切な家族である

視覚資料1-7「愛にあふれる家族」を見せる。

- この家族は皆さんの家族とどこが似ていますか。
- どこが違ってありますか。
- この絵の中のおじいさんとおばあさんはどの人でしょう。

祖父母はわたしたちの父母の両親であることを説明する。だれにでも祖父母がいるが、亡くなったために、あるいは遠くに住んでいるために、よく知らないこともある。

- 皆さんの中でおじいさんやおばあさんを知っている人は何人いますか。
- おじいさんやおばあさんは近くに住んでいますか、それとも遠くに住んでいますか。
- 皆さんは、おじいさんやおばあさんと何をするのが好きですか。

活動 「おばあちゃん」（『子供の歌集』, 112）の歌詞を動作をつけて言う。繰り返す場合は「おばあちゃん」の箇所を「おじいちゃん」に替えてもよい。

キスをして（指を唇に当て，離す）
 だきしめて（自分を抱き締める）
 やさしくわらう（ほほえむ）
 うちのおばあちゃん（腕を広げる）
 みんなにあわせたいな（指さす）
 ほんをよみ（本を持つかっこうをする）
 うたうたい（歌っているように口を開ける）
 あそんでくれる（呼びかけるときのように両手をおわん状にして口を囲む）
 うちのおばあちゃん（腕を広げる）
 みんなにあわせたいな（指さす）

- 家族の中にはほかにだれがいますか。（おばちゃん，おじちゃん，いとこ）
 おじ，おば，いとこがどのような関係かを簡単に説明する。（例えば，おじさんはお父さんやお母さんのきょうだいです。）子供たちに自分のおじ，おば，いとこについて話させる。

物語

聖書を見せ，その中にはイエスの生涯について書かれていることを話す。ルカ1：36-44，56を開き，以下の説明をする。マリヤはイエスが生まれる前に，いとこで同じように身ごもっていたエリサベツに会いに行った。エリサベツの赤ちゃんはヨハネという名前で，イエスのいとこに当たり，イエスの友達になった。ヨハネとイエスが大人になったとき，ヨハネはイエスにバプテスマを施した。視覚資料1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」を見せ，どの人がイエスでどの人がヨハネか言わせる。

家族は良い友達である

わたしたちは家族全員と良い友達になれることを説明する。自分と親しくしている親戚がいたら，その人についてどう感じているか子供たちに話す。

- どうして家族と一緒にいるのが好きですか。

歌

「幸せな家族」をもう一度全員で歌う。今度はおじさん，おばさん，いとこ，おじいさん，おばあさんを歌詞に入れて歌う。

- おじさんやおばさん，いとこ，おじいさん，おばあさんと一緒のときはどんなことをしますか。

特別な機会に家族が集まったときの経験について子供たちに話す。家族のパーティーや親戚の家に行ったときのことについて，思い出を話させる。天父とイエス・キリストは，わたしたちが永遠に家族とられるように計画を立ててくださった。視覚資料1-54「ソルトレーク神殿」または東京神殿の写真を見せる。わたしたちが神殿で結婚し，義にかなった生活を送るならば，家族と永遠に一緒にいられることを簡単に説明する。

あかし証

家族一人一人に対する愛について話す。家族は祝福であることを強調する。家族に対して優しく親切にするように励ます。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 初等協会会長から許可を得たうえで，クラスの子供の祖父か祖母，あるいはワードの中で孫がいる人を一人クラスに招待し，孫への愛について話してもらおう。（または，クラスの子供のおじさんかおばさん，あるいはいとこを一人呼んで，親戚を含めた家族に対する愛について話してもらってもよい。）
2. 教師自身の家族の写真は何枚か用意する。（特に祖父母やおじ，おば，いとこが写っている写真がよい。）写真の中のどの人が教師か，また子供たちの知っている人（教師の夫，あるいは妻，子供など）がどこに写っているか見つけさせる。写真の中のほかの人々について子供たちに話す。

3. 「おとうさん」「おかあさん」「おにいさん」「おねえさん」「おとうと」「いもうと」「おじいさん」「おばあさん」「おじさん」「おばさん」「いところ」など、家族の名前を書いた名札を子供たちに配る。(子供の人数が少ない場合はそれに合わせて名札を減らす。また、人数が多い場合は同じ名前を何枚か作って持たせる。)名札に書かれた名前を呼び、呼ばれた子供は前の方に来る。家族は大切に一緒にいるようにつくられていることを説明する。子供たちに輪になって手をつながせる。腕を振る、輪になって歩く。「幸せな家族」を歌うなど、手をつないだままできる動作をさせる。
4. 祖父母あるいはほかの親戚の人の顔を描かせる。「わたしのおじいさんとおばあさん」など、絵に合わせて題を書き入れる。

幼い子供のための活動

1. 箱か袋に、愛を意味するハートの形を付ける。家族や親戚の簡単な絵を描いて切り抜いておく。「皆さんのことを愛してくれるのはだれですか」と聞き、子供たちが答えた家族の絵を箱か袋に1枚ずつ入れていく。全部の絵が入ったら、箱か袋を持ち上げて、「この人たちは全部、皆さんのことを愛しています」と言う。
2. 家族の絵の切り抜き(上の1を参照)をテーブルか床に広げて置く。子供たちを後ろ向きにさせるか、あるいは目をつぶらせている間に、教師が切り抜きの中の1枚を取る。子供たちにだれの絵を取ったか当てさせる。好きなだけ繰り返してよい。切り抜きを全部戻す。天父は、だれ一人欠けずに家族全員が天父のもとに帰って来るように願っておられることを説明する。
3. 「お手伝い」(『子供の歌集』, 108)の歌を「おかあさん」のところにほかの家族や親戚の名前を入れて歌う。家族や親戚のためにできる手伝いのまねをさせる。

目的 神殿は神聖な場所であり、そこで結び固めを受けた家族は永遠に一緒にいられることを理解できるように助け、神殿に入るための準備をするよう励ます。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。教義と聖約97：15－17；124：37－41。『福音の原則』（31110 300）第36課も参照する。
2. 教材
 - a. 教義と聖約
 - b. 視覚資料1－5「赤ちゃんのいる家族」；1－7「愛にあふれる家族」；1－54「ソルトレーク神殿」（『福音の視覚資料セット』502）；また「ワシントン神殿」（同505）などほかの神殿の写真，本課の終わりのページの絵
3. 「楽しい活動」の中で使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 視覚資料1－54「ソルトレーク神殿」また、入手できれば東京神殿を含むほかの神殿の写真を何枚か見せる。神殿について知っていることを話させる。

- 神殿を見たことがありますか。
- 神殿を見るときどんな気持ちになりますか。

尖塔や窓、扉などを指しながら、神殿の美しさについて話す。どの神殿の外壁にも「主の宮居」と書かれていることを話す。教会員は、天父とイエスについて、また御二方のわたしたちへの愛についてもっとよく知るために神殿に行く。

活動 手を頭の上に高く伸ばして神殿の尖塔を作らせる。美しい神殿になったつもりで、まっすぐに背を伸ばして立つように言う。そして静かに座らせる。

神殿は神聖な場所である

神殿は神聖な場所であることを説明する（教義と聖約97：15－17参照）。「神聖」という言葉を繰り返し言わせる。これは神殿が特別な場所であり、そこにあるすべてのものが天父とイエスのことを思い出させるという意味である。

もし天父の戒めを守るならば、大きくなったら神殿に行けることを話す。神殿では、天父の戒めを守るという特別な約束をすることを説明する。また、神殿結婚をしたり、この世に生きている間にバプテスマを受けられなかった人々のためにバプテスマを受けたりできる。

指を3本立てさせ、大きくなったら神殿でできる3つのことを教師の後に続いて言わせる。

「わたしは神殿で天のお父様と特別な約束をします。」

「わたしは神殿で結婚することができます。」

「わたしは神殿でほかの人のためにバプテスマを受けます。」

歌 子供たちを立たせて、以下の動作をつけながら、「神殿に行きたいな」（『子供の歌集』、99）を歌うか、歌詞を言わせる。

いつのひかはいる（歩いて入る）

しんでんに（両手の指を交互に絡ませ、人差し指を伸ばし、ほかの指を折って尖塔を作る）

きよきみたまの（手を胸に当てる）

こえきくために（手を耳の後ろに当てる）

(©1980 by Janice Kapp Perry. Used by permission.)

神殿は神聖な場所なので、中に入るときは白い服を着ることを説明する。白い服は、天父とイエスがわたしたちに、汚れなく清くあるように、またいつも正しいことを選ぶように望んでおられることを思い出させてくれる。

- 今日は何色の服を着ていますか。
- 神殿の中では何色の服を着ますか。

神殿は神聖な場所なので、中に入るときは敬虔^{けいけん}になることを説明する。話すときは、ささやかか静かに話す。子供たちに「わたしは天のお父様とイエス様を愛しています」とささやかせる。わたしたちは神殿で天父とイエスを近くに感じることができるので、幸せで平安な気持ちになることを説明する。

物語

ロレンゾ・スノー大管長の次の物語を自分の言葉で話す。

ロレンゾ・スノーは自分がもうすぐ教会の預言者になることが分かっていました。そこで神殿に行き、白い服を身に着け、特別な部屋でひざまずいて祈りました。教会を導くために自分は何をするべきかを天のお父様に教えていただきたいと思いました。一生懸命祈りましたが、答えは得られませんでした。祈っていた部屋を出ようとしたとき、イエス様が姿を現されました。白い美しい服を着て、明るく輝いておられました。まぶしくてよく見えないほどでした。イエス様は純金の上に立っておられるように見えました。イエス様はスノー大管長が祈りの中で知りたいと願っていたことを教えてくださいました（リロイ・C・スノー “An Experience of My Father's” *Improvement Era*, 1933年9月号, 677参照）。

- なぜスノー大管長は、ほかの場所でなく神殿で祈ったと思いますか。（神殿では天父とイエスをもっと近くに感じられるから。）

神殿は家族を永遠に結ぶ

視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」、1-7「愛にあふれた家族」を見せる。神殿は家族を永遠に結びつけてくれることを説明する。男女が神殿で結婚し、戒めを守るならば、その夫婦と子供たち全員が永遠に一緒になれると天父は約束しておられる。このことを、家族が結び固められたと言う。

- 家族にはどんな人がいますか。
- 家族と一緒にいるときどんな気持ちになりますか。
- どうしたら家族は永遠に一緒になれるか。

天父とイエスがすべての家族を愛しておられ、すべての家族が永遠に結び固められるように望んでおられることを話す。まだ神殿で結び固めを受けていない家族は、天父の戒めを守って準備することができる。そうすれば神殿で家族の結び固めを受けられることを説明する。

歌

「家族は永遠に」（『賛美歌』187番）を何度か繰り返して歌うか、歌詞を言う。

わたしのすてきな
かぞくののぞみ
かたくいつまでも
むすばりたい
しゅはそのねがいかえ
みちびきたもう
かぞくをみなむすぶみちを
しゅはおしえたもう
しゅはおしえたもう

神殿に行く準備をする

天父の戒めを守る人はだれでも神殿に行くことができることを話す。本課の最後のページの絵を見せる。そこに書かれた戒めについて子供たちと話す。これらの戒めを守るなら、大きくなったときに神殿に行くふさわしさを身に付けられると説明する。

- 祈る
- 両親に従う
- 互いに愛し合う
- 教会に行く
- 什分の一じゅうぶんを納める
- 良い食べ物を食べる（知恵の言葉を守る）
- 正直である

あかし
証

家族が永遠に一緒にいることの大切さや神殿の祝福について感じていることを話す。両親に従い、天父の戒めに従うことは、神殿に行く準備をするための大切な方法であることを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 「永遠」は長い時間であることを理解させる。次の誕生日や次の休みが来るまでの時間よりも長いことや、子供たちが知っている中でいちばん年を取っている人が生きてきた年月より長いこと、またアダムやエバの時代から今までの期間よりも長いことなどを話す。また「永遠」には終わりが無いことも説明する。

教師の言葉に合わせて次の動作をさせる。

永遠はどのくらい長いのか

永遠はどのくらい長いのか（頭を指さして考えているまねをする）

1年よりも長いよ（こぶしをあごの下に付け、ひじにもう一方の手を当てる）

クリスマスまでの時間よりも長いよ（手を換えて同じことをする）

永遠はどのくらい長いのか（頭を指さして考えているまねをする）

大好きな家族と一緒にいたら（自分を抱き締める）

そんなに長くはないよ（指を左右に振る）

いつまでもいつまでも 終わりが無いんだ

2. 初等協会会長の許可を得たうえで、一人の子供の両親をクラスに招き、神殿で結び固めを受けることの大切さについて感じていることを話してもらう。
3. 本課の終わりページの絵を複写して1枚ずつ配り、色を塗らせる。
4. 初等協会会長の許可を得たうえで、ワードの中で最近神殿で結び固めを受けた家族に来てもらい、そのときの経験について話してもらう。

幼い子供のための活動

1. 教師の言葉に合わせて次の動作をさせる。

お手伝い

わたしはもう大きくなったから（つま先で立ち、両手を上に伸ばす）

お手伝いができます

優しくてすてきなお父さんのお手伝い（人差し指を出す）

お母さんのお手伝い（中指を出す）

いっぱいあります

お姉さんのお手伝い（薬指を出す）

お兄さんのお手伝い（小指を出す）

大事な友達のお手伝いもできます（親指を出す）

神様のお手伝いもできます

神様が愛してくださるように、みんなを愛します（腕を組む）

みんなのお手伝いがしたいな（両手を大きく振る）

- もう大きくなったんだから（つま先で立ち，両手を上に伸ばす）
2. 教師の言葉に合わせて，次の動作をさせる。好きなだけ繰り返してよい。
（全員が立って，手をつないで輪を作る。最後まで手をつないだまま行う）
わたしたちはみんな天のお父様と一緒に住んでいました（手を真ん中に寄せて，小さな輪になる）
天のお父様はみんなを地球に送られました（広がって大きな輪を作る）
天のお父様は，わたしたちを愛し，教えてくれる家族を与えてくださいました（再び小さな輪になる）
家族はもう一度天のお父様のところに帰れるよう助けてくれます（再び広がって大きな輪を作る）
 3. 神殿の簡単な絵を描いた紙を与え，色を塗らせる。

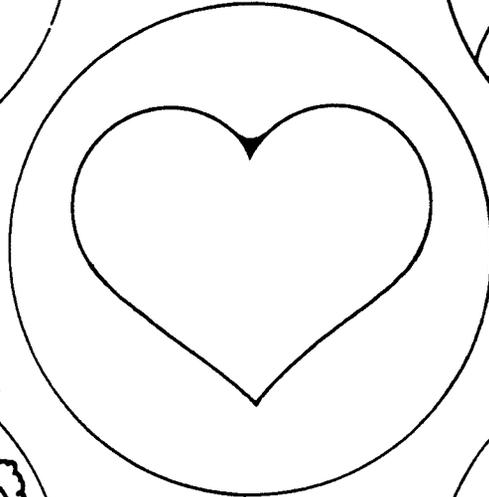
神殿に行く準備をする



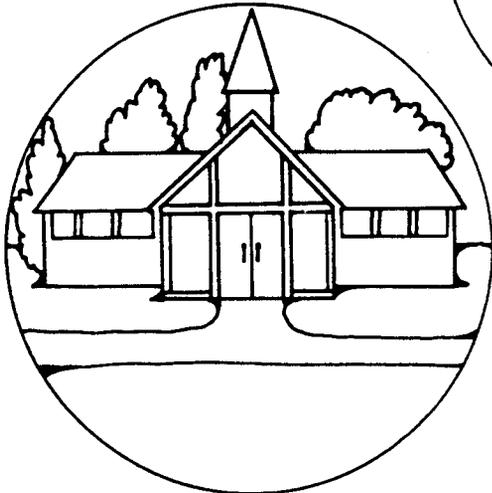
いの
祈る



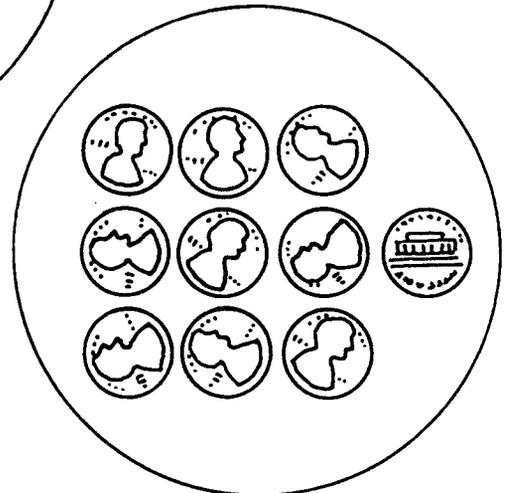
りょうしん しちが
両親に従う



たが あい あ
互いに愛し合う



かい い
教会に行く



じゅうぶん いち おき
十分の一を納める

きょう



よい たべもの たべ
良い食べ物を食べる



じき
正直である

目的 日々の家族の祈りを通して家族は天父に近づくことができ、お互いのきずなを強められることを理解する。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。アルマ34：19-27と3ニーファイ18：17-21。『福音の原則』（31110 300）第8章も参照する。
2. 教材
 - a. モルモン書
 - b. 切り抜き絵1-26「お父さん」；1-27「お母さん」；1-28「女の子」；1-29「伝道に出る年齢の青年」（『初等協会視覚資料（切り抜き用セット）』〔08456〕の中にも同様のものがある。）
 - c. 視覚資料1-10「家族の祈り」；1-15「食事の祝福」；1-44「西半球で福音を教えるイエス」（『福音の視覚資料セット』316）
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 家族と一緒にどんなことをするか尋ねる。全員に答えさせる。視覚資料1-10「家族の祈り」を見せる。

- この家族は何をしていますか。
家族で祈るとき、わたしたちは天父とイエスが望んでおられることをしている。家族で祈ることを家族の祈りと言う。

天父とイエス・キリストは家族で祈るように望んでおられる

物語 視覚資料1-44「西半球で福音を教えるイエス」を見せる。イエス・キリストがニーファイ人を訪れたとき、祈るように命じられたことが、3ニーファイ18：17-21に書かれている。モルモン書を見せ、3ニーファイ18：21を読んで聞かせる。イエスがわたしたちに家族とともに祈るように望んでおられることを理解させる。ニーファイ人の子供たちが家族の祈りを通して祝福を受けたように、わたしたちも家族の祈りを通して祝福を受けることができる。

毎日家族の祈りをする

天父とイエスはわたしたちに毎朝毎晩、家族の祈りをするように望んでおられることを説明する。普通は父親か家族の長が祈る人を決める。家族のだれもが家族の祈りをするすることができる。

- わたしたちはいつ家族の祈りをしなければなりませんか。
- 家族の祈りをするのはだれですか。

歌 「家族のいのり」（『子供の歌集』、101）を歌うか、歌詞を言う。

かぞくがわになり
ひざまずいて
しゅにささげます
かんしゃのいのり

- 家族の祈りではどんなことを言えばいいでしょうか。

家族の祈りは、朝晩の個人の祈りと同じように祈ればいいことを説明する。ただし家族の祈りの中では、自分のことだけでなく、家族全体にかかわることについて祈る。

歌 「信じていのる」(『聖徒の道』「こどものページ」1991年3月号, 5) の2番まで歌うか歌詞を読み、どのように祈るか復習する。

おとうさまにかんしゃします
しゅくふくありがとう
たすけをねがう
とうといしゅのみなにより
アーメン

(©1987 by Janice Kapp Perry. Used by Permission.)

- お祈りの初めに何と言いますか。
- お祈りの終わりには何と言いますか。
- だれかがお祈りをしているとき、ほかの人はどうしますか。
祈りの最後に言う「アーメン」は、祈りの内容に賛成するという意味であることを説明する。
視覚資料1-15「食事の祝福」を見せる。食事の祝福の祈りのときも、家族で祈ることを話す。
- 食事の祝福の祈りのとき、何と言いますか。(この食べ物に感謝します、この食べ物を祝福してください。)
- 食事の祝福の祈りをするのができるのはだれですか。

歌 「信じていのる」の2番の歌詞をもう一度言う。

家族で一緒に祈ることによってたくさんの祝福を受ける

物語

切り抜き絵1-26から1-29を使い、家族の中で伝道に出ている人のために家族全員で祈ることについての物語を話す。以下の提案を参考にする。

小百合ちゃんは小さな女の子です。小百合ちゃんは家族をととても愛していて、自分も家族から愛されていることを知っていました。時々、お兄さんの真一君は聖書やモルモン書の中からお話をしてくれました。真一兄さんは伝道に出て、聖書やモルモン書のことを人々に伝えたいと思い、いつも勉強していました。

ある日、真一兄さんは手紙を受け取りました。手紙を開けた真一兄さんはとても喜んでこう言いました。「伝道に行くんだ。」何週間かして、真一兄さんは伝道に出る準備ができました。伝道に出る前に、家族全員でひざまずき、家族の祈りをしました。小百合ちゃんのお父さんは天父に、家族がたくさんの祝福を受けていること、そして真一兄さんが伝道に出る機会を頂いたことを感謝しました。そして、真一兄さんのうえに祝福が注がれて、いつも守られるように、また良い宣教師になれるように、天父にお願いしました。その祈りを聞いて、小百合ちゃんはとてもうれしくなりました。伝道中、真一兄さんを天父が助けてくださることが、小百合ちゃんには分かりました。小百合ちゃんの家族は、伝道に出ている真一兄さんのために、毎日祈りました。

わたしたちは、病人のためや家族の問題を解決するため、また天父の助けを必要としている宣教師のためなど、いろいろなことについて家族で祈ることができる。また、わたしたちにとって大切な事柄なら、何でも祈ることができる。いつ祈ったらよいか理解させるために、アルマ34：19-27から必要な箇所を引用する。

もう一度、3ニーファイ18：21を読んで聞かせる。家族の祈りをするなら祝福を受けると、イエスが約束されたことを指摘する。

家族の祈りについて証する。家族の祈りを通して家族が強められた経験について話してもよい。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 次の遊戯を行う。
 - これはわたしのお母さん 一緒に遊んでくれます（人差し指を立てる）
 - これはわたしのお父さん 一日中働いています（親指を出す）
 - これはわたしのお兄ちゃん とっても強くて大きい（中指を出す）
 - これはわたしのお姉ちゃん ボール遊びが大好き（薬指を出す）
 - そしてこれがわたし とってもうれしいな（小指を出す）
 - 家族みんなでひざまずいて祈ります（こぶしを握る）
2. お手玉やボールのような柔らかい物を一人の子供に投げる。受け取った子供は、家族の祈りの中で天父に感謝することを一つ言う。全員に同様に言う。次に同じ方法で、家族の祈りの中で天父にお願いしたいことを言う。
3. 全員に紙とクレヨンまたは鉛筆を渡し、家族で祈っている絵を描かせる。全員の絵に「かぞくみんなでのるとき、わたしはととてもしあわせです」と書き入れる。

幼い子供のための活動

1. 次の言葉を1行ずつ教師の後について言わせる。
 - 愛する天のお父様
 - 感謝して 祈ります
 - わたしたちを 愛してくださって
 - いつも祈りを 聞いてくださいます
2. 家族全員で祈ることにより、必要な助けを受けた話をする。例えば、次のような経験について話す。道に迷ったが、道を見つけて無事に帰れた。なくしたものが見つかった。家族の病気が治った。
 - 助けを求めて祈ることに加えて、必要な助けが得られたときに、感謝の祈りを忘れないように提案する。天父は、わたしたちが受けた祝福に感謝するとき、喜んでくださることを話す。
3. 「感謝しますお父様」（『子供の歌集』、15）の1番と3番を歌うか、歌詞を言う。

目的	天父とイエス・キリストと両親に従う気持ちを強める。
準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ダニエル3章；ヨハネ14：15；エペソ6：1。『福音の原則』（31110 300）第35章も参照する。 2. 教材 <ol style="list-style-type: none"> a. 標準聖典 b. 視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」；1-8「^{せいさん}聖餐のパス」；1-9「朝の祈り」，1-46「お母さんに花をあげる子供たち」；1-55「山上の垂訓」（『福音の視覚資料セット』212）；1-56「火の燃える炉の中に投げ込まれた3人」（同116） 3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び，必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>子供たちに幾つかの動作をするように丁寧に頼む。「立ってください」「回ってください」「背伸びをしてください」「足のつま先に触ってください」「座ってください」など。頼んだとおりにしてくれたことに感謝する。教師の言うとおりにしたので，子供たちは従順だったと説明する。</p>
	<p>天父とイエスはわたしたちが両親に従うように望んでおられる</p> <p>視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これは何の絵ですか。 <p>絵の中の赤ちゃんを指して，わたしたちは皆赤ちゃんとして地球にやって来たことを話す。赤ちゃんは幼くて自分で何もできないので，大きい人が面倒を見てあげなくてはいけないことを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●皆さんが赤ちゃんのとき，だれが面倒を見てくれましたか。 ●今はだれが皆さんの世話をしてくれますか。 <p>両親や家族など，子供の面倒を見てくれる人々は，子供のことを愛していて，その幸せと安全を願っていることを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●両親からしてはいけないと言われるのは，どんなことですか。 <p>子供たちがけがをしたり，不幸せな気持ちになったりする事柄について話す。例えば，道路で遊ぶ，熱いストーブに触る，ナイフを持つ，急な坂を駆け下りる，きょうだいとけんかをする，など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●両親が皆さんに，これらのことをしてほしくないのはなぜですか。 ●どうして両親の言うことを聞かなくてはならないのですか。 <p>子供たちが安全で楽しくできることを挙げる。例えば，おもちゃで遊ぶ，両親と出かける，きょうだいに優しくする，など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●両親が皆さんに，これらのことをさせるのはなぜでしょうか。 <p>両親はわたしたちを愛しているので，わたしたちが安全で幸せになることをしてほしいと望んでいる。</p>
活動	<p>子供たちを立たせ，以下の遊戯を行う。</p> <p>わたしの足は走ることが好き（その場所で静かに走る）</p> <p>わたしの手は遊ぶことが好き（手を回す）</p> <p>でも お母さん（お父さん）が「来なさい」と言ったら（手招きする）</p> <p>すぐに従います</p>

- 両親に呼ばれたとき、すぐそれに従ったら、どんな気持ちになりますか。
 - 両親から頼まれたことを行うとき、どんな気持ちになりますか。
- 両親に従うときに幸せな気持ちになることを説明する。わたしたちが従うとき、両親も幸せを感じる。
- 天父やイエスは、わたしたちが両親に従うように望んでおられることを話す。エペソ6：1を読んで聞かせ、説明する。

歌

「よく聞いて」（『子供の歌集』、71）を歌うか、歌詞を読む。

ママのことば　すぐきいて
 ただしいこどもに　なりましょう
 パパのことば　すぐきいて
 よろこばれるこに　なりましょう
 かみのことば　よくきいて
 みんなのひかりに　なりましょう

天父とイエスは、戒めを守るように望んでおられる

視覚資料1-55「山上の垂訓」を見せる。

- この絵に描かれている人はだれですか。
- イエスは地上にいるとき、天父が人々に望んでおられることを教えられた。これらは戒めと呼ばれる。聖典を見せて、戒めは聖文に記されていることを話す。

活動

聖書を開き、ヨハネ14：15を読む。これはイエスの言葉であることを説明する。「守る」とは「従う」という意味であることを話す。教師の後に続いて聖句を子供たちに言わせる。

- 天のお父様とイエス様は、わたしたちにどんな戒めを守るように望んでおられますか。
- 以下の絵を使って、子供たちが従うことのできる戒めについて話す。
- 視覚資料1-5「赤ちゃんのいる家族」—— 家族を愛する
 視覚資料1-8「聖餐のパス」—— 教会の集会に出席する
 視覚資料1-9「朝の祈り」—— 天父に祈る
 視覚資料1-46「母親に花をあげる子供たち」—— 人に親切にする
- わたしたちが戒めに従うとき、天のお父様は何をしてくださいますか。

わたしたちが従うとき、天父は祝福を下さる

物語

シャデラク、メシャク、アベデネゴの3人の物語を、ダニエル3章から簡単に話す。話に合わせて、視覚資料1-56「火の燃える炉の中に投げ込まれた3人」を見せる。天父の戒めの一つは、天父にだけ祈ることであると説明する。わたしたちは、ほかの人や像などに祈ったりはしない。シャデラク、メシャク、アベデネゴの3人は天父の戒めをよく知っていて、それに従いたいと思っていたことを話す。3人が戒めに従ったので、天父は彼らを火から救い出された。3人は火に焼かれずに済んだ。

- シャデラク、メシャク、アベデネゴの3人は、なぜ火で焼かれなかったのですか。
- 天のお父様に火から救い出してもらって、3人はどのように感じたと思いますか。

あかし証

天父とイエス、また両親に従うことの大切さについて感じていることを話す。戒めに従うことによってどのように幸せになったか話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 「戒めを守る人」(『賛美歌』193番)の1番、あるいは「小さな手」(『子供の歌集』、126)を歌うか、歌詞を読む。

2. 一人ずつ順番に、「立って」「手を頭に載せて」というような指示を与え、ほかの子供たちはそれに従う。
3. 第11課のレッスンで使った釣り竿ざおを使い、紙で作った魚に次のような簡単な指示を書いておく。「うでをくむ」「つぎのことばをいう『イエスさまはいわれました。もしあなたがたがわたしをあいするならば、わたしのいましめをまもるべきである』」「へやをしずかにあるく」「みんなにニコニコする」「ぜんいで『かみのこです』をうたう」など。順番に紙の魚を釣らせて、そこに書いてある指示に従うように言う。
4. ノアの物語を復習し、ノアと家族は戒めに従ったので救われたことを強調する。
5. 笑った顔と「したがうとき、うれしくなります」という言葉を書いた紙を全員に渡し、顔に色を塗らせる。

幼い子供のための活動

1. 次の指遊びをする。
忙しい指さん（こぶしを握って上に上げる）
お父様に従えるように助けてくれる？
はい はい はい はい はい（「はい」に合わせて、指を1本ずつ広げる）
忙しい指さんは言いました
2. 靴、帽子、手袋など、体を守ってくれるものを用意する。それぞれがどのように体を守ってくれるか説明させる（例えば、靴は足を守る、帽子は寒さから頭を守ったり、太陽の光から目を守ったりする）。わたしたちが両親に従うとき、同じように守られることを話す。規則がどのようにわたしたちを守ってくれるか、幾つか例を挙げて話す。
3. 手を前に出して、指を動かす様子を見せる。子供たちにも手を前に出させ、指を動かしたり手を開いたり閉じたりさせる。自分の手や指を動かせるのは、自分だけである。何かをするように言われたとき、わたしたちは自分の手に従うように命じることができる。そうするときに、心の中でよい気持ちを感じる。
4. 教師の言葉に合わせて、次のような動作をさせる。
大好きな手
大好きな手 それはわたしの友達です（手を前に伸ばして眺める）
一日中忙しく働いて役に立ちます（手でする仕事を幾つかまねする）
静かに手を組んだり たたいたりすると大きな音も出ます（手を組んだ後、手をたたく）
手で正しいことができるとうれしくなります

目的 間違っただけの行いをしたら、「ごめんなさい」と謝り、過ちを正そうと努める必要があることを理解する。

準備

1. 祈りの気持ちでモーサヤ27：8-37を研究する。
2. 教材
 - a. モルモン書
 - b. ポケットに入るくらいのおもちゃ
3. 「楽しい活動」の中で使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 子供たちがレッスンのために部屋に入って来るときか、集まって来るときに、教室の準備やレッスンの準備をしながら、わざと次のような間違いをする。

- 床に何かを落とす。
 - いすを反対に置く。
 - 絵を逆さまにはる。
 - 黒板や紙に何かを書き始め、それを消したり、上から線を引いたりする。
- 間違える度に「ごめんなさい、間違えました」と言い、間違いを正す。
間違いに全部気がついたかどうか子供たちに聞く。だれもが間違いをすることを話す。

わたしたちは時々間違いをする

わたしたちは、成長して正しい選びについて学ぶ中で、時々間違っただけの選択をする。絵を逆さまにはるといふような間違いではなく、天父やイエス、そして両親がわたしたちにしてほしくないと思うような悪い行いをすることも。悪い選択によって、自分や周りの人が悲しむ。

物語 次の物語を自分の言葉で話す。物語に合わせて、小さなおもちゃを使うとよい。

進君は健太君の家で、一緒に楽しく遊んでいました。進君は健太君のおもちゃがとても気に入って、みんな自分のおもちゃだったらしいのと思いました。健太君のおもちゃを借りようと思った進君は、健太君に聞かずに自分のポケットに入れてしまいました。進君は家に帰り、そのおもちゃで遊んでいましたが、ちっとも楽しくありません。お母さんは進君に、「どうしたの。つまらなそうね」と尋ねました。進君はお母さんに、「健太君のおもちゃを黙って借りちゃったから、嫌な気持ちになるんだ」と答えました。進君のお母さんは、「ほかの人のものを黙って持って来るのは悪いことよ」と言いました。そして「どうしたら間違いを正せると思う」と聞きました。進君はおもちゃを返したいと思いましたが、健太君に怒られるのではないかと心配でした。進君のお母さんは、「たとえ健太君が怒ったとしても、おもちゃを返すのはやっぱり正しいことね」と言いました。そして、健太君に「ごめんなさい」と謝ったら、過ちから来る嫌な気持ちがなくなると教えてくれました。

進君は健太君におもちゃを返しました。「黙っておもちゃを持って行ってごめんなさい」と謝り、「もう絶対しないよ」と約束しました。健太君は進君がおもちゃを返してくれたので喜びました。進君はほんとうのことを言って、自分のした過ちを正すことができうれしくなりました。(パット・グラハム “Travis Repents” *Friend*, 1987年3月号, 40-41より翻案)

- 進君はどんな間違いをしましたか。
- 進君は、健太君のおもちゃを取ったとき、どんな気持ちになりましたか。
間違っただけをしようと、嫌な気持ちになることを話す。これは自分の過ちに気づかせるための天父の方法の一つである。
- 進君は嫌な気持ちをなくすために何をしましたか。
- 進君は、健太君におもちゃを返して謝ったとき、どんな気持ちになりましたか。

「ごめんなさい」を言う大切さ

- 間違っただけをしようと、どんな気持ちになりますか。
- 嫌な気持ちをなくすためには、どうしたらよいですか。
子供たちに以下の点を理解させる。間違いに気づいたら、それを認めて「ごめんなさい」と謝らなければならない。また、間違いを正し、二度としないと約束する必要がある。

活動

子供たちを立たせ、次の遊戯を一緒に行う。
 間違っただけをしたら（指を左右に振る）
 「ごめんなさい」と言います
 間違っただけをしようと
 とても悲しい気持ちになります（指で口の端を下げ、悲しい顔をする）
 でも、一生懸命頑張っても、
 善いことをします（両手を腰に当て、うなづく）
 正しいことをしたら（腕を組み、うなづく）
 幸せになります（ほほえむ）

物語

間違いを正すためにできる限りのことをする

モルモン書を見せる。モルモン書には、過ちを犯した人の話が記されていることを話す。モルモン書を開き、モーサヤ27：8-37に書かれているアルマの物語を話す。アルマは父親に聞き従おうとしなかった。天父とイエスにも背き、間違っただけをたくさんした。また、教会について真実でない話を人々に告げた。たくさんの人がアルマの言葉を信じて、教会の指導者の話を聞くようしなかった。

アルマは間違っただけを改め、正しい行いをするようになった。人々に真理を伝えて、自分のした間違いを正そうと努力した。

- アルマは自分が間違っていると気づいたとき、どんな気持ちになったと思いますか（モーサヤ27：29参照）。
- アルマは自分のした間違いを正すために、どんなことをしましたか（モーサヤ27：32, 35-36参照）。
- 人々に真理を教え始めたとき、アルマはどんな気持ちになりましたか。
- 間違っただけをしたとき、それを正そうとする必要があるのはなぜですか。

自分が「ごめんなさい」と謝ったときの経験について短く話す。そのとき感じた気持ちや、自分の間違いを正すためにどんなことをしたか話す。

自分の間違いに気づいたとき、何をすべきか復習する。

1. 間違いを認める。
2. 「ごめんなさい」と謝る。
3. もう二度としないと約束する。
4. 間違いを正すためにできる限りの努力をする。

これらの4つの段階は「悔い改め」と呼ばれていることを話す。天父とイエスは、わたしたちが自分の間違いを悔い改めるとき、喜んでくださる。

以下のような場合、どのように悔い改めの4つの段階に従えるか考えさせる。

- 人の物を取ってしまったときは、どうしたらよいですか。

- 意地悪なことを言ってしまったときは、どうしたらよいですか。
- お父さんやお母さんにうそをついてしまったときは、どうしたらよいですか。
- だれかを押して転ばせてしまったときは、どうしたらよいですか。

わたしたちが間違っただけをしても、天父とイエスはわたしたちを愛してくださることについて証する。間違っただけをしたとき、「ごめんなさい」と謝り、二度と同じ間違いをしないように努力するなら、幸せになれると話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 粘土を少しずつ全員に渡す。子供たちの前で、粘土を丸めて玉を作り、それを平らにつぶして見せる。子供たちが粘土を平らにできたら、その上に笑った顔を描かせ、「ごめんなさい」と言うときよい気持ちになると話す（簡単な粘土の作り方は本書のxvページを参照）。
2. 全員に紙とクレヨンまたは鉛筆を配る。笑った顔を描かせ、「ごめんなさいをいうとしあわせになれる」と書き入れる。
3. 「福音の教えよく守りましょう」（『子供の歌集』、72）を歌うか、歌詞を読む。

幼い子供のための活動

1. うっかりしたふりをして、クレヨンなど、小さいものが入ったケースを落とす。「クレヨンを落としてごめんなさい」と謝り、どうしたらいいと思うかと尋ねる。落としたものを片付けながら、床をきれいにすると、もっとよい気持ちになると話す。子供たちに一緒に片付けてもらう。
わたしたちは時々、自分やほかの人を悲しませるような行いをしてしまう。そういうときは、「ごめんなさい」と謝り、間違いを正す努力をしなければならない。片付けを手伝ってくれたことを子供たちに感謝し、ほかの人を助けるとき、よい気持ちになると話す。
2. 「すべての人を愛しなさい」（『子供の歌集』、39）を歌うか、歌詞を読む。
3. 「いりおもてやまねこ」のような長くて言いにくい言葉を言わせる。言うのが難しい言葉もあることを話す。間違っただけをしたとき、「ごめんなさい」というのが難しいこともあるが、この言葉を言えば悲しい気持ちをよい気持ちに変えることができると説明する。
4. 二人で遊んでいた美香ちゃんと綾ちゃんの話をする。美香ちゃんは綾ちゃんにぶつかってしまったので、「ごめんなさい」と謝り、綾ちゃんがよい気持ちになれるようにした。悲しい気持ちをよい気持ちに変えられることを物語の中で話す。第21課で使った「笑った顔」と「しかめっ面」を使い、子供にそれを持たせて、物語の中に出て来る子供の気持ちに合わせて絵の向きを変えさせる。

目的

人を赦す^{ゆる}ように励ます。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世37：12-28；41：38-43；42：1-8；45：1-15；マタイ18：21-22；ルカ23：33-34。
2. 小さな紙片を準備し、それぞれに次のような文を書いておく。
 - ともだちがおしたので、あなたはころんでしまいました。
 - ともだちがあそびにいれてくれません。
 - ともだちがあなたのおもちゃをこわしてしまいました。
 - ともだちにわるぐちをいわれました。
 - ともだちがあなたのおもちゃをこわしてしまいました、かえしてくれません。
 全員に1枚ずつ渡せるように人数分用意する。(必要ならば、このほかにも状況を考える。)「ゆるしのはこ」と書いた箱に紙を入れておく。
3. 教材
 - a. 聖書
 - b. 視覚資料1-47「けんかをする子供たち」；1-57「兄たちに売られるヨセフ」(『福音の視覚資料』セット109)；1-58「兄たちに自分を明かすヨセフ」；1-59「十字架」(同230)
4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン

一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入

視覚資料1-47「けんかをする子供たち」を見せる。

- この子供たちは何をしていますか。
- どうしてけんかをしていると思いますか。
- どんな気持ちだと思いますか。
- けんかをやめて楽しい気持ちになるには、お互いに何と言ったらいでしょうか。

前の課で「ごめんなさい」と言うことは、とても大切だと勉強したことを復習する。子供たちに、「ごめんなさい」と言った後に、お互いに赦し合わなければならないことを説明する。これは、互いに怒るのをやめて、仲直りすることである。前の課で出てきた進君と健太君の話の思い出させる。進君はおもちゃを取ってしまった健太君のことを赦した。そして仲直りした。

ヨセフは兄たちを赦した

視覚資料1-57「兄たちに売られるヨセフ」を見せる。創世37：12-28を参照して、エジプトに売られたヨセフの物語を話す。

- ヨセフは、兄たちにエジプトに奴隷として売られてしまったとき、どんな気持ちだったと思いますか。

ヨセフはエジプトでとても偉い人になったことを話す(創世41：38-43参照)。長い年月がたつて、ヨセフの兄たちは自分の国に十分な食糧がなくなったため、食糧を求めてエジプトにやって来た。そこで彼らはヨセフがまだ生きていて、エジプトで高い位に就いていることを知った(創世42：1-8；45：1-15参照)。

視覚資料1-58「兄たちに自分を明かすヨセフ」を見せる。

物語

- 再び兄たちに来て、ヨセフはどんな気持ちだったと思いますか（創世45：14-15参照）。
- ヨセフは兄たちのことを怒っていましたか（創世45：5参照）。
- ヨセフの兄たちはヨセフにどんな気持ちを抱いたと思いますか。
- ヨセフは兄たちを赦したことをどのように伝えましたか（創世45：5-15参照）。

活動

子供の一人がヨセフになり、ほかの子供たちはヨセフの兄たちになる。兄たちと再会し、彼らを赦したヨセフの物語を演じさせる。

イエスは人を赦すように言われた

聖書を手に取り、聖書にはイエスが人を赦すように言われたことが書かれていると話す。イエスの一人の弟子が、人を赦すことについてイエスに尋ねた（マタイ18：21-22参照）。イエスは、いつも人を赦さなければならないと答えられた。聖書には、イエスも人々を赦されたことが書かれている。

視覚資料1-59「十字架」を見せる。兵士たちはイエスにとってもひどいことをした。イエスを打ちたたき、つばきを吐きかけた。そしてイエスの手と足に釘を打ちつけて十字架にかけ、殺した。イエスはその兵士たちを赦されたことを話す。彼らがしたことに対して、イエスは怒ることをされなかった。（この物語を話すとき、あまり感情を込めて話しすぎないように注意する。イエスを傷つけた人々がいたという事実で動揺する子供がいるかもしれない。）

ルカ23：34を開き、イエスは死ぬ直前に、「父よ、彼らをおゆるしてください」と天父に祈られたことを話す。イエスの言葉を子供たちに何回か繰り返して言わせる。

- 兵士たちはイエス様にひどいことをしましたが、イエス様はどうされましたか。
- だれかがあなたを怒らせたり、悲しい気持ちにさせたりしたとき、イエス様はあなたにどうしてほしいと思っておられるでしょうか。

活動

教師のすることをすべて、まねさせる。立つ、体を伸ばす、ほほえむ、座る、腕を組むなど、すべて同じようにさせる。子供たちは教師のするとおりにしたので、教師に従っていたと説明する。だれかに従うとは、その人と同じ行為をすることである。わたしたちは人を赦すとき、イエスに従っていることになる。イエスと同じことをしているからである。だれかにかがっかりさせられたり、悲しい気持ちにさせられたりしても、イエスはわたしたちにその人を赦すように望んでおられる。

わたしたちは人を赦せる

活動

「ゆるしのはこ」を見せ、順番に中の紙を1枚ずつ取らせる。

紙に書かれたことを読み、次のような質問をする。

- 前にこんなことがありましたか。
- どんな気持ちがすると思いますか。
- あなたを怒らせた人や、悲しい気持ちにさせた人は、あなたに何と言わなければなりませんか。
- 優しくしてくれなかった人や、あなたを怒らせた人、悲しい気持ちにさせた人に、どのようなことを言うべきでしょうか、またすべきでしょうか。

人を赦したときの経験について、またそのとき感じた気持ちについて話す。天父とイエスが、人を赦すように望んでおられることを理解させる。

歌

「人をゆるせるように」（『子供の歌集』、52）を歌うか、歌詞を読む。

おとうさますけたまえ
ふしんせつなひとをもゆるして
あなたにちかくすむように

あかし証

天父とイエスが、人を赦すように望んでおられることを証する。人を赦せるように天父に助けを祈り求めるよう子供たちを励ます。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. ルカ15：11－32に書かれている放蕩息子^{ほうとう息子}の物語を話す。視覚資料1－49「放蕩息子」を見せる。父親は息子を愛していたので赦したことを理解させる。
2. 次の指遊びを子供たちと一緒に行う。

二人の小さな友達が 一人は左 一人は右（握りこぶしを作って、両手を上げる）
 口げんかから大げんか（両方の握りこぶしを揺らすようにする）
 それから二人は一日中 嫌な気持ちになりました
 正しい遊び方を教えられ
 一人は恥ずかしくってうつむいた（右手首を曲げて、反対の方を向ける）
 残りの一人も同じこと まったく同じ気持ちになったから（左手首を曲げて 反対を向ける）
 初めの一人が言いました 「どうすればいいか分かったよ（手をたたく）
 ごめんなさい、わたしを赦してくださいね」
 もう一人も言いました 「わたしの方こそ ごめんなさい
 さあ、一緒に楽しく遊びましょう」（腕を組んで座る）
3. 簡単なバッジを作り、全員が着けて家に帰れるようにする。バッジに「わたしはひとをゆるすことができます」と書く。

幼い子供のための活動

1. 第29課の二人の子供が遊んでいた話をもう一度する（「幼い子供のための活動」4参照）。綾ちゃんは、美香ちゃんをどのように赦したか話す。
2. 「すべての人を愛しなさい」（『子供の歌集』, 39）、あるいは「光となるように」（『賛美歌』188番, 『子供の歌集』, 38）を歌うか、歌詞を読む。
3. 「幸せなら手をたたこう」（『子供の歌集』, 125）を歌うか、歌詞を読む。不親切な人を赦すならば、幸せな気持ちになれることを子供たちに説明する。

目的 自分がある家があることに感謝し、家を大切にできるようにする。

- 準備**
1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。1ニーファイ2：2-6；17：7-8；18：6，23。
 2. 教材
 - a. モルモン書
 - b. 水の入った容器と土の入った容器，小さな枝を1本。湖，地面，木の絵を用意してもよい。
 - c. 紙とクレヨン，または鉛筆
 - d. 視覚資料1-60「約束の地に着くリーハイとその民」（『福音の視覚資料セット』304）；1-61「1846年2月から5月までのノーブー脱出」（同410）
 3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び，必要な準備をする。
-

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

- 導入**
- 水の入った容器，あるいは水の絵を見せ，水中に巣を作る動物にどんなものがあるか聞く。子供たちができるだけ多くの名前を言えるように助ける。土と枝を見せ，地中や木の上に巣を作る動物には，どんなものがあるか答えさせる。
- 水の中に皆さんのおうちがあったら，どんなだと思いますか。
 - 皆さんのおうちが木の上にあったら，どうなると思いますか。

たくさんの種類の家がある

動物や昆虫はいろいろな種類の巣に住んでいることを説明する。人間の住む家にもたくさんの種類がある。

- 物語**
- 視覚資料1-60「約束の地に着くリーハイとその民」とモルモン書を見せながら，リーハイとその家族がどんな家に住んでいたか話す（1ニーファイ2：2-6；17：7-8；18：6，23参照）。リーハイとその家族は，エルサレムにいたときは居心地のよい家に住んでいた。しかし，主からエルサレムを去るように命じられてから，砂漠を旅し，天幕で生活した。何年もたった後，主はリーハイの息子，ニーファイに船を造るように命じられた。リーハイとその家族は，天父とイエスが彼らのために用意してくださった約束の地に着くまでの間，船の中で生活した。約束の地に着いた後も，きちんとした家を建てるまで，再び天幕で暮らした。
- リーハイとその家族は，どんな家に暮らしましたか。

- 物語**
- 視覚資料1-61「1846年2月から5月までのノーブー脱出」を見せる。教会の初期の聖徒たちがノーブーという町をつくったことについて話す。彼らは熱心に働いて，自分の家や美しい神殿を建てた。しかし，ノーブーの近くに住んでいた人々の中には，教会員を嫌い，追い出そうとする人もいた。教会員は手車に身の回りのもので載せて，町を出た。手車は小さかったので，多くの子供たちが自分のおもちゃを置いて行かなければならなかった。長い間，多くの人々が幌馬車やテントの中で暮らさなければならなかった。
- 幌馬車やテントで暮らすのは，どうして大変ですか。

活 動

子供たちを立たせて、次の遊戯を行う。
 開拓者の子供たちはお話をしながら歩きました（その場所で歩く）
 それからゲームをして スキップをして跳ねました（その場所で跳びはねる）
 夜になると お星様がキラキラ光りました（手を閉じたり開いたりする）
 子供たちは幌馬車の中で眠り 夢を見ました（目をつぶり、両手を合わせて頬に付ける）

わたしたちは家でたくさんの愛を受ける

どんな家に住むかは大切ではないことを話す。わたしたちは大きな家や小さな家、アパート、テント、ボートなど、いろいろな種類の家に住んでいる。大切なのは、家は家族が互いに愛し合う場所になることである。教師自身の家について話し、家を愛ある家庭にするために、どのような努力をしているか話す。

- 皆さんはどうして家にいるのが好きですか。
- 家族から愛されていることは、どうして分かりますか。
- 家から遠く離れた所に泊まったことがありますか。
- どこに泊まりましたか。
- 自分の家に帰って来たとき、どんな気持ちになりましたか。
家に帰って自分の布団に入ったときの、よい気持ちを思い出させる。

歌

子供たちを立たせ、次の「家庭」（“Home” *Children’s Songbook* [英文], 192）を歌うか歌詞を言う。「家庭」という言葉が出てきたら、自分を抱き締める動作をさせる。繰り返して、子供たちに一緒に歌詞を言わせてもよい。

かていには あいの きずながあり
 あたたかい わをつくり ともにすむ

(©1975 by Sonos Music, Orem, Utah. All rights reserved. Used by permission.)

家族が家を大切にすることを手伝う

家を住み心地のよい場所にするには、手入れが必要であることを説明する。家をいつもきれいで気持ちのよい場所にするため、家族全員が手伝う必要がある。

活 動

家をきれいで気持ちのよい場所にするために、子供たちにできることのまねをさせる。おもちゃを片付ける、床を掃除する、服を畳んで片付ける、など。

子供たちを一人ずつ呼んで、教師の横に立たせる。家の手伝いができるような状況を一人一人に話す。その状況でどんな手伝いができるか答えさせる。次に挙げる例を使うか、子供たちに合った状況を教師が考える。

- うっかりしてコップの水を床にこぼしてしまいました。どうしたらいいでしょう。
- お昼の後ずっと、ブロックで遊びました。もう御飯の時間です。ブロックをどうしたらいいですか。
- お母さんが夕飯をテーブルに並べていて、とても忙しそうです。家族みんなで御飯を食べられるように、だれかに手伝ってほしいと思っています。あなたはどんなことができますか。
- あなたの服が洗濯してきれいに畳んであります。それをどうしたらいいでしょう。
- ずっと外で遊んできて、靴が泥だらけです。家に入る前に、どうしなければなりませんか。
- 朝起きたとき、布団がメチャクチャになっています。どうしたらいいですか。

家をきれいで気持ちのよい場所にしていくために、どんなことができるか話し合う。家をきれいで気持ちよくしておくために、あなたがしていることを話す。

活 動

全員に紙とクレヨンまたは鉛筆を渡し、今週家で手伝えることの絵を描かせる。それぞれの絵に「わたしはいえにかんしゃします」と書き入れる。

家について感じていることや、天父とイエスが家を与えてくださったことに対する感謝の気持ちを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 家庭で普通に見る品物を幾つか袋に入れておく（少なくとも子供の人数分）。子供たちに袋から一つを取らせ、家の手伝いをするためにそれをどのように使うか話させる。（例）ぞうきん、ふきん——ほこりをふいたり皿をふいたりする。はし——食事のときにテーブルに置く。おもちゃ——部屋を掃除するとき片付ける。
2. 「楽しいな」（『子供の歌集』、129）の歌を「布団を敷くのはララ楽しいな」や、「お皿を並べるのは楽しいな」などと歌詞を替え、それに合わせて動作をつけながら歌うか、歌詞を言う。
3. 子供の手の形を紙にかたどり、家に持って帰らせる。それぞれに「わたしのてはおてつだいができます」と書き入れる。自分の手を使ってどんなことができるか話し合う。
4. 子供たちのいすを幌馬車に見立て、開拓者が夜の間幌馬車で輪を作り、悪意ある人々や野生の動物から身を守ったように、いすを輪に並べさせる。キャンプファイヤーをし、夕飯を作り、夕飯の後歌い、踊り、馬車（いす）に上がって眠るまねをさせる。
5. いろいろな種類の家の写真を持って来るか、あるいは黒板や紙に描く。それぞれの家が何でできているか、そこに住んだらどんな感じが話し合わせる。テント、イグルー（氷の家）、城、高床式の家などを入れるとよい。

幼い子供のための活動

1. 「お手伝い」（『子供の歌集』、108）を歌うか、歌詞を読む。子供たちに家庭の中でできるお手伝いのまねをさせる。
2. 以下の指遊びをさせる。

忙しい指さん（こぶしを握って上に上げる）
お父様に従えるように助けてくれる？
はい はい はい はい はい（「はい」に合わせて、指を1本ずつ広げる）
忙しい指さんは言いました

目的	食べ物や着る物への感謝の気持ちを表す。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世1：11-12；列王上17：8-16。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 種のある果物か野菜c. お手玉など小さく柔らかい物d. 切り抜き絵1-5「魚」；1-7「豚」；1-8「羊」；1-9「牛」；1-22「鶏」（『初等協会視覚資料（切り抜き用セット）』〔08456〕の中にも同様のものがある）；あるいは食べ物や着る物を与えてくれる動物の絵。e. 視覚資料1-15「食事の祝福」；1-50「自分で服を着られます」3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>空欄に朝食によく食べる物を入れて、それぞれの指示を与える。</p> <p>朝御飯に_____を食べるのが好きな人は、右手を上げてください。</p> <p>朝御飯に_____を食べるのが好きな人は、左手を上げてください。</p> <p>朝御飯に_____を食べるのが好きな人は、立ってください。</p> <p>それぞれの子供たちの好きなものが少なくとも一つは出るまで続ける。次に「皆さんの食べる物を与えてくださる天のお父様に感謝している人は、座って腕を組んでください」と言う。</p> <p>植物や動物を食べ物にする</p> <ul style="list-style-type: none">●ほかにどんな食べ物が好きですか。●どこで食べ物を手に入れますか。●わたしたちが食べる植物や動物はどなたが造って下さいましたか。 <p>幾つかの食べ物について、それがどこから来るものか話す。植物から多くの食べ物が作られることを説明する。</p> <p>果物か野菜を切り、中の種を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none">●これは何ですか。●どうして種があるのでしょうか。 <p>天父は植物に種があるように造られ、種からもっと多くの植物が育ち、わたしたちの食糧になるようにして下さった（創世1：11-12参照）。果物や野菜など、植物が育つと、さらに多くの種ができる。</p>
活動	<p>次の遊戯を子供たちと一緒に行う。</p> <p>種は土の中</p> <p>種は土の奥深く（かがんで、両手を床に付ける）</p> <p>土の中で 眠ります（両方の手のひらを合わせる）</p> <p>真っ赤な太陽が輝いています（両腕で頭の上で輪を作る）</p> <p>雨が優しく降ってきました（指を動かしながら下ろす）</p>

そよ風が吹きました（頭の上で手をなびかせる）

小さな種もだんだん大きくなりました（指を動かしながら、床から上げる）

- 種を植えるのを手伝ったことがありますか。
- 何の種を植えましたか。
- 植物から取れる食べ物にはどんなものがありますか。

果物、野菜、穀物の種類を幾つか答えさせる。パンや御飯は穀物からできていることを説明する。果物や野菜や穀物に育つ種を与えてくださった天父に、どんなに感謝しているか話す。

もう一度種を見せる。

- 種が育つためには、何が必要ですか。

物語

列王上17：8-16に書かれている、エリヤとザレパテのやもめの物語を話す。雨が全然降らなかったために、食べ物が足りなかったことを理解させる。水をもたらず雨が降らないと、何の食べ物も育たない。

- 食べ物が全然なかったらどんな気持ちがするでしょうか。
- 自分の持っていたほんの少しの食べ物をエリヤにも分けたやもめは、どんな祝福を受けましたか（列王上17：15-16参照）。

植物からできているのではない食べ物もあることを説明する。

- 牛乳はどこから来ますか。
- 卵はどこから来ますか。
- 肉はどこから来ますか。

食べ物の中には動物から得られるものもあることを説明する。適切な切り抜きや絵を使い、食べ物となる動物について話す。

植物や動物を使って着る物を作る

植物や動物から得られるのは食べ物だけでないことを説明する。視覚資料1-50「自分で服が着られます」を見せる。

- この男の子は何をしていますか。
- 皆さんは服を着るとき、どんな物を体に着けますか。

活動

シャツやドレス、靴、コート、帽子などを身に着けるまねをさせる。

- どうして着る物が必要なのですか。（体を覆うため、体を守るため、寒いとき暖かくするため。）
- 着る物は何からできていますか。

子供たちが服の素材の名前を挙げることができれば、それらが何からできているか答えさせる。服や靴を作るための材料は、植物や動物から取っていることを説明する。一般に服に使われる素材のもとになる植物や動物にはどんなものがあるか話す。（例）綿、リネン——植物、絹——蚕、毛——羊、革——牛など。

食べ物や着る物に感謝する

活動

どんな食べ物に感謝しているか考えさせる。お手玉か柔らかい物を一人に投げ、感謝している食べ物の名前を言わせ、それを投げ返させる。その食べ物が何からできているか話し合ってから、次の子供にお手玉を投げ、同じことを繰り返す。それぞれの植物や動物が、天父の指示の下に、イエスによって造られたものであることを思い出させる。

次に、食べ物を着る物に替えて、同じ活動を行う。

視覚資料1-15「食事の祝福」を見せる。

- 食べ物が与えられていることを、どなたに感謝しますか。
- 着る物が与えられていることを、どなたに感謝しますか。
- 天のお父様への感謝を、どのように表すことができますか。（一つの方法は、日々の祈りの中で感謝すること。）

着る物や食べ物を与えてくださった天父とイエスへの感謝の気持ちを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 紙の真ん中に縦の線を引き、上の方に「わたしのかんしゃしているもの」と書いた紙を全員に渡す。線の片側には食べ物の絵、もう一方の側には着る物の絵を描かせる。
2. 「感謝しますお父様」(『子供の歌集』, 15) の1番と2番を歌うか、歌詞を言う。
3. 子供たちに種になったつもりにさせる。土の中に埋められたように低くかがませ、次に太陽が照り、雨が優しく降るにつれて、ゆっくりと伸びる。子供たちに順番に太陽と雨の役をやらせてもよい。
4. 果物か野菜を持って来て、少しずつ分けて食べさせる。その果物か野菜がどのような種からできて、どのような植物から取れたものか話す。(その果物か野菜にアレルギーがないことを、子供たちの両親に確かめておく。)
5. 子供たちのよく知っている食べ物について名前を言わずに説明し、それが何か当てさせる。(例)「この食べ物は外側が白や茶色で、殻に入っています。巣の中にあります。これは何でしょう。(答え— 卵) 好きなだけ繰り返す。説明する食べ物を持って来てもよい。
6. セーター、コート、帽子など身に着けるものを持って来て、感謝している着る物について教師が話す間、子供たちに自分で着させる。

幼い子供のための活動

1. 「感謝のいのり」(『子供の歌集』, 18) を歌うか、歌詞を言う。
2. 教師が次の遊戯の言葉を言う間、子供たちに服を着るまねをさせる。

着替え

さあさ皆さん ズボンをはきましょ

ズボンをはきましょ いち にい さん

さあさ皆さん スカートををはきましょ

スカートををはきましょ いち にい さん

さあさ皆さん シャツを着ましょ

シャツを着ましょ いち にい さん

さあさ皆さん 靴下をはきましょ

靴下をはきましょ いち にい さん

さあさ皆さん 靴をはきましょ

靴をはきましょ いち にい さん

みんな着替えができました 上手に上手にできました(手をたたく)

さあさ遊びに行きましょ

目的 子供たちが良い友達になりたいと思うよう助ける。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ヨハネ6：1-13；11：1-7，17-44。
2. 教材
 - a. 聖書
 - b. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」（『福音の視覚資料セット』240）
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入

自分を指さして、「わたしはだれでしょう」と聞く。子供たちは教師の名前を言うか「先生」と答えるであろう。教師が子供たちの友達であること、また子供たちは教師の友達であることを話す。友達とは、お互いに好き合っている人々のことだと説明する。

子供たちと輪になる。子供を一人ずつ見ながら「(子供の名前) ちゃんはわたしの友達です」と言う。これを子供たちに順番に言わせ、一人一人が全員の名前を言うようにする。

たくさんの友達がいる

- お友達はだれですか。

自分の友達について話させる。どんな年齢の人とでも友達になれることを話す。家族がわたしたちのいちばんの友達ということもある。クラスみんなが友達であることを強調する。

視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せる。この絵に描かれた人は、クラス全員のとても良い友達であると説明する。

- この絵に描かれているわたしたちの友達は、どなたですか。
- どうしてイエス様が皆さんの友達であると分かりますか。

歌

「イエス様は友達」（『子供の歌集』、37）を歌う、あるいは歌詞を言う。

イエスさまともだち
そばにいて
たすけてくれる
いのるこを

物語

ヨハネ11：1-7，17-44を参照して、イエスが死んだラザロをよみがえらせた物語を話す。ラザロと二人の姉妹は、イエスの友達だったことを強調する。イエスはベタニヤで彼らの家に泊まり、食事を共にされた。

- イエス様はラザロのことを、どのように思っていたらっしゃいましたか（ヨハネ11：3，35-36参照）。
- イエス様はラザロのためにどんなことをされましたか（ヨハネ11：43-44参照）。
- ラザロ、マリヤ、マルタは、イエス様にどんな気持ちを感じていたと思いますか。

わたしたちは良い友達になれる

- わたしたちは友達にどのようにしなければなりませんか。

良い友達とは、お互いに善いことをするように助け合うことを強調する。わたしたちは友達のことを思いやって、幸せになってほしいと願う。自分が人からしてほしいと思うことを、自分もほかの人にしてあげることの大切さについて話し合う。次のような状況の下で、どうしたら良い友達になれるか答えさせる。

- 友達と遊んでいると、ほかの子が来て、一緒に遊びたいと言いました。
- 初めてクラスに来た子が恥ずかしがって、心配そうにしています。
- だれかが、みんなにいじめられて困っています。

歌 「だれにでも親切に」(“Kindness Begins with Me” *Children’s Songbook* [英文], 145) を歌うか、歌詞を読む。

よいことをしたいと いつもおもう
だれにでも しんせつに ひびわすれずに

- 友達から優しくされると、どんな気持ちになりますか。
- あなたが友達に優しくすると、友達はどんな気持ちがすると思いますか。
友達が欲しかったら、自分から良い友達にならなければならないことを理解させる。

友達はお互いに分かち合う

- 皆さんが(おもちゃなど、特定の名前を挙げる)で遊んでいたとき、友達が遊びに来ました。皆さんはどうしますか。
ほかの人と一緒に遊んだり、自分のものをほかの人に分けたりすることは、分かち合うことである。分けられない物もあるので、そのときは順番に使う。これも分かち合いである。
- もし友達がおなかをすかせていて、自分は食べ物を持っていたら、どうしますか。

物語 聖書を見せ、ヨハネ6:1-13に書かれている、イエスが5,000人の人々に食べ物を与えられた物語を話す。男の子が自分の食べ物を分かち合ってくれたので、イエスは御自分の力を使ってすべての人々に十分な食べ物を作られたことを強調する。

エリヤとザレパテのやもめの物語を思い出させる(第32課)。やもめは、ほんの少しの食べ物を分かち合ったので祝福を受けた。

- わたしたちはどんなものを友達と分かち合えますか。
- わたしたちはどんなものを家族と分かち合えますか。

歌 子供たちを立たせ、「楽しいな」(『子供の歌集』, 129)の歌を、「おもちゃを貸すのはララ楽しいな」(ほかに、本、あるいは子供たちの考えたものを使う)に換えて歌わせる。言葉に合わせて動作をつけさせる。

おもちゃを貸すのは
ララ楽しいな
おもちゃを貸すのは
おもしろいな

(©1963 by D. C. Heath and Company. Reprinted by permission.)

友達は助け合うことを子供たちに思い出させ、教室を片付けるのを助け合うように励ます。

あかし
証

良い友達になることの大切さについて証する。自分の友達について証してもよい。天父とイエスはわたしたちの友達であり、わたしたちを愛しておられることを思い出させる。今週友達に優しくするように子供たちを励ます。

楽しい活動 次の中からレッスンで使うものを選ぶ。

1. 「小さな川が」(『子供の歌集』, 116), あるいは「すべての人を愛しなさい」(『子供の歌集』, 39)を歌うか、歌詞を読む。

2. 子供たちを立たせて、次の遊戯を行う。

大好きなお友達

わたしには大好きなお友達があります（自分を抱き締める）

いつも一緒に遊びます

わたしは優しいお友達が大好きです

お人形ごっこや（腕に人形を抱いて揺するまねをする）

ボール投げをします（ボールを投げるまねをする）

兵隊さんのように行進します（その場所で静かに歩く）

ブランコにも乗ります（ブランコに乗るまねをする）

良い子のお友達がみんなするように（腕を組み、うなづく）

お話ししたり歌ったりします

3. お菓子を少し用意する。（そのお菓子にアレルギーを持つ子供がいないことを両親に確かめておく。）子供たちから見える所にお菓子を置く。「おいしそうだね」と言い、みんなに分けてほしいかどうかを聞く。もし子供たちの何人かにだけお菓子を分けたら、どんな気持ちができるか尋ねる。もし自分がもらえなかったらどんな気持ちができるか話し合う。子供たちにお菓子を分け与える。
4. 友達と何かを分かち合っている自分の絵を描かせる。「わたしはおともだちとわかちあえます」と題を書き入れる。
5. 以下の実話を自分の言葉で話す。

銅のつま先の靴

開拓者たちがユタに移り住んで来たとき、ほとんどの人はとても貧乏でした。長い旅に必要な物を手に入れるために、また家や畑を作るための道具を買うために、お金を全部使い果たしてしまったのです。人々はお金があまりなかったので、子供たちは日曜日に履くための靴を1足持っているだけでした。ほかの日ははだしで歩いていました。

メリンダという開拓者の女の子が持っていた靴は、重くて、汚くて、つま先が銅でできていて、彼女は冬の間その靴を履きました。夏になってメリンダは新しい靴を買ってもらいました。新しい靴はきれいで履きやすくて、メリンダはその靴をパレードのときに履こうと思っていました。

メリンダのいちばんの友達のアマンダは、靴を1足も持っていませんでした。メリンダはアマンダがかわいそうだったので、お母さんに頼んで、自分の靴を1足アマンダに貸して、パレードに履いて行けるようにしました。メリンダが重い、銅のつま先の靴をアマンダに持って行こうとしたとき、お母さんはこう言いました。「自分が欲しいと思うものを友達に分かち合わなくてははいけませんよ。」

メリンダは少しの間、考え込みました。イエス様ならどうされるだろうかと考えました。自分だったらどちらの靴を履きたいだろうと考えて、そして貸してあげる靴を決めました。友達には新しい日曜日の靴を貸して、自分は古くて汚い、銅のつま先の靴を履いて行ったのです。でも、メリンダはとても幸せでした。イエス様が自分に望んでおられるとおりに、友達と分かち合うことができたからです。

幼い子供のための活動

1. 子供たちが遊べるようにおもちゃを用意して置いておく。「貸して」や「ありがとう」と言うことの大切さについて話し合う。遊んでいるとき、おもちゃを分かち合うように、また、遊び終わったときには一緒におもちゃを片付けるように励ます。
2. 教師が次の言葉を言い、子供たちに動作をさせる。子供たちの希望に合わせて繰り返す。

幸せな日にしよう

二つのおめでいいことをしましょう（目を指さす）

二つの唇で一日中ニコニコしましょう（大きな笑顔を作る）

二つのお耳で人の話を聞きましょう（手をおわん状にして耳に当てる）

二つのお手でのおもちゃを片付けましょう（おもちゃを拾い片付けるまねをする）

一つのお口で毎日優しい言葉を言いましょう（口を指さす）

一つの優しい心で遊びましょう（両手を胸に当てる）

二つの足で元気よく走りましょう（足を指さす）

みんなのために幸せな日にしましょう

3. 「小さな手」（『子供の歌集』，126）を歌うか，歌詞を読む。

目的 親かな言葉や行いを通して人々に愛を示せるように励ます。

- 準備**
1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マタイ7：12；マルコ10：13-16；ルカ10：30-37；ヨハネ13：34。
 2. 第19課に出てきた、イエスが盲人を癒された物語をもう一度読む（ヨハネ9：1-7参照）。
 3. 紙をハートの形に切ったものを人数分用意する。紙に「あいしています」と書いておく。
 4. 教材
 - a. 聖書
 - b. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」（『福音の視覚資料セット』240）；1-43「盲人を癒されるイエス」（同213）；1-48「積み木で遊ぶ子供たち」；1-62「良いサマリヤ人」（同218）
 5. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 視覚資料1-48「積み木で遊ぶ子供たち」を見せる。

- この子供たちは何をしていますか。
- この子供たちは友達同士だと思いますか。
- 友達はお互いにどのように接しますか。

友達はお互いに親切にすることを思い出させる。人に親切にするなら、その人に愛を示していることになる。

歌 「すべての人を愛しなさい」（『子供の歌集』、39）を次の動作をつけて歌うか、歌詞を読む。

イエスさま （両手を広げる）
 いいました （うなづく）
 すべてのひとを （両手を胸に当てる）
 あいしなさい （自分を抱き締める）

イエスは人々に親切にして愛を示された

視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せる。イエスはわたしたちに、自分にしてほしいと思うことを人にするように言われたことを話す。聖書を見せ、マタイ7：12を「人々にもそのとおりになせよ」まで読む。この聖句は、もし人に親切にしてほしいなら、自分も人に親切にしなければならぬ、という意味であることを説明する。

物語 視覚資料1-43「盲人を癒されるイエス」を見せる。絵から分かることを子供たちに考えさせながら、物語を話す（ヨハネ9：1-7参照）。

- イエス様は、この目の見えない人にどのように親切にしましたか。

物語 マルコ10：13-16を参照して、イエスが幼い子供たちを祝福された物語を話す。

- イエスは子供たちにどのように親切にしましたか。

イエスは生涯、人々を助け続けられたことを強調する。親切にすることによって、イエスは

人々に愛を示された。イエスがわたしたちに、互いに愛し合うようにという戒めを与えられたことを話す。ヨハネ13：34を読んで聞かせる。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」の部分で、子供たちに何度か後に続いて言わせる。

歌

子供たちと一緒に、「共に愛し合え」（『賛美歌』192番）を歌うか、歌詞を読む。

あたらしいしゅのおしえ

「みなともにあいしあえ」

しゅのよしはひかりとなれ

たがいにあいしあい

(©1961, 1989 by Luacine C. Fox. Used by permission.)

物語

人に親切にすることによって愛を示すことができる

視覚資料1-62「良いサマリヤ人」を見せ、ルカ10：30-37に書かれている良いサマリヤ人の物語を話す。

●このお話の中で、親切だったのはだれですか。

●けがをした人を助けるために、サマリヤ人はどんなことをしましたか。

ほかの人に親切にする方法を考えさせる。クラス全員で話し合わせる。

親しみにくい人や、自分と違って人に対して、親切にするのが難しい場合もあることを話す。だれにでも、人から親切にされる必要があることを理解させる。親しみにくかったり、自分と違って人に見える人（肌の色が違う人や障害を持つ人など）に対しても、わたしたちは親切にしなければならない。

家族に愛を示し、親切にすることの大切さについて話す。

●お父さんにどのように愛を示すことができますか。お母さんにはどうですか。きょうだいにはどうですか。

わたしたちが家族に親切にすると、家族が幸せになるだけでなく、天父やイエスも喜ばれることを強調する。

赤ちゃんや小さい子供は時々わたしたちの持ち物を取ったり、壊したりしてしまうことがあることを話す。小さい子供はまだ自分が何をしているのかよく分からないでやっていることを、子供たちに理解させる。わたしたちは小さい子供のことを怒らず、親切にしなければならない。壊されてしまうようなものは、小さな子供の手の届かない所に置くようにする。

●わたしたちはどうしたら、天のお父様やイエス様に愛を示すことができますか。

わたしたちは戒めを守り、教会で敬虔にし、周りの人を助け親切にすることによって、天父やイエス様に愛を示すことができる。この点を強調する。

優しい言葉で話すことによって愛を示すことができる

活動

子供たちに以下の指示をする。子供たちがそれぞれに従う度に、指示に従ったことを感謝する。

1. 立ってください。
2. 座ってください。
3. 立って、回ってください。座ってください。また立ってください。
4. 手を頭の上に高く上げてください。
5. 静かに座ってください。

●先生はどんな親切な言葉や、丁寧な言葉を使いましたか。

●人から「……してください」とか「ありがとう」とか言われるとき、どんな気持ちになりますか。もし人から優しい言葉で話してほしかったら、わたしたちも人に優しい言葉で話さなければならないことを理解させる。

「ごめんなさい」「すみません」「どうぞ」など、ほかの丁寧な表現を教え、どのようなときにそれを使うか話す。以下の質問か、地域の習慣に合った同じような質問をする。

●水が欲しいとき、どのように丁寧にお願いしますか。

- だれかからプレゼントをもらったとき、何と言いますか。
 - だれかに悲しい思いをさせてしまったときは、何と言いますか。
- 優しい言葉で話してくれない人がいても、わたしたちはその人に優しい言葉で話さなければならぬことを説明する。

歌

もう一度、「すべての人を愛しなさい」(『子供の歌集』, 39) を一緒に歌う。

あかし 証

子供たちの日ごろの親切な行いや言葉を褒める。天父とイエスはすべての人を愛しておられるので、わたしたちがお互いに親切にし合うのを見てとても喜んでくださることを話す。天父とイエスはわたしたちに、親切であるよう望んでおられることを証する。全員にハートの紙を渡す。ハートに何と書いてあるか教え、子供たちをととても愛していることを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

- 以下の文(自分で考えたものでもよい)を読み、その行いが親切で、人に愛を示すものならばハートを上げるようにさせる。その行いが親切でなく、人に愛を示すものでないときは、ハートをひざの上に載せたままにさせる。
 - ゲームをするとき、順番を守る。
 - 機嫌を悪くする。
 - けがをした子を助けてあげる。
 - 自分を怒らせた子をぶつ。
 - 教会で敬虔けいけんに歩く。
 - 「……してください」とか「ありがとう」と言う。
 - 人のためにドアを開けて待っていてあげる。
 - 教会で騒ぐ。
 - 掃除を手伝う。

わたしたちは人に親切にするとき、愛を示していることになり、天父とイエスはとても喜んでくださることを話す。
- 子供たちが人に親切にしたり、愛を示したりできる日常的な状況を考える。それぞれを紙に書いて、子供たちに1枚ずつ取らせる。状況を読み上げ、それを持っていた子供に、そういうときはどうしたらよいか言わせる。以下のような例を使うとよい。
 - 友達と一緒に遊んでいると、ほかの子が部屋に入って来ました。あなたはどうしますか。
 - 自分のおもちゃで遊んでいると、妹が来てそのおもちゃで遊びたいと言いました。あなたはどうしますか。
 - 弟はまだ赤ちゃんで、あなたの物を取ってしまいました。あなたはどうしますか。
- あなたのワードや地元の状況に合ったものを、以下の例から選んで使う、あるいは考える。障害を持つ人々に親切にし、愛を示すにはどうしたらよいか話し合う。障害を持つ人々を助けるための具体的な方法を子供たちに考えさせる。
 - 目の不自由な人に愛を示すにはどうしたらよいですか。
 - 耳の不自由な人に愛を示すにはどうしたらよいですか。
 - 車いすや松葉杖つえを使っている人に愛を示すにはどうしたらよいですか。
- 自分とは違った言葉話し、肌の色の違う人がいるが、すべての人は天父の子供であることを理解させる。わたしたちはすべての人に親切にしなければならない。自分がしてほしいと思うように、すべての人に接する必要がある。一人として同じ人はいないことを説明する。

幼い子供のための活動

- 「だれにでも親切に」(“Kindness Begins with Me” *Children’s Songbook* [英文], 145) を歌うか、歌詞を言う。
- 子供たちと一緒に、次の遊戯をする。
笑顔はみんなを明るくします(人差し指で口の両端を押し上げて笑顔を作る)

だから悲しくなったとき（人差し指で口の両端を下げて悲しい顔をする）

一生懸命笑います（人差し指で口の両端を押し上げて笑顔を作る）

すぐにうれしくなりますよ（両手を重ねて胸の上に置く）

（パット・グラハム “Feeling Glad” *Friend* 「うれしいな」『フレンド』1990年3月号，20
より翻案）

目的	動物に優しくすることの大切さを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。創世2：19-20；6-8。2. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 視覚資料1-28「創造——生き物」（『福音の視覚資料セット』100）；1-30「ノアと動物を積んだ箱舟」（同103）3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	子供たちのよく知っている動物のまねをする。何の動物のまねをしているか当てさせる。一人ずつ順番に動物のまねをさせ、ほかの子供たちに何の動物か当てさせる。
	アダムはそれぞれの動物に名前を付けた <p>天父の計画の下に、イエスが地球上のすべての動物、魚、鳥、昆虫を造られたことを思い出させる。聖書を見せ、聖典にはアダムがすべての動物に名前を付けたことが書かれていることを話す（創世2：19-20参照）。視覚資料1-28「創造——生き物」を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none">●この絵には、どんな動物が描かれていますか。名前を教えてください。（一人ずつ順番に、絵の動物を指さしながら名前を言わせる。）
物語	天父とイエスは動物に優しくするように望んでおられる <p>視覚資料1-30「ノアと動物を積んだ箱舟」を見せ、創世6-8章に書かれているノアの箱舟の物語を話す。すべての動物が少なくとも2匹ずつ洪水から救われたことを強調する。天父とイエスは動物を愛され、動物が地上に生き残るように望まれた。</p> <ul style="list-style-type: none">●ノアはなぜ動物を箱舟に入れたのですか。●ノアが箱舟に乗せてくれてよかったと思うのは、どんな動物ですか。●天のお父様とイエス様は、動物をどのように扱ってほしいと思っていらっしゃるのでしょうか。
物語	第12代大管長スペンサー・W・キンボール長老の次の物語を自分の言葉で話す。 <p>スペンサー・W・キンボール大管長が小さいとき、家から1キロ半離れた野原まで牛たちを歩かせて連れて行くのが、毎日の役目でした。ある日、自分でゴム鉄砲を作りました。それは、ゴムで石を飛ばして、塀の上に載せた石や木の幹に当てるおもちゃでした。スペンサーは練習してとても上手になり、遠くの塀や木にも当てられるようになりました。</p> <p>牛を歩かせて行く道に沿って、高い木が並んで生えていました。スペンサーは、その木の上に小さな鳥がたくさんいるのに気がつきました。鳥を見つけたとき、スペンサーは自分がどんなに上手に撃てるかを試すため、鳥を撃ちたいという思いがわいてきました。でも、そのときちょうど、初等協会で歌っている歌を思い出しました。「小鳥たちを殺すな……この地は神のもの 小さくとも 大きくとも 神は恵みたまう。」スペンサーは自分が歌った歌の歌詞について考えました。そして小さな鳥も天のお父様にとって大切な生き物であり、それを殺すことはいけないのだと分かりました。それからゴム鉄砲で遊ぶときはいつも、鳥を間違えて撃ってしまうことがない</p>

ように気をつけました（「教会の基盤である家族を強める」『聖徒の道』1978年10月号，73参照）。

- スペンサー・W・キンボール大管長は，どのように鳥に優しくしましたか。
天父とイエスが動物に優しくするようわたしたちに望んでおられることを話す。

歌 「だれにでも親切に」（“Kindness Begins with Me” *Children’s Songbook* [英文]，145）を歌うか，歌詞を読む。

よいことをしたいと いつもおもう
だれにでも しんせつに ひびわすれず

- ペットを飼っている人はいますか。

活 動 自分のペットについて，あるいはどのように世話をしているかについて子供たちに話させる。次の文を読み，それがペットに優しくするものならば手を挙げ，ペットに優しくするものでないならば手を挙げないように言う。

- 良い食べ物を毎日あげる。
- 食べ物を与えるのを忘れる。
- 水を与えるのを忘れる。
- 新しい水を飲ませてあげる。
- 安全で居心地のよい寝場所を作ってあげる。
- 一日中，暑い所に閉じ込めておく。
- 愛して，気にかける。

あかし
証

動物たちはイエスによって造られ，天父の計画の一部であることを子供たちに思い出させる。天父とイエスは，動物に優しくするようわたしたちに望んでおられる。ペットやほかの動物について自分の感じていることを話す。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 本課の最後のページにあるうさぎの絵を複製して全員に配り，色を塗らせる。うさぎらしく，ふわふわさせるために，綿のボールをうさぎのしっぽにのりで付ける。
2. 「天のお父様の愛」（『子供の歌集』，16）を歌うか，歌詞を読む。
3. 第11課で使った釣り竿と本書の動物の切り抜きを使って，順番に動物を釣らせる。全員が釣れたら，それぞれ釣った動物について知っていることを話させる。
4. 「わたしはどうぶつにやさしくします」と書いたバッジを作り，家に持って帰らせる。
5. 以下の指遊びをさせる。

わたしの 小さな 子猫ちゃん

するする 木の上 駆け上がり（右手の指を左腕の上で走らせる）

枝に 止まって わたしを 見てる（右手を左肩に置く）

猫ちゃん おいでって わたしが言うと

急いで 猫ちゃん 駆け下りて来て（腕の上で今度は指を下に向けて走らせる）

お皿のミルクを 全部 飲んじゃった（左手をお皿にし，右手で猫が水を飲むしぐさをする）

6. 子供たちを立たせ，教師の以下の言葉に合わせて動作をさせる。

ノア

ノアは 大きな 箱舟を 作った（両手を肩の高さで横に伸ばす）

ノアは 造り方を 知っていた（人差し指を額の横に当てる）

釘打ち のこ引き 長さを計った（それぞれの動作をする）

天のお父様が 命じたとおり（腕を組み，うなづく）

そして ノアは 家族を呼んで（手招きをする）

箱舟に 乗り込んだ（その場所で，静かに足踏みする）

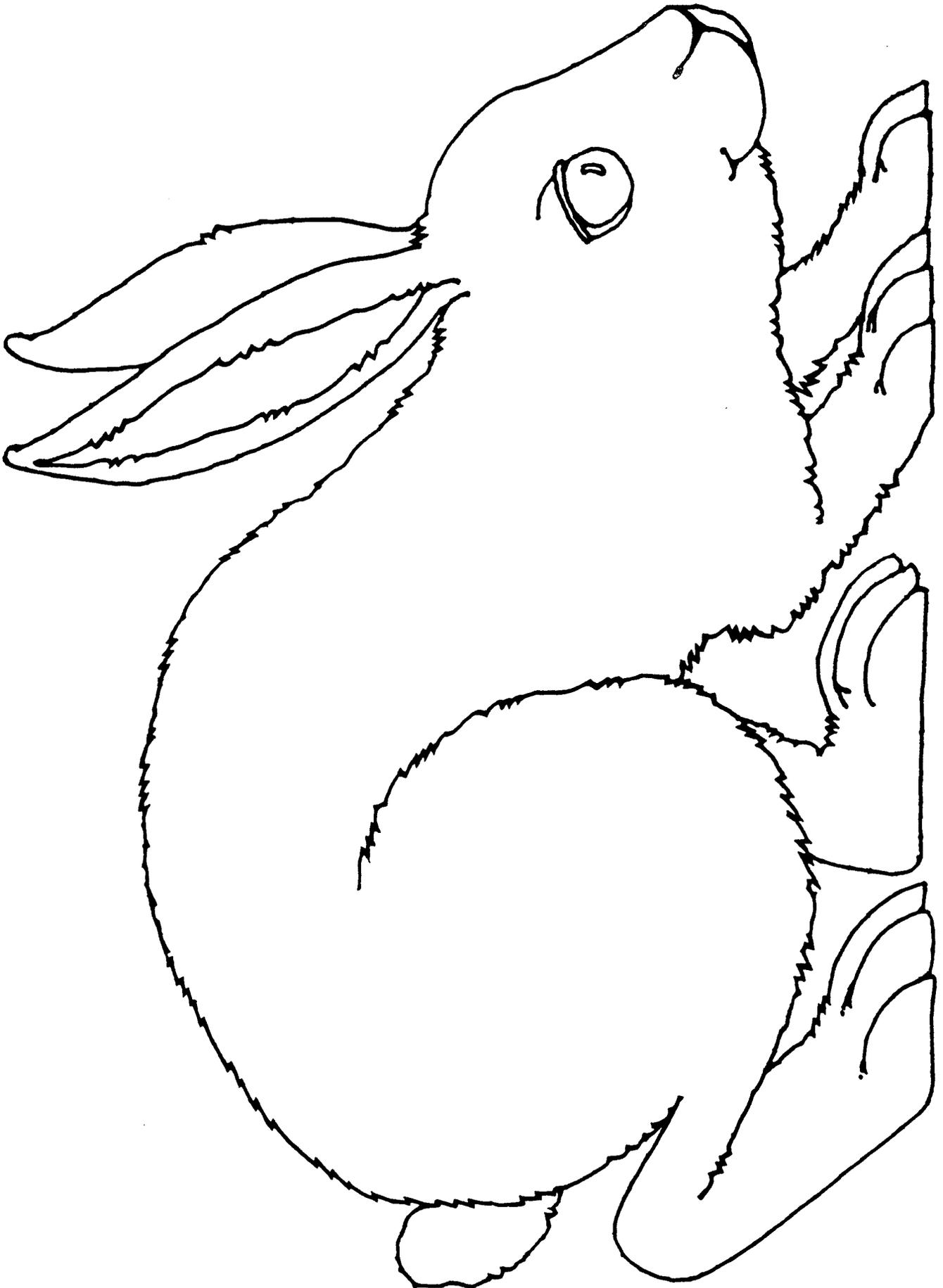
動物たちは 2匹ずつ (2本の指を立てる)
舟に乗って 海に浮かんだ (浮かぶ様子を手で表す)
大きな黒い雲が出て (両手を頭の上に上げる)
雨が 強く 降ってきた (指を動かし、雨の様子を表す)
大地は 残らず 雨で覆われて (手と腕で押し流す動作をする)
陸地は 一つもなくなった (首を左右に振る)

箱舟だけは 無事に 浮かんだ (浮かぶ様子を手で表す)
多くの昼と 夜が過ぎ (両手を合わせて片方の頬ほおに当てる)
やっと太陽が 顔を出して (頭の上に両手で輪を作る)
強く 輝く その光

水は 乾いて 空に 昇り (胸の前で腕を交差させる)
乾いた 陸地が 見えてきた (交差していた腕を開き、手を広げる)
ノアの家族は 神様に 導きを感謝した (腕を組み、頭を下げる)
(ビバリー・スペンサーの詩より翻案)

幼い子供のための 活動

1. 自分のペットや欲しいと思うペットについて話させる。動物にどのように優しくしなければならないか、世話をしなければならないか話し合う。
2. 「広い世界」(“The World Is So Big” *Children’s Songbook* [英文], 235) を歌うか、歌詞を読み、次の遊戯を行う。
かみのつくりたもう (両手で大きな輪を作る)
このひろいせかい
やまや (両手で頭の上に山の形を作る)
たにや (手のひらを上にして、両手を下げる)
こずえや (両手を上に高く伸ばす)
すべてのいきものを (両手を上げて背伸びをする)
かみはこのせかいをあいされ しゅくふくしたもう (自分を抱き締める)
3. 動物の切り抜きを何枚か用意して1枚ずつ見せ、その動物について知っていることを話させる。どこに住んでいるか、どんな鳴き声を出すか、その動物のどんなところが好きか、など。



目的 イエスの模範に従い、ほかの人の良い模範となる。

準備

1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マタイ4：19；ルカ19：1-10；ヨハネ13：15；3ニーファイ17：11-24。
2. 教材
 - a. 聖書とモルモン書
 - b. 足跡の形に切った紙を数枚
 - c. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」（『福音の視覚資料セット』240）；1-63「木に登ったザアカイ」；1-64「ニーファイ人とともに祈られるイエス」
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 「わたしのするとおり」（『子供の歌集』, 146）の歌詞を子供たちと一緒に歌うか、歌詞を言う。教師がする動作をまねさせる。腕を回す、手をたたく、鳥になって飛ぶまねをする、など。

わたしのするとおり
 まねをしてついておいで
 たかくひくく
 はやくおそく
 わたしのするとおり
 まねをしてついておいで

(©1963 by D. C. Heath and Company. Reprinted by permission.)

教師と同じことをしたのは、教師の模範に従っていたということを説明する。人の模範に従うとき、わたしたちはその人と同じことをする。イエスが「わたしに従いなさい」と言われたことを話す（マタイ4：19参照）。

天父はイエスを地球に送って、わたしたちの良い模範とされた

視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せる。イエスが地上に来られた目的の一つは、わたしたちの良い模範となり、わたしたちにいかに生きるべきかを教えることだった。この点を説明する。イエスは完全であられた。これは、イエスがすべてを正しく行われたという意味である。わたしたちは、イエスが地上でされたと同じように生活する努力をしなければならない。

聖書を開き、ヨハネ13：15を読んで聞かせる。これはイエスが語られた言葉であることを話す。わたしたちはイエスの模範に従って、イエスのようになりたいと望んでいる。この点を強調する。

歌 「イエス様のように」（『子供の歌集』, 40）の最初の部分を歌うか、歌詞を言わせる。

わたしもなりた
 イエスさまのよう
 ことばおこない
 あいをしめそう

(©1980 by Janice Kapp Perry. Used by permission.)

- イエス様のようになるためには、わたしたちはどんなことをしなければなりませんか。

物語

視覚資料1-63「木に登ったザアカイ」を見せ、ルカ19：1-10に書かれているイエスとザアカイの物語を話す。イエスはザアカイに親切にし、わたしたちに良い模範を示してください。ほかの人々はザアカイを嫌ったが、イエスは彼の家に行って友達になろうとされた。

- イエス様はザアカイにどのような親切を示されましたか（ルカ19：5参照）。
- イエス様から親切にされて、ザアカイはどのように感じたと思いますか。

歌

「すべての人を愛しなさい」（『子供の歌集』、39）を以下のような動作をつけて歌うか、歌詞を読む。

イエスさまむかし（両手を広げる）
 いました（うなづく）
 すべてのひとを（両手を胸に当てる）
 あいしなさい（自分を抱き締める）

物語

視覚資料1-64「ニーファイ人とともに祈られるイエス」を見せる。3ニーファイ17：11-24を参照して、イエスがニーファイ人の子供たちのために祈られたときの物語を話す。イエスは模範を通して、わたしたちは人のために祈らなければならないことを示された。

- イエス様はだれのために祈られましたか（3ニーファイ17：21参照）。
- 子供たちは、イエス様が自分たちのために祈ってくださるのを聞いて、どのように感じたと思いますか。
- わたしたちはだれのために祈ることができますか。
 わたしたちはだれのために祈れるか話し合う。家族、病気の人、宣教師、教会の指導者、など。

活動

視覚資料1-63「木に登ったザアカイ」と1-64「ニーファイ人とともに祈られるイエス」を部屋の反対側にそれぞれはり、紙でかたどった足跡をそれぞれの絵に向かって置いていく。「イエス様のように」を歌うか歌詞を言いながら、足跡をたどってそれぞれの絵の所まで歩かせる。

絵の前に来たら、子供たちにできるだけ自分で物語を話させる。それぞれの絵のような状況の中で、どうしたらイエスのように良い模範を示せるか考えさせる。（例）ザアカイ——友達のない子におもちゃを貸したり、一緒に遊んだりする。ニーファイ人の子供たちのために祈られるイエス——病気の人や、特別な助けがいる人のために祈る。

ほかの人に親切にしたり、その人のために祈ったりして愛を示すとき、子供たちはイエスの模範に従っている。また、ほかの人に良い模範を示していることになる。

歌

「イエス様のように」のコーラスの部分で歌うか歌詞を言いながら、以下の動作をつける。

たがいにあいしあえ（自分を抱き締める）
 イエスさまのように（ほかの人と握手する）
 イエスさまのおしえ（手のひらで本を表す）
 ひとにやさしく（一方の手を動物に見立て、もう一方の手でなでる）
 (©1980 by Janice Kapp Perry. Used by permission.)

ほかの人の良い模範になれる

子供たちがイエスの模範に従うならば、ほかの人も子供たちを見て、その模範に従うことを説明する。

活動

一人の子供がリーダーになり、全員の前に出る。その子供の動作をほかの子供たちにまねさせる。手をたたく、回る、跳びはねる、など。全員がリーダーになるまで繰り返す。

人の模範になるには、動作をまねることよりも大切な方法があることを説明する。それは、ほんとうのことを話す、両親に従う、おもちゃを貸す、教会で敬虔けいけんにする、家族の手伝いをするなど、善いことをして模範となることである。

- ほかの人の良い模範になるために、どんなことができますか。
良い模範になるための方法を考えさせ、自分は何をするつもりかクラスで発表させる。

だれかの良い模範に従ったときの経験を話す。イエスの模範に従うことの大切さについて感じていることを話す。イエスならこうされたと思われる善いことをして、良い模範を示せるように子供たちを励ます。

楽しい活動

- 次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。
1. 紙で簡単な王冠か帽子を人数分作っておく。王冠に「わたしはよいもはんになれます」と書いておく。1週間どうしたら良い模範になれるか話し合わせる。
 2. 「イエス様も子供でした」(『子供の歌集』, 34), 「光となるように」(『賛美歌』188番, 『子供の歌集』, 38), 「星のように」(『子供の歌集』, 84) のいずれかを歌う。
 3. 懐中電灯などの小さな電灯を見せる。電気をつけ、懐中電灯の光はどのように人を助けるか話し合う。3ニーファイ12:16の最初の部分を読んで聞かせる。子供たちが良い模範を示すとき、小さな光になりほかの人はそれを見て従うことができる、ということの説明する。子供の一人に懐中電灯を持たせ、部屋を歩かせてほかの子供たちを導かせる。リーダーになりたい子供全員に順番が回るまで繰り返す。
 4. 子供たちを立たせ、次の遊戯を行う。
 幼子を愛するイエス様
 小さな子供たちが ほこりにまみれた通りを走って行きました(その場で走る)
 小さな足で一生懸命に走っています(足を指す)
 たくさんの人をかき分けながら(人をかき分けて前に出るしぐさ)
 少しでもイエス様の近くに行つて お顔を見たいと思ったからです(つま先立ちで、辺りを見回す)
 すると大人の人々の中から次のような声がしました「この子たちを追い払え！」(手を前に押出して、押しとどめるしぐさ)
 「イエス様は今日はとても忙しくて 子供たちに構っている暇などない」(怒った顔をして首を振る)
 ところがイエス様はこう言われました 「子供たちをわたしのもとに来るままにさせておきなさい」(手招きをする)
 「幼子は貴く わたしは彼らを愛しているからです」(両手で自分を抱く)
 (マーガレット・ハーモン, *Bible Story Finger Plays and Action Rhymes*, 27より翻案)

幼い子供のための活動

1. 「模範」という言葉を子供たちに繰り返させる。良い模範というのは、「大きくなったらこんな人になりたい」と思う人のことであると説明する。親も良い模範である。親が子供の面倒を見、子供を幸せにするために、どんなことをしてくれるか言わせる。
2. 子供たちに手をつないで輪にならせる。教師が「お手伝い」(『子供の歌集』, 108)を歌うか、歌詞を言うのに合わせて回らせる。「おかあさん」「おとうさん」の箇所を「おにいさん」「おねえさん」「おとうと」「いもうと」「おじいちゃん」「おばあちゃん」に替えて好きなだけ繰り返す。
3. 「リーダーに続け」を子供たちと一緒に行う。子供たちを一列に並ばせる。先頭の子供が跳ねたり、スキップしたり、そのほかの動作をしたりしながら、教室の向こう側まで行く。ほかの子供たちは、先頭の子供と同じ動作をしながら続く。全員が終わったら、先頭の子供は列の最後につき、次の子供が新しいリーダーになる。全員がリーダーになるまで続ける。
 ゲームの後、預言者は教会のリーダーであることを説明する。預言者が行うように言ったことに従えば、わたしたちは天父とイエスのもとに導かれる。

目的 正直になりたいという望みを強める。

- 準備**
1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。出エジプト20：15-16；アルマ53：16-22；56：44-57；信仰簡条第13条。『福音の原則』（31110 300）第31課も参照する。
 2. 紙か布で簡単な鉢巻きを人数分作っておく。鉢巻きに「わたしはしょうじきになれます」と書いておく。
 3. 教材
 - a. 聖書とモルモン書
 - b. ボタンなど小さな物
 - c. 視覚資料1-13「ジョセフ・スミス」（『福音の視覚資料セット』400）；1-65「2,000人の若い兵士たち」（同313）
 4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 一人の子供を前に来させる。教師はボタンなどの小さな物を挟んで両手を合わせる。ほかの子供たちにも両手を合わせ、一人一人手の中にボタンを渡すふりをし、一人の子供の手にボタンを渡す。子供たちはボタンを持っているふりをして両手を合わせる。「ボタン、ボタン、ボタンを持つてるのはだーれだ」と言う。前に出ている子供が一人一人に「（ ）ちゃん、ボタンを持っている？」と聞いて回り、だれがボタンを持っているか当てる。子供たちは「ううん、持っていないよ」あるいは「うん、持っているよ」と正直に答える。

ボタンを持っている子供を当てる人とボタンを回す人を交代しながら、何回か繰り返す。子供たちが正直であったことを褒める。

天父とイエスはわたしたちが正直であるように望んでおられる

視覚資料1-13「ジョセフ・スミス」を見せる。預言者ジョセフ・スミスが信仰簡条第13条に、「わたしたちは、正直〔である〕べきことを信じる」と書いたことを話す。子供たちにこの言葉を覚えさせる。

- 正直とは、どういうことですか。
正直というのは、ほんとうのことを言う、ほかの人のものを取らない、人々に公平であること、などをいう。

聖書を見せ、モーセが民に十戒を伝えたことを話す（出エジプト20章参照）。天父とイエスがモーセに正直について、「盗んではならない」と「あなたは偽証してはならない」という二つの戒めを与えられたことを話す。出エジプト20：15-16を読んで聞かせる。

- 盗むとは、どういうことですか。
偽証するとは、ほんとうでないことを言うという意味である。
「正直であることを信じます」（“I Believe in Being Honest” *Children’s Songbook* [英文], 149）の歌詞を読む。
しょうじきであることを信じます
ほんとうのことをいいます
なにをいうときも、なにをするときも

わたしはいつもしょうじきになります

活動

幾つかの行いを子供たちに話し、その行いが正直ならば立ち上がるように、正直でないならば座るように言う。以下の例を使ってもよいし、自分で考えてもよい。

- お母さんからおやつを食べないように言われたのに、食べてしまった。
- 自分のしたことについて、ほんとうのことを言う。
- 人のものを取る。
- 悪いことをして、自分がやったと言う。
- ほんとうは自分がしたのに、だれかほかの人がやったと言う。
- ほかの人のお金や物を見つけたら、その人に返す。
正直になれたときの経験を子供たちに話させる。
- 正直になれると、どんな気持ちになりますか。
- 正直になれないと、どんな気持ちになりますか。
- どんなとき、正直になるのが難しいですか。(怒られてお仕置きされる、だれかを悲しませるなど。) 難しいときもあるが、正直になるともっとよい気持ちになれることを理解させる。

正直であるとき祝福を受ける

物語

視覚資料1-65「2,000人の若い兵士たち」を見せる。アルマ53：16-22；56：44-57（特にアルマ53：20-21）に書かれている2,000人の若い兵士たちの物語を話す。彼らが特にすばらしい若者となった一つの理由は、正直であったことである。アルマ53：20の最後の部分（「彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった」）を読んで聞かせる。誠実とは正直という意味であることを説明する。この若い兵士たちは正直だったので、戦いであっても守られた。彼らはその正直さ、信仰、そして勇気によって祝福を受けた。わたしたちも正直であるならば祝福を受ける。

- 2,000人の若い兵士たちは正直であったのでどのような祝福を受けましたか（アルマ56：54-56参照）。

活動

全員に鉢巻きを着けさせる。2,000人の若い兵士になったつもりで、教師の手拍子に合わせて部屋を行進させる。手拍子が止まったとき、子供たちも止まる。一人の子供に、どのように正直になれるか言わせる。再び手拍子に合わせて行進させ、全員が答えられるまで繰り返す。

あかし証

天父とイエスがわたしたちに正直であるように望んでおられること、また正直であるときに幸せになれることを証する。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. ジェイコブ・ハンブリンと彼の息子の物語を自分の言葉で話す。

ジェイコブ・ハンブリンはユタ州南部を目指していた最初の開拓者の一人でした。彼はその地に住んでいたインディアンを愛し、彼らの言葉を覚えました。いつもインディアンに対して正直だったので、インディアンから信頼されるようになりました。ある日ジェイコブは、子馬と毛布を交換するために自分の息子をインディアンのところに行かせました。インディアンは注意深く子馬を調べて、何枚かの毛布を差し出しました。ジェイコブの息子は「それでは足りない」と言いました。インディアンは毛布を次々に増やしていきました。ジェイコブの息子は毛布が十分だと思ふと、それを積んで家に帰り、子馬と引き替えにたくさんの毛布を手に入れたことを自慢しました。ジェイコブは息子がたくさんの毛布を持って帰って来たのを見ても喜びませんでした。子馬はそんなにたくさんの毛布ほどの価値はなかったからです。ジェイコブは息子に毛布の半分をインディアンに返しに行かせました。彼がインディアンのところに行ってみると、インディアンは笑って言いました。「ジェイコブが毛布を返して来ることは分かっていたよ。」（ジェイコブ・ハンブリン・ジュニア、ルイス・リー・

ユーダによる再話, *A Story to Tell*, 359-360参照)

インディアンはジェイコブ・ハンプリンが正直な人で、多すぎた毛布を返して来ることを知っていたことを説明する。ジェイコブはいつも正直だったので、インディアンは彼を信頼することができた。子供たちにこの物語を演じさせるか、自分たちの言葉で話をさせる。

2. 「イエス様も子供でした」(『子供の歌集』, 34) を歌うか、歌詞を読む。
3. 靴下や紙袋の人形を使って、正直になるか不正直になるかを選ばなければならない状況を演じて見せる。以下の例を使ってもよいし、自分で考えてもよい。
 - お皿を割ってしまい、お母さんから「だれが割ったの」と聞かれました。
 - だれかが落としたお金を拾うのを手伝っているとき、少しもらいたくなってしまいました。
 - お父さんから食べてはいけないと言われたのに、クッキーを2枚食べてしまいました。お父さんからクッキーを食べたかどうか聞かれました。
 人形を順番に持たせ、そのような状況のときどうすべきか答えさせる。

幼い子供のための活動

1. 子供たちに部屋の中に馬がいるかどうか尋ねる。部屋の中には馬はいないので、どんなに一生懸命探しても馬は見つからないことを話す。馬がいると言ったら、正直でなくなってしまう。「_____ (子供たちが簡単に見つけられるものの名前)」が見えるかどうか尋ねる。ほんとうのことを言うとき、正直であることを説明する。
2. 教師がほんとうのことを言うとき、子供たちに両手を上げさせ、ほんとうでないことを言うときは両手を下げさせる。簡単で分かりやすいことを言う。「わたしは髪の毛に花を着けています」「わたしはワンピースを着ています」「由美ちゃんのスカートは赤いです」「みんなはいすに座っています」など。
3. 「おそれすぎをなせ」(『子供の歌集』, 80) を歌うか、歌詞を読む。

目的 けいけん 敬虔になって天父とイエスに愛を表せるようになる。

準備

1. 祈りの気持ちで出エジプト3：1-10を研究する。
2. 教材
 - a. 聖書
 - b. 視覚資料1-19「キリストと子供たち」(『福音の視覚資料セット』216)；1-66「モーセと燃えるしば」(同107)；1-67「敬虔なクラス」
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 教師が「心低く」(『子供の歌集』, 11) を歌うか歌詞を読む間、子供たちに腕を組んで静かに座っているように、静かな声で頼む。もし歌を知っていれば、子供たちも一緒に歌ってよい。

こころひくく しゅのあいおもい
 しずかにうたう さんびのうたを
 こころひくく いのります
 みたまがきょうも あるように
 終わったら、子供たちに静かに座っていたことを感謝する。

教会で敬虔になる

視覚資料1-67「敬虔なクラス」を見せる。

- この子供たちはどこにいますか。
 - 何をしていますか。
 - 何を考えていると思いますか。
 - 初等協会に来るとき、皆さんはどのように行動しますか。
- 教会に来るときは、いつもある行動をしなければならないことを説明する。それは「敬虔にする」ことである。
- 子供たちに「敬虔」という言葉を何度か繰り返して言わせる。
- 敬虔にするとは、どういうことだと思いますか。
- 敬虔にするとは、天父とイエスに対して愛と尊敬を示すことを行うことである。それを説明する。以下のようなことをして、天父とイエスに愛を示すことができる。(教師の話に合わせて、動作をさせる。)
- 静かに歩き、静かな声で話す。
 - 静かに座って、祈りやレッスンを聞く。
 - 何か話したいことがあるときは、手を挙げる。
 - 腕を組む。
 - 教会をきれいにする。
- わたしたちはこのようにするとき、天父とイエスを愛していること、また教会にいられてうれしいと思っていることを、御二方に知っていただくことができる。

歌 子供たちと一緒に、「敬虔になりたい」(“I Want to be Reverent” *Children’s Songbook* [英文], 28) を歌うか、歌詞を読む。繰り返してもよい。

けいけんになりたい
かみさまに あいをしめすために
しずかに きいて
けいけんになります

- わたしたちはなぜ初等協会で敬虔にしなければなりませんか。
わたしたちは敬虔にするとき、先生の話をよく聞くことができ、天父やイエスについてよく学べるということを話す。自分が敬虔になると、ほかの人も敬虔になれるように助けることができる。
- 今、わたしたちはどこにいますか。
- ここはだれのおうちですか。
教会は天父とイエスのものであることを説明する。わたしたちはここに集まり、天父やイエスについて、また御二方がわたしたちに望んでおられることを学ぶ。

活 動 次の指遊びを子供たちと一緒にやる。手の動作で、教会の各部分を表現する。

教会
これは教会の壁 とてもきれいです
これは教会の塔 とても高いです
これは窓 光が入ってきます
そしてドア みんなが入って来ます
みんなが歌ったり 祈ったりできるように
愛ある手で作られました
さあ 腕を組んで 頭を下げ (動作をする)
教会があることに感謝しましょう

- 教会では どのようなことをしなければなりませんか。
- 教会では どのようなことをしてはいけませんか。
教会の中でも、走ったり遊んだりできる場所や時があるが、ほとんどの場所では、また日曜日には、敬虔にしなければならないことを理解させる。初等協会や礼拝堂では静かに座っていることのほかに、廊下では静かに歩いたり話したりしなければならない。

物 語 クラスの子供たちが初等協会に来るときの様子について話す。教会に来る道で、とても楽しみにして走ったりスキップしたりすること、教会の中に入ったら静かに歩いていること、聖餐会や初等協会のときに、あるいは集会後の廊下で子供たちがしていることなどについて話す。教会に来たとき子供たちがいかに敬虔であるかを強調する。

歌 「静かな足」(“Two Happy Feet” *Children’s Songbook* [英文], 270) を歌うか、歌詞を読み、それに合わせて子供たちに部屋を静かに、注意深く、音を立てないように歩かせる。

どこでもあるける ふたつのあし
とんだりはねたり くつをならす
でもてんのおとうさまの おへやのなかは
しずかにあるこう おとをたてず

- 教会の廊下では、足はどうしますか。礼拝堂ではどうしますか。初等協会ではどうしますか。
- 手はどうしますか。
- 声はどうしたらいいでしょう。

敬虔な気持ちを感じる

視覚資料1-19「キリストと子供たち」を見せ、キリストについて、またキリストがわたしたちを愛しておられることについて考えるとき、どのような気持ちになるか話す。それが敬虔な気

持ちであることを説明する。イエスについて感じていることを話させる。

物語

視覚資料1-66「モーセと燃えるしば」を見せ、出エジプト3:1-10の物語を話す。主が燃えるしばの中から語りかけられ、イスラエルの民をエジプトから導き出すように言われたとき、モーセが感じた敬虔な気持ちを強調する。5節の「足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである」という部分を聖書から読んで聞かせ、その意味を説明する。

- モーセはどのようにして靴を脱いだのですか。

それが敬虔になる方法だったことを説明する。わたしたちは敬虔になるために靴を脱ぐ必要はないことをよく理解させる。敬虔になるための方法はほかにもたくさんある。

- どうしたら敬虔になれますか。

家で敬虔になる

わたしたちが敬虔にならなければいけないのは、教会だけではないことを話す。

- 家でだれかが祈っているとき、皆さんはどうしますか。
- 家庭の夕べをするとき、皆さんはどうしていますか。

家でだれかが祈ったり、レッスンしたりするのを静かに聞くことは、敬虔な態度であることを説明する。そのようにすることにより、天父やイエスに対する愛を示すことができる。

天父やイエスに対する愛を伝え、敬虔によってその愛を示せることへの感謝の気持ちを話す。初等協会や聖餐会せいさんかいのとき、また家族で祈りや家庭の夕べをするとき、敬虔にして、天父やイエスに愛を示せるよう子供たちを励ます。

あかし
証

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供たちを連れて、教会の廊下を敬虔に歩かせる。可能ならば、礼拝堂まで歩く。教室に戻ったら、子供たちが敬虔だったことを褒める。彼らが敬虔だったことによって、ほかのクラスの人々が敬虔になる助けになったことを説明する。
2. 「敬虔になる努力しましょう」(『子供の歌集』, 13), あるいは「天のお父様敬虔にします」(『子供の歌集』, 10) を歌うか、歌詞を読む。
3. 「静かな足」の歌詞を書いた紙を人数分用意し、その紙にそれぞれの子供の足型を取らせる。色を塗って家に持ち帰らせる。
4. クラスでどのように敬虔にできるかを順番に演じさせる。静かに座る、腕を組む、何かを言いたいときに手を挙げる、など。天父の家でなぜ敬虔にしなければならないのか話し合う。
5. 以下の言葉のいずれか一つ、または両方を子供たちに言わせる。言葉に合わせて動作もつける。

むすんで ひらいて (手)

むすんで ひらいて

むすんで ひらいて

かるくてびょうし いち に さん

むすんで ひらいて

むすんで ひらいて

おひざのうえに のせましょう

両手を振りましょう

両手を振りましょう

両手を伸ばして

頭をポン

高く上げて

今度は静かに

ひざの上におきましょう

バタバタ足をやめましょう
じっとして
きちんといすに腰かけて
頭を下げ
目を閉じて
お祈りの時間です

**幼い子供のための
活動**

1. 「礼拝堂の中は」(『子供の歌集』, 143) を歌うか歌詞を言う。「シーッしずかに」の歌詞を歌う(または言う)度, 子供たちに自分の指を唇に当てさせる。
2. 子供たちに目を閉じさせる。教師が落とした硬貨やボタンの音が聞こえたら手を上げるように言う。硬貨やボタンを床かテーブルの上に落とす。次に, 硬貨やボタンをハンカチか小さな布でくるむ。子供たちに目を閉じたまま, 今度も硬貨やボタンが落ちる音が聞こえるかどうか, よく耳を澄ますように言う。ハンカチにくるんだボタンまたは硬貨を床かテーブルに落とす。耳を傾けるなら, いろいろな音が聞こえることを理解させる。

目的 よい音楽はわたしたちを幸せな気持ちにし、天父とイエスのことを思い出させてくれることを理解する。

準備

1. 次の聖句を祈りの気持ちで研究する。サムエル上16：19-23；エテル6：2-12；教義と聖約25：12。
2. 教材
 - a. 聖書，モルモン書，教義と聖約
 - b. 視覚資料1-61「1846年2月から5月までのノーブー脱出」（『福音の視覚資料セット』410）；1-68「王サウルのためにたて琴を奏でるダビデ」；1-69「ヤレドの民の船」
3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び，必要な準備をする。
注意——レッスンを助けてもらうために初等協会音楽担当者に来てもらってもよい。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 子供たちに輪を作らせ、「幸せなら手をたたこう」（『子供の歌集』，125）を歌わせる。「手をたたこう」「足ならそう」「ウインクしよう」など，歌詞を替えてもよい。歌詞に合わせて，動作をつける。

しあわせなら てをたたこう
しあわせなら てをたたこう
しあわせなら たいどでしめそうよ
そらみんなで てをたたこう

- この歌を歌ったとき，どんな気持ちになりましたか。

よい音楽はよい気持ちをもたらす

幸せな音楽や美しい音楽，また心安まる音楽は，わたしたちにより気持ちを感じさせてくれることを説明する。悲しいときや怒ったとき，怖いときにも，よい音楽によって，また幸せな気持ちになれる。

物語 視覚資料1-68「王サウルのためにたて琴を奏でるダビデ」を見せる。気分が優れないサウル王のためにたて琴を弾いたダビデの物語を話す。これはサムエル上16：19-23に書かれている。

- ダビデの弾いた音楽のおかげで，サウル王の気持ちがよくなったのはどうしてだと思いますか。
- どんな楽器の音楽を聴くのが好きですか。
子供たちの言った楽器で演奏するまねを簡単にする。

活動 教師が子供たちのよく知っている初等協会の歌や賛美歌をハミングするのに合わせて，子供たちに，ピアノ，バイオリン，ギター，フルート，ハーブなどの楽器を演奏するまねをさせる。

歌 歌うことも，わたしたちをよい気持ちにさせてくれることを話す。

- 初等協会の歌で，皆さんをよい気持ちにさせてくれるのはどの歌ですか。
子供たちの好きな歌を1曲選ばせ，一緒に歌う。

物語

視覚資料1-61「1846年2月から5月までのノーブー脱出」を見せ、次の物語を自分の言葉で話す。
開拓者たちはノーブーの自分の家を捨て、馬車や手車に積めるだけのものを積んで、西部に移住して行きました。馬車や手車に載せることができなかったので、たくさんの持ち物を置いていかなければなりませんでした。旅は厳しく、開拓者たちはたいいてい、1日の終わりには疲れ果てていました。

夜になると、開拓者たちは家畜や馬車を集めて輪を作り、その真ん中には大きなキャンプファイヤーを作りました。預言者ブリガム・ヤングは、音楽があればみんなはもっと楽しく旅ができると知っていたので、みんなに歌ったり踊ったりするように励ましました。開拓者の中でバイオリンやトランペット、太鼓を持って来た人たちはそれを使って音楽を奏でました。全員がキャンプファイヤーの周りで歌い、踊りました。彼らの好きだった歌の一つは「恐れず来たれ、聖徒」でした。音楽は開拓者たちに力と勇気を与えました。歌い、踊り終わって床に就いたとき、開拓者たちはとても幸せでした。

歌

キャンプファイヤーの周りに座った開拓者のつもりで、子供たちを輪になって座らせる。「開拓者の子供」（『子供の歌集』, 137）、あるいは子供たちの好きな初等協会の歌を歌わせる。

音楽は天父やイエスのことを思い出させてくれる

教会の音楽は、天父やイエスのことを思い出させてくれることを話す。子供たちに目を閉じさせ、聖餐会が始まる前に礼拝堂で流れる音楽を聞くふりをさせる。

●音楽は、皆さんが教会で敬虔になるのをどのように助けてくれますか。

天父とイエスは、わたしたちが歌うのを聞くのがとても好きでいらっしゃることを話す。教義と聖約25：12の最初の2文を読んで聞かせる。「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。」教会の歌を歌うのは、天父に祈るのと同じであることを説明する。天父の与えてくださる祝福に感謝しているのである。天父やイエスについての歌を歌うことは、御二方がわたしたちを愛し、助けたいと思っておられることを思い出させてくれる。聖餐会で歌う歌は賛美歌と呼ばれることを説明する。

●わたしたちはなぜ、教会で歌や賛美歌を歌うのでしょうか。

物語

視覚資料1-69「ヤレドの民の船」を見せる。エテル6：2-12を参照して、約束の地へ向かうヤレドの民の物語を話す。ヤレドの民は船の中で、天父とイエスへの賛美の歌を歌ったことを話す。

- ヤレドの民は旅をする間、なぜ歌を歌ったと思いますか。
- 船が風や波に襲われたとき、ヤレドの民はどのように感じたと思いますか。
- 怖かったとき、歌うことでどのように助けられたと思いますか。
- 怖いとき、歌を歌ったことがありますか。どのように助けられましたか。

あかし
証

音楽のおかげで幸せな気持ちになったときのことを話す。天父とイエスは、わたしたちがよい歌を歌うのを聞くのがとてもお好きであることを話す。歌うとき、子供たちも幸せな気持ちになり、天父とイエスが自分たちを愛しておられることを思い出せることを証する。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 「楽しいな」（『子供の歌集』, 129）、あるいは「美しくかがやくこの世界」（『子供の歌集』, 122）を歌う。
2. 人数が少なければ、一人一人に好きな初等協会の歌を選ばせ、全員で歌う。
3. 紙コップでマラカスを作り、リズム楽器にして演奏する。紙コップの中に少量の米や砂を入れ、二つのコップの口を合わせてテープで留めて、米や砂がこぼれないようにする。マラカスを鳴らしながら、初等協会の歌を1曲歌う。そのほかにも、ベルを鳴らしたり、太い棒を打ち合わせたり、積み木を打ち合わせたりして、リズム楽器として使ってもよい。

4. 預言者ジョセフ・スミスとそのほかの教会指導者がカーセージの監獄に入れられていたときの物語を自分の言葉で話す。彼らは悪いことは何もしていないのに、悪い人たちに捕まって、監獄に入れられてしまった。預言者は命が危険にさらされていると思うと、とても悲しくなった。そこで、友達ジョン・テラーに歌を歌ってくれるように頼んだ。ジョンも悲しかったので、とても歌えるような気持ちではないと、ジョセフに言ったが、それでもジョセフは歌うように励ました。ジョンがイエスについての歌を歌うと、監獄にいたみんなは、今までよりもよい気持ちになった。歌のおかげで、天父とイエスから愛されていることを思い出した。歌が力と勇気を与えてくれたのである。

幼い子供のための活動

1. 子供たちの好きな歌を何曲か歌う。歌に合わせて、静かに手拍子をさせる。音楽がどのようにわたしたちを幸せな気持ちにさせてくれるか、子供たちに話す。
2. 様々に異なったタイプの音楽を録音したものを用意し、子供たちに聞かせる。安息日にふさわしい音楽であるように注意する。
3. 天父はわたしたちに多くの種類の音楽を与えてくださったことを話す。人が作った音楽もあるし、わたしたちの周りにある自然が作り出した音楽もある。自然の中で音楽のような音を出すものを幾つか挙げる。風、雨、^{はち}蜂、雷など。子供たちにそれらの音をまねさせる。

聖餐はイエスのことを 思い出させてくれる

第40課

目的	聖餐の間、イエス・キリストについて考えることができるようになる。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ルカ22：19-20；3ニーファイ18：1-11。『福音の原則』（31110 300）第23章も参照する。2. 初等協会会長の許可を得たうえで、レッスンの最初の数分間、祭司定員会から一人の兄弟にクラスに来てもらうよう、ビショップに手配を依頼する。その兄弟には、聖餐を執り行う責任やこの聖なる儀式について感じていることを話せるよう準備して来てもらう。3. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書とモルモン書b. イエスの生涯に起こった出来事の絵、例えば、視覚資料1-16「イエスの生誕」（『福音の視覚資料セット』201）；1-17「神殿での少年イエス」（同205）；1-19「キリストと子供たち」（同216）；1-43「盲人を癒されるイエス」（同213）など。そのほかにも使いたい絵があれば準備する。c. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」（同240）；1-8「聖餐のパス」；1-44「西半球で福音を教えるイエス」（同316），1-70「最後の晩餐」（同225）4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>視覚資料1-8「聖餐のパス」を見せる。日曜日に普通家族がそろって出席する集会は聖餐会と呼ばれていることを話す。</p> <ul style="list-style-type: none">●この集会はなぜ聖餐会と呼ばれるのでしょうか。 <p>祭司定員会の兄弟を子供たちに紹介する。聖餐に対するアロン神権者の責任について話してもらう。この神聖な儀式の中で果たす自分の役割について、感じていることを話してもらう。訪問を感謝し、定員会集会あるいは日曜学校に戻ってもらう。</p> <p>イエスのことを思い出せるように聖餐が与えられた</p> <p>視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せる。イエスが天父の御子であられることを思い出させる。イエスはわたしたちをととても愛しておられたので、地上に来て救い主となられた。病人を癒し、福音を教え、正しく生きる道を教えられた。そしてわたしたちのために命を捨ててくださった。</p>
物語	<p>視覚資料1-70「最後の晩餐」を見せる。ルカ22：19-20にある最後の晩餐の物語を話す。19節の最後の部分、「わたしを記念するため、このように行いなさい」を聖書から読んで聞かせる。イエスが使徒たちに、毎週安息日に集まり、聖餐を受けてイエスを思い出すように言われたことを説明する。</p> <p>視覚資料1-44「西半球で福音を教えるイエス」を見せる。イエスがニーファイの民を訪れたときも、彼らに毎週安息日に集い、聖餐を受けてイエスを思い出すように言われたことを話す（3ニーファイ18：1-11参照）。</p> <ul style="list-style-type: none">●使徒たちは聖餐を受けるとき、どなたを思い出すことになっていましたか。●ニーファイの民は聖餐を受けるとき、どなたを思い出すことになっていましたか。●わたしたちは聖餐を受けるとき、どなたのことを考えなければなりませんか。

- わたしたちはいつ聖餐を受けますか。

活動

子供たちと一緒に以下の遊戯を行う。

今日 教会きょうに来てよかった

今日 教会きょうに来てよかった（2本の指の先を合わせて教会せんとうの尖塔を作る）

お話を聞いたり（おわん状にした手を耳に当てる）

お祈りしたり（腕を組み、頭を下げる）

天にいらっしゃるイエス様のことを勉強して（上を指さす）

イエス様の愛について考えます（自分を抱き締める）

物語

イエスの生涯に起こった出来事の絵を1枚ずつ見せる。子供たちが知っているものがあれば、その絵について話させる。もし知らないときは、短く話す。できるだけ多くの子供たちに物語を話させる。

- 聖餐のとき、イエス様の物語の中でどれを考えられますか。

聖餐の間考えられる、そのほかのイエスの物語を子供たちに話させる。子供たちが考えつかない場合は、教師が聖餐の間考えるのが好きなイエスの物語の中から一つか二つ話す。

聖餐の間は敬虔にする

活動

動作をつけながら以下の言葉を言う。

腕を組んで（腕を組む）

頭を下げて（頭を下げる）

静かに 静かに（この言葉だけささやくように言う）

聖餐のお祈りの間

イエス様のことを考えます

イエスはわたしたちが主を思い出せるように聖餐を与えてくださったので、イエスのことを考え、またほかの人々もイエスについて考えられるように助けるのは、とても大切である。そのためには、聖餐の間、敬虔にしなければならない。

活動

以下の文の一つを子供の一人にそっと耳打ちし、その子供が全員に伝える。同様にして次の文をほかの子供に伝え、同じように全員に発表させ、全部の文について同じようにする。

1. イエス様を思い出させてくれる敬虔な賛美歌を歌って、聖餐を受ける準備をします。
2. 聖餐のパンを祝福するお祈りを、耳を澄ませて聞きます。
3. パンが配られるとき、一つだけ取ります。
4. 聖餐の水を祝福するお祈りを、耳を澄ませて聞きます。
5. 敬虔に聖餐の水を飲んで、カップをトレーに入れます。
6. パンや聖餐のカップでは遊びません。

これらを行えば、聖餐を取る間、敬虔さを示すことができます。

- 聖餐の間、どうしたら敬虔になれますか。

活動

教師の言葉を注意深く聞かせる。聖餐の間にすべきことや考えるべきことを言ったら、子供たちを立たせ、聖餐の間にすべきでないことや考えるべきでないことを言ったら、座らせる。以下の例を使ってもよいし、自分で考えてもよい。

- 聖餐の祈りをよく聞く。
- 天のお父様とイエス様の愛を思い出す。
- ピクニックに行くことを考える。
- イエス様が病気の人を治されたことを思い出す。
- 自分のきょうだいとおしゃべりをする。
- 体をそわそわ動かす。
- イエス様が子供たちを祝福されているところを思い浮かべる。

聖餐を受けて、イエスと、イエスがわたしたちのためにしてくださったことを思い出す機会があるので、どんなに感謝しているか証する。特に、聖餐の間、みんなが敬虔にしてくれるので、イエスに思いを集中できる点に感謝していることを伝える。

楽しい活動

- 次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。
1. 自分が聖餐を受けているところの絵を描かせる。それぞれの絵に「せいさんをうけるとき、イエスさまについてかんがえます」と書き入れる。
 2. 聖餐のパンと水を入れる空のトレーを教室に持って来て、子供たちに見せたり、持たせたりする。聖餐会で聖餐が祝福され、配られるときの様子を話させる。
 3. イエスの生涯の出来事の中から、子供たちの好きな物語を幾つか演じさせる。

幼い子供のための活動

1. 聖餐について簡単に説明する。イエスの絵を見せ、日曜日には特別な方法でイエスを思い出す時間があると言う。それは、小さなパンを食べ、小さなカップに入った水を飲むときである。聖餐の間、わたしたちはイエスがどんなにわたしたちを愛してくださったか、また、わたしたちが幸せになれるようにどれだけ多くのことをしてくださったか思い出す。
2. 「イエス様の話聞かせて」（『子供の歌集』, 36）、あるいは「光となるように」（『賛美歌』188番、『子供の歌集』, 38）を歌うか、歌詞を読む。
3. 教師が言う言葉に合わせて、次の遊戯を子供たちにさせる。

創造

イエスが命じられると 日が照り（両手で頭の上に輪を作る）
 雨が降り（指を震わせながら、体の前に出した両腕を下ろしていく）
 花が咲き（手のひらを上にして、丸く花の形にする）
 小鳥も歌う（鳥のくちばしのように指を開いたり閉じたりする）
 言われたとおりにになりました（腕を組む）
 （ジョニー・B・ウッド、*Sing, Look, Do, Action Songs for Children*, ドロシー・M・ピーターソン編）

イエスは、わたしたちを幸せにするために多くのものを与えてくださった。子供たちにこの点を思い出させる。聖餐の間、イエスについて考えることにより、感謝を示すことができる。

目的	聖典には天父とイエス・キリストの言葉が記されていて、聖文を勉強すれば、天父とイエス・キリストについて学べることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ルカ22：19-20；3ニーファイ18：21；教義と聖約59：6；モーセ7：11。『福音の原則』（31110 300）第10課も参照する。2. 聖文から好きな物語を一つ選び、できれば絵を見せながら話せるように準備する。3. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 標準聖典b. 聖典を包むために使う布または包装紙を1枚用意する。c. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」（『福音の視覚資料セット』240）；1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」（同208）；1-44「西半球で福音を教えるイエス」（同316）；1-70「最後の晩餐^{ばんさん}」（同225）4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>クラスが始まる前に、標準聖典に布をかぶせておくか、紙で包んでおく。それを目につきやすいテーブルかイスの上に置いておく。どの人にとっても大切なものを包んでおいたと話す。中身が何かを子供たちに当てさせる。</p> <p>幾つか答えを聞いた後、布あるいは包装紙の上から触らせる。本という答えがあったら、正解であることを伝え、包みを開ける。この本は『聖典』と呼ばれていることを話し、声に出して何度か「聖典」と言わせる。</p> <p>聖典は神聖な書物である</p> <p>聖典はほかの本と違い、大切な書物である。それは神聖な書物である。神聖なものは天父やイエスについて思い起こす助けになる。聖文はわたしたちに天父やイエスのことを教え、御二方がどれほど大きな愛をわたしたちに注いでおられるか教えてくれる。また、わたしたちが幸せになるために天父やイエスが何を望んでおられるか教えてくれる。以上を子供たちに説明する。</p> <p>標準聖典を1冊ずつ見せ、名前を教える。合本の場合は、書名が併記されている背表紙か、中扉にあるそれぞれの書名を見せる。</p>
活動	<p>聖典は大事に扱い、ページも丁寧にめくる必要がある。子供たちを一人ずつ前に来させ、丁寧に聖典を扱う方法や、ページをめくる方法を見せる。</p> <p>聖典には真実の物語が載せられている。これらの物語を通して、天父とイエスがわたしたちに何をするように望んでおられるかを知ることができる。聖典の中の物語は、わたしたちの生活に役立つことを説明する。</p>
物語	聖典の中から自分の好きな物語を一つ選び、できれば絵を見せながら、子供たちに話して聞かせる。その物語がどのような助けになったか話す。聖典の中の物語を読むのが大好きであることを伝える。

歌 「イエスさまの話聞かせて」(『子供の歌集』, 36) を歌うか、歌詞を読ませる。初等協会学ぶ聖典の物語が実話であることを指摘する。

イエスさまのはなし きかせて
ながいたびのとちゅう あったこと
イエスさまがあったひと
イエスさまのみことば

聖典にはイエスの教えが載せられている

聖典の中には、イエスに直接会って同時代に生きた人々の書いた記録もあることを説明する。彼らはイエスを自分の目で見、その教えを自分の耳で聞いた。彼らが聖典を残したのは、イエスとその教え、またイエスが天父の御子であられることを、すべての人に知らせるためであった。

視覚資料1-70「最後の晩餐」を見せる。この絵について知っていることを言わせる。聖書を見せ、「聖書」と何回か声に出して言わせる。聖書のルカ22章を開き、聖書には次のように記されていることを説明する。すなわち、イエスは使徒たちに、イエスを思い出すために聖餐を取るよう教えられた。パンを取って祝福し、使徒たちに分け与えられた。また杯を取って彼らに飲ませられた。19節から次の箇所を読む。「わたしを記念するため、このように行いなさい。」これがイエスの言葉であることを強調する。

視覚資料1-44「西半球で福音を教えるイエス」を見せ、それがどのような絵であるか話させる。モルモン書を見せ、何回か声に出して「モルモン書」と言わせる。モルモン書の3ニーファイ18章を開き、イエスが人々に多くのことを教えられたことを説明する。21節でイエスが「家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい」と言われた部分を読む。

- イエス様は、家族で何をするように言われましたか。

視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せる。教義と聖約を見せ、何回か声に出して「教義と聖約」と言わせる。教義と聖約の59章を開き、イエスの教えの一つは、すべての人を愛することであったと説明する。6節にある、イエスが「隣人を愛さなければならない」と言われた箇所を読む。

- イエス様は何をするように言われましたか。
- 皆さんの隣人とはだれですか。
- ほかにの人に親切にしたり、愛を示したりすると、どんな気持ちになりますか。

歌 「すべての人を愛しなさい」(『子供の歌集』, 39) を以下の動作をつけながら歌うか、歌詞を言う。

イエスさまむかし (両手を広げる)
いいました (うなづく)
すべてのひとを (両手を胸に当てる)
あいしなさい (自分を抱き締める)

視覚資料1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」を見せる。子供たちに絵の説明をさせる。イエス御自身がバプテスマを受けられたこと、またすべての人にバプテスマを受けてほしいと願っておられることを話す。高価な真珠を見せ、子供たちに何回か声に出して「高価な真珠」と言わせる。高価な真珠のモーセ7章を開き、イエスがエノクに、人々のところに行ってバプテスマを施すように言われたことが書かれていることを説明する。11節でイエスが「御父と……御子と……聖霊との御名によって、バプテスマを施すように」と言われた部分を読む。

標準聖典を持ち上げ、そのすべてがイエスの教えであることを強調する。

- これは何の本ですか。
- 聖典にはだれの教えが載っていますか。
- 聖典はなぜ書かれたのでしょうか。
- 天のお父様とイエス様がわたしたちを愛してくださり、聖典を与えてくださったことを知って、どんな気持ちになりますか。

聖文に対するあなたの感謝と愛について話す。聖文は天父とイエスの言葉であり、聖文を学ぶなら天父とイエスがわたしたちに何をしよう望んでいらっしゃるか知ることができる。それを証する。

楽しい活動

- 次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。
- 紙を半分に折り、標準聖典の表紙をまねた小さな模型を人数分作る。この表紙に標準聖典のそれぞれの名称を書く。表紙の上の隅に穴を一つ開け、糸か毛糸で、ひとそろいの標準聖典の表紙を結んでおく。
 レッスンで学ぶ聖句を、表紙の内側に書いておく。
 聖書—— イエスさまは、せいさんについておしえてくださいました（ルカ22：19）。
 モルモン書—— イエスさまは、かぞくでいのるようにおしえてくださいました（3ニーファイ18：21）。
 教義と聖約—— イエスさまは、りんじんをあいするようにおしえてくださいました（教義と聖約59：6）。
 高価な真珠—— イエスさまは、バプテスマをうけるようにおしえてくださいました（モーセ7：11）。
 子供たちにひとそろいずつ家に持ち帰らせる。渡しながら、レッスンで学んだイエスの教えを復習する。
 - 信仰簡条第8条の次の部分を、子供に分かりやすい言葉で覚えさせる。「わたしたちは……聖書は神の言葉であると信じる。また、モルモン書も神の言葉であると信じる。」
 - モルモン書の物語の絵を何枚か、本書の付録や教会付属図書館から探して用意する。一枚一枚絵を見せて、そこに描かれている物語について簡単に話し合う。聖文の物語は真実であることを指摘する。「モルモン書の物語」（『子供の歌集』、62）を歌う。
 - 聖文が生活の中で特別な意味を持ったときの経験を紹介する。聖文がどのように役立ったか、そのときどのように感じたか話す。
 - イエスの言葉を伝える短い聖句を見つける。例えば本課に紹介されている聖句など。「イエス様は言われました」に続けて、それらの聖句を次のように言う。「イエス様は言われました。『わたしに従いなさい』」お手玉などの柔らかい物を一人の子供に投げ、後に続けて言わせる。全員に順番が回るまで繰り返す。

幼い子供のための活動

- 聖書を持ちながら、「イエス様の話聞かせて」（『子供の歌集』、36）を歌うか、歌詞を読む。モルモン書を持ちながら、「モルモン書の物語」を歌うか、歌詞を読んでもよい。
- 10人のらい病人の話を紹介し（ルカ17：11-19参照）、以下の指遊びを行う。
 10人の病人がいました（10本の指を高く上げる）
 ある日 イエス様の祝福受けて
 痛みはどこかへ行っちゃった（手を振る）
 それがね 不思議なの
 なぜだろう（指を頭のわきに付けて、考えるまねをする）
 イエス様に感謝して
 お礼を言いに来たのは（両手を差し出して、感謝している様子を示す）
 たった一人だけ（指を1本立てる）
 （ジーン・シャノン、*Bible Story Finger Plays and Action Rhymes*, 27より翻案）
 この物語が聖書のどこに記されているか示す。
- 子供たちの好きな聖文の物語を尋ねる。できれば、その物語が聖典のどこに書かれているか示す。

目的	子供たちが末日聖徒イエス・キリスト教会に所属していることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マルコ1：9-11；教義と聖約115：4；ジョセフ・スミス-歴史1：5，10-19。『福音の原則』（31110 300）第17章も参照する。2. 大きな紙か厚紙でジグソー・パズルを作り，教師と子供の数分のピースを用意する。それぞれのピースに子供の名前を一つずつ書いておく。3. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 標準聖典b. 視覚資料1-4「最初の示現」（『福音の視覚資料セット』403）；1-8「^{せいさん}聖餐のパス」；1-12「確認の儀式を受ける少女」；1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」（同208）；1-39「子供の祝福」；1-40「病人の^{いや}癒し」，現在の預言者の写真4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び，必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>教師の名前が書いてある，パズルのピースを見せる。それがパズルの一部であることを伝える。子供たちにほかのピースを与え，パズルを完成させる。ピースを一つずつ指さしながら，そこにある名前を読み上げる。各ピースがパズルの一部であるように，子供たちもこのクラスの構成員であることを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none">● 皆さんはほかにどんなグループの中の一人ですか。 わたしたちはそのほかに，家族や近所の中の一人であることを説明する。同じようにイエスの教会の一員でもある。 <p>視覚資料1-39「子供の祝福」を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none">● この絵は何をしているところですか。 生徒のほとんどが赤ちゃんのときに命名と祝福の儀式を受けたことを説明する。この命名と祝福の儀式により，子供たちは名前が教会に記録されるので，「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の一員です」と言うことができる。 <p>子供たちに「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の一員です」と何回か声に出して言わせる。</p>
活動	<p>子供たちと一緒に以下の遊戯をする。</p> <p>今日 教会に来てよかった 今日 教会に来てよかった（2本の指の先を合わせて教会の^{せんとう}尖塔を作る） お話を聞いたり（おわん状にした手を耳に当てる） お祈りしたり（腕を組み，頭を下げる） 天にいらっしゃるイエス様のことを勉強して（上を指さす） イエス様の愛について考えます（自分を抱き締める） わたしたちが教会の集会に出席するのは，イエスのことやイエスがわたしたちに望んでおられることを知るためである。このレッスンでは，イエスの教会の一部を成す，幾つかの大切な事柄を学ぶ。以上を子供たちに説明する。</p>

イエスの教会には神権がある

視覚資料1-8「聖餐のパス」；1-12「確認の儀式を受ける少女」；1-40「病人の癒し」を見せる。それぞれの絵について知っていることを言わせる。どの儀式にも神権が必要であることを説明する。神権は天父とイエスが有しておられる力であり、義にかなった男性は神からその力を授かり、天父とイエスの業をこの地上で行えるようになる。それぞれの絵にある神権者を指す。何回か声を出して「神権」と言わせる。

- 皆さんは神権を持っている人を、だれか知っていますか。

神権を持つ男性は、聖餐を祝福し、聖餐を配り、バプテスマを施し、人々に祝福を与えるなど、重要なことを行う。視覚資料1-39「子供の祝福」をもう一度見せ、赤ちゃんは神権を持つ男性から祝福を受けることを説明する。

物語

視覚資料1-18「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」の絵を見せ、この絵について知っていることを言わせる。マルコ1：9-11にある物語を簡単に紹介する。

- イエス様にバプテスマを施しているのはだれですか（マルコ1：9参照）。
- ヨハネがイエス様にバプテスマを施すには、何を持っていなければなりませんでしたが。（神権）神権を持つ人からバプテスマを受けることは、イエスの教会の会員になるための大切な段階であることを話す。子供たちは8歳になったらバプテスマを受けて、イエスの教会の会員になれることを話す。

イエスの教会には預言者がいる

視覚資料1-4「最初の示現」を見せ、ジョセフ・スミスー歴史1：5，10-19に書かれているジョセフ・スミスと最初の示現の物語を話す。

- 森の中で、ジョセフ・スミスに現れて話をされたのはどなたですか（ジョセフ・スミスー歴史1：17参照）。

天父とイエスがジョセフ・スミスに語られたので、わたしたちはジョセフ・スミスを預言者と呼んでいる。預言者は、天父とイエスがわたしたちに望んでおられることを教えてくれる。

- 預言者とはどんな人ですか。（天父やイエスと言葉を交わし、御二方がわたしたちに知ってほしいと望んでおられることを伝える、特別な召しを持つ人。）

現在の大管長の写真を見せ、現在の大管長について子供たちに話す。イエスの教会には常に生ける預言者がいて、天父とイエスがわたしたちに知り、行うように望んでおられる事柄を教えてください。

歌

「預言者にしたがおう」（『子供の歌集』，58-59）を歌うか、歌詞を読む。道をそれるとは、間違ったことをするという意味であることを説明する。教師が歌う間、一人の子供に生ける預言者の写真を持たせておく。

したがおうよげんしゃに　じゅうじゅんにみちそれず
したがおうよげんしゃは　しゅのみちをしっている

イエスの教会には聖典がある

聖典を掲げる。

- 先生が持っているものは何ですか。

聖典について知っていることを子供たちに話させる。聖典には天父とイエスの教えが載っている。また、イエスや預言者やそのほかの人々の真実の物語が記されている。聖文は、イエスの教会の大切な一部である。

わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の一員である

- 皆さんのいるこの教会は、だれの教会ですか。
- 皆さんのいるこの教会の名前は、何といますか。

教義と聖約115：4を読んで聞かせる。この名前は、わたしたちが住む今この時代のイエスの教会、という意味であることを説明する。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が全世界に大勢いることを理解させる。

現在、この地上には、末日聖徒イエス・キリスト教会のほかにも、イエスや正しい生活について教えている教会があることを説明してもよい。しかし彼らは神権、生ける預言者、すべての聖文を持っていないことを教える。

活動

イエスの教会の一員である人は、全員立つように言う。全員が立っているはずである。「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の一員です」と後に続いて子供たちに言わせる。

絵と聖典を使いながら、神権、生ける預言者、聖文がイエスの教会の重要な一部であることを、簡単に復習する。

あかし 証

福音が真実であることを証する。イエスの真実の教会に所属することの大切さやすばらしさを、子供たちが感じられるように助ける。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

- 「わたしはまつじつせいとイエス・キリストきょうかいのいちいんです」と書いたバッジを人数分用意して、子供たちに色を塗らせる。
- 子供たちと一緒に次の指遊びを行う。

ここは教会
 ここは教会（両手の指を内側に向けて交互に絡ませ手を握る）
 これは塔（両手の人差し指の先を合わせる）
 入り口のドアが開きます（両手の指を小指から順に開いていく）
 中には大勢の人がいて（指をばらばらに動かす）
 ドアを閉めると お祈りが聞こえてきます（指を中にして手を閉じる、片方の耳に手を当てる）
 ドアが開いて みんな出て来ました（手を開き、指で歩く動作をする）
- 末日聖徒イエス・キリスト教会に所属する子供が、教会に行くときの話をする。子供たちと一緒にできる動作を振り付ける。例えば、聖餐会で家族と一緒に座る、聖餐を受ける、初等協会で敬虔に座る、祈る、歌うなど。

また次のような質問をして考えさせてもよい。
 「教会の子供たちは、日曜日にはどんなことをしなければなりませんか。」
 「聖餐会の間は、何をしなければなりませんか。」
 「プライマリーではどうですか。」
 「日曜日には、家でどんなことをしますか。」
 「家庭の夕べでは、どんなことをしますか。」
 「家族にはどんなふうに接しますか。」
 「お友達にはどうですか。」

教会の男の子や女の子はどのようにしなければならぬかを、子供たちに理解させる。
- 子供たちに自分は、教会のほかに、どんなグループの一員であるか考えさせる（家族、初等協会など）。それぞれの集団にいて、どんな点が好きか答えさせる。最後に末日聖徒イエス・キリスト教会の一員であることについて、どんな点が好きか答えてもらう。
- 「イエス・キリストの教会」（『子供の歌集』、48）を歌うか、歌詞を読む。

幼い子供のための 活動

- クラスが始まる前に、別々の紙にそれぞれ目、手、耳、口の絵を描いておく。

教会でできることはたくさんある。目の絵を指しながら、「わたしたちは聖文の物語を読むことができます」と言う。同様に手の絵を指しながら、「わたしたちはお友達と仲良く遊べます」、耳の絵では「わたしたちは先生の言うことをよく聞けます」、口の絵では「わたし

たちは教会で静かに話せます」と言う。子供たちを一人ずつ前に来させ、絵を指ささせる。その絵が何を表すかもう一度話す。

2. 「モルモン書の物語」（『子供の歌集』, 62）を歌いながら、歌詞に合わせて動作をさせる。あるいは、歌いながら部屋の中を歩かせる。

目的	預言者に従うとき祝福されることを理解する。
準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。サムエル上3：1-10, 19-20。『福音の原則』（31110 300）第9章も参照する。2. 『リアホナ』の大会特集号や通常号の記事の中から、生ける預言者の教えをいくつか選び、それぞれ別々の紙に書き出す。少なくとも子供たちの人数分用意する。紙を折って、ボールのような容器かかごに入れておく。次のような教えが考えられる。<ul style="list-style-type: none">● 毎日聖文を勉強する。● 安息日を聖く守る。● 毎日祈る。● 聖餐会と初等協会に行く。● 正直である。3. 教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 視覚資料1-4「最初の示現」（『福音の視覚資料セット』403）；1-29「箱舟を造る」（同102）；1-42「主に召される少年サムエル」（同111）；1-66「モーセと燃えるしば」（同107）；現在の預言者の写真4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
導入	<p>ノア（視覚資料1-29）、モーセ（1-66）、ジョセフ・スミス（1-4）の絵を1枚ずつ見せ、彼らについて知っていることや、どのような出来事が描かれているか話させる。</p> <p>絵について話し合った後、ノアに箱舟を造って家族を洪水から守るように命じられたのはイエスであったことを簡単に説明する。イエスはまた、奴隷の境涯にあるイスラエルの民を自由にするようモーセに指示し、ジョセフ・スミスに地上にあるどの教会にも入ってはならないと告げられたことを話す。</p> <p>預言者は天父やイエスと話をする</p> <p>ノア、モーセ、ジョセフ・スミスの3人は預言者であった。預言者とは、天父やイエスと話をする人のことである。天父とイエスはこの地上におられないので、わたしたちに直接教えを施されることはない。その助けをするために、預言者が召される。天父とイエスは預言者に教えを授け、預言者はわたしたちに、祝福を受けて幸せになるにはどうすべきか教えてくれる。</p>
物語	<p>視覚資料1-42「主に召される少年サムエル」を見せる。サムエル上3：1-10, 19-20を参照して、預言者に召されたサムエルの物語を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none">● 寝ていたサムエルを呼んだのは、どなたですか（サムエル上3：4参照）。● サムエルはだれに呼ばれていると思いましたか（サムエル上3：5参照）。● エリはサムエルに何をするように言いましたか（サムエル上3：9参照）。● サムエルはイエス様に何と言いましたか（サムエル上3：10参照）。

イエスが初めてサムエルに語られたとき、サムエルはまだ少年だった。サムエルは成長して、天父とイエスが望んでいらっしゃることを人々に教えた。

活動

3人の子供たちにサムエル、エリ、イエスの役を与えて、物語を演じさせる。ほかにも演じた子供がいるときは、交代して繰り返す。

今もこの地上に預言者がいる

現在の預言者の写真を見せる。預言者について知っていることを話して聞かせる。

子供たちを立たせ、「(現在の預言者の名前)は神の預言者です」と声に出して言わせる。

- どうして今も預言者が必要なのでしょう。(天父とイエスがわたしたちに行くよう望んでいらっしゃる事柄を知るため。)

預言者は、大会の説教を通して、わたしたちに教えてくださる。大会は大勢の人々が出席する大きな集会である。録音テープや録画ビデオによって預言者の話を聞くこともできる。預言者の言葉は『リアホナ』にも掲載され、両親をはじめいろいろな人が子供たちにそれを読んで聞かせることができる。

活動

ボールのような容器かかごに入った紙片を1枚ずつ取らせる。紙片に書かれているメッセージを読み、それについて簡単に子供たちと話し合う。それらのメッセージはすべて、預言者がわたしたちに行くよう言っていることである。この点を子供たちに教える。

活動

預言者に従うためにできることを考えさせる。お手玉か柔らかい物を子供の一人に投げて、「わたしは_____をして、預言者に従います」と言わせる。全員に言わせる。

預言者に従うときに祝福を受ける

ノア、モーセ、ジョセフ・スミスの絵、また現在の預言者の写真をもう一度見せる。ノアの家族はノアに従って洪水から守られた。イスラエルの人々はモーセに従い、エジプトから導き出されて良い土地に行った。ジョセフ・スミスに従った人々は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になった。

これらの人々は、預言者に従ったので祝福されたことを説明する。わたしたちも預言者に従うなら祝福を受ける。

歌

「預言者にしたがおう」(『子供の歌集』, 58)を歌うか、歌詞を読む。道をそれるとは、間違ったことをするという意味であることを説明する。教師が歌う間、一人の子供に生ける預言者の写真を持たせておく。

したがおうよげんしゃに　じゅうじゅんにみちそれず
したがおうよげんしゃは　しゅのみちをしっている

あかし 証

生ける預言者について証する。預言者に従うならば祝福されて幸福になると知っていることを伝える。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 生ける預言者の説教の録音テープや録画ビデオを入手し、子供たちに聞かせるか見せる。『リアホナ』の中から、預言者の写真を見せてもよい。
2. 「感謝を神に捧げん」(『賛美歌』第11番)を歌うか、歌詞を読んで聞かせる。
3. 救い主を見たロレンゾ・スノー大管長の物語をもう一度話す(第26課参照)。イエスがスノー大管長に御姿を示され、教会を導くためにすべきことを伝えられた。これを子供たちに説明して聞かせる。イエスは、教会員に伝えるべき教えをスノー大管長に教えられた。
4. 子供たちが預言者に従える状況を幾つか想定する。それぞれの状況を説明し、そのような中

で預言者に従うためにすべきことを演じさせるか、言わせる。例えば次のような状況を話す。「台所でお金を見つけました。そのままもらいたいと思いましたが、そのお金はお母さんのものです。正直になりなさいという預言者の教えに従うには、どうしますか。」

幼い子供のための活動

1. レッソンの時間中、生ける預言者の写真を見える所に置いておく。時間を取って、その写真の人はだれか尋ねる。預言者が子供たちを愛して、天父とイエスのもとに戻れるように子供たちを助けたいと願っていることを伝える。レッスンの中で2, 3回、繰り返してこれを教える。
2. 「リーダーに続け」を一緒に行う。子供たちを一行に並ばせる。先頭の子供が跳ねたり、スキップしたり、そのほかの動作をしたりしながら、教室の向こう側まで行く。ほかの子供たちは、先頭の子供と同じ動作をしながら続く。全員が終わったら先頭の子供は列の最後につき、次の子供が新しいリーダーになる。全員がリーダーになるまで続ける。
ゲームの後、預言者は教会のリーダーであることを説明する。預言者が行うように言ったことに従えば、わたしたちは天父とイエスのもとに導かれる。

目的 ワード、支部の会員はだれでも、教会で助け合えることを理解する。

- 準備**
1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。1ニーファイ17：7-15；18：1-4。
 2. 簡単なお礼カードを人数分準備して、子供たちに色を塗らせ、初等協会の会長をはじめ、教会で子供たちを助けてくれる人々に渡させる。二つに折った紙の外側に花を描き、内側に「ありがとう」と書いたカードでもよい。
 3. 教材
 - a. モルモン書
 - b. 第11課で使った釣り竿と魚。魚にはそれぞれ、ビショップまたは支部会長に関する次のようなヒントを書いておく。「教会で壇上に座っています」「ワード（支部）のみんなを助けてくれます」「この人に自分の一を渡します」
 - c. クレヨンか色鉛筆の入れ物
 - d. 視覚資料1-8「聖餐のパス」；1-67「敬虔なクラス」；1-71「船を造る」
 4. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 いすを一つ部屋の真ん中に持って来て、1本の足だけを持って持ち上げてみる。みんなで一緒にしなければできないことが、たくさんあることを説明する。3人の子供にいすの足を1本ずつ持たせ、いすを床から少し持ち上げるのを手伝うように頼む。みんなで一緒にすると、一人ではできない多くのことができる。

天父とイエスはわたしたちに一緒に働くように望んでおられる

物語 視覚資料1-71「船を造る」を見せる。1ニーファイ17：7-15；18：1-4を参照して、ニーファイとその家族が船を造った物語を簡単に話す。ニーファイが船を造るには、主と家族の助けが必要だったことを強調する。

- ニーファイはみんなの助けがなければ船を造れませんでした。なぜですか。
 - 主はどのようにニーファイを助けられましたか（1ニーファイ17：8-10；18：1参照）。
 - ニーファイの家族は、どのようにニーファイを助けましたか（1ニーファイ18：1参照）。
 - みんなで一緒に働いたとき、どんなことが起こりましたか（1ニーファイ18：4参照）。
- ほかの人と一緒に働いた経験があれば、子供たちに話させる。

活動 わたしたちも教会で一緒に働くことを説明する。ワード（支部）の人々はそれぞれ助け合っている。言葉や身振りで、毎週教会でクラスの子供たちを助けてくれる人々のまねをする。例えば、指揮者、ピアニスト、教師、初等協会会長など。子供たちにだれのまねか当てさせる。子供たちが当てるごとに、その召しを受けている人の責任について説明する。よいと思うまで繰り返す。

視覚資料1-8「聖餐のパス」を見せる。

- この執事は何をしていますか。
- 聖餐のパスをしている人を、だれか知っていますか。

アロン神権を持つ若い男性は、聖餐の準備や祝福、パスをする。こうして若い男性は教会で助けをしている。

活動

このワード（支部）には教会のすべての人を助けている人がいる。天父はこの人に大切な務めを与えられた。一人ずつ順番に、ヒントの書いてある紙の魚を釣らせる。各ヒントを声に出して読む。全部のヒントが読み上げられるまで続け、子供たちにこの人がだれか当てさせる。

- わたしたちのビショップ（支部会長）さんは、何という名前ですか。
- ビショップ（支部会長）さんは、わたしたちを助けるために何をしてくれますか。

ワード（支部）のそのほかの人々が行っている務めについても話し合う。（ホームティーチャー、訪問教師など。子供たちの家族が受けている召しについて説明してもよい。）

わたしたちも教会で助ける

活動

入れ物の中から、クレヨンか色鉛筆を床にばらまく。一人の子供にそれを拾わせ、拾い終わるまでの時間を計る。もう一度ばらまいてクラス全員で拾わせ、かかった時間を計る。みんなで一緒に集めると、早く仕事ができることを説明する。

- 皆さんは教会でどんな助けができますか。

自分は教会でどんな助けができるか考えさせる。例えば、教会をきれいにしておく、人に親切にする、悲しんでいる友達や怖がっている友達を助ける、集会の間敬虔にしている、など。

- 教室や教会をきれいにしておくために、何ができますか。
- 教会でほかの人を助けるために、何ができますか。

視覚資料1-67「敬虔なクラス」を見せる。

- この子供たちは、教会でどのような助けをしていますか。
- わたしたちは敬虔にすると、クラスのお友達をどのように助けられますか。
- みんなが敬虔にしたら、先生はどのように助かりますか。
- みんなが敬虔にすると、どんな気持ちになりますか。

活動

わたしたちを助けてくれる人々に感謝を伝えることも、教会で人々を助ける一つの方法であることを説明する。準備した「ありがとう」のカードに色を塗らせ、可能であれば、レッスンの間に届ける。

あかし
証

ワード（支部）で働くすべての人に感謝していることを話す。初等協会の教師を務めることによって、天父の業に携わっている自分の気持ちを伝える。

楽しい活動

次の中からレッスンで使う活動を幾つか選ぶ。

1. 「かんとくさん」（『子供の歌集』、140）「かんとくさん」という言葉が出る度、子供たちに互いに握手させる。
2. 可能であれば、礼拝堂に行ってビショップリック（支部会長会）が座る席を子供たちに見せる。子供たちを順番にその席に座らせる。その後、ビショップ（支部会長）の部屋がどこにあるか見せる。
3. 軟らかいボールかお手玉を一人の子供に投げて、ワード（支部）で働いている人の名前を言わせ、どのような責任か話させる。全員に当たるまで続ける。
4. 初等協会会長の許可を得たうえで、ビショップリック（支部会長会）の一人か、ほかの指導者をクラスに招いて、どのような責任を果たしているか話してもらう。
5. 簡単な顔を書いた紙皿を人数分用意する。子供たちにクレヨンや色鉛筆で髪の毛をそれに描かせる。教会でできる助けについて、教師が言うことが正しいときは、紙皿の顔を上に上げさせ、正しくないときはひざに置かせる。次のような例を使うとよい。
 - いすの下に紙を投げる。
 - 教会でわたしを助けてくれる人にありがとうと言う。
 - 教室に走って行く。
 - 教会で静かにする。

幼い子供のための活動

1. 「リーダーに続け」を一緒に行う。子供たちを一行に並ばせる。先頭の子供が跳ねたり、スキップしたり、そのほかの動作をしたりしながら、教室の向こう側まで行く。ほかの子供たちは、先頭の子供と同じ動作をしながら続く。全員が終わったら先頭の子供が列の最後につき、次の子供が新しいリーダーになる。全員がリーダーになるまで続ける。
ゲームの後、ビショップ（支部会長）はワード（支部）の指導者であることを指摘する。ビショップ（支部会長）は、わたしたちが天父のもとに帰るために必要なことを行うよう望んでいる。
2. 「わたしのするとおり」（『子供の歌集』, 146）を歌う。その際、クラスの子供の一人がする動作を皆で行う。動作は順番に行い、子供たち全員が一巡するまで歌を繰り返す。

イエス・キリストの復活 (復活祭)

第45課

目的	イエス・キリストが復活したことを理解する。
----	-----------------------

準備	<ol style="list-style-type: none">1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。ルカ23：33-24：12, 36-40, 51。『福音の原則』(31110 300) 第12課も参照する。2. 必要な教材<ol style="list-style-type: none">a. 聖書b. 視覚資料1-3「イエス・キリスト」(『福音の視覚資料セット』240)；1-16「イエスの生誕」(同201)；1-55「山上の垂訓」(同212)；1-59「十字架」(同230)；1-72「ゲツセマネで祈られるイエス」(同227)；1-73「イエスの埋葬」(同231)；1-74「傷跡をお見せになるイエス」(同234)3. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
----	---

レッスン	一人の子供に開会の祈りをさせる。
------	------------------

導入	<p>視覚資料1-3「イエス・キリスト」を裏にしてひざの上に置く。「これからとても大切な人について話そうと思っています」と、子供たちに話しかける。次のヒントを挙げて、この人がだれであるか当てさせる。</p> <ol style="list-style-type: none">1. この御方はすべての人をとても愛していらっしゃいます。2. ずっと昔、この地上に生きていた御方で、自分の教会をお立てになりました。3. わたしたちにどう生きるべきか、どうしたら幸せになれるか、教えてくださいました。4. 人々を祝福して、親切で愛ある人になるように教えられました。 <p>答えはイエスであることを子供たちが当てたら（または教師が答えを教えたら）、視覚資料を見せる。</p> <p>イエスはわたしたちを愛しておられる</p> <p>イエスが天父の御子であられることを思い出させる。天父は大切な目的のためにイエスをこの世に送られた。</p>
----	---

物語	<p>視覚資料1-16「イエスの生誕」を見せる。イエスの誕生について簡単に話す。子供たちに言わせてもよい。イエスは特別な赤ん坊であった点を指摘する。</p> <p>視覚資料1-55「山上の垂訓」を見せる。大人になったイエスは御自分の教会を立て、人々にどう生きるべきか、どうしたら幸せになれるか教え、互いに愛し合うように言われた。</p>
----	--

歌	<p>子供たちを立たせ、「すべての人を愛しなさい」(『子供の歌集』, 39) を振り付けに合わせて歌わせるか、歌詞を言わせる。</p> <p>イエスさまむかし (腕を大きく広げる)</p> <p>いいました (首を縦に振る)</p> <p>すべてのひとを (手を胸に当てる)</p> <p>あいしなさい (自分を抱き締める)</p>
---	--

視覚資料1-72「ゲツセマネで祈られるイエス」を見せる。

- この絵でイエス様は何をしていますか。

イエスは亡くなる前、ゲツセマネの園という場所に行って祈られたことを説明する。イエスは、わたしたちが自分の間違いを悔い改めて赦されるように、わたしたちの罪のために苦しみを受けてくださった。それができる力を持っておられたのは、イエスただ御一人だった。イエスはわたしたちを深く愛しておられたので、それをしてくださった。

イエスは復活された

イエスの時代に生きていた多くの人々も、イエスを愛していた。しかし、イエスを嫌う人々もいた。彼らはイエスが天父の御子であられることを信じなかった。

物語

視覚資料1-59「十字架」を見せる。ルカ23：33-46を参照して、イエスが十字架にかけられた話を分かりやすく説明する。イエスを憎んだ人々は、イエスにとっても冷たかった。兵士たちはイエスの手と足に釘を打って十字架につけ、イエスが亡くなるまで放っておいた。（この話を紹介するときやこの後の活動では、人々がイエスを傷つけたという話に感じやすい子供がいるかもしれないので、よく注意する。）

イエスが亡くなったとき、その霊は肉体を離れて霊界に行かれたことを説明する。わたしたちも一人一人に霊があることを思い出させる。霊を見ることはできないが、霊がわたしたちを生かしている。

視覚資料1-73「イエスの埋葬」を見せる。イエスを愛していた人々はイエスの体を下ろし、丁寧に布で覆った。イエスの体を墓（人を埋葬するための洞穴のような場所）に運び、そっと横たえた（ルカ23：50-56参照）。

視覚資料1-74「傷跡をお見せになるイエス」を見せる。亡くなってから3日後、イエスが復活されたことを説明する。もう一度生き返られたのである。イエスが亡くなったとき霊は肉体を離れたが、復活されたときその霊は再び肉体に戻った。イエスは復活した最初の御方だった。

多くの人が復活したイエスを見たことを説明する（ルカ24章参照）。イエスは御自分の友人たちに教えを伝え、復活した体を見せられた（ルカ24：36参照）。また、彼らに御自分の体に触らせ、復活した体には肉も骨もあることを示された（ルカ24：39-40参照）。人々に教えを伝えた後、イエスは再び天父と住むため、天に戻られた（ルカ24：51参照）。

- なぜイエスは人々に御自分の体に触ってほしいと思われたのでしょうか（ルカ24：36-40参照）。
- 人々のもとから去った後、イエスはどこに行かれたのでしょうか（ルカ24：51参照）。

イエスの復活した日が最初の復活祭であったことを説明する。このイエスの復活を忘れないようにするために、わたしたちは毎年復活祭を祝う。

活動

子供たちを立たせ、一緒に以下の詩を口ずさみながら体を動かす。

亡くなられてから3日後に（指を3本立てる）

生き返られた イエス様

手にも足にも釘の跡（手のひらと足を指さす）

わきの腹には やりの傷（わき腹を指さす）

イエス様が教えてくださった（腕を広げる）

福音学んで従うように（腕を組む）

最初に復活されたイエス様

それで みんなが復活します（首を縦に振る）

わたしたちも復活する

イエスが亡くなられた後に再び生き返られたことを、子供たちが理解できるように助ける。イエスは今も天で生きておられ、もはや死ぬことはない。イエスのおかげでわたしたちも復活できるようになった。すべての人が死んだ後で再び生きるのである。

- 亡くなった人をだれか知っていますか。

人が死んでも、霊は生きていることを説明する。人はいつの日か復活して、イエスと同じように、肉体と霊は元どおり一緒になる。イエスと同じように3日後ではないかもしれないが、すべての人がいつの日か復活することを説明してもよい。

「復活」という言葉を何度か声に出して言わせ、その意味を言わせる。

両親やきょうだい、祖父母、友達など、愛するすべての人が復活する。それを知ることがどんなにすばらしいか話す。人は死んでも再び生き返る。イエスがそれを可能にしてくださった。

イエスはわたしたち一人一人を愛していらっしゃる。それを証する。わたしたちを愛されたので、人がいつの日か復活できるように、苦しみを受け、命を捨て、復活された。

あかし
証

楽しい活動

次の中からレッスンに使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供たちがよく知っている復活祭の経験談や習慣について、簡単に話し合う。社会一般の復活祭の習慣は確かに楽しいかもしれないが、子供たちが復活祭のほんとうの意味をそれらとは切り離して考えられるように助ける。
2. 子供たちに手袋を見せる。手袋を手にはめた状態を、この世の肉体にたとえる。手（霊）が手袋（肉体）を動かす様子を見せる。手袋を取り、それが肉体の死にたとえられることを説明する。霊と肉体が離れると、肉体は動かなくなる。手袋をまた手にはめて、これが復活にたとえられることを説明する。こうして霊と肉体はもう一度一緒になる。イエス・キリストが復活されたために、すべての人がいつの日か復活することを、子供たちに思い出させる。
3. 第6課の最後にある「イエスさまは わたしの やさしい ともだち」の絵を複写し、色を塗らせる。
4. お手玉などの柔らかい物を子供に渡し、以下の質問（あるいは似たような質問でもよい）に答えさせ、それからお手玉を放り返させる。すべての子供に順番が回るまで続ける。
 - なぜ復活祭をお祝いしますか。
 - 最初に復活したのはどなたですか。
 - 復活するとは、どのようなことですか。
 - イエス様が亡くなられた後、その体はどこに置かれましたか。
 - イエス様が復活された後、イエス様にお会いした人はたくさんいましたか。
 - なぜイエス様は人々に、御自分の復活した体に触れさせられたのでしょうか。
 - イエス様が復活されたので、ほかにだれが復活するのでしょうか。
5. 「イエス様よみがえる」(『子供の歌集』, 44) を歌わせるか、歌詞を言わせる。

幼い子供のための活動

1. 動作を入れながら、以下の言葉を言う。

復活されたイエス様
この場所はイエス様が置かれた所（指さす）
ごらん、ほら、入り口が開けてある
のぞいてごらん、近づいて（手を額の上でひさしのようにかざし、かがみ込む）
ここにはいない、イエス様（立ち上がる）
復活されたよ、喜びいさめ（拍手する）
(ダナ・エイノン, *Bible Story Finger Plays and Action Rhymes*, 29)
2. イエスが亡くなり復活されたのは、春であったことを説明する。春は命の誕生の季節である。草木が芽吹き、多くの動物が春に生まれる。子供たちに花や動物の赤ちゃんの絵を描かせる。視覚資料1-3「イエス・キリスト」を見せ、イエスが復活されたので、すべての人が、死後、再び生きられることを説明する。
3. 「イエス様は友達」(『子供の歌集』, 37) を歌うか、歌詞を言う。復活祭は、イエスとその復活を記念するために祝う。子供たちにそれを銘記させる。

イエス・キリストの誕生 (クリスマス)

第46課

目的 イエス・キリストの誕生に感謝の気持ちを抱く。

- 準備**
1. 祈りの気持ちで次の聖句を研究する。マタイ2：1-12；ルカ1：26-35；2：1-20。
 2. クラスの一人一人の子供たちが生まれたときの様子を少し調べておく。例えば、生まれた場所、そのときの髪の色、最初に住んだ場所など。養子の子供がいる場合、彼らの気持ちを傷つけないように配慮する。
 2. クリスマス用の紙の鎖を作れるように、細長い紙（20センチ×4センチ）を切っておく。子供たち全員が、ある程度の長さの鎖を作れるように十分な枚数を用意する。
 3. 親に渡せるように、クリスマス用の紙の鎖の説明（本文参照）を記したメモを準備し、子供が親切な行いをできるように、親から励ましてもらう。
 4. 必要な教材
 - a. 聖書
 - b. 馬屋でのキリスト誕生の場面を現した置き物。赤ちゃんの人形を毛布にくるんで小さな箱に寝かせ、星の形に切った紙を人形の上に配して用意してもよい。もし置き物が用意できないときは、視覚資料1-75「イエスの生誕」（『福音の視覚資料セット』200）を利用する。
 - c. クレヨン、のり
 - d. 視覚資料1-75「イエスの生誕」（『福音の視覚資料セット』200）；1-76「宿屋には泊まる場所がなかった」；1-77「羊飼いに知らされるキリストの誕生」（同202）；1-78「博士たち」（同203）
 5. 「楽しい活動」の中から使いたい活動を選び、必要な準備をする。
-

レッスン 一人の子供に開会の祈りをさせる。

導入 一人の子供を教師の横に立たせ、その子供が生まれたときの様子を紹介する。クラス全員について同じことをする。

クリスマスにはイエス・キリストの誕生を祝う

今はクリスマスの季節なので、わたしたちみんなが愛している御方の誕生日をお祝いしていることを説明する。

- だれの誕生日をお祝いするのでしょうか。

物語 ルカ1：26-35にあるマリヤへの天使の訪れを話す。天使はマリヤに「あなたは神の子イエスの母となるだろう」と告げたことを説明する。

- イエス様のお母さんの名前は何か（ルカ1：27参照）。
- イエス様のお父さんはだれですか（天父。ルカ1：35参照）。

ヨセフはイエスの父親ではなかったことを話す。彼は善良な人で、イエスの世話をするために選ばれた。ヨセフの夢に天使が現れ、マリヤに大切な赤ん坊が生まれることを告げた。天使はヨセフにマリヤを妻に迎えるように言った。

物語 視覚資料1-76「宿屋には泊まる場所がなかった」を見せる。ルカ2：1-7を参照して、ヨセフとマリヤのナザレからベツレヘムまでの旅について話す。ルカ2：7を朗読し、難しい言葉には説明を加える。

活動 キリスト降誕の置き物の前に子供たちを座らせる。下に敷き物を敷かせるとよい。視覚資料1-75「イエスの生誕」を各自に回し、絵の中にあるものを一つずつ子供たちに言わせる。

- なぜマリヤとヨセフは宿屋に泊まらなかったのですか（ルカ2：7参照）。イエス様はどこでお生まれになりましたか（馬屋）。
- マリヤは赤ちゃんのイエス様をどんなベッドに寝かせましたか（ルカ2：7参照）。

歌 「ねどこもなくて」（『子供の歌集』、26-27）を一緒に歌うか、歌詞を言う。歌詞に合わせて、手と腕の振りを付ける。

ねどこもなく エスさまは
 かいばおけに ねんねした
 ほしぐさのうえに ねてる
 エスさまを ほしがみてた

物語 視覚資料1-77「羊飼いに知らされるキリストの誕生」を見せる。ルカ2：8-20を参照して、羊飼いたちがイエスを訪れたときの様子を話す。

- 羊飼いたちはなぜ恐れたのでしょうか（ルカ2：9参照）。
- 天使は羊飼いたちに何を知らせましたか（ルカ2：10-12参照）。
- 羊飼いたちは赤ちゃんのイエスを訪れた後、何をしましたか（ルカ2：17、20参照）。

物語 視覚資料1-78「博士たち」を見せる。マタイ2：1-12を参照して、博士たちがイエスのもとを訪れた話を紹介する。

活動 子供たちを立たせ、幼子^{おきなご}イエスのもとに導く星の後について、らくだに乗って行くまねをする。何回か部屋の中を回った後、らくだから降りて、イエス誕生の置き物の所に戻る。博士たちが幼子イエスを見つけたときには、ヨセフはもっと良い場所に移っていて、馬屋にはいなかったことを説明する。博士たちは黄金、乳香、没薬などの贈り物を持って来た。子供たちに自分の贈り物が3つのうちのどれであるか言わせて、幼子イエスに贈らせる。

わたしたちがささげる贈り物は、イエスのようになることである

毎年クリスマスにイエスの誕生を祝うとき、わたしたちもイエスに贈り物ができる。博士たちのように黄金、乳香、没薬などは贈れないが、ほかの贈り物ができる。イエスのようになると努力するとき、わたしたちはイエスに贈り物をしているのである。家族や友達に親切にすると、イエスのようになれる。

活動 子供たち一人一人に、クリスマス用の紙の鎖を少しずつ作らせる。輪に色を塗り、のりで輪をつなげていく（レッスンの最後にある図を参照）。その鎖を家に飾るように子供たちに言う。それを見ると、ほかの人に親切にすることがイエスへの贈り物であることを思い出すであろう。クリスマスまで、少なくとも1日1度、親切な行いをするようにチャレンジする。

子供にどのような親切な行いができるか考えさせる。親切な行いはイエスへのすばらしい贈り物であることを思い出させる。親に渡すために鎖の説明を子供たちに渡す。

あかし
証

イエス・キリストの誕生は地上で起きた最も大切な出来事であったことを説明する。イエスを愛していることと、クリスマスだけでなく一年中イエスのようになりたいと思っていることを伝える。

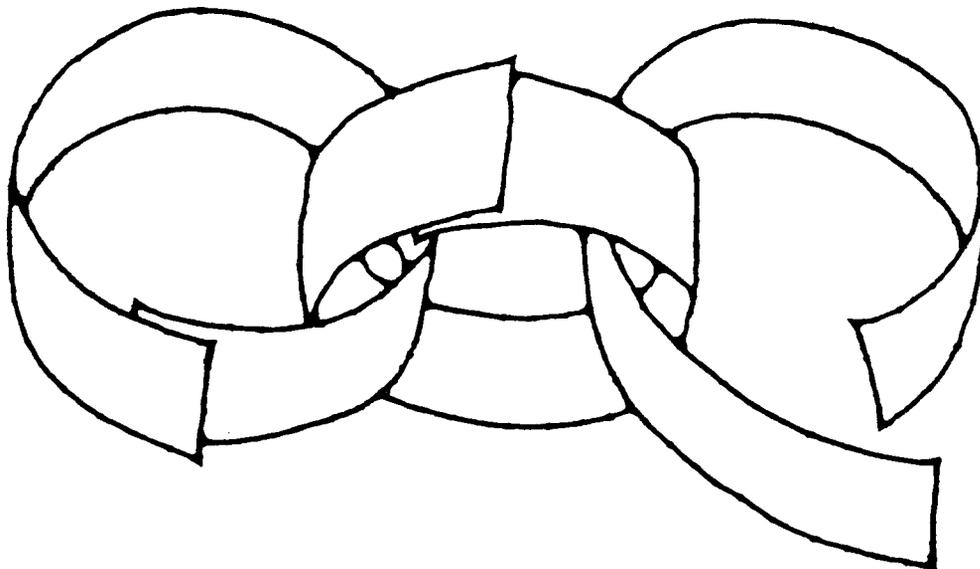
楽しい活動

次の中からレッスンに使う活動を幾つか選ぶ。

1. 子供たちにヨセフ、マリヤ、宿屋の主人、羊飼、博士の役を割り当て、イエス誕生の物語を演じさせる。可能なら赤ちゃんの人形、小さな毛布、肩掛けなどの小道具を用意する。全員が参加できるようにする。何度か繰り返して、各自に違う役を演じさせてもよい。
2. 簡単な星の形の切り抜きを作るか、描かせる。それに色を塗り、糸を通して、家で飾れるようにする。
3. デパートや商店などのクリスマスの宣伝で子供たちが気づいたことを話させる。プレゼントをもらったりパーティーをしたりするのは楽しいが、クリスマスのほんとうの意味はイエス・キリストの誕生にあり、大切なのはイエスとその生涯に心を向けることである。その点を子供たちに理解させる。
4. 教師が知っているか実行している地元のクリスマスで、キリストに心を向ける習慣があれば、それについて話し合う。家庭の中でクリスマスにキリストを思い起こさせる習慣があれば、子供たちにそれを話させる。

幼い子供のための活動

1. 子供たちに野原で休む羊飼いのまねをさせる。天使を見たときの羊飼いたちの恐れる様子や、天使の告げた訪れを知ったときの喜びをまねさせる。天使の歌声を聞いたり、美しい夜空や星を見たりする様子を想像させる。一緒に部屋の中を回って幼子を探しに行く。かいばおけに眠る幼子イエスの前にひざまずき、賛美の歌を歌う。
2. 次の詩を言いながら、子供たちに動作をさせる。
かいばおけに眠る 幼子イエス (抱いた赤ちゃんをあやすように、腕を揺する)
そばでほほえむ 母マリヤ (腕を広げる)
空に導く 星一つ (敬虔な様子で空を指す)
こよい生まれし 神の御子 (拍手で喜びを表す)
3. 「すべての人を愛しなさい」(『子供の歌集』, 39) を歌うか、歌詞を読む。クリスマスにはイエスの誕生を祝うことを子供たちに教える。
4. 布にくるまれた幼子イエスの切り抜きを作る。乾燥した干し草やわらを用意して、子供たちに「かいばおけ」(四角く切った紙)の上ののりではらせる。最後に、その上に幼子イエスの切り抜きをはらせる。



初等協会1——活動で使う歌，体を動かす詩の索引

赤ちゃんのすること それは	79	背が とっても高い人は	17
あかちゃんのときがあったよ	14, 51, 73	創造	47, 133
アダムとエバ	43	大好きなお友達	108
あなたの目	59, 62, 65	大好きな手	54, 93
雨の滴	26	高く背伸び	54
イエス様のように	119	種は土の中	103-104
イエス様はすべての子供を愛される	16	種まき	30
忙しい指さん	93, 102	楽しい1日	69
腕を組み 頭を下げて	12	小さな5匹の魚	33
腕を組んで	132	小さなかめさん	33
永遠はどのくらい長いの	85	小さなちょうちょうが飛んで行った	40
笑顔で	66	小さな手	53
笑顔はみんなを明るくします	112-113	小さな声で	21
お祈りの歌	10-11	小さな赤ちゃんのモーセ	3, 79
大きくなったり 小さくなったり	xvi	ちっちゃな子供	23
<small>おきなご</small> 幼子を愛するイエス様	120	天のお父様の愛	15-16
お手伝い	85-86	天のお父様はわたしのことを	2, 17
お手伝いをすると幸せ	68	ねどこもなくて	13-14
おばあちゃん	80-81	手をたたきましょう	54-55
かいばおけに眠る 幼子イエス	152	楽しいな	24, 25, 54, 72, 79
開拓者の子供たち	101	土曜日	47
神の創造されたもの	9, 24, 44	どんなものでも	40
体の歌	48	亡くなられてから3日後に	148
感謝の歌	11-12	2羽の小鳥	40
関節	50	ねどこもなくて	151
木の枝の鳥	41, 76	ノア	36, 115-116
着替え	105	花がはじけてポップコーン	28-29
<small>きょう</small> 今日教会に来てよかった	46, 132, 137	広い世界	23, 37, 40, 44, 116
今日は日曜日だから	47	二人の小さな友達	99
教会	125	復活されたイエス様	149
金魚	32	間違ったことをしたら	95
くもの歌	41	蜜蜂	41
ここは教会	139	むすんでひらいて	126
これはわたしのお母さん	90	目にかんしゃしよう	8, 12, 61
これはわたしの優しいお母さん	76	モルモン書の物語	140
幸せなら手をたたこう	69, 128	指を数えよう	54
幸せな家族	75, 79	わたしたちはみんな	
静かな足	125	天のお父様と一緒に住んでいました	9, 86
10人の病人がいました	136	わたしの 小さな 子猫ちゃん	115
少年イエスは神殿に行きました	14	わたしのすてきな体	5, 48-49, 59
ジョセフは森の中でひざまずき	6	わたしのするとおり	118
信じていのる	11	わたしの家族	76
神殿に行きたいな	83-84	わたしの気持ち	67
天のお父様はわたしのことを知っておられます	2, 17	わたしの足は走ることが好き	91-92
すべての人を愛なさい	110, 119, 135, 147	わたしの鼻	63

託児クラス用の歌——『子供の歌集』より

『子供の歌集』に収録された以下の曲は、特に託児クラスでの使用に適しています。歌詞を変えるための提案も幾つか併記してあります。これ以外にも教師のアイデアを生かして、『子供の歌集』にある以下の曲やそれ以外の曲に応用し、託児クラスで活用するとよいでしょう。

幸せな家族 (A Happy Family ©1975 Pioneer Music Press, Inc.)	104
楽しい託児または初等協会の替え歌を作る。 あいさつ代わりに次のように歌う。「みなさん こんにちは……」	
感謝のいのり	18
子供たちが感謝を示すいろいろなものの名前を使う。 「しゅよ かぜあめに かんしゃします」	
楽しいな	129
体の歌	129
基本動作を歌にする。「さあ いっしょに あるこ (はしろ, はねよう) ……へやのなか」 指示を与えるのにも使える。「さあ これかたそう ……はこのなか (たなのうえ)」	
よく来たね	130
幸せなら手をたたこう	125
雪だるま (Once There Was A Snowman, ©1981 Pioneer Music Press, Inc.)	121
自然の景観の中にあるもので替え歌を作る。「おおきな やま, やま, やま……がある, うえには くも, くも, くも……がゆく」または「せいたか のっぼ, のっぼ, のっぼのきに……こかげがある, ある, ある……さあ やす もう」	
笑顔で	128
感謝しますお父様	15
おいのり	18

『子供の歌集』に加え、日本で広く親しまれている子供の歌を歌ってもよいでしょう。次の標準が満たされているか確認してください。

短い簡単な歌

音階の幅が狭い (5-8音階) 歌

繰り返しが多く (同じ歌詞が何度も反復され), 覚えやすい歌

子供たちが見たり, 聞いたり, 触ったり, かいだり, 感じたりできるものを扱った歌

歌詞の内容が福音の教えに反していない歌

